

令和2年度
市民意識調査報告書



船 橋 市

は じ め に



昭和12年に人口4万3千人ほどで歩み始めた船橋市は、現在では約64万人を擁し、市民の皆様が文化、スポーツ、福祉、環境、教育など、様々な分野で輝きを放つ活力あふれる大都市に発展しました。

また、船橋市は、東京湾に面して恵み豊かな干潟である三番瀬、内陸部には工業地、商業地、住宅地、農地が広がり、バランスのとれた産業と、発達した交通網により、全国有数の都市としてのポテンシャルを持っております。

この全国に誇れるすばらしい市民力と都市力を活かし、「人と人がつながる」にぎわいのあるまち、子供から高齢者まで誰もが笑顔で安心して生き生きと暮らせるまちを目指して、様々な施策に全力で取り組んでいるところです。

船橋市市民意識調査は、皆様の意見を今後の市政運営に役立てるため、昭和47年度から毎年実施しております。

令和2年に入り新型コロナウイルス感染症が世界中に拡大し、市民生活や地域経済にさまざまな影響を及ぼしています。今年度は「新型コロナウイルス感染症の影響」等をテーマとして調査を行いました。

今回の調査結果は、今後の市政運営にあたりまして貴重な基礎資料として活用してまいります。結びに、調査にご協力いただいた多くの市民の皆様に心より御礼申し上げます。

船橋市長 松戸 徹

市章・市の花・市の木



市章（昭和12年制定）
「舟」の文字を図案化したもので、船橋発展のシンボルです。



市の木 サザンカ

若潮国体（昭和48年に千葉県で開催）を記念して、昭和45年に市民の皆さんに選んでいただきました。

市の花 「第24回全国都市緑化ふなばしフェア（平成19年）」の開催を記念して制定しました。



ヒマワリ

太陽に向かって咲き、力強く、将来の船橋市の子どもたちに勇気と希望を与える花



カザグルマ

船橋市に自生している貴重種であり、市のシンボルマークとして、大切に保護していくべき花

目 次

I. 調査概要	1
1. 調査目的	3
2. 調査設計	3
3. 調査内容	3
4. 配布・回収結果	3
5. 居住地区区分	4
6. 報告書の見方	5
II. 調査回答者の属性	7
1. 性別	9
2. 年齢	9
3. 職業	10
4. 世帯状況	10
5. 居住年数	11
6. 居住地区	11
7. 以前の居住地	12
III. 調査結果の分析	13
1. 「住みごっこ」について	15
(1) 船橋市への愛着	15
(2) 船橋市への定住意向	18
(3) 船橋市の住みごっこ	21
(3-1) 船橋市が住みよい理由	24
(3-2) 船橋市が住みにくい理由	27
(4) 「住みごっこ」概観	30
2. 「広報活動」について	31
(1) 情報を入手するためによく利用するもの	31
(2) 市の事業やイベント情報などの入手方法	33
(3) 広報紙やホームページで知りたい情報	35
(4) 「広報活動」概観	37
3. 「新型コロナウイルス感染症の影響」について	38
(1) 新型コロナウイルス感染防止対策	38
(2) 生活や心身の変化	41
(3) 実践している働き方	43
(4) 市が進めていくべき取り組み	46

(4-1) 使用しているキャッシュレス決済	48
(5) 感染症拡大防止のための医療提供体制の整備・充実にに対する評価	50
(6) 安全・安心な生活を守るための支援に対する評価	52
(7) 市内経済維持のための事業者支援に対する評価	54
(8) 「新型コロナウイルス感染症の影響」概観	56
4. 「本市の災害対策」について	57
(1) 災害に備えた対策について	57
(1-1) 日頃からの備え	57
(1-2) 災害に備えた対策の内容	59
(1-3) 備蓄している品目	61
(1-4) 飲料水や食料品を何日分備蓄しているか	63
(1-5) 備えをしていない理由	65
(1-6) 備蓄していない理由	67
(2) 地震に対する建物の備えについて	69
(2-1) お住いの建物	69
(2-2) 一戸建ての住宅（持ち家）の建築時期	71
(2-3) 建物の地震に対する耐震性	73
(2-4) 耐震性が不足している場合にとる対策	75
(2-5) 耐震シェルターの印象	77
(2-6) 耐震性が不足している場合でも対策しない理由	79
(2-7) 耐震診断と耐震改修工事を対象とした助成制度の認知度	81
(2-8) 耐震性を高める上で市に要望すること	83
(3) 災害時における避難について	85
(3-1) コロナ禍における災害時の避難	85
(3-2) 避難時に新型コロナウイルス感染症防止のために持参するもの	87
(4) 災害に関する情報の取得方法について	89
(4-1) 平常時の防災行政無線の聞こえ方	89
(4-2) 災害時の防災行政無線の聞こえ方	91
(4-3) 防災行政無線の放送内容の確認方法	93
(4-4) 「ふなばし情報メール」の利用状況	95
(4-5) 「ふなっふ」の利用状況	97
(5) 災害時における新たな医療体制について	99
(5-1) 災害時の医療体制の認知	99
(5-2) 病院前救護所に行くことの認知	101
(5-3) トリアージの認知	103
(6) 「本市の災害対策」概観	105
5. 「障害のある人への意識」について	106
(1) 「車椅子の方がスーパーで商品に手が届かない場合の声かけ」有無	106

(1-1) 車椅子の方がスーパーで商品に手が届かない場合に声かけしない理由	108
(2) 「視覚障害者が線路側を歩いている場合の声かけ」有無	110
(2-1) 視覚障害者が線路側を歩いている場合に声かけしない理由	112
(3) 「聴覚に障害があると思われる方に対する津波警報発表時の声かけや身振り」有無 ...	114
(3-1) 聴覚に障害があると思われる方に対する津波警報発表時に声かけや身振りを しない理由	116
(4) 「知的障害があると思われる方がバス乗り場で声を発して困っている場合の声かけ」 有無	118
(4-1) 知的障害があると思われる方がバス乗り場で声を発して困っている場合に 声かけしない理由	120
(5) 「精神（発達）障害があると思われる方がコミュニケーションが上手くいかず困っ ている場合の声かけ」有無	122
(5-1) 精神（発達）障害があると思われる方がコミュニケーションが上手くいか ず困っている場合に声かけしない理由	124
(6) 障害者施策で認知しているもの	126
(7) 「障害のある人への意識」概観	128
6. 「市の施策」について	129
(1) ここ数年でよくなったもの	129
(2) 力を入れるべきもの	132
(3) 「市の施策」地区別分析	135
(4) 「市の施策」概観	140
7. 自由意見	144
(1) 自由意見のまとめ	144
(2) 自由意見の抜粋	145
IV. 調査票	161

I. 調査概要

I. 調査概要

1. 調査目的

本調査は、住み良さや定住意識、愛着心、市政の各分野における市民ニーズの基本動向を把握分析するとともに、これまで実施してきた市民意識調査結果との時系列分析を行うことにより、今後の施策展開に資することを目的とする。

2. 調査設計

- (1) 調査地域：船橋市全域
- (2) 調査対象：船橋市在住の満 18 歳以上の男女
- (3) 標 本 数：3,000 人
- (4) 標本抽出：住民基本台帳から無作為抽出
- (5) 調査方法：郵送配布－郵送回収
(※ 調査期間中に督促を兼ねた「礼状はがき」を 1 回送付)
- (6) 調査期間：令和 2 年 9 月 17 日（木）～10 月 12 日（月）
- (7) 調査機関：株式会社総合企画

3. 調査内容

- (1) 「住みごこち」について
- (2) 「広報活動」について
- (3) 「新型コロナウイルス感染症の影響」について
- (4) 「本市の災害対策」について
- (5) 「障害のある人への意識」について
- (6) 「市の施策」について

4. 配布・回収結果

- (1) 標本数：3,000
- (2) 回収数：1,697
- (3) 回収率：56.6%

年度	回収率
平成28年度	41.8%
平成29年度	44.8%
平成30年度	45.6%
令和元年度	47.5%
令和 2 年度	56.6%

5. 居住地区区分

本調査での船橋市内の地区区分は、下表・下図の通りである。

◆居住地区内町名

地 区	該 当 町 名
南部地区	宮本、市場、東船橋、東町、駿河台、本町、湊町、浜町、若松、日の出、西浦、栄町、潮見町、高瀬町、南本町、海神、海神町、海神町東、海神町西、海神町南、南海神
西部地区	山野町、印内町、葛飾町、本郷町、古作町、古作、西船、印内、東中山、二子町、本中山、旭町、行田町、行田、山手、北本町、前貝塚町、丸山、上山町、馬込西、馬込町、藤原
中部地区	夏見、夏見町、夏見台、米ヶ崎町、高根町、金杉町、金杉、金杉台、緑台、高根台、芝山、新高根
東部地区	前原東、前原西、中野木、二宮、飯山満町、滝台町、滝台、薬円台、薬園台町、七林町、三山、田喜野井、習志野、習志野台、西習志野
北部地区	二和東、二和西、三咲町、三咲、南三咲、八木が谷町、咲が丘、みやぎ台、八木が谷、高野台、松が丘、大穴町、大穴南、大穴北、小室町、小野田町、大神保町、神保町、車方町、鈴身町、豊富町、金堀町、楠が山町、古和釜町、坪井東、坪井西、坪井町

◆居住地区区分図



6. 報告書の見方

(1) 結果の表示方法

本報告書を見るにあたって、留意すべきこととして以下の事項があげられる。

- ①比率はすべて百分率で表し、小数点第2位を四捨五入して算出した。したがって、すべての選択肢の比率の合計が100%にならないことがある。
- ②基数となるべき実数はnとして掲載した。各比率はnを100%として算出した。
- ③複数回答の質問では、すべての選択肢の比率の合計は通常100%を超える。
- ④誤差を考慮し、nが小さい場合（10未満）は、基本的に検討の対象としない。
- ⑤図中にある「その他」の比率は、選択肢として「その他」を選んだ回答者数の比率であり、表にある「その他」の内訳は具体的な内容についての件数である。選択肢「その他」を選んでも内容の記入がないものや、1人の回答者が複数の内容を記入しているものがあるため、「その他」の比率と「その他」の内訳件数は一致しない。

(2) 標本誤差

標本誤差は、次式により得られる。ただし、信頼度は一般的に用いられる95%とする。

（注）「信頼度95%」とは、100回同じ調査を実施したときに、おおむね95回はこの精度が得られることを示す。

$$b = \pm 1.96 \sqrt{\frac{N-n}{N-1} \times \frac{P(1-P)}{n}} \div \pm 1.96 \sqrt{\frac{P(1-P)}{n}}$$

ただし、b＝標本誤差

N＝母集団数（船橋市全体・人）

n＝サンプル数（人）…本報告書ではこれをn（比率算出の基数）で示す。

P＝回答比率

また、Nはnより十分大きい場合、 $\frac{N-n}{N-1} \div 1$ とみなしている。

上式をもとに、本調査の標本誤差の早見表を掲げる。

◆ 今回の調査結果の標本誤差（信頼度95%）

回答比率(P) n（人）	10%または 90%程度	20%または 80%程度	30%または 70%程度	40%または 60%程度	50%程度
1,697	±1.43%	±1.90%	±2.18%	±2.33%	±2.38%
1,000	±1.86%	±2.48%	±2.84%	±3.04%	±3.10%
910	±1.95%	±2.60%	±2.98%	±3.18%	±3.25%
699	±2.22%	±2.97%	±3.40%	±3.63%	±3.71%
500	±2.63%	±3.51%	±4.02%	±4.29%	±4.38%
300	±3.39%	±4.53%	±5.19%	±5.54%	±5.66%
100	±5.88%	±7.84%	±8.98%	±9.60%	±9.80%

（表の見方）例えば、ある設問の回答者数が1,697人であり、その設問中にある選択肢の回答比率が50%であった場合、「回答比率の誤差の範囲は±2.38%以内（47.62%～52.38%）である。ただし信頼度が95%であるので、誤差の範囲が±2.38%以内となる確率は95%である。」と見ることができる。

(3) 時系列比較の出典について

時系列比較の出典は、過年度に実施した市民意識調査の結果によるものである。

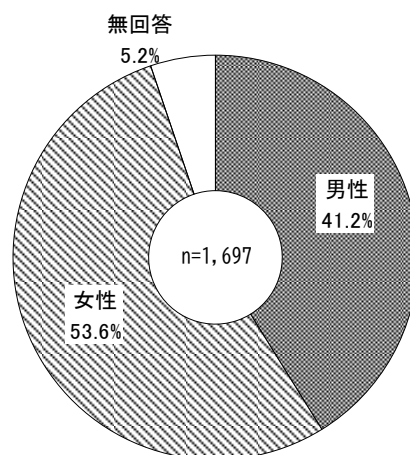
Ⅱ．調査回答者の属性

Ⅱ. 調査回答者の属性

1. 性別

回答者の性別は、女性（910 人・53.6%）の割合が、男性（699 人・41.2%）より高くなっている。

	基数	構成比 (%)	配布数
1. 男性	699	41.2	1,545
2. 女性	910	53.6	1,455
(無回答)	88	5.2	
合 計	1,697	100.0	3,000



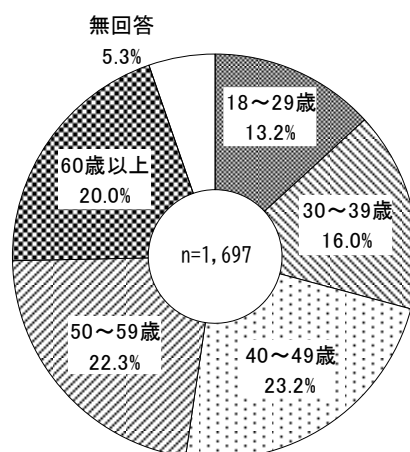
図Ⅱ－1 性別

2. 年齢

回答者の年齢は、40～49 歳（393 人・23.2%）の割合が最も高く、50～59 歳（379 人・22.3%）、60 歳以上（340 人・20.0%）までが2割を超えている。

最低は、18～29 歳（224 人・13.2%）となっている。

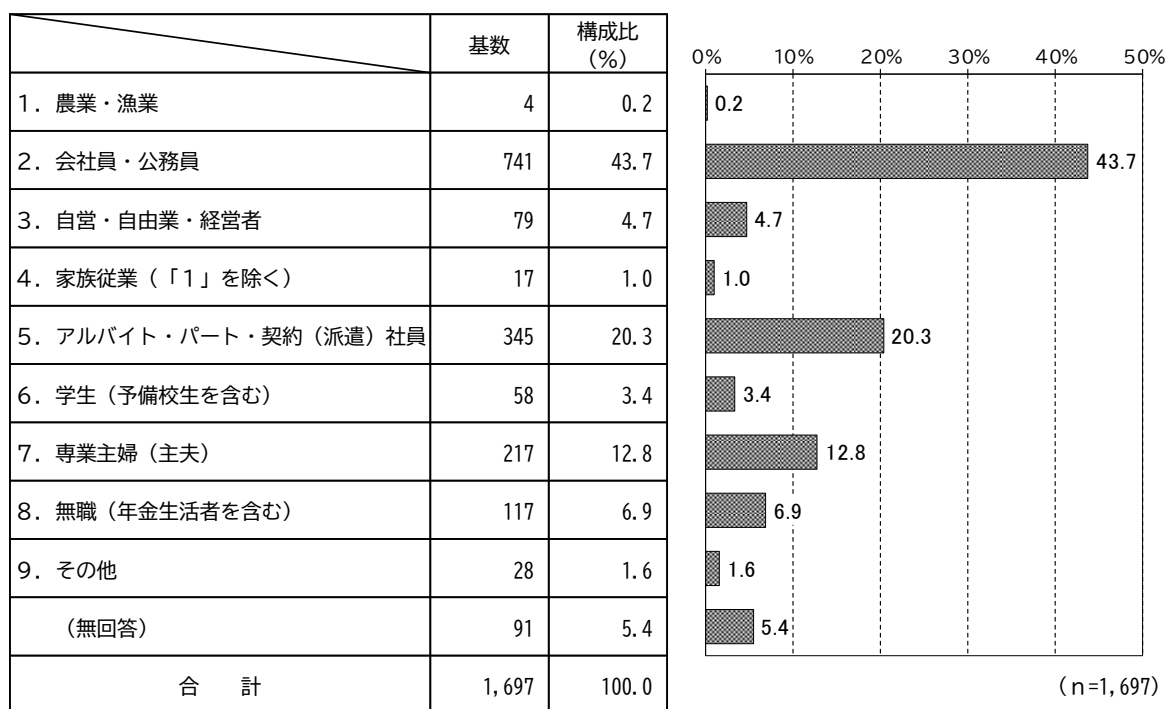
	基数	構成比 (%)
1. 18～29歳	224	13.2
2. 30～39歳	271	16.0
3. 40～49歳	393	23.2
4. 50～59歳	379	22.3
5. 60歳以上	340	20.0
(無回答)	90	5.3
合 計	1,697	100.0



図Ⅱ－2 年齢

3. 職業

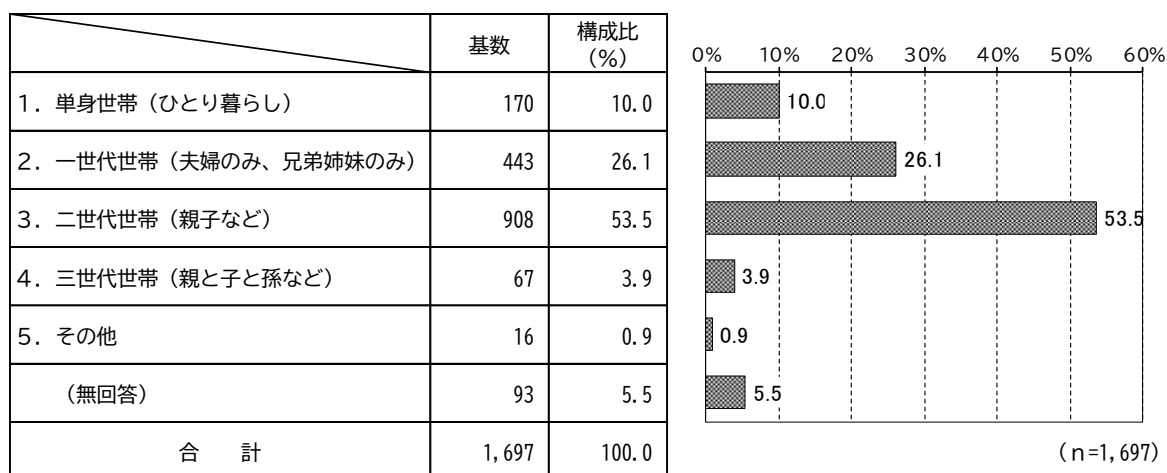
回答者の職業は、会社員・公務員（741 人・43.7%）の割合が最も高く、4 割を超えている。次いで、アルバイト・パート・契約（派遣）社員（345 人・20.3%）、専業主婦（主夫）（217 人・12.8%）、無職（年金生活者を含む）（117 人・6.9%）と続いている。



図Ⅱ－3 職業

4. 世帯状況

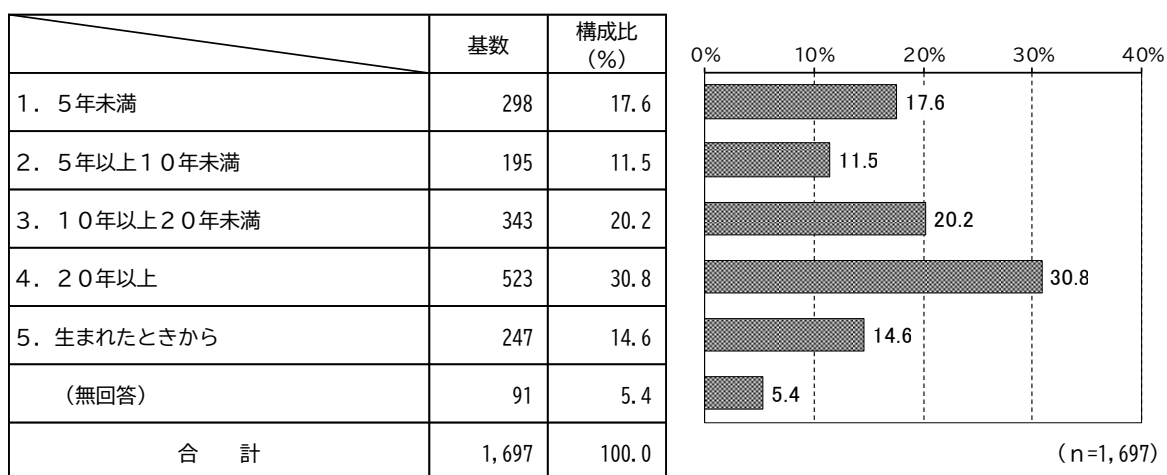
回答者の世帯状況は、二世帯世帯（親子など）（908 人・53.5%）の割合が最も高く、5 割を超えている。次いで、一世帯世帯（夫婦のみ、兄弟姉妹のみ）（443 人・26.1%）、単身世帯（ひとり暮らし）（170 人・10.0%）の順になっている。



図Ⅱ－4 世帯状況

5. 居住年数

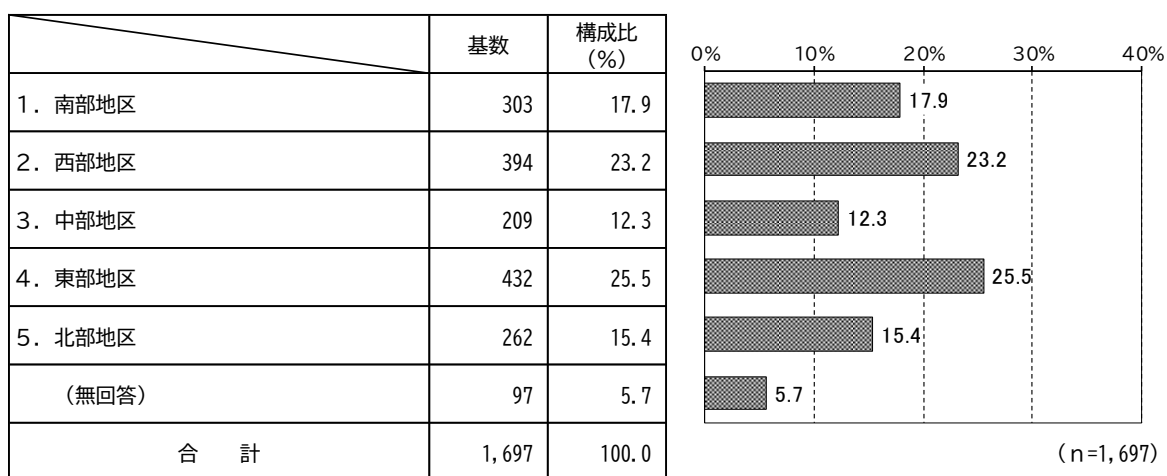
回答者の居住年数は、20 年以上（523 人・30.8%）の割合が最も高く、次いで、10 年以上 20 年未満（343 人・20.2%）、5 年未満（298 人・17.6%）、生まれたときから（247 人・14.6%）、5 年以上 10 年未満（195 人・11.5%）の順になっている。



図Ⅱ－5 居住年数

6. 居住地区

回答者の居住地区は、東部地区（432 人・25.5%）、西部地区（394 人・23.2%）が 2 割を超え、次いで、南部地区（303 人・17.9%）、北部地区（262 人・15.4%）、中部地区（209 人・12.3%）の順になっている。

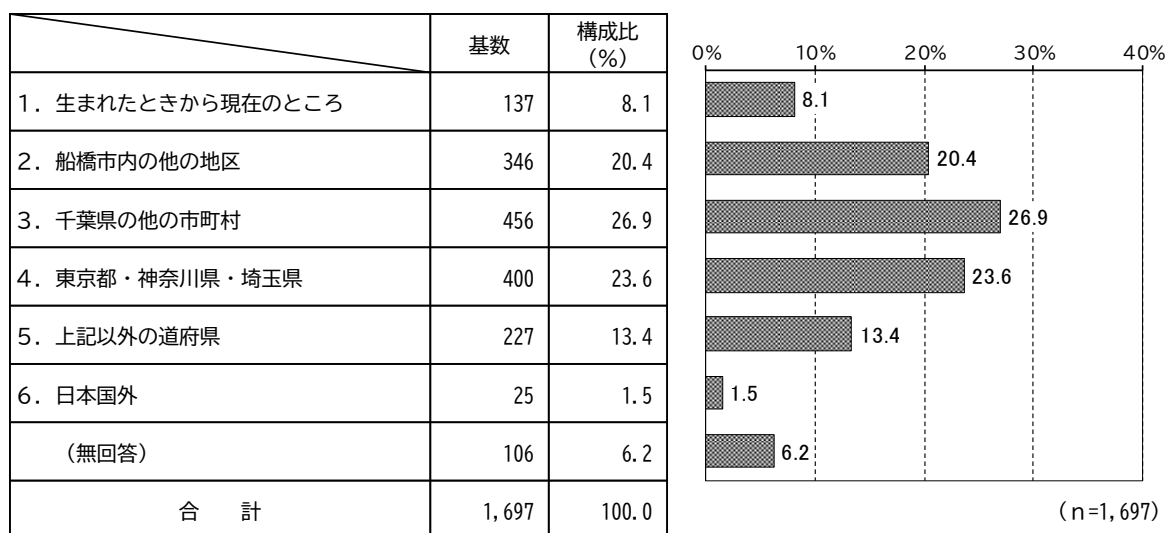


図Ⅱ－6 居住地区

7. 以前の居住地

回答者の以前の居住地は、千葉県の他の市町村（456 人・26.9%）、東京都・神奈川県・埼玉県（400 人・23.6%）、船橋市内の他の地区（346 人・20.4%）が 2 割を超え、次いで、上記以外の道府県（227 人・13.4%）が続いている。

生まれたときから現在のところ（137 人・8.1%）、日本国外（25 人・1.5%）は 1 割を下回っている。



図Ⅱ－7 以前の居住地

Ⅲ. 調査結果の分析

Ⅲ. 調査結果の分析

1. 「住みごころ」について

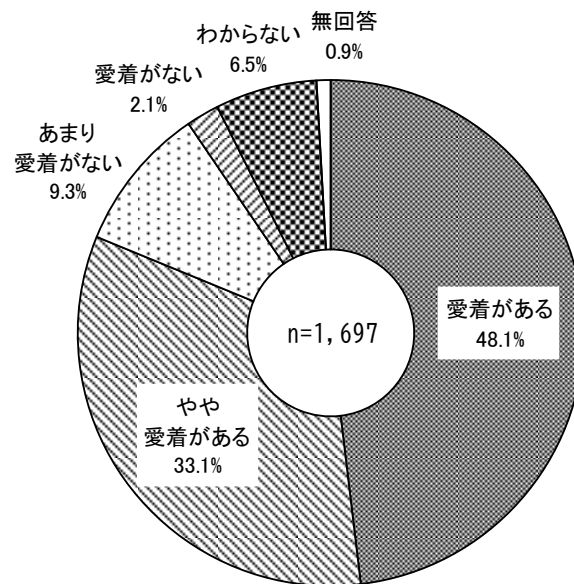
(1) 船橋市への愛着

船橋市に、『愛着を持っている』人は8割超

【問1】「船橋市」に愛着を持っていますか。(〇は1つ)

船橋市に愛着を持っているかの質問に、「愛着がある」の割合は 48.1%と約半数の人が回答している。「やや愛着がある」(33.1%)を合わせた『愛着を持っている』人の割合は、81.2%と8割を超えている。

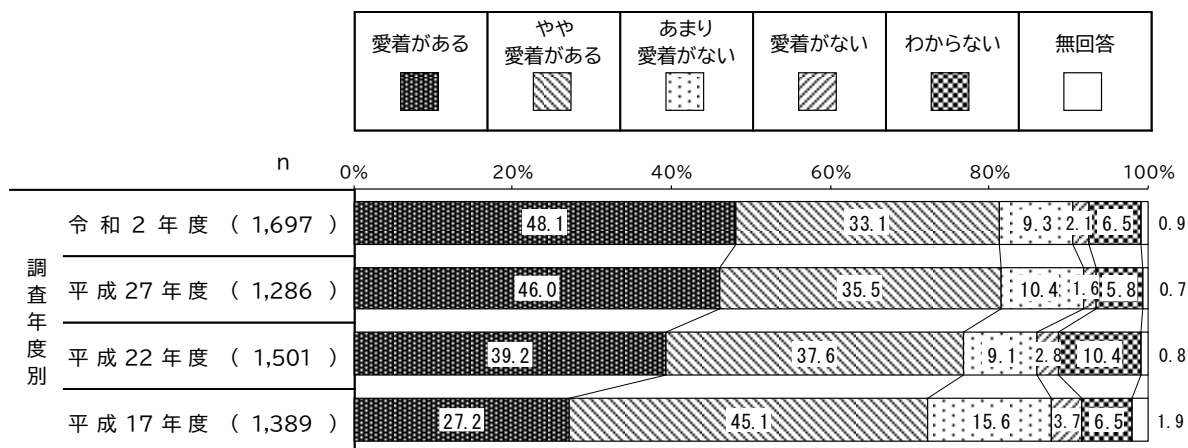
一方、「あまり愛着がない」(9.3%)と「愛着がない」(2.1%)を合わせた『愛着を持っていない』人の割合は、11.4%で1割を超えている。



図Ⅲ－1 船橋市への愛着

【時系列比較】

時系列で比較すると、「愛着がある」人の割合(48.1%)は年々高くなり、平成 27 年度(46.0%)から 2.1 ポイント増加している。

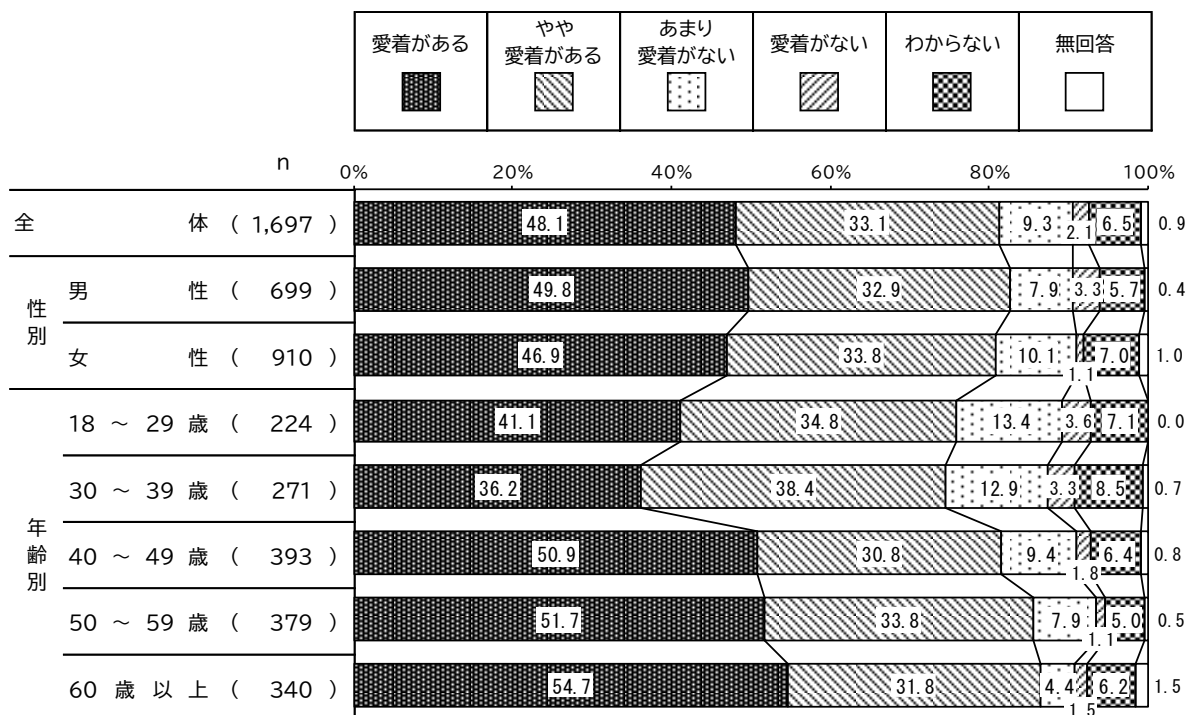


図Ⅲ－２ 船橋市への愛着（時系列比較）

【性別／年齢別】

性別で比較すると、「愛着がある」と「やや愛着がある」を合わせた『愛着を持っている』人の割合は、男性(82.7%)が女性(80.7%)より2.0ポイント高くなっている。

年齢別にみると、『愛着を持っている』人の割合は、60歳以上(86.5%)、50～59歳(85.5%)、40～49歳(81.7%)で8割を超えている。

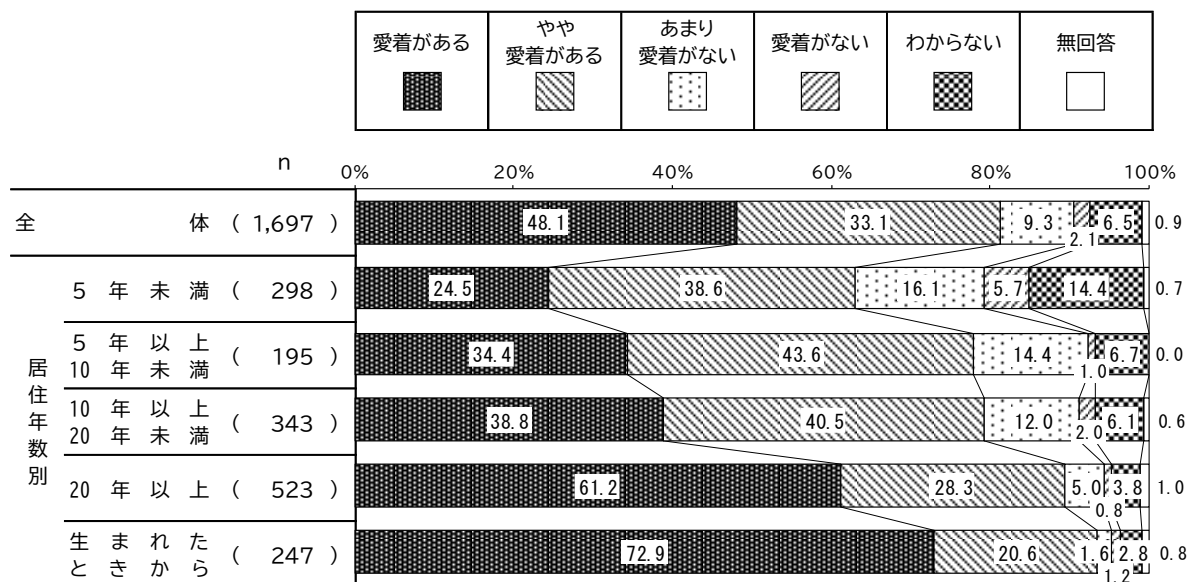


図Ⅲ－３ 船橋市への愛着（性別／年齢別）

【居住年数別】

居住年数別にみると、「愛着がある」と「やや愛着がある」を合わせた『愛着を持っている』人の割合は、「生まれたときから」（93.5％）が最も高く9割を超えている。

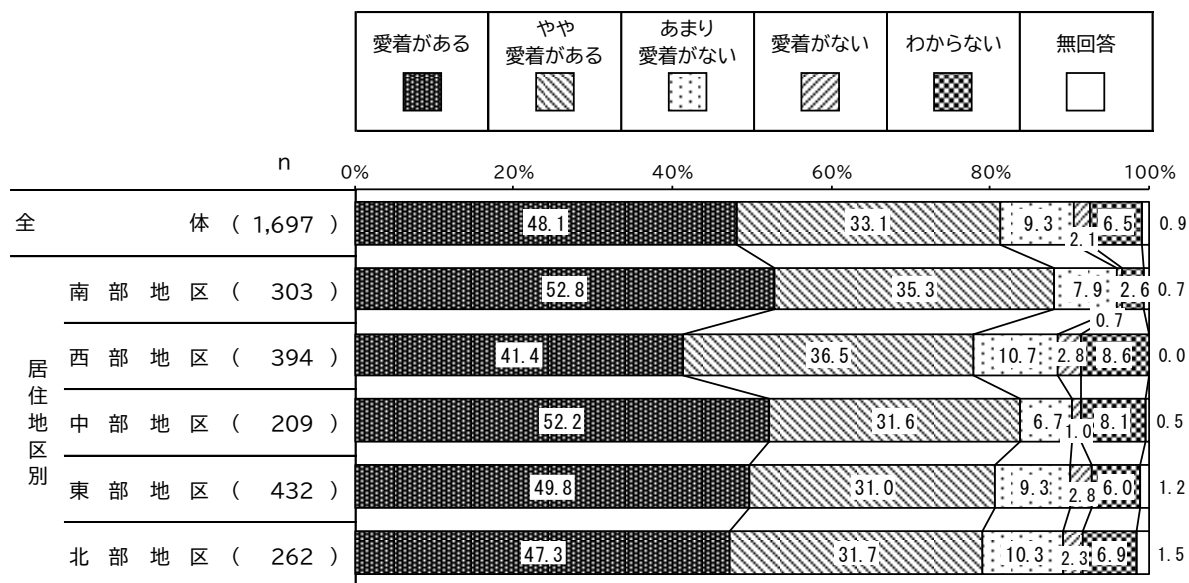
居住年数だけで比べると、居住年数が長いほど『愛着を持っている』人の割合が高く、最も高い「20年以上」（89.5％）と最も低い「5年未満」（63.1％）の差は26.4ポイントある。



図Ⅲ－4 船橋市への愛着（居住年数別）

【居住地区別】

居住地区別にみると、「愛着がある」は、南部地区（52.8％）、中部地区（52.2％）で5割を超えており、「愛着がある」と「やや愛着がある」を合わせた『愛着を持っている』人の割合は、南部地区（88.1％）、中部地区（83.8％）、東部地区（80.8％）で8割を超えている。



図Ⅲ－5 船橋市への愛着（居住地区別）

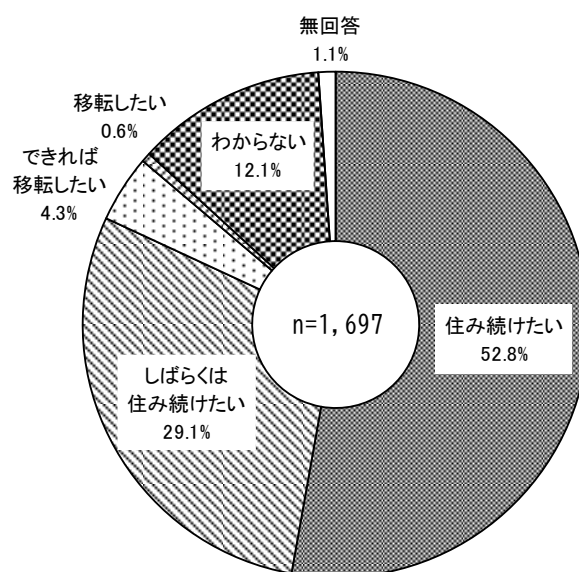
(2) 船橋市への定住意向

船橋市に、『住み続ける』人は8割超

【問2】今後も「船橋市」に住み続けたいと思いますか。(〇は1つ)

今後も船橋市に住み続けたいと思うかの質問に対し、「住み続けたい」(52.8%)と「しばらくは住み続けたい」(29.1%)を合わせた『住み続ける』人の割合は、81.9%と8割を超えている。

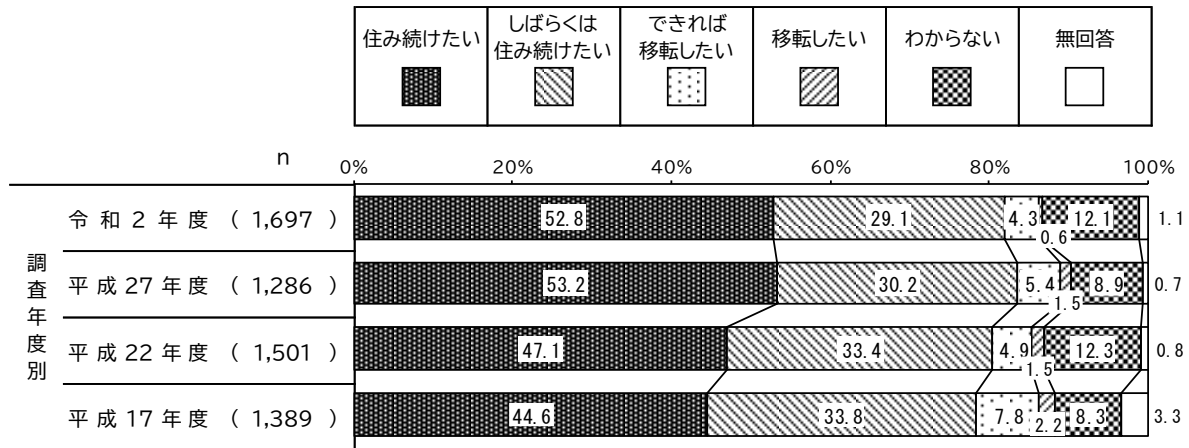
一方、「できれば移転したい」(4.3%)と「移転したい」(0.6%)を合わせた『移転する』の割合は、4.9%となっている。



図Ⅲ－6 船橋市への定住意向

【時系列比較】

時系列で比較すると、「住み続けたい」と「しばらくは住み続けたい」を合わせた『住み続ける』人の割合（81.9%）は、平成 27 年度（83.4%）と比べ 1.5 ポイント減少しているが、8 割は超えている。

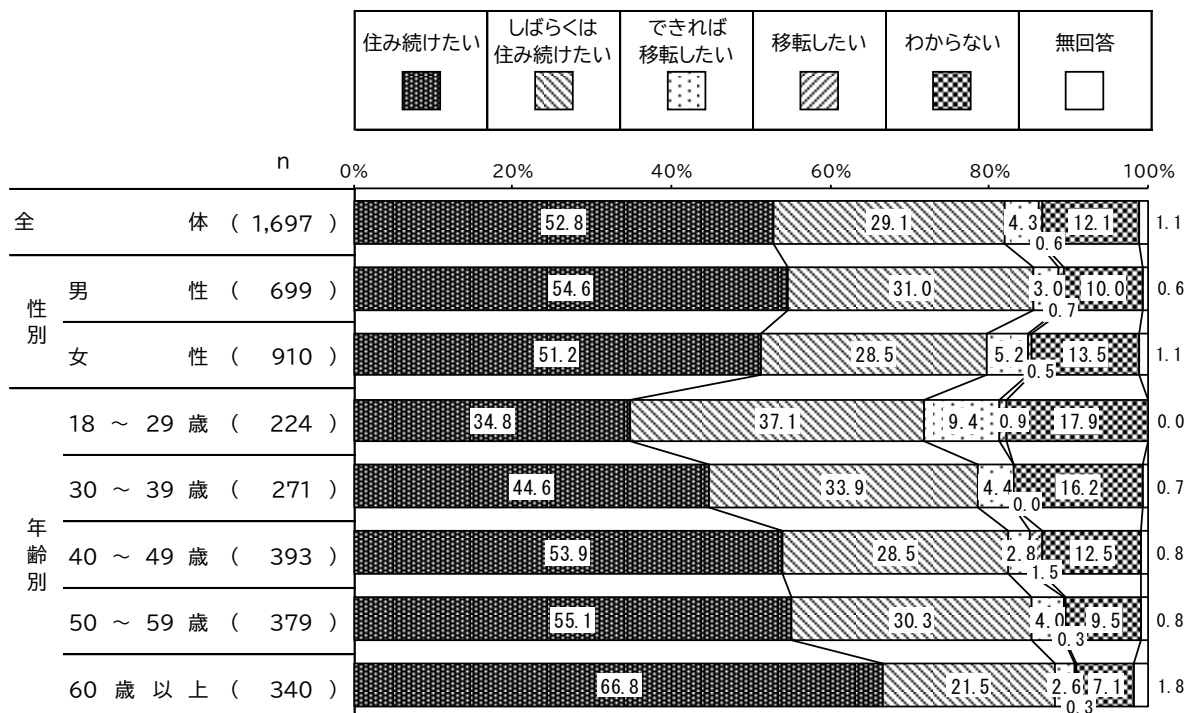


図Ⅲ－７ 船橋市への定住意向（時系列比較）

【性別／年齢別】

性別で比較すると、「住み続けたい」と「しばらくは住み続けたい」を合わせた『住み続ける』人の割合は、男性（85.6%）が女性（79.7%）より 5.9 ポイント高くなっている。

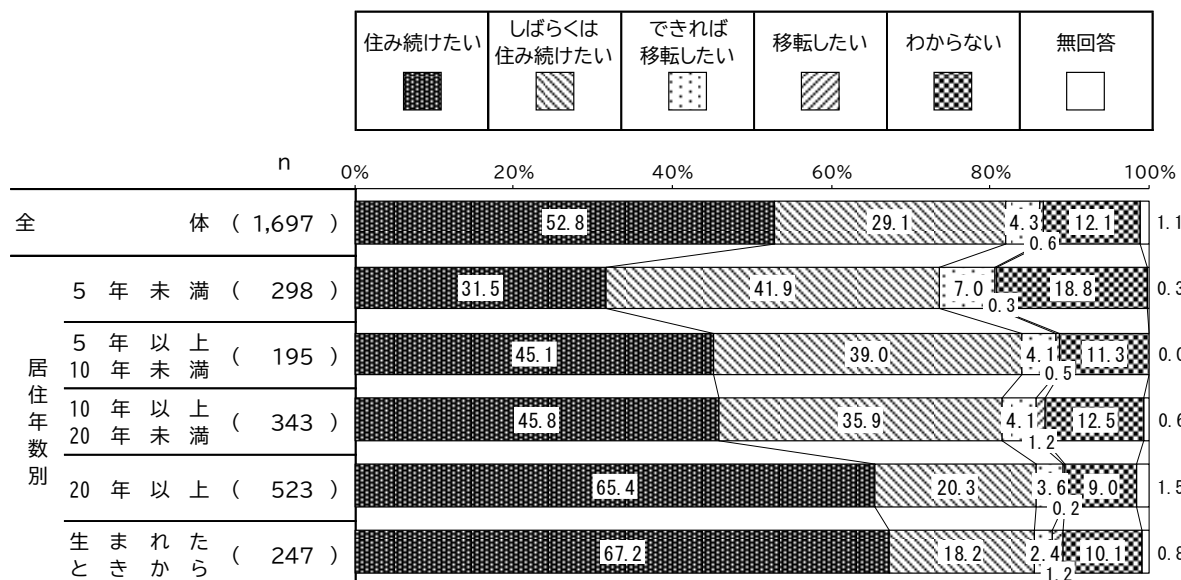
年齢別にみると、『住み続ける』人の割合は、18～29 歳（71.9%）と 30～39 歳（78.5%）を除いて、8 割を超え、「住み続けたい」でも 60 歳以上（66.8%）、50～59 歳（55.1%）、40～49 歳（53.9%）は、5 割を超えている。



図Ⅲ－８ 船橋市への定住意向（性別／年齢別）

【居住年数別】

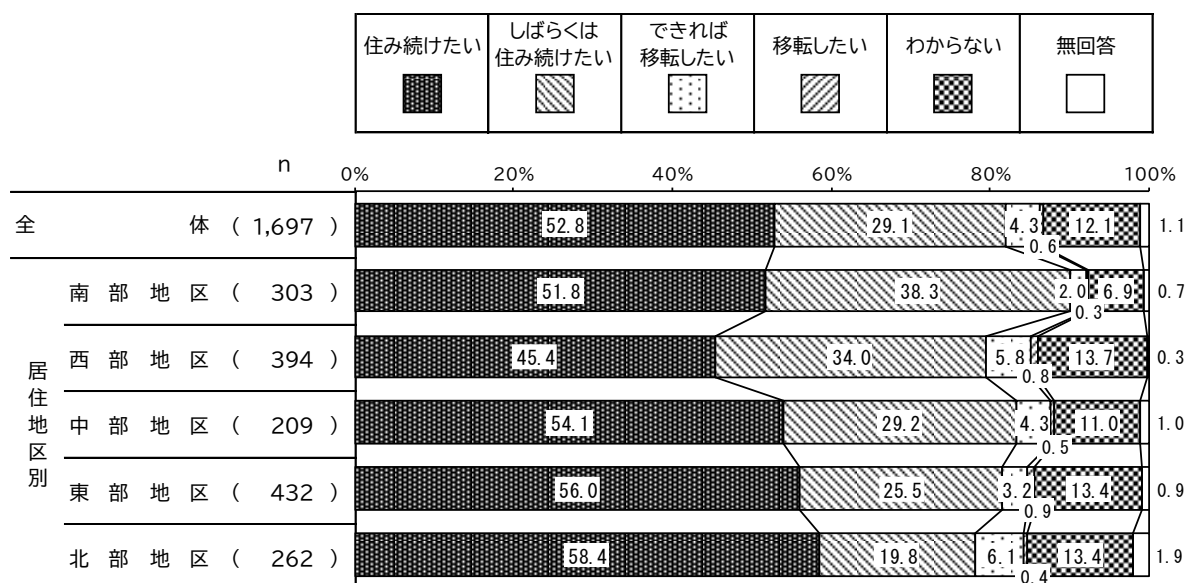
居住年数別にみると、「住み続けたい」と答えた割合が、生まれたときから（67.2%）、20年以上（65.4%）で高く、「住み続けたい」と「しばらくは住み続けたい」を合わせた『住み続ける』人の割合は、5年未満（73.4%）を除き、81.7%～85.7%の範囲にあり8割を超えている。



図Ⅲ－9 船橋市への定住意向（居住年数別）

【居住地区別】

居住地区別にみると、「住み続けたい」は西部地区（45.4%）を除く全ての地区で5割を超え、なかでも北部地区（58.4%）で最も高く、「住み続けたい」と「しばらくは住み続けたい」を合わせた『住み続ける』人の割合では、南部地区（90.1%）が9割となっている。



図Ⅲ－10 船橋市への定住意向（居住地区別）

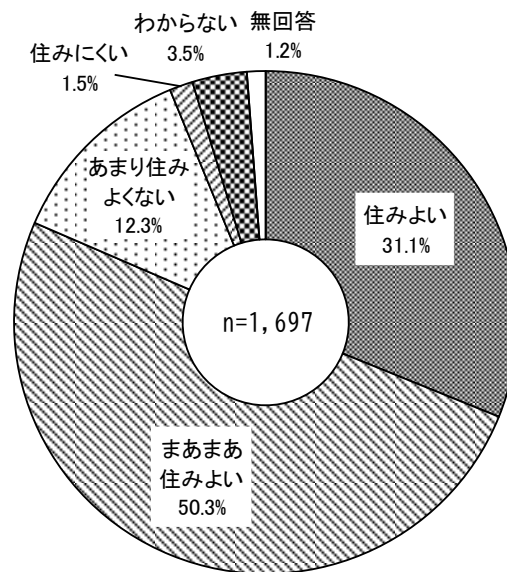
(3) 船橋市の住みごころ

船橋市を、『住みよく思う』人は8割超

【問3】「船橋市」を住みよいまちと感じていますか。(〇は1つ)

船橋市の住みごころを聞いたところ、「住みよい」(31.1%)と「まあまあ住みよい」(50.3%)を合わせた『住みよく思う』人の割合は、81.4%と8割を超えている。

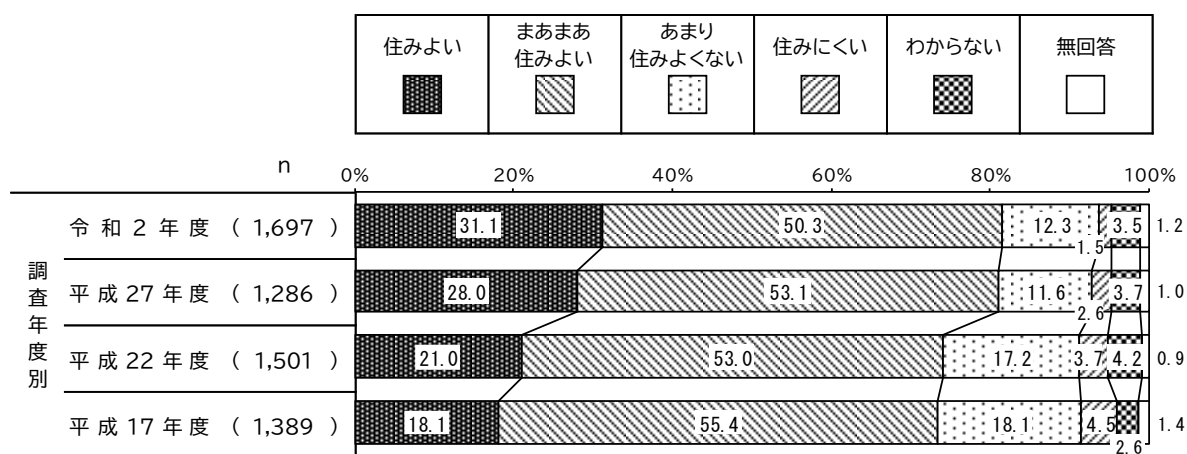
一方、「あまり住みよくない」(12.3%)と「住みにくい」(1.5%)を合わせた『住みよく思わない』人の割合は、13.8%となっている。



図Ⅲ－１１ 船橋市の住みごころ

【時系列比較】

時系列で比較すると、「住みよい」と思う人の割合（31.1%）は、年々高くなり、平成 27 年度（28.0%）と比べると 3.1 ポイント増えている。

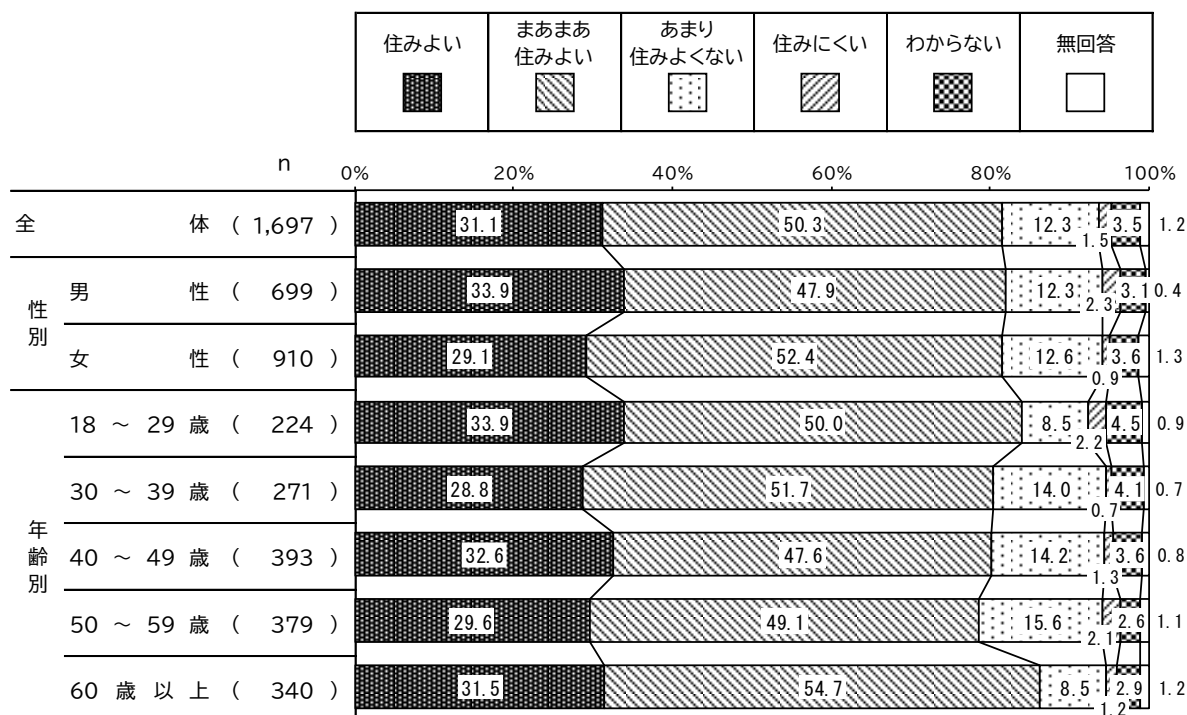


図Ⅲ－１２ 船橋市の住みごち（時系列比較）

【性別／年齢別】

性別で比較すると、「住みよい」と「まあまあ住みよい」を合わせた『住みよく思う』人の割合は、男性（81.8%）、女性（81.5%）でおおむね変わらない。

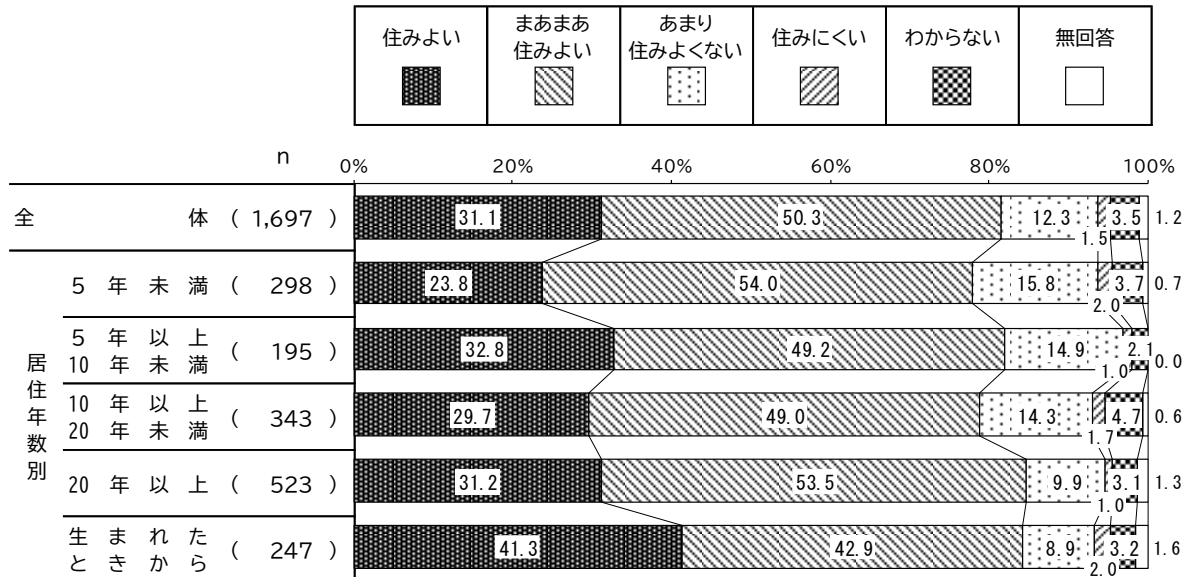
年齢別にみると、『住みよく思う』人の割合は、60歳以上（86.2%）が最も高く、50～59歳（78.7%）を除いて、8割を超えている。



図Ⅲ－１３ 船橋市の住みごち（性別／年齢別）

【居住年数別】

居住年数別にみると、「住みよい」は生まれたときから（41.3％）が最も高いが、「住みよい」と「まあまあ住みよい」を合わせた『住みよく思う』人の割合は、20年以上（84.7％）が最も高くなっている。

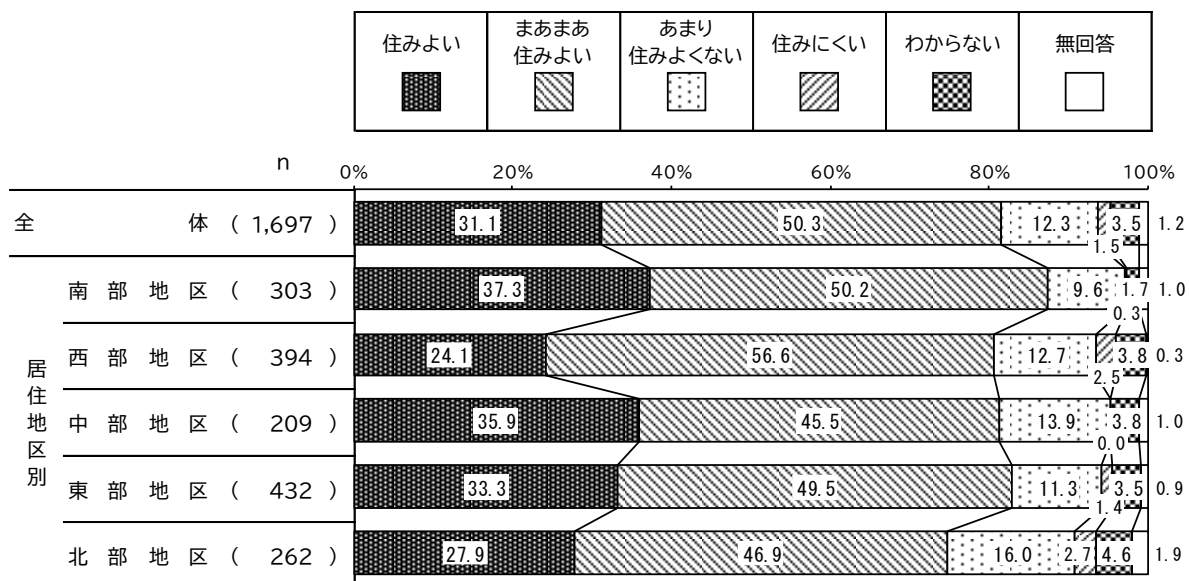


図Ⅲ－１４ 船橋市の住みごち（居住年数別）

【居住地区別】

居住地区別にみると、「住みよい」の割合は、南部地区（37.3％）が最も高く、西部地区（24.1％）で最も低くなっている。

「住みよい」と「まあまあ住みよい」を合わせた『住みよく思う』人の割合は、北部地区（74.8％）を除いて、8割を超えている。



図Ⅲ－１５ 船橋市の住みごち（居住地区別）

(3-1) 船橋市が住みよい理由

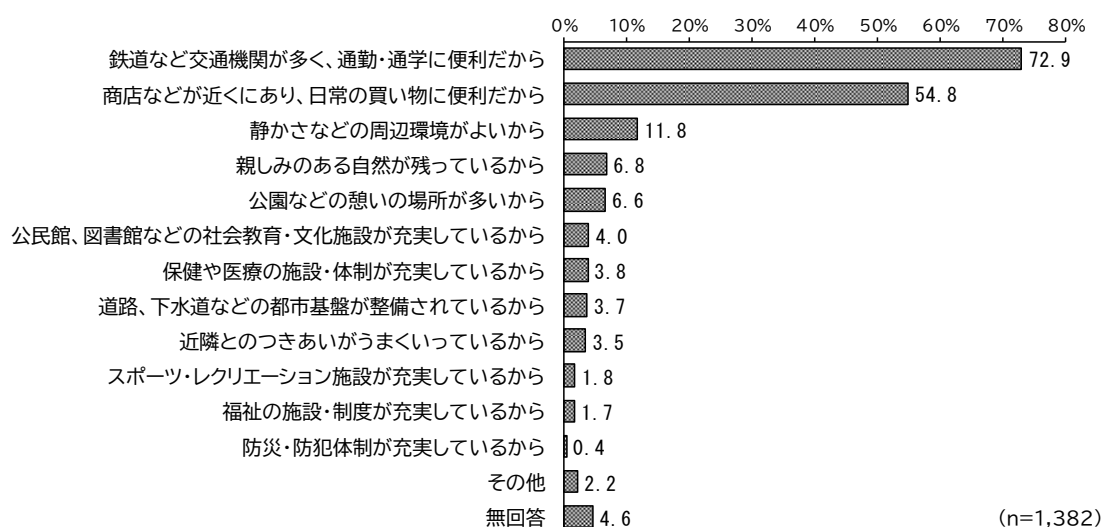
「鉄道など交通機関が多く、通勤・通学に便利だから」住みよいが7割超

(問3で「1. 住みよい」または「2. まあまあ住みよい」とお答えの方)

【問3-1】住みよいと感じるのはどのようなことですか。(〇は2つまで)

船橋市の住みごちについて「住みよい」、「まあまあ住みよい」と答えた人(1,382人)に対して、その理由を聞いたところ、「鉄道など交通機関が多く、通勤・通学に便利だから」が72.9%で最も高く、次いで「商店などが近くにあり、日常の買い物に便利だから」(54.8%)までが5割を超えており、これらを理由として挙げる人が多い。

「その他」としては、「生まれ育ったところ・住み慣れたまちだから」(7件)、「ゴミの分別が楽・簡単だから」(4件)などが挙げられている。



図Ⅲ-16 船橋市が住みよい理由

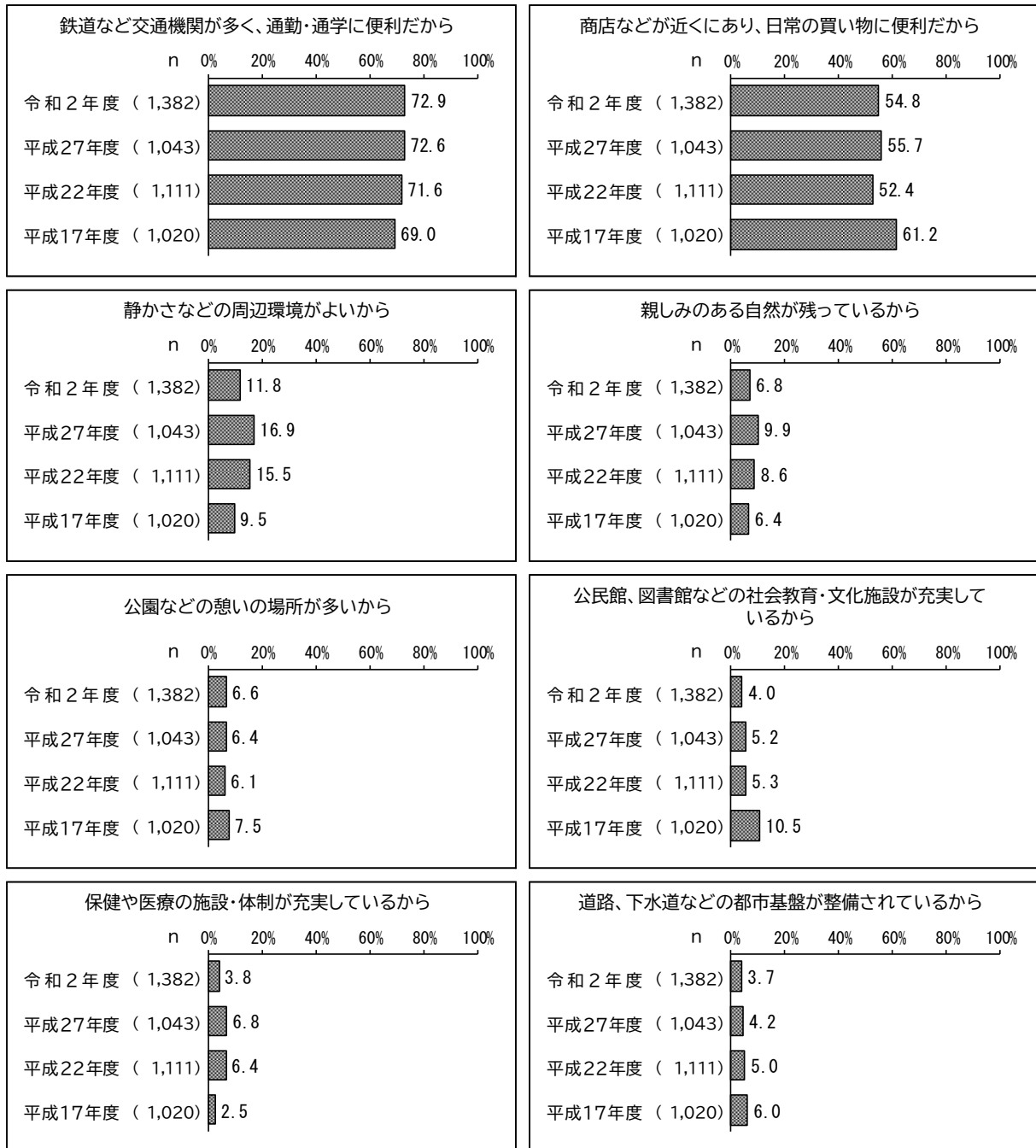
表Ⅲ-1 「その他」の内訳

「その他」の内容	件数
生まれ育ったところ・住み慣れたまちだから	7
ゴミの分別が楽・簡単だから	4
まちと田舎が適度に共存・自然も充実しているから	2
東京に近い・都心に近いから	2
会社が近いから	2
市役所窓口の多さと時間が長いから	1
市役所やFACEで手続きをする際、対応が早くて親切だから	1
子どもが多く活気があるから	1
子育て世代に優しいから	1
水害の心配が少ないから	1
住民税が安いから	1
千葉ジェッツふなばしがあるから	1
おいしい飲み屋があるから	1
ショッピングモールが充実しているから	1
家族と支障がないから	1
なんとなく	1
(記載なし)	2
合 計	30

【時系列比較】（上位 8 項目）

住みよい理由として挙げられている割合が高い上位 8 項目について、時系列で比較すると、「鉄道など交通機関が多く、通勤・通学に便利だから」については、年を追うごとに理由として挙げられる割合が増え、今回は 72.9%となっている。

半面、「商店などが近くにあり、日常の買い物に便利だから」、「公民館、図書館などの社会教育・文化施設が充実しているから」、「道路、下水道などの都市基盤が整備されているから」などは減少傾向が見られる。



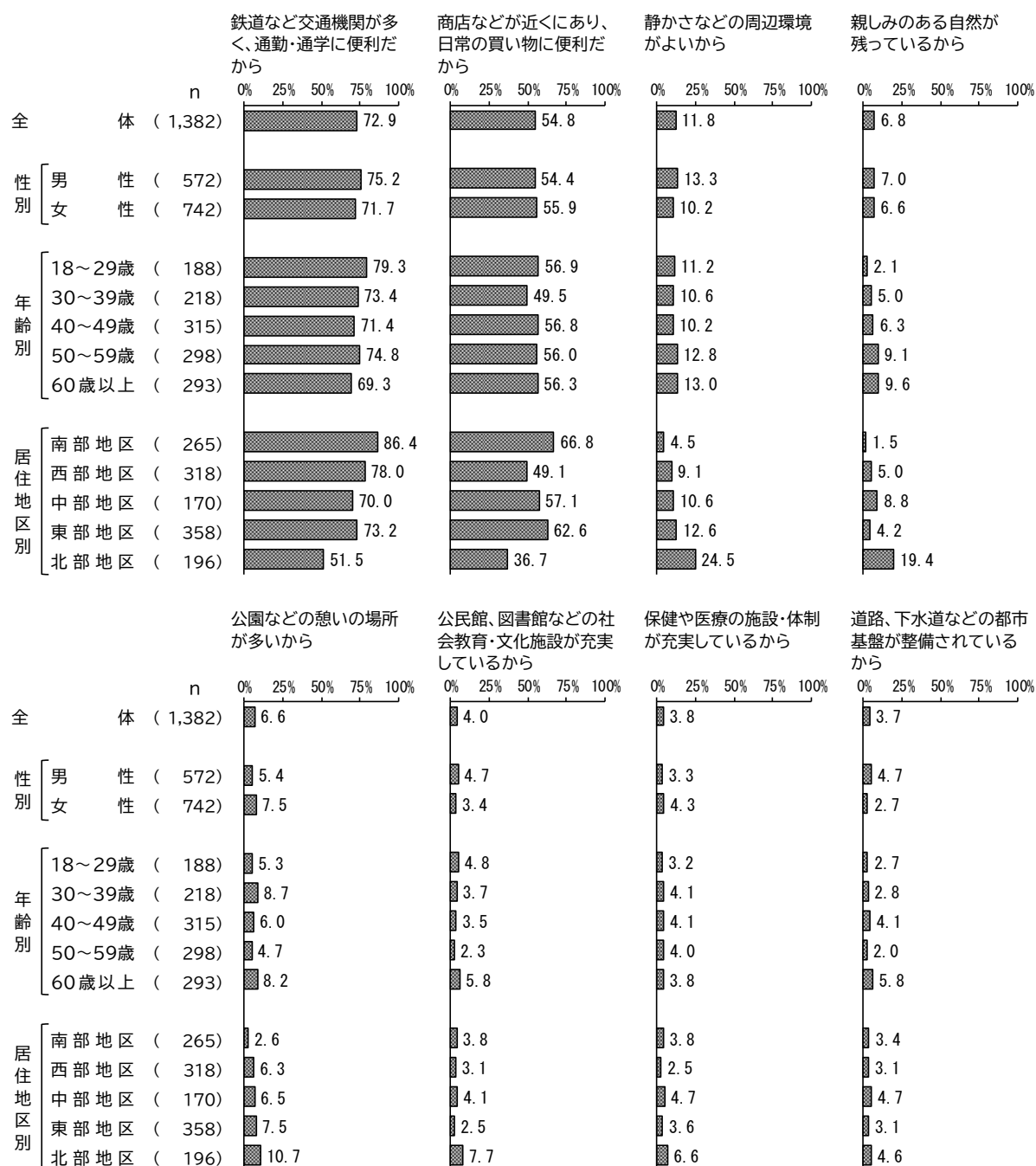
図Ⅲ－１ 7 船橋市が住みよい理由（時系列比較）（上位 8 項目）

【性別／年齢別／居住地区別】（上位8項目）

性別で比較すると、「鉄道など交通機関が多く、通勤・通学に便利だから」で男性（75.2%）が女性（71.7%）より3.5ポイント高くなっている。

年齢別にみると、18～29歳で「鉄道など交通機関が多く、通勤・通学に便利だから」が79.3%と最も高いが、「親しみのある自然が残っているから」は2.1%と最も低くなっている。一方、60歳以上では「鉄道など交通機関が多く、通勤・通学に便利だから」で69.3%と最も低い、が、「親しみのある自然が残っているから」は9.6%で最も高くなっている。

居住地区別にみると、「鉄道など交通機関が多く、通勤・通学に便利だから」、「商店などが近くにあり、日常の買い物に便利だから」、「静かさなどの周辺環境がよいから」、「親しみのある自然が残っているから」で南部地区（86.4%、66.8%）、「静かさなどの周辺環境がよいから」、「親しみのある自然が残っているから」で北部地区（24.5%、19.4%）の割合が高く、地区別の特色が見られる。



図Ⅲ－18 船橋市が住みよい理由（性別／年齢別／居住地区別）（上位8項目）

(3-2) 船橋市が住みにくい理由

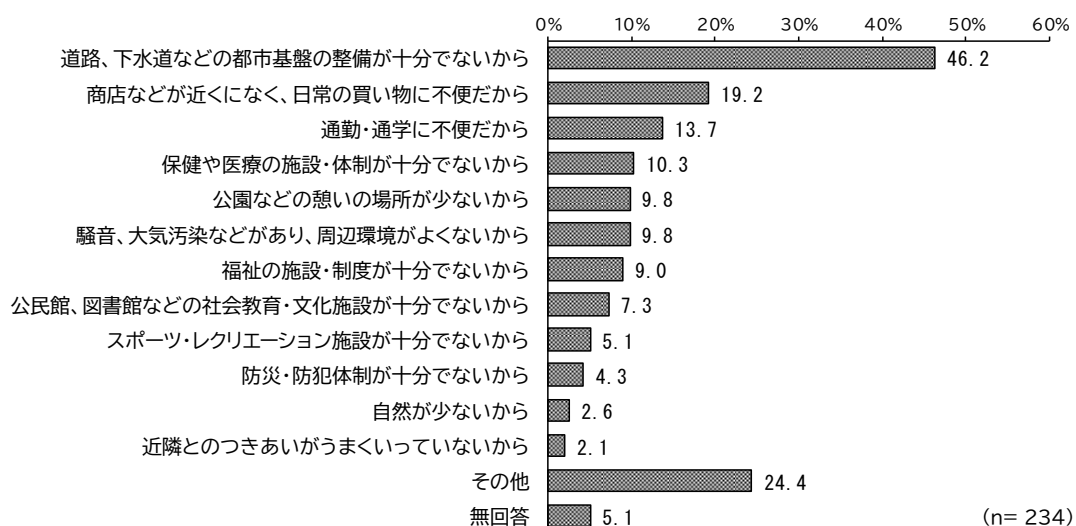
「道路、下水道などの都市基盤の整備が十分でないから」住みにくいが4割超

(問3で「3. あまり住みよくない」または「4. 住みにくい」とお答えの方)

【問3-2】住みよくないと感じるのはどのようなことですか。(〇は2つまで)

船橋市の住みごちについて「あまり住みよくない」、「住みにくい」と答えた人(234人)にその理由を聞いたところ、「道路、下水道などの都市基盤の整備が十分でないから」が46.2%で最も高く、次いで「商店などが近づくに近く、日常の買い物に不便だから」(19.2%)、「通勤・通学に不便だから」(13.7%)、「保健や医療の施設・体制が十分でないから」(10.3%)が続いている。

「その他」の内容として、「渋滞が激しい・道路が混んでいるから」(26件)、「道・車道・歩道が狭い・歩道がないから」(15件)などが挙げられている。



図Ⅲ－１９ 船橋市が住みにくい理由

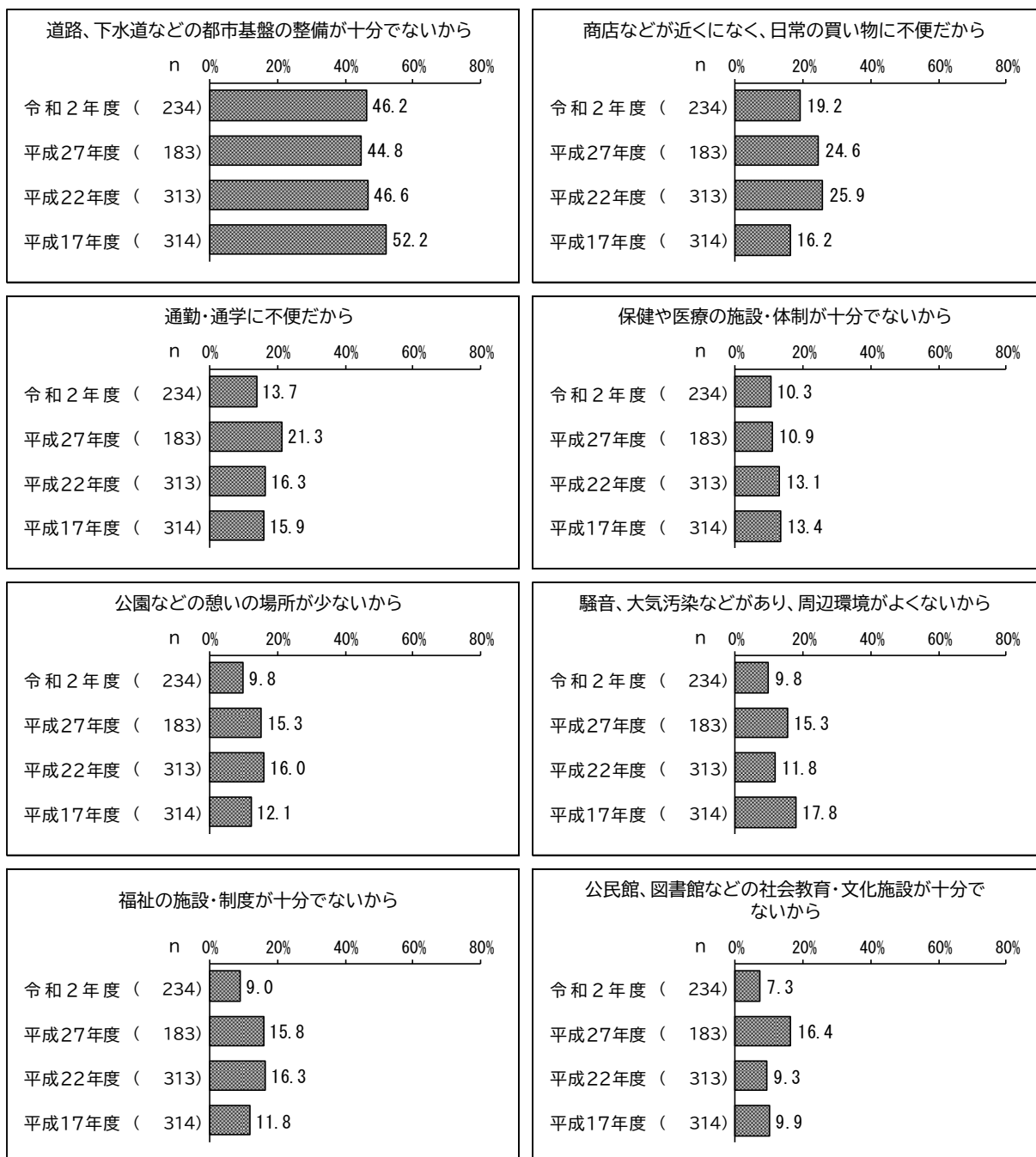
表Ⅲ－２ 「その他」の内訳

「その他」の内容	件数
渋滞が激しい・道路が混んでいるから	26
道・車道・歩道が狭い・歩道がないから	15
主要機関・施設が偏っている・遠くてアクセスしにくいから	5
人口過多だから	4
待機児童が多いなど子育て環境が良くないから	4
電車の運賃が高すぎるから	3
ゴミの回収が少ないから	2
税金・地方税が高いから	2
その他	8
(記載なし)	3
合 計	72

【時系列比較】（上位 8 項目）

理由として挙げられている割合が高い上位 8 項目について、時系列で比較すると、全体での割合が最も高い「道路、下水道などの都市基盤の整備が十分でないから」に大きな変化は見られない。

「公民館、図書館などの社会教育・文化施設が十分でないから」は、平成 27 年度（16.4%）から 9.1 ポイント低下し、「通勤・通学に不便だから」は、平成 27 年度（21.3%）から 7.6 ポイント低下、上述以外の他の項目も平成 27 年度と比べると「道路、下水道などの都市基盤の整備が十分でないから」以外は低下している。



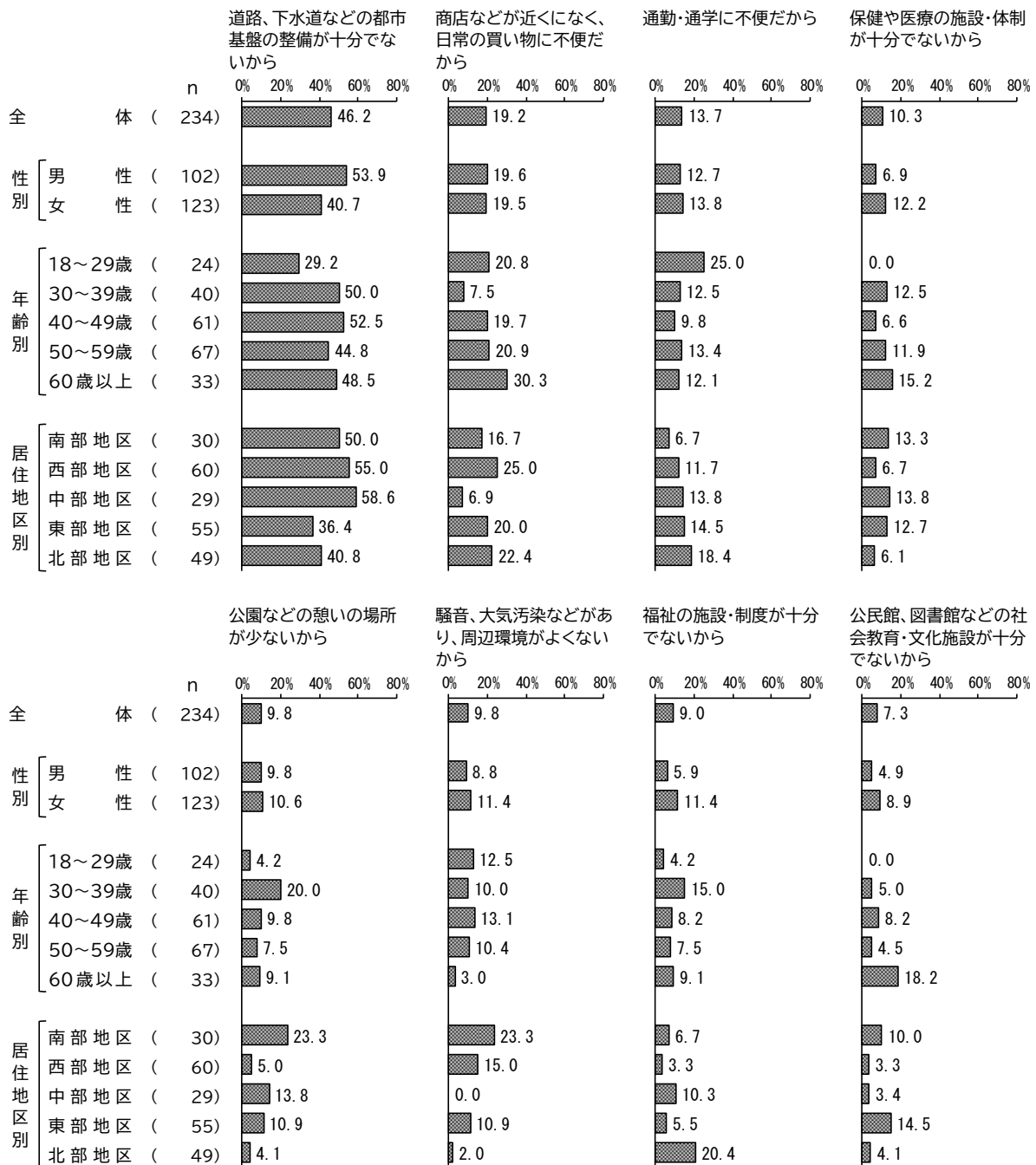
図Ⅲ－２０ 船橋市が住みにくい理由（時系列比較）（上位 8 項目）

【性別／年齢別／居住地区別】（上位 8 項目）

性別で比較すると、「道路、下水道などの都市基盤の整備が十分でないから」は、男性（53.9%）が女性（40.7%）より 13.2 ポイント高くなっているが、「商店などが近くになく、日常の買い物に不便だから」を除く他の項目では女性の割合が高い。

年齢別にみると、「道路、下水道などの都市基盤の整備が十分でないから」では、40～49 歳（52.5%）が最も高く、18～29 歳（29.2%）では最も低い。また、「商店などが近くになく、日常の買い物に不便だから」の 60 歳以上（30.3%）、50～59 歳（20.9%）、「通勤・通学に不便だから」の 18～29 歳（25.0%）などの割合が高い。

居住地区別にみると、南部地区は「公園などの憩いの場所が少ないから」、「騒音、大気汚染などがあり、周辺環境がよくないから」（ともに 23.3%）、北部地区は「福祉の施設・制度が十分でないから」（20.4%）などの割合が高く、地区による差が見られる。



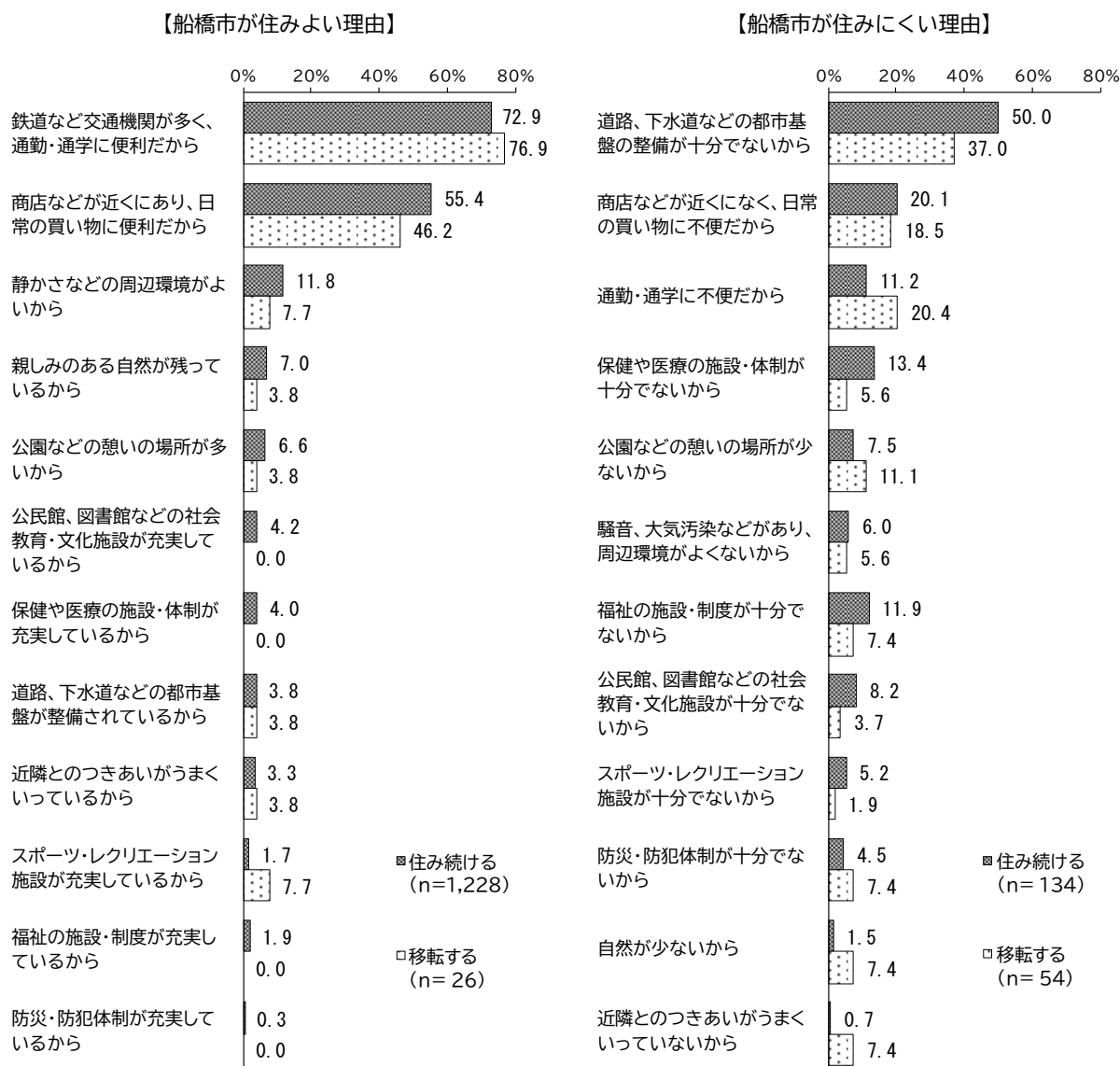
図Ⅲ－２１ 船橋市が住みにくい理由（性別／年齢別／居住地区別）（上位 8 項目）

(4) 「住みごっこ」概観

“通勤・通学、日常の買い物に便利”など利便性が高評価の一方、“道路、下水道などの整備が不十分”など都市基盤の整備が問われる

定住意向（「住み続けたい」と「しばらくは住み続けたい」を合わせて『住み続ける』、「できれば移転したい」と「移転したい」を合わせて『移転する』）から船橋市が住みよい理由をみると、「商店などが近くにあり、日常の買い物に便利だから」で、『住み続ける人』（55.4%）が『移転する人』（46.2%）より、9.2 ポイント高くなっている。同様に船橋市が住みにくい理由についてみると、「道路、下水道などの都市基盤の整備が十分でないから」で、『住み続ける人』（50.0%）が『移転する人』（37.0%）より、13.0 ポイント高い。一方、「通勤・通学に不便だから」では、『移転する人』（20.4%）が『住み続ける人』（11.2%）より、9.2 ポイント高くなっている。

定住意向に関わらず、「鉄道など交通機関が多く、通勤・通学に便利だから」、「商店などが近くにあり、日常の買い物に便利だから」を住みよい理由に、「道路、下水道などの都市基盤の整備が十分でないから」を住みにくい理由に挙げる人が多い。



図Ⅲ－２２ 船橋市が住みよい理由・住みにくい理由（定住意向別）

2. 「広報活動」について

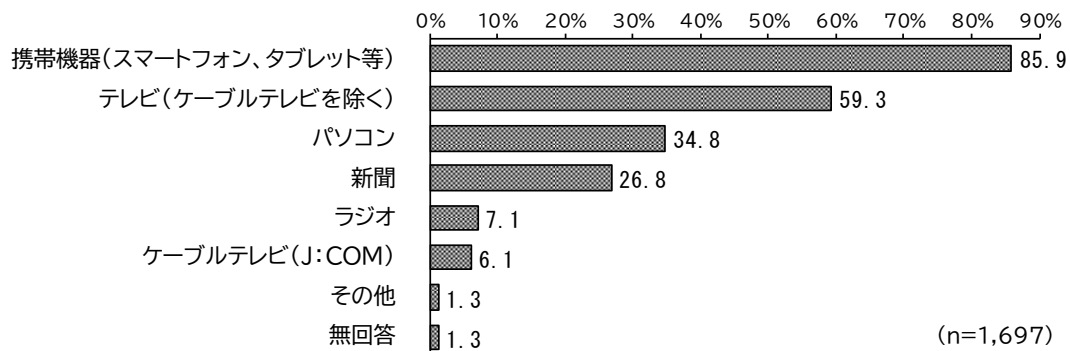
(1) 情報を入手するためによく利用するもの

情報入手は、「携帯機器（スマートフォン、タブレット等）」の利用が8割超

【問4】普段、情報を入手するためによく利用する情報媒体は何ですか。(〇はいくつでも)

情報を入手するために使われているのは、「携帯機器（スマートフォン、タブレット等）」(85.9%)で最も高く、次ぐ「テレビ（ケーブルテレビを除く）」(59.3%)までは5割を超え、以下、「パソコン」(34.8%)、「新聞」(26.8%)となっており、これらの情報媒体が広く利用されている。

「その他」としては、「広報紙」(9件)などが挙がっている。



図Ⅲ－23 情報を入手するためによく利用するもの

表Ⅲ－3 「その他」の内訳

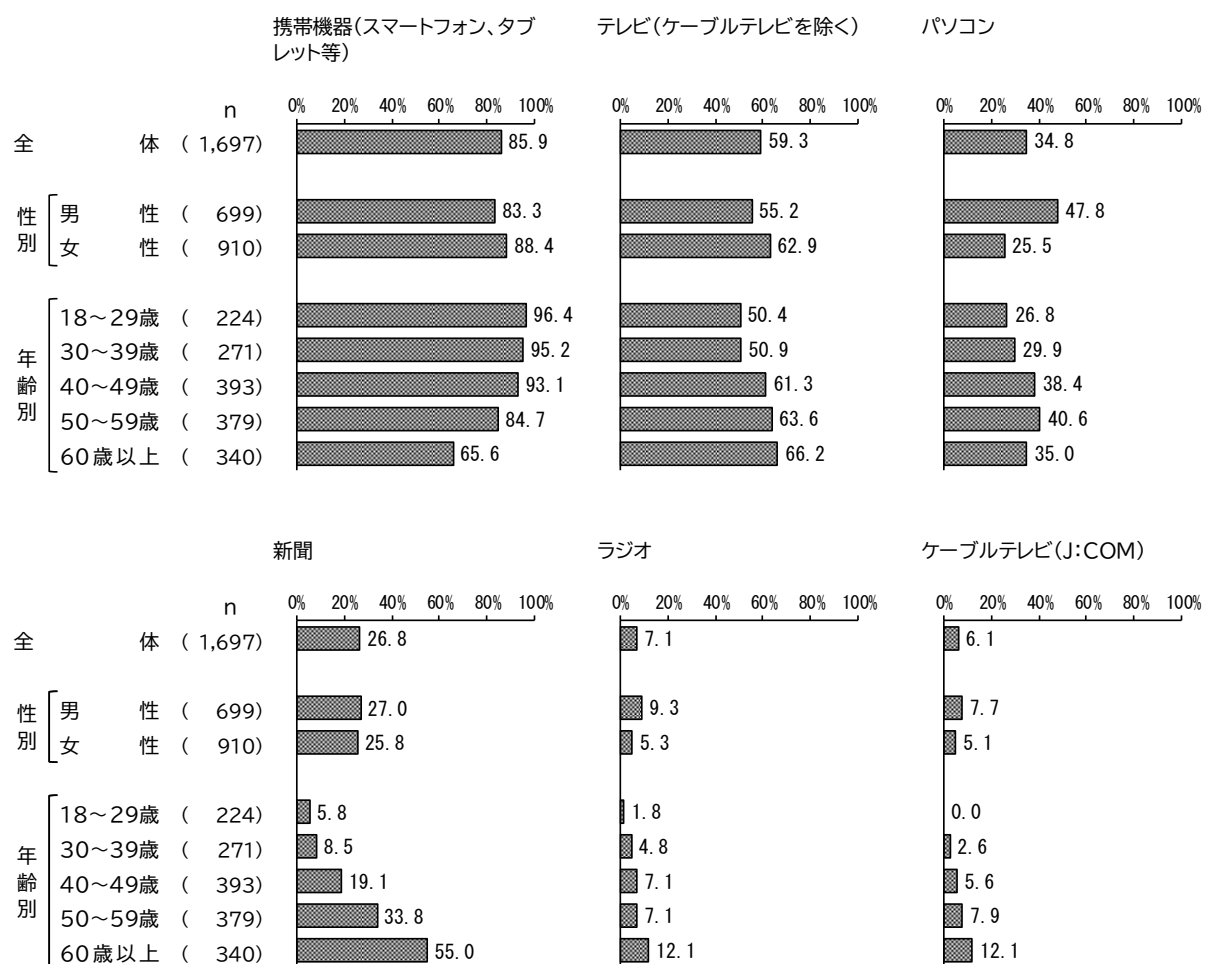
「その他」の内容	件数
広報紙	9
職場・近所・友人・知人からの口コミ	4
雑誌	4
情報誌・チラシ	3
地域新聞	2
市役所	1
公民館	1
(記載なし)	3
合 計	27

【性別／年齢別】

性別で比較すると、「携帯機器（スマートフォン、タブレット等）」、「テレビ（ケーブルテレビを除く）」では女性（88.4%、62.9%）が、「パソコン」では男性（47.8%）の割合が高くなっている。

年齢別にみると、「携帯機器（スマートフォン、タブレット等）」の割合は、年齢が下がるに従い高くなっており、最も高い18～29歳（96.4%）と最も低い60歳以上（65.6%）に30.8ポイントの差が見られるが、60歳以上でも6割を超える人が利用している。

一方、「テレビ（ケーブルテレビを除く）」、「新聞」の割合は、年齢が上がるに従い高くなっており、「新聞」においては、最も高い60歳以上（55.0%）と最も低い18～29歳（5.8%）に49.2ポイントの差がある。



図Ⅲ－２４ 情報を入手するためによく利用するもの（性別／年齢別）

(2) 市の事業やイベント情報などの入手方法

「広報ふなばし（紙）」から情報を得ている人は5割超

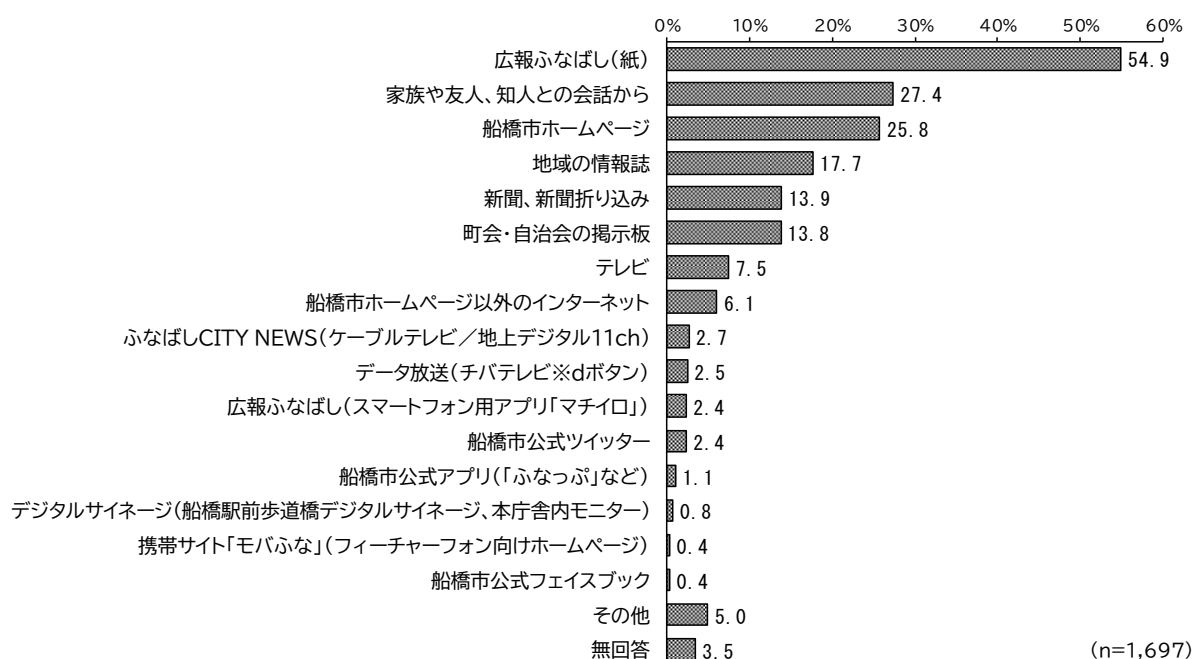
【問5】市の事業やイベント情報などをどこから入手していますか。

（〇はいくつでも）

市の事業やイベント情報などを得る手段として、「広報ふなばし（紙）」の割合は、54.9%と最も高く5割を超えている。

次いで、「家族や友人、知人との会話から」（27.4%）、「船橋市ホームページ」（25.8%）、「地域の情報誌」（17.7%）、「新聞、新聞折り込み」（13.9%）、「町会・自治会の掲示板」（13.8%）と続いている。

「その他」については、「SNSやアプリ、ホームページ検索」（17件）などが挙げられている。



図Ⅲ－25 市の事業やイベント情報などの入手方法

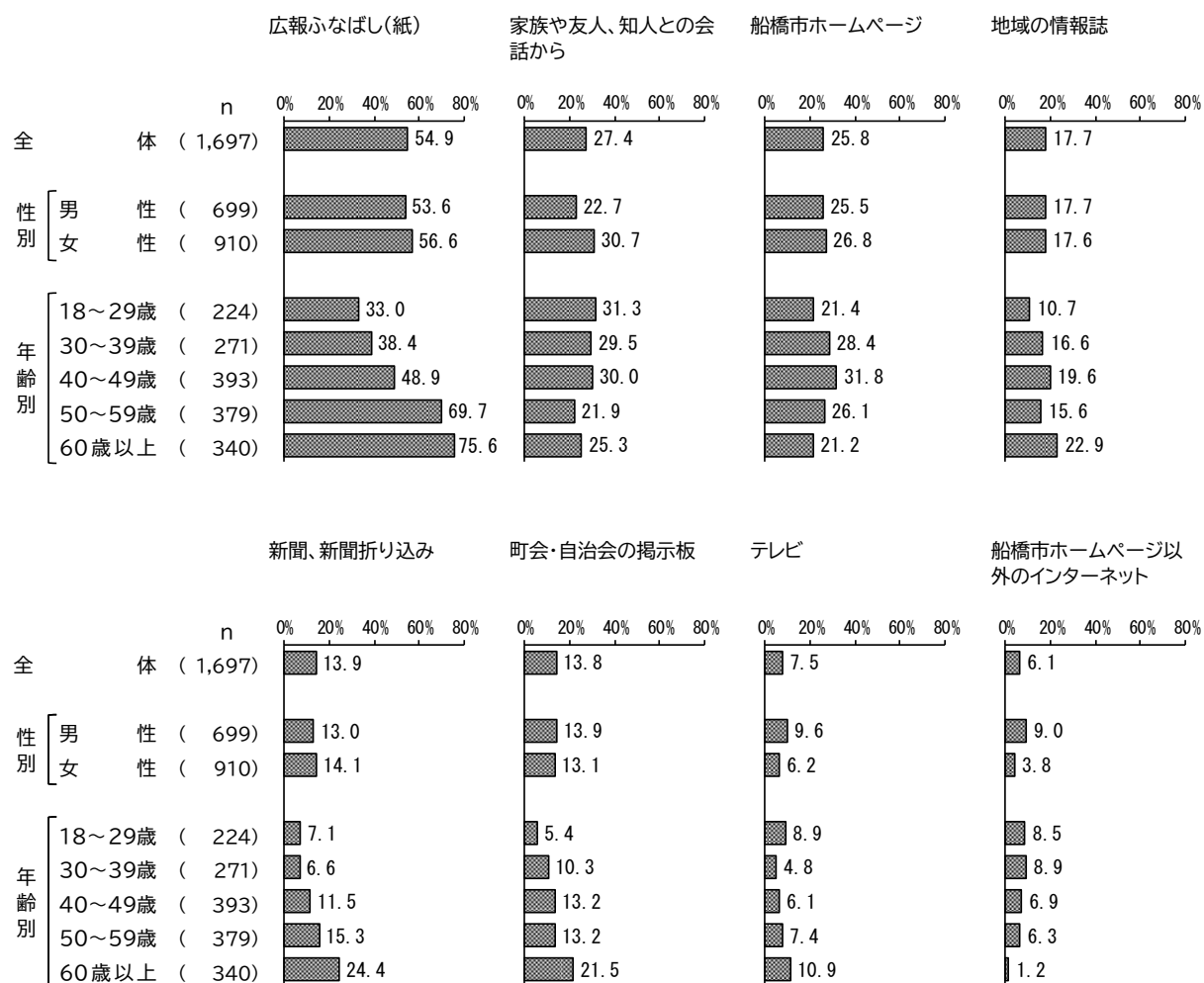
表Ⅲ－4 「その他」の内訳

「その他」の内容	件数
SNSやアプリ、ホームページ検索	17
学校等からの配布物	7
町会・自治会の回覧板、配布物	5
交通機関での掲示物、配布物	4
口コミ	4
公共施設での掲示物、配布物	3
ポストに投函されるチラシ	2
市議会議員の会報	1
入手しない・していない	39
(記載なし)	3
合 計	85

【性別／年齢別】（上位 8 項目）

性別で比較すると、「広報ふなばし(紙)」、「家族や友人、知人との会話から」では、女性(56.6%、30.7%)の割合が、男性(53.6%、22.7%)に比べ高くなっている。一方、「テレビ」、「船橋市ホームページ以外のインターネット」では、男性(9.6%、9.0%)の割合が、女性(6.2%、3.8%)に比べ高くなっている。

年齢別にみると、60歳以上が、「広報ふなばし(紙)」、「新聞、新聞折り込み」(24.4%)、「地域の情報誌」(22.9%)といった紙媒体の割合が高くなっている。



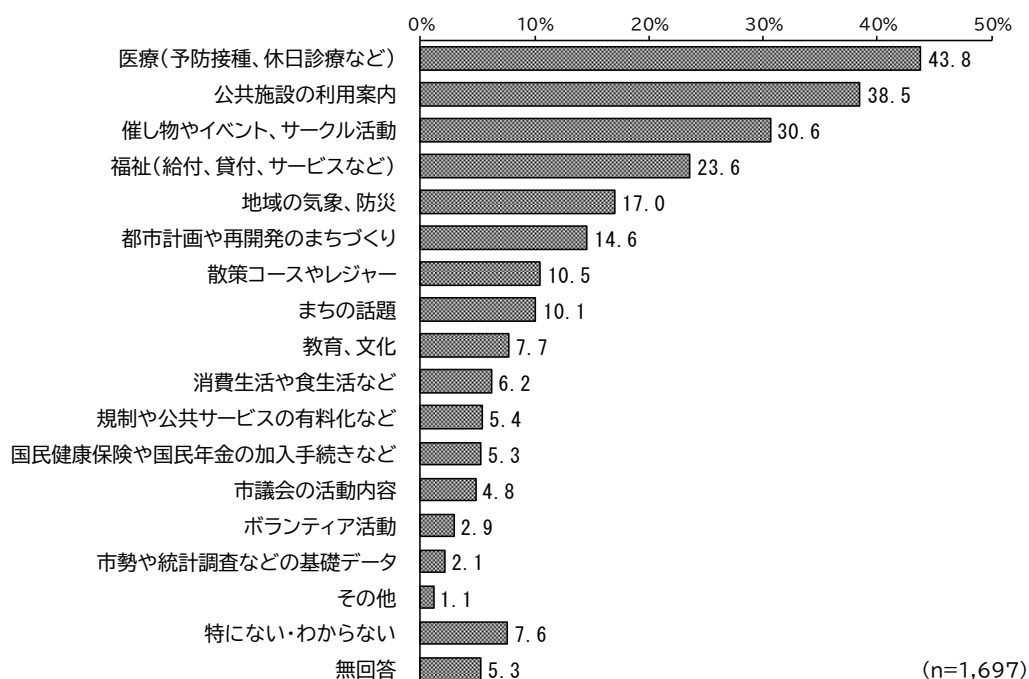
図Ⅲ－26 市の事業やイベント情報などの入手方法（性別／年齢別）（上位 8 項目）

(3) 広報紙やホームページで知りたい情報

知りたい情報は、「医療（予防接種、休日診療など）」、「公共施設の利用案内」、「催し物やイベント、サークル活動」などの日常生活に必要なこと

【問6】 広報紙やホームページで知りたい情報は何ですか。（〇は3つまで）

広報紙やホームページで知りたい情報として、「医療（予防接種、休日診療など）」（43.8%）で最も高く、次いで、「公共施設の利用案内」（38.5%）、「催し物やイベント、サークル活動」（30.6%）が続き、「福祉（給付、貸付、サービスなど）」（23.6%）までは2割を超えている。「その他」については、「採用等の求人情報」（5件）などが挙げられている。



図Ⅲ－２７ 広報紙やホームページで知りたい情報

表Ⅲ－５ 「その他」の内訳

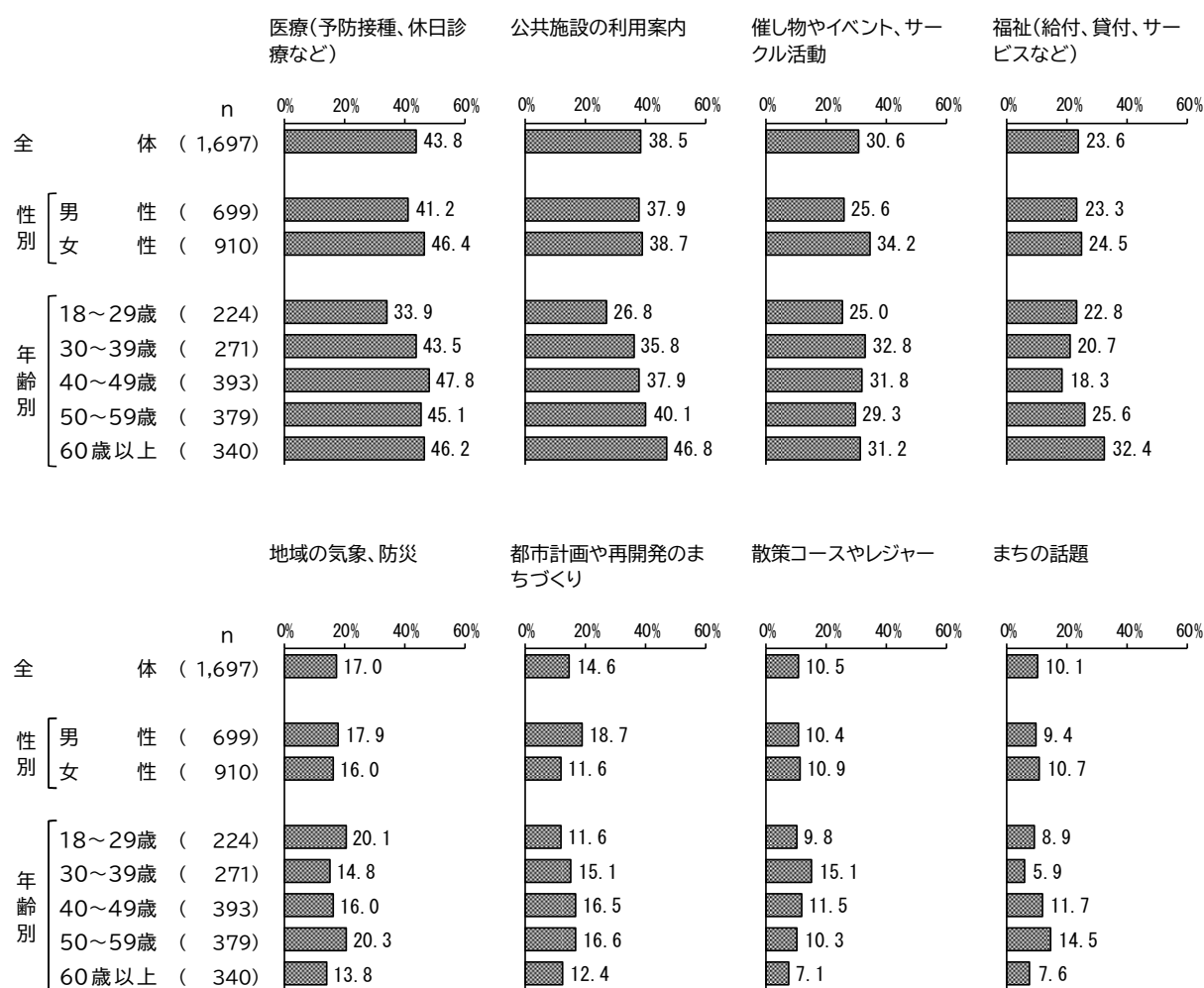
「その他」の内容	件数
採用等の求人情報	5
新型コロナの感染情報	2
花火の日程など	2
税金・予算の使われ方	2
保育園に関する情報	2
その他	4
(記載なし)	2
合 計	19

【性別／年齢別】（上位 8 項目）

性別で比較すると、「医療（予防接種、休日診療など）」、「催し物やイベント、サークル活動」は、女性（46.4%、34.2%）が男性（41.2%、25.6%）より、各々5.2、8.6 ポイント高い。一方、「都市計画や再開発のまちづくり」は、男性（18.7%）が女性（11.6%）より 7.1 ポイント高くなっている。

年齢別にみると、「医療（予防接種、休日診療など）」では、18～29 歳を除く全ての年齢で 4 割を超えている。

「公共施設の利用案内」、「福祉（給付、貸付、サービスなど）」では、60 歳以上（46.8%、32.4%）で高くなっている。



図Ⅲ－28 広報紙やホームページで知りたい情報（性別／年齢別）（上位 8 項目）

(4) 「広報活動」概観

広報紙やホームページで提供する情報は、必要としている人の属性に合ったものが必要

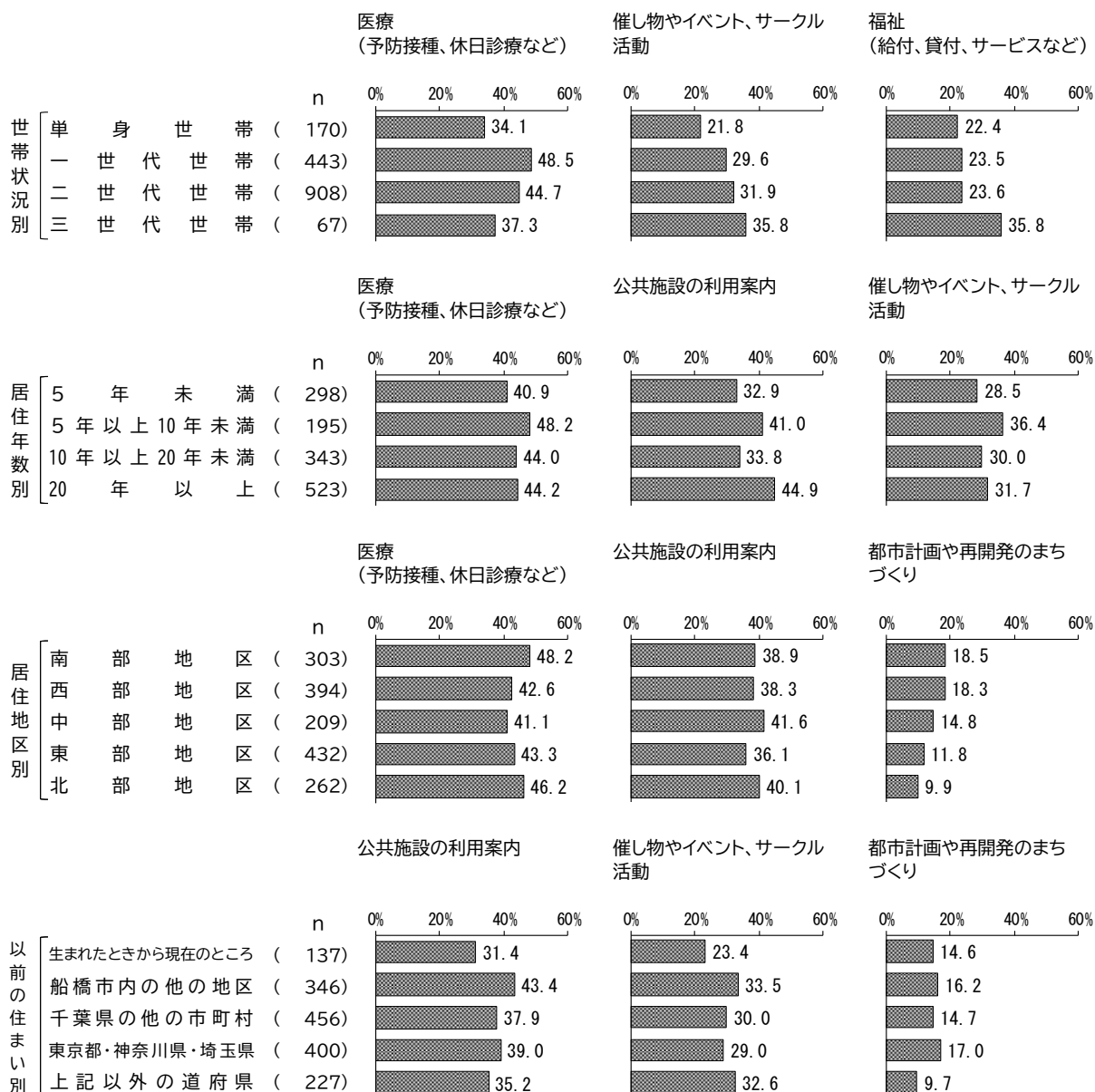
広報紙やホームページで知りたい情報については、全体、性別、年齢別に比較しているが、ここでは、他の属性情報の区分間で最も違いの大きい項目を挙げる。

世帯状況別にみると、「医療（予防接種、休日診療など）」で一世代世帯（48.5%）と単身世帯（34.1%）に 14.4 ポイントの差が見られる（「その他」を除く）。

居住年数別にみると、「公共施設の利用案内」で、20 年以上（44.9%）と 5 年未満（32.9%）に 12.0 ポイントの差が見られる（「生まれたときから現在のところ」を除く）。

居住地区別にみると、「都市計画や再開発のまちづくり」で、南部地区（18.5%）と北部地区（9.9%）に 8.6 ポイントの差が見られる。

以前の住まい別にみると、「公共施設の利用案内」で、船橋市内の他の地区（43.4%）と生まれたときから現在のところ（31.4%）に 12.0 ポイントの差が見られる（「日本国外」を除く）。



図Ⅲ－２９ 広報紙やホームページで知りたい情報

3. 「新型コロナウイルス感染症の影響」について

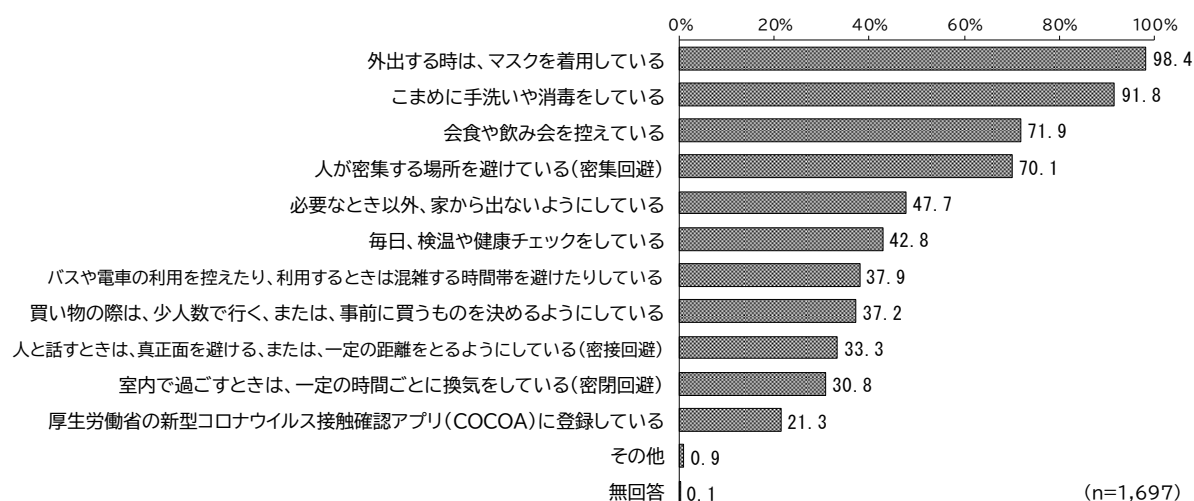
(1) 新型コロナウイルス感染防止対策

感染防止対策で「外出する時は、マスクを着用している」人が10割弱とほぼ全員

【問7】日常生活の中で、どのような感染防止対策をしていますか。(〇はいくつでも)

新型コロナウイルス感染防止対策を聞いたところ、「外出する時は、マスクを着用している」の割合が98.4%と最も高く、次いで、「こまめに手洗いや消毒をしている」(91.8%)、「会食や飲み会を控えている」(71.9%)、「人が密集する場所を避けている(密集回避)」(70.1%)までは7割を超えている。

「その他」については、「旅行や帰省を控えている」(3件)などが挙げられている。



図Ⅲ－30 新型コロナウイルス感染防止対策

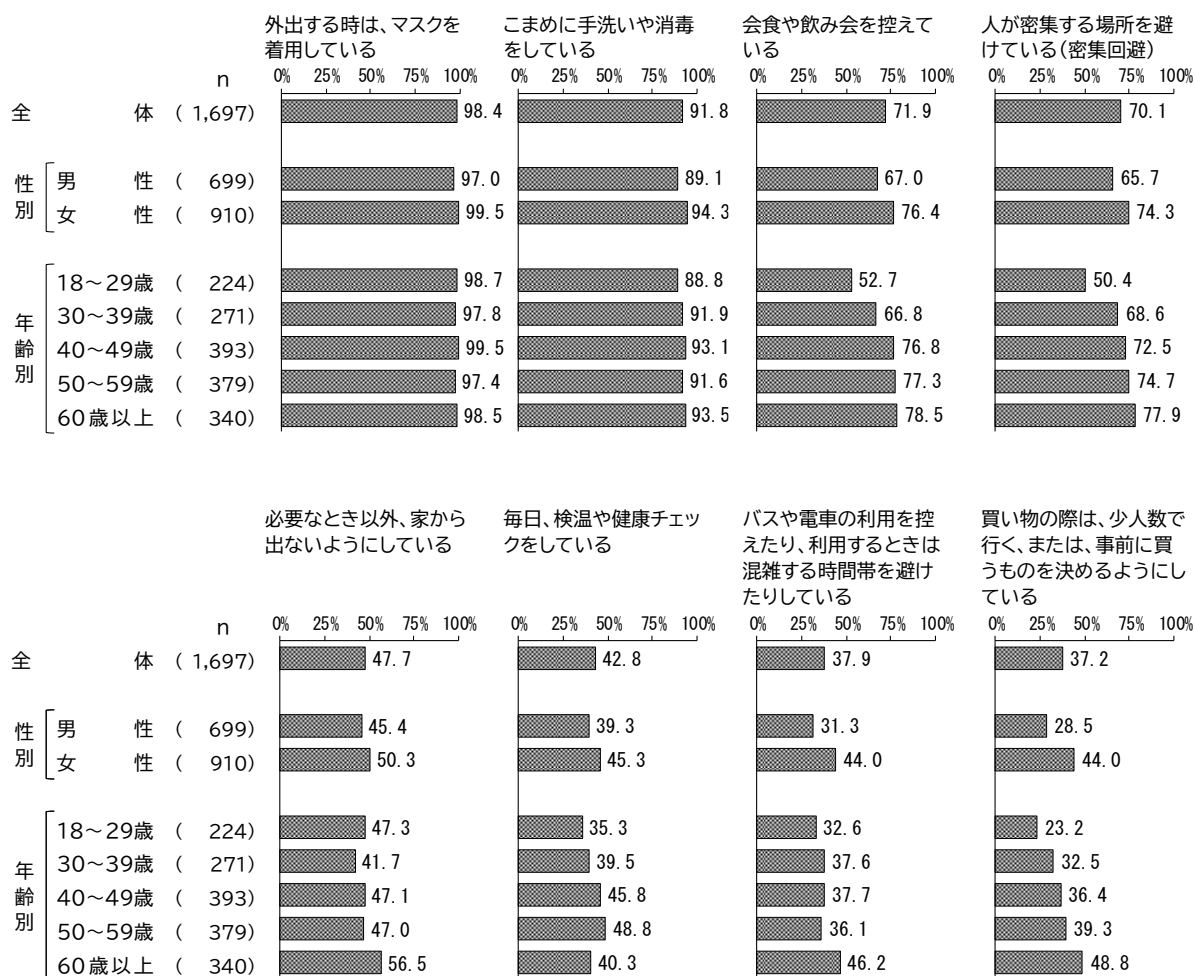
表Ⅲ－6 「その他」の内訳

「その他」の内容	件数
旅行や帰省を控えている	3
オンライン受講、テレワークにしている	2
飲み会はオンラインにしている	2
家族でも食事場所、時間を変えている。テイクアウトにしている	2
消毒薬やフェイスシールドを持ち歩いている	2
その他	4
(記載なし)	2
合 計	17

【性別／年齢別】（上位8項目）

性別で比較すると、「バスや電車の利用を控えたり、利用するときは混雑する時間帯を避けたりしている」、「買い物の際は、少人数で行く、または、事前に買うものを決めるようにしている」は、女性（ともに44.0%）が男性（31.3%、28.5%）より、各々12.7、15.5ポイント高い。

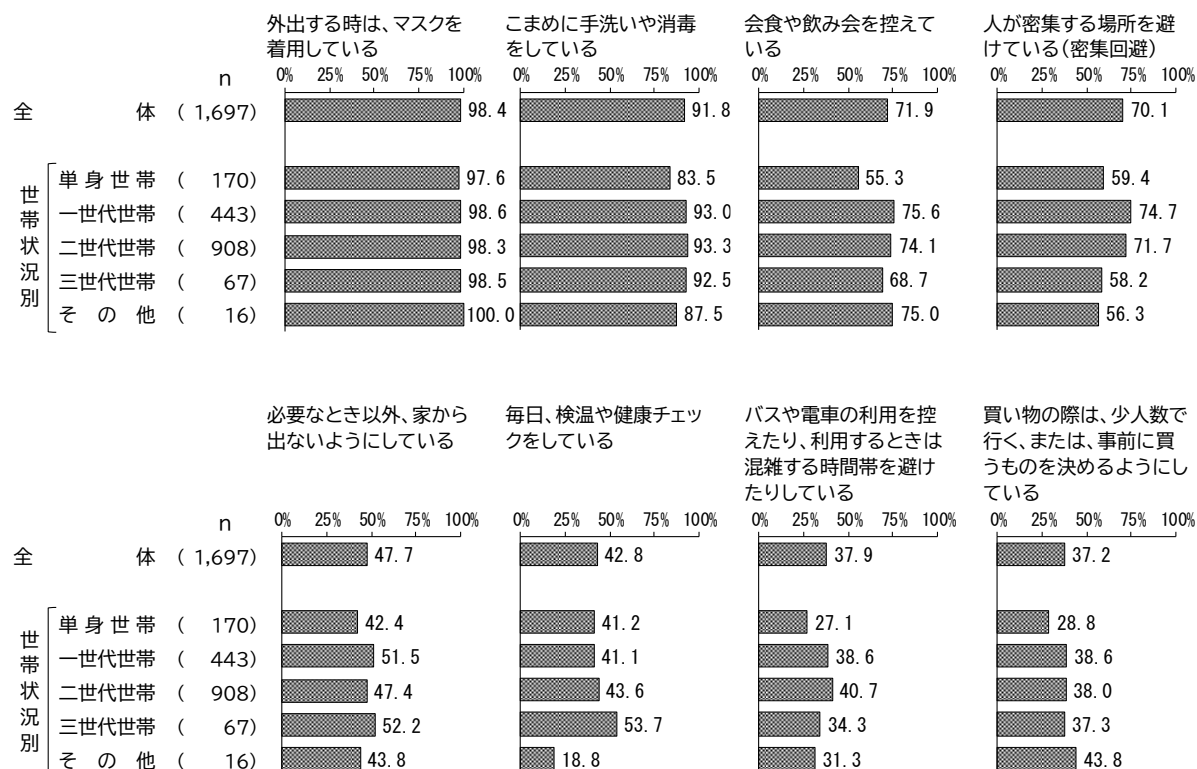
年齢別にみると、「外出する時は、マスクを着用している」では、全ての年齢で9割を超えている。また、「会食や飲み会を控えている」、「人が密集する場所を避けている（密集回避）」、「買い物の際は、少人数で行く、または、事前に買うものを決めるようにしている」では、年齢が上がるに従い割合が高くなっている。



図Ⅲ－3 1 新型コロナウイルス感染防止対策（性別／年齢別）（上位8項目）

【世帯状況別】（上位8項目）

世帯状況別にみると、「外出する時は、マスクを着用している」は、全ての世帯で9割を超えている。また、「会食や飲み会を控えている」では、最も高い一世代世帯（75.6%）と最も低い単身世帯（55.3%）で20.3ポイントの差があり、「人が密集する場所を避けている（密集回避）」では、最も高い一世代世帯（74.7%）と最も低い三世代世帯（58.2%）で16.5ポイントの差がある。「毎日、検温や健康チェックをしている」は、三世代世帯で53.7%と高く、5割を超えている。



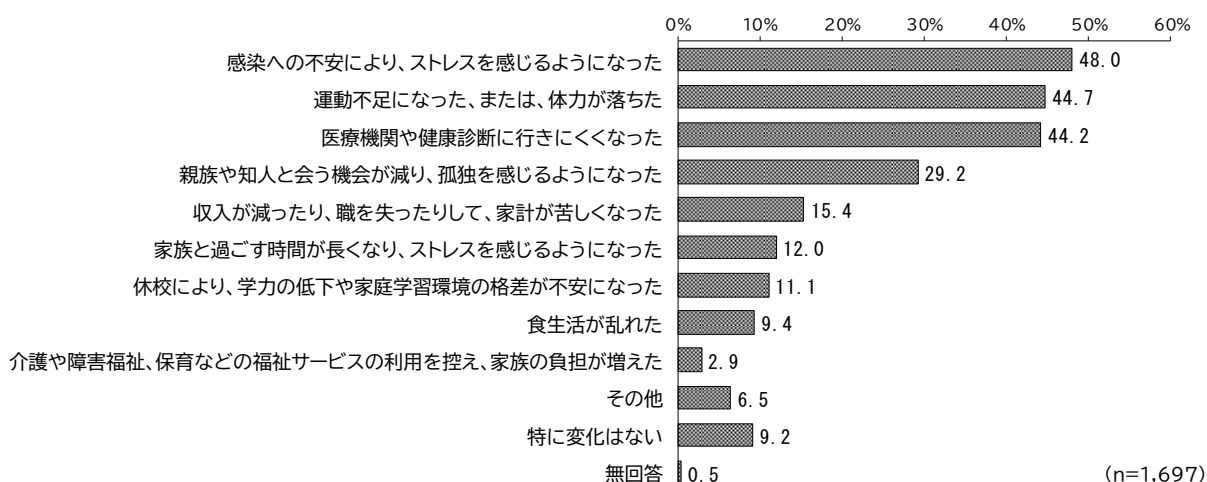
図Ⅲ－３２ 新型コロナウイルス感染防止対策（世帯状況別）（上位8項目）

(2) 生活や心身の変化

コロナ禍で「感染への不安により、ストレスを感じるようになった」が5割弱

【問8】コロナ禍以前と比べて、生活や心身にどのような変化がありましたか。(〇はいくつでも)

コロナ禍以前と比べて、生活や心身にどのような変化があったかについて聞いたところ、「感染への不安により、ストレスを感じるようになった」の割合が48.0%と最も高く、次いで「運動不足になった、または、体力が落ちた」(44.7%)、「医療機関や健康診断に行きにくくなった」(44.2%)が4割を超え、「親族や知人と会う機会が減り、孤独を感じるようになった」(29.2%)が3割弱となっている。



図Ⅲ－３３ 生活や心身の変化

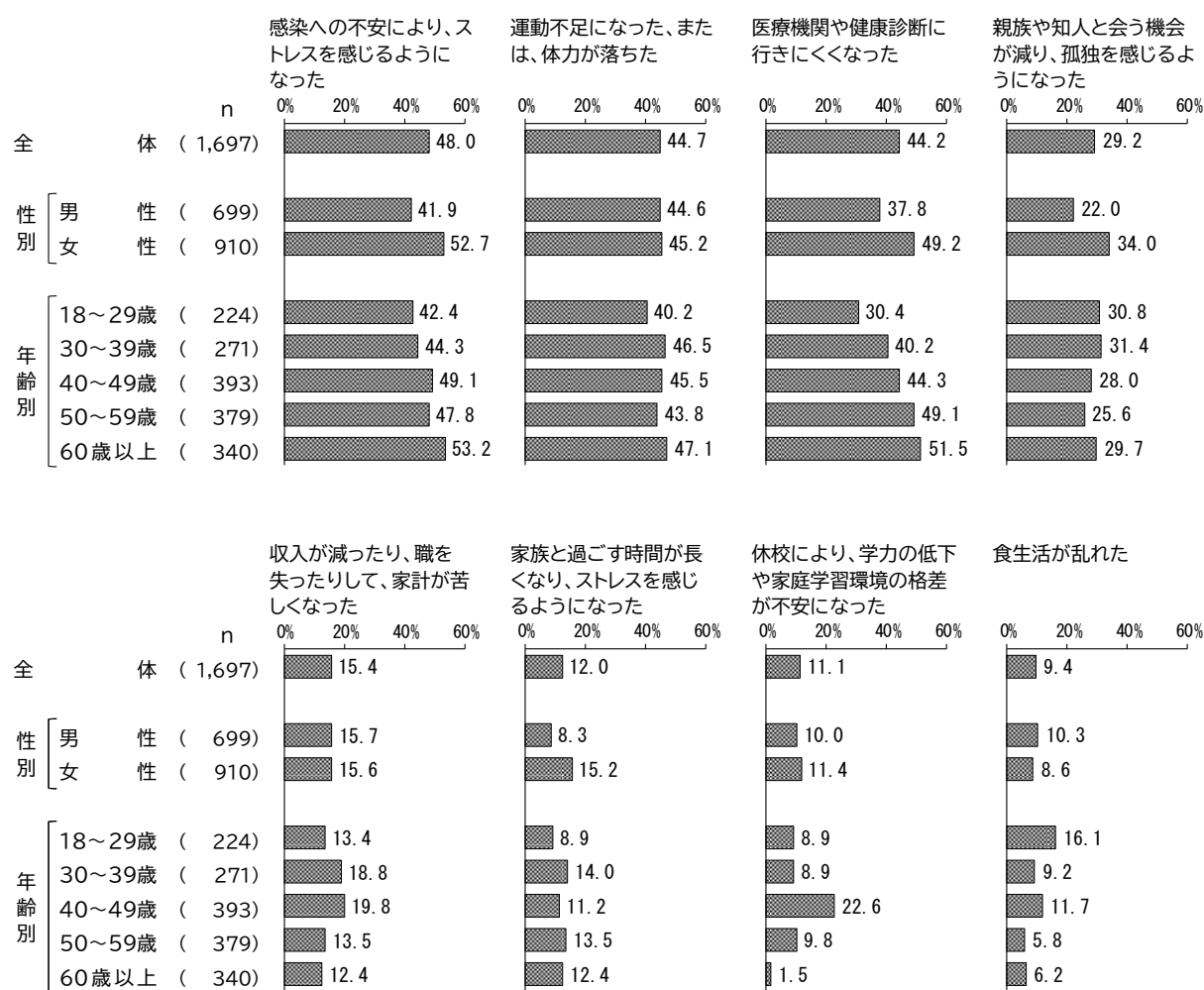
表Ⅲ－７ 「その他」の内訳

「その他」の内容	件数
イベント、旅行、外食、買い物、運動などできずストレスを感じるようになった	27
家族や親族、友人、知人など人に会えずストレスを感じるようになった	15
家族との時間が増え、幸せを感じるようになった	8
就職活動や仕事に支障が出たり、ストレスを感じるようになった	7
仕事が増えたり、忙しくなった	6
太ったり、肌荒れしたり、ストレス性の不調があった	6
物価が上がったり支出が増えたりして、家計が苦しくなった	6
生活や行動様式を見直すことができ、健康的になった	6
メディアや世の中の過剰な反応にストレスを感じるようになった	5
マスク着用など感染予防にストレスを感じるようになった	4
自炊や家事などやることが増えた	4
自粛や制限で自由に行動できなくなった	4
テレワークになったことで、通勤や対人関係などストレスが減った	3
その他	25
(記載なし)	2
合 計	128

【性別／年齢別】（上位 8 項目）

性別で比較すると、「感染への不安により、ストレスを感じるようになった」、「医療機関や健康診断に行きにくくなった」、「親族や知人と会う機会が減り、孤独を感じるようになった」は、女性（52.7%、49.2%、34.0%）が男性（41.9%、37.8%、22.0%）より、各々10.8、11.4、12.0ポイント高くなっている。

年齢別にみると、「感染への不安により、ストレスを感じるようになった」、「医療機関や健康診断に行きにくくなった」では、年齢が上がるに従い割合が高くなる傾向が見られ、60歳以上ではどちらも5割を超えている。また、「休校により、学力の低下や家庭学習環境の格差が不安になった」は、40～49歳で22.6%と最も高くなっている。



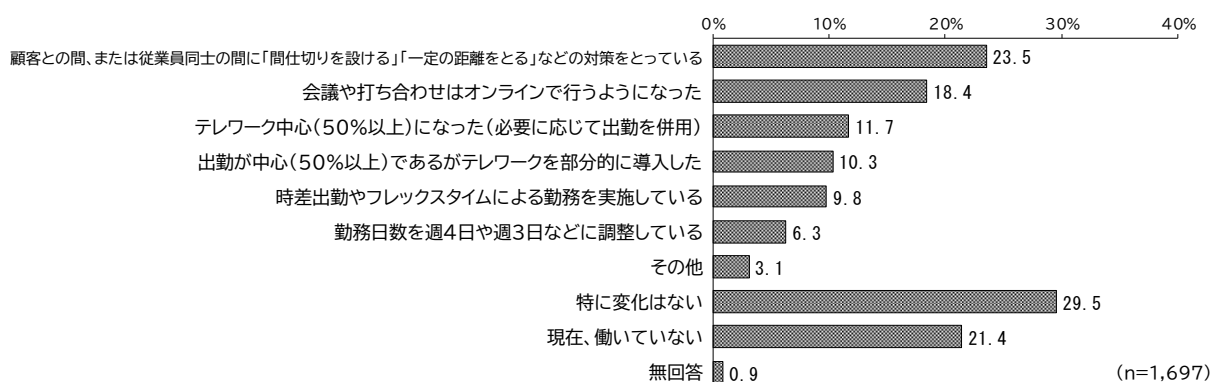
図Ⅲ－34 生活や心身の変化（性別／年齢別）（上位 8 項目）

(3) 実践している働き方

「顧客との間、または従業員同士の間に『間仕切りを設ける』『一定の距離をとる』などの対策をとっている」、「会議や打ち合わせはオンラインで行うようになった」がおおむね2割

【問9】コロナ禍以前から変化し、現在も実践している働き方は何ですか。(〇はいくつでも)

コロナ禍以前から変化し、現在も実践している働き方について聞いたところ、「顧客との間、または従業員同士の間に『間仕切りを設ける』『一定の距離をとる』などの対策をとっている」の割合が23.5%と最も高く、次いで「会議や打ち合わせはオンラインで行うようになった」(18.4%)、「テレワーク中心(50%以上)になった(必要に応じて出勤を併用)」(11.7%)、「出勤が中心(50%以上)であるがテレワークを部分的に導入した」(10.3%)、「時差出勤やフレックスタイムによる勤務を実施している」(9.8%)、「勤務日数を週4日や週3日などに調整している」(6.3%)、「その他」(3.1%)、「特に変化はない」(29.5%)、「現在、働いていない」(21.4%)、「無回答」(0.9%)となっており、



図Ⅲ－35 実践している働き方

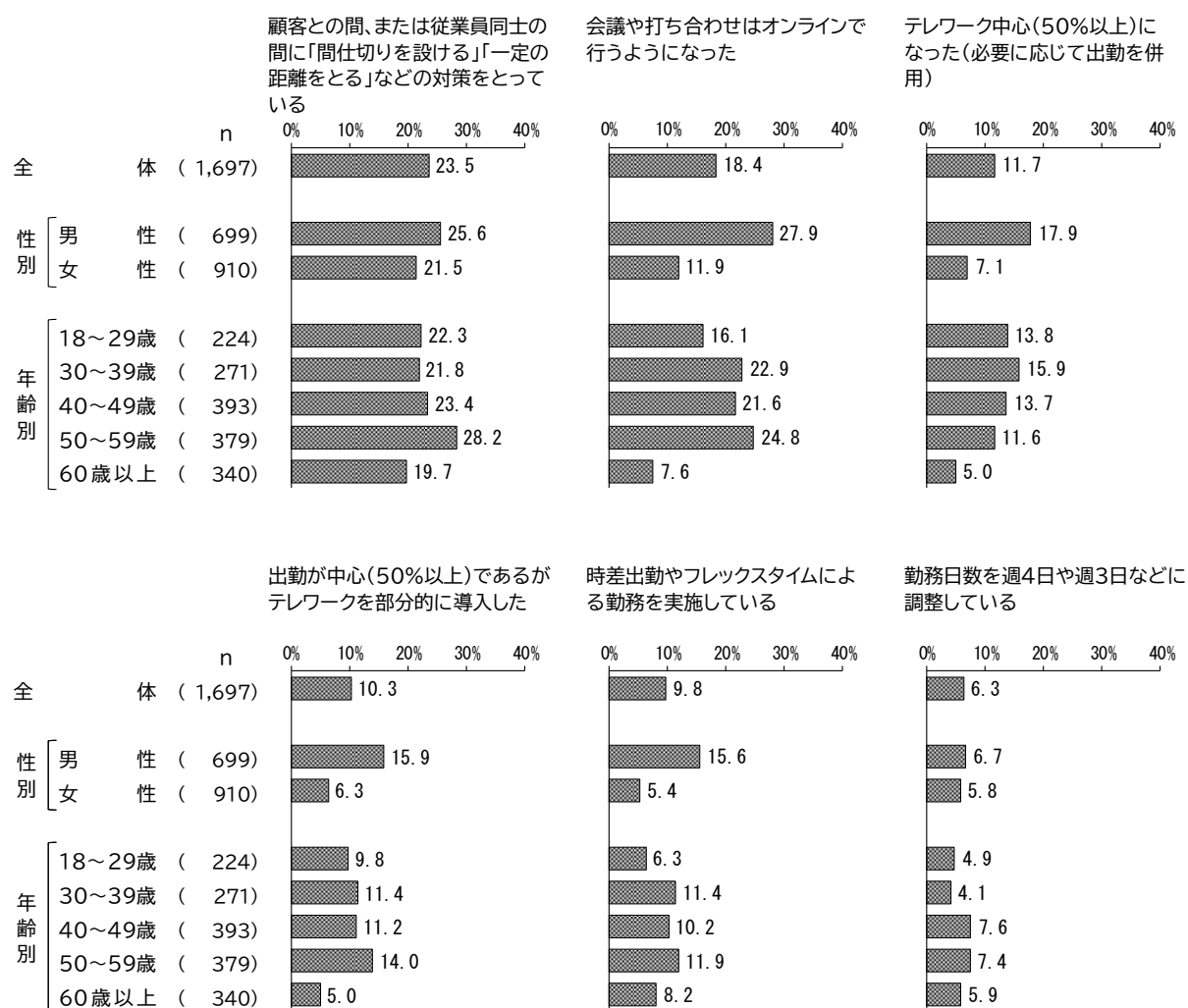
表Ⅲ－8 「その他」の内訳

「その他」の内容	件数
マスクやフェイスシールド、検温や手洗い、消毒などをするようになった	14
勤務日、勤務時間、残業が減ったりなくなった	9
会議や打ち合わせ、出張が減ったりなくなった	4
体温が高めのときは出勤や外出を控えるようになった	2
自宅待機になった	2
その他	21
(記載なし)	1
合 計	53

【性別／年齢別】

性別で比較すると、全ての項目で男性の方が女性よりも高くなっている。なかでも「会議や打ち合わせはオンラインで行うようになった」は、男性の27.9%に対し、女性は11.9%と16.0ポイントの差が見られる。

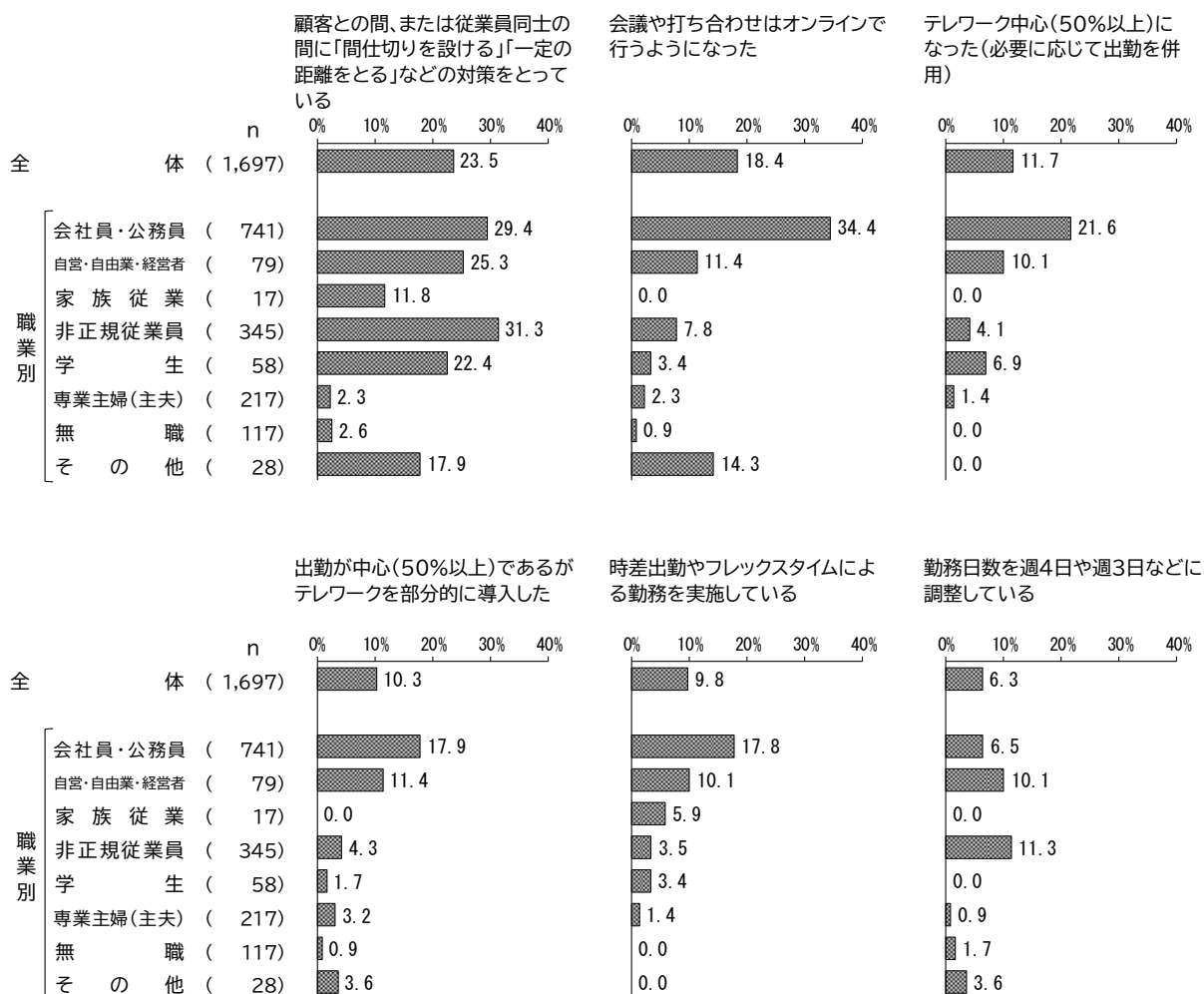
年齢別にみると、「顧客との間、または従業員同士の間に『間仕切りを設ける』『一定の距離をとる』などの対策をとっている」、「会議や打ち合わせはオンラインで行うようになった」、「出勤が中心（50%以上）であるがテレワークを部分的に導入した」、「時差出勤やフレックスタイムによる勤務を実施している」では、50～59歳で各々28.2%、24.8%、14.0%、11.9%と最も高くなっている。



図Ⅲ－36 実践している働き方（性別／年齢別）

【職業別】

職業別で比較すると、「顧客との間、または従業員同士の間に『間仕切りを設ける』『一定の距離をとる』などの対策をとっている」と「勤務日数を週4日や週3日などに調整している」を除く全ての項目で、会社員・公務員が最も高い。一方、「勤務日数を週4日や週3日などに調整している」は、非正規従業員〔アルバイト・パート・契約（派遣）社員〕が11.3%、自営・自由業・経営者が10.1%と、他の職業と比べて高くなっている。



図Ⅲ－３７ 実践している働き方（職業別）

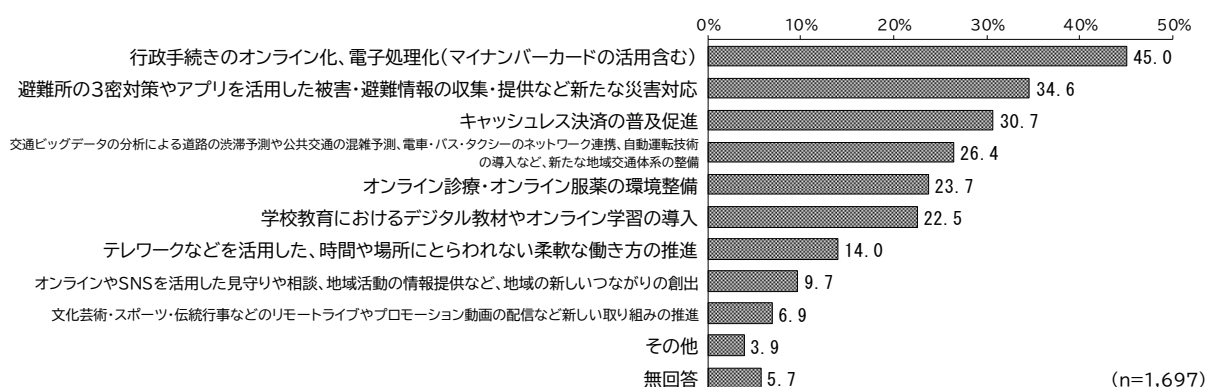
(4) 市が進めていくべき取り組み

「行政手続きのオンライン化、電子処理化（マイナンバーカードの活用含む）」が4割超

【問10】新しい生活様式に対応するために、今後市が特に進めていくべき取り組みは何であると考えますか。（〇は3つまで）

新しい生活様式に対応するために、今後市が特に進めていくべき取り組みは何であるかについて聞いたところ、「行政手続きのオンライン化、電子処理化（マイナンバーカードの活用含む）」の割合が45.0%と最も高く、次いで「避難所の3密対策やアプリを活用した被害・避難情報の収集・提供など新たな災害対応」（34.6%）、「キャッシュレス決済の普及促進」（30.7%）までが3割を超えている。

「その他」としては「オンラインを利用できない人への対応、支援、補助」（10件）などが挙げられている。



図Ⅲ－３８ 市が進めていくべき取り組み

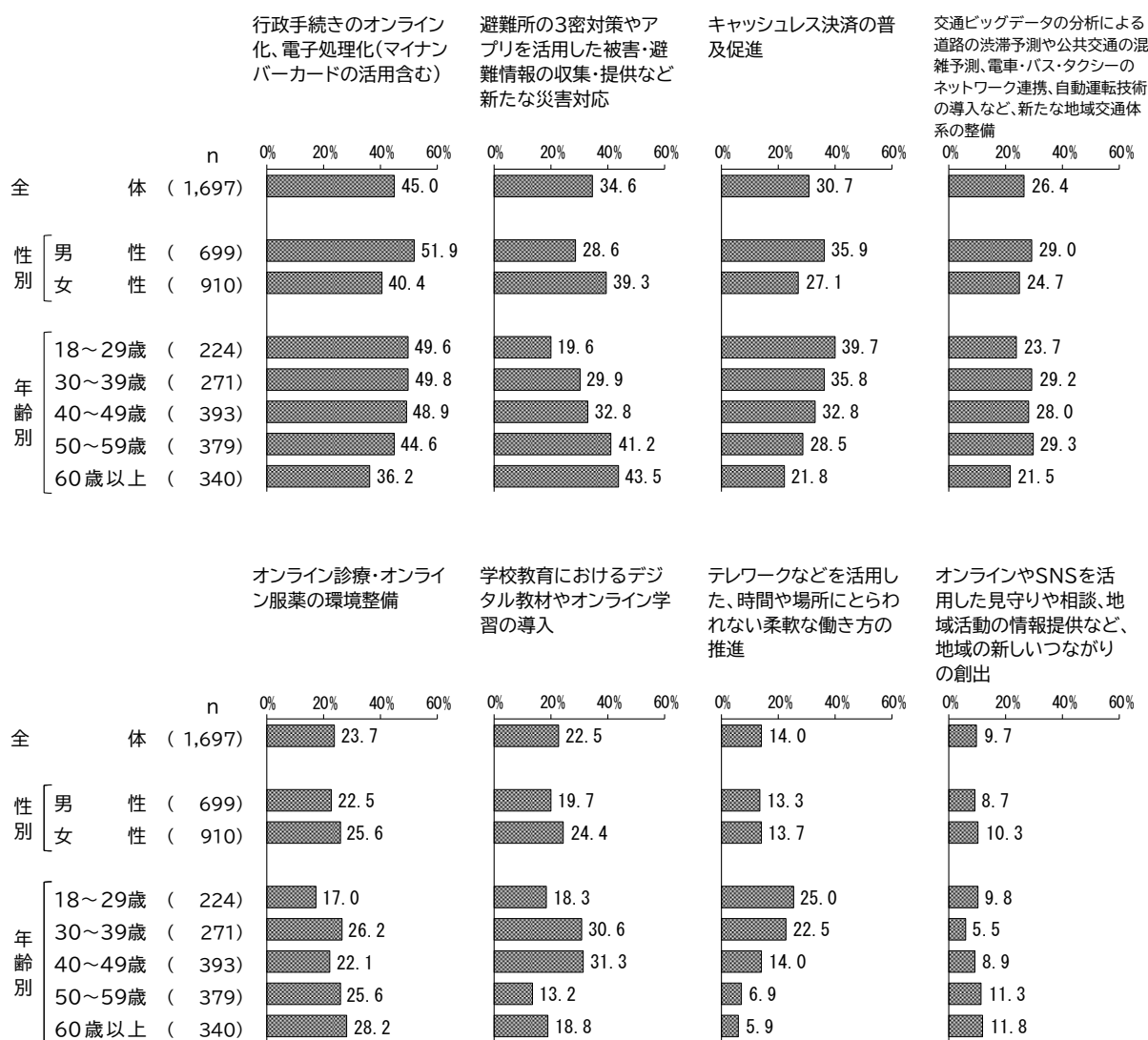
表Ⅲ－９ 「その他」の内訳

「その他」の内容	件数
オンラインを利用できない人への対応、支援、補助	10
医療体制、検査体制の構築や福祉行政の充実	5
子育て支援の充実	4
オンラインに頼らない方法の確立	3
感染防止対策を行わない個人・店舗・企業・組織への啓発	3
マイカー利用増による渋滞解消対策	3
個人情報を含む情報セキュリティの強化	3
低所得者への援助、給付金の支給	3
町内会が担っていることの電子化、オンライン化	2
市が進めるべき取り組みではない	2
その他	10
わからない	7
(記載なし)	11
合 計	66

【性別／年齢別】（上位8項目）

性別で比較すると、「行政手続きのオンライン化、電子処理化（マイナンバーカードの活用含む）」、「キャッシュレス決済の普及促進」は、男性（51.9%、35.9%）が女性（40.4%、27.1%）より、各々11.5、8.8 ポイント高い。一方、「避難所の3密対策やアプリを活用した被害・避難情報の収集・提供など新たな災害対応」は、女性（39.3%）が男性（28.6%）より 10.7 ポイント高くなっている。

年齢別にみると、「キャッシュレス決済の普及促進」、「テレワークなどを活用した、時間や場所にとらわれない柔軟な働き方の推進」では、年齢が下がるに従い割合が高くなっており、他方、「避難所の3密対策やアプリを活用した被害・避難情報の収集・提供など新たな災害対応」では、年齢が上がるに従い割合が高くなっている。



図Ⅲ－３９ 市が進めていくべき取り組み（性別／年齢別）（上位8項目）

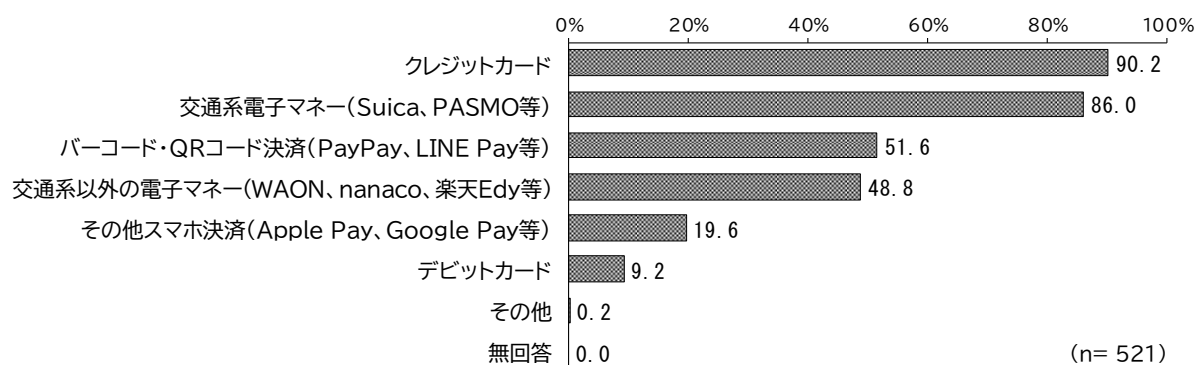
(4-1) 使用しているキャッシュレス決済

「交通系電子マネー」を使用している人が多く、「クレジットカード」は9割超

(問10)で「1. キャッシュレス決済の普及促進」を選んだ方)

【問10-1】現在、使用している(使用を検討しているものも含む)キャッシュレス決済はありますか。(〇はいくつでも)

新しい生活様式に対応するために、今後市が特に進めていくべき取り組みで、「キャッシュレス決済の普及促進」と答えた人(521人)が、使用しているキャッシュレス決済は「クレジットカード」が90.2%と最も高く、次いで「交通系電子マネー(Suica、PASMO等)」(86.0%)までが8割を超え、続いて「バーコード・QRコード決済(PayPay、LINE Pay等)」(51.6%)、「交通系以外の電子マネー(WAON、nanaco、楽天Edy等)」(48.8%)までがおおむね5割となっている。



図Ⅲ-40 使用しているキャッシュレス決済

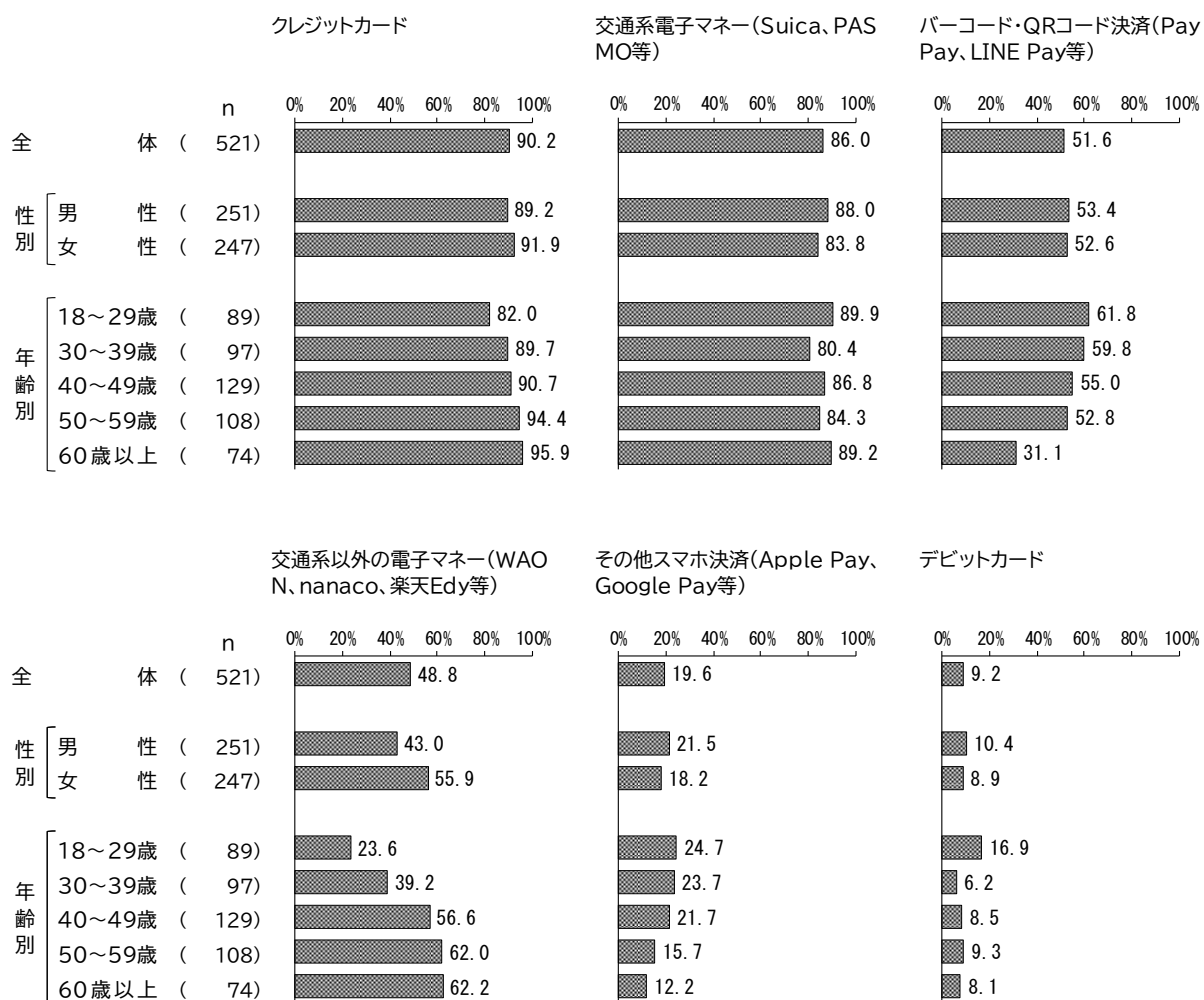
表Ⅲ-10 「その他」の内訳

「その他」の内容	件数
中国のスマホ決済	1
合 計	1

【性別／年齢別】

性別で比較すると、「交通系以外の電子マネー(WAON、nanaco、楽天Edy等)」で差が見られ、女性(55.9%)が男性(43.0%)より12.9ポイント高くなっている。

年齢別にみると、「クレジットカード」は、年齢が上がるに従い割合が高くなっている。一方、「バーコード・QRコード決済(PayPay、LINE Pay等)」、「その他スマホ決済(Apple Pay、Google Pay等)」では年齢が下がるに従い割合が高くなっている。



図Ⅲ－４１ 使用しているキャッシュレス決済（性別／年齢別）

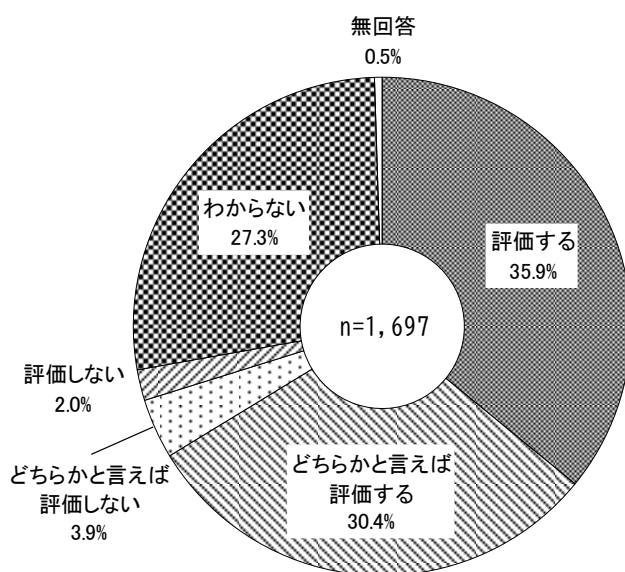
(5) 感染症拡大防止のための医療提供体制の整備・充実に対する評価

『評価する』は6割超

【問11】市の対策①「感染症拡大防止のための医療提供体制の整備・充実」に対するあなたの評価について、最もあてはまるものはどれですか。(〇は1つ)

市の「感染症拡大防止のための医療提供体制の整備・充実」に対する評価について聞いたところ、「評価する」が35.9%で最も高く、次いで「どちらかと言えば評価する」(30.4%)、「わからない」(27.3%)、「どちらかと言えば評価しない」(3.9%)、「評価しない」(2.0%)の順となっている。

また、「評価する」と「どちらかと言えば評価する」を合わせた『評価する』の割合は、66.3%と6割を超えている。



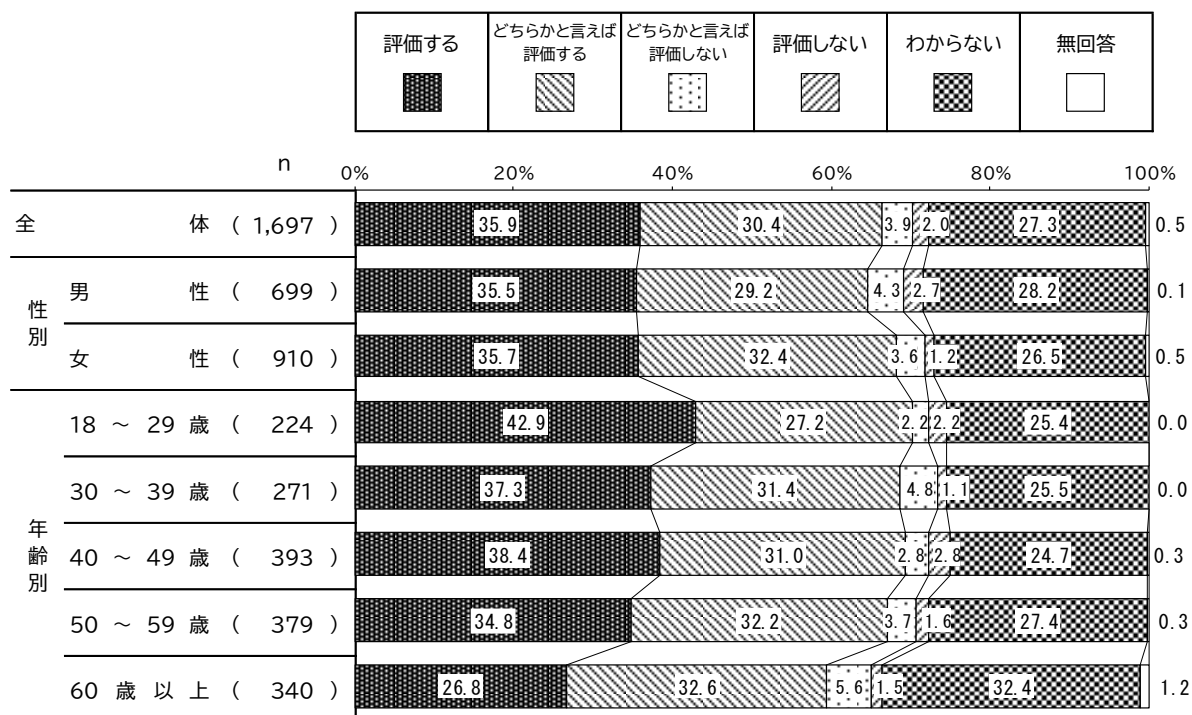
図Ⅲ-42 医療提供体制の整備・充実に対する評価

【性別／年齢別】

性別で比較すると、「どちらかと言えば評価する」の割合は、女性（32.4%）が男性（29.2%）より 3.2 ポイント高くなっているが、その他の項目では大きな差は見られない。

年齢別にみると、「評価する」の割合は、18～29 歳（42.9%）が最も高く、最も低い 60 歳以上（26.8%）と 16.1 ポイントの差がある。

また、「評価する」と「どちらかと言えば評価する」を合わせた『評価する』の割合は、年齢が下がるに従い高くなる傾向が見られ、最も高い 18～29 歳（70.1%）と最も低い 60 歳以上（59.4%）の差は 10.7 ポイントになる。



図Ⅲ－４３ 医療提供体制の整備・充実に対する評価（性別／年齢別）

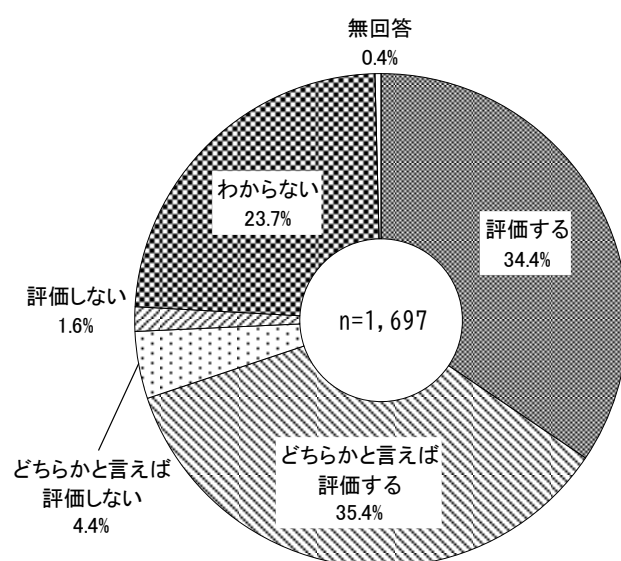
(6) 安全・安心な生活を守るための支援に対する評価

『評価する』は7割

【問12】市の対策②「安全・安心な生活を守るための支援」に対するあなたの評価について、最もあてはまるものはどれですか。(〇は1つ)

市の「安全・安心な生活を守るための支援」に対する評価について聞いたところ、「どちらかと言えば評価する」が35.4%で最も高く、次いで「評価する」(34.4%)、「わからない」(23.7%)、「どちらかと言えば評価しない」(4.4%)、「評価しない」(1.6%)の順となっている。

また、「評価する」と「どちらかと言えば評価する」を合わせた『評価する』の割合は、69.8%と7割になっている。



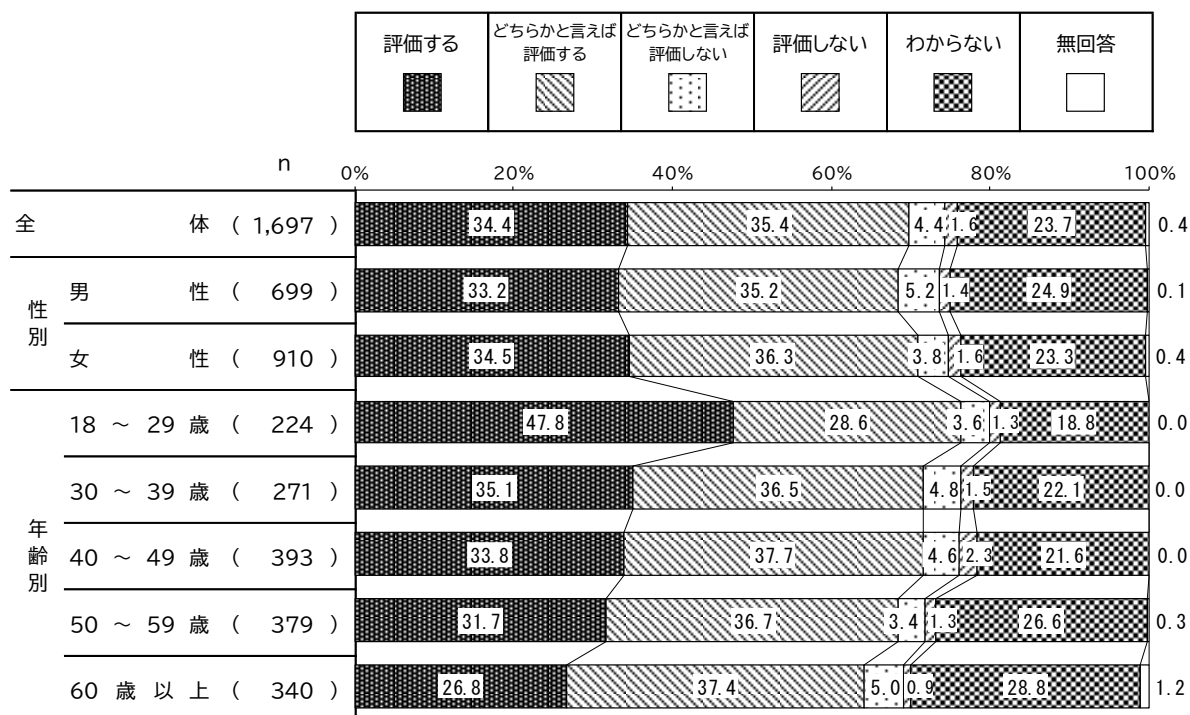
図Ⅲ－４４ 安全・安心な生活を守るための支援に対する評価

【性別／年齢別】

性別で比較すると、全ての項目の割合で、女性と男性の割合の差が 1.6 ポイント以下になっており、大きな差は見られない。

年齢別にみると、「評価する」の割合は、18～29 歳（47.8%）が最も高く、最も低い 60 歳以上（26.8%）と 21.0 ポイントの差がある。

また、「評価する」と「どちらかと言えば評価する」を合わせた『評価する』の割合は、年齢が下がるに従い高くなり、最も高い 18～29 歳（76.4%）と最も低い 60 歳以上（64.2%）の差は 12.2 ポイントとなっている。



図Ⅲ－４５ 安全・安心な生活を守るための支援に対する評価（性別／年齢別）

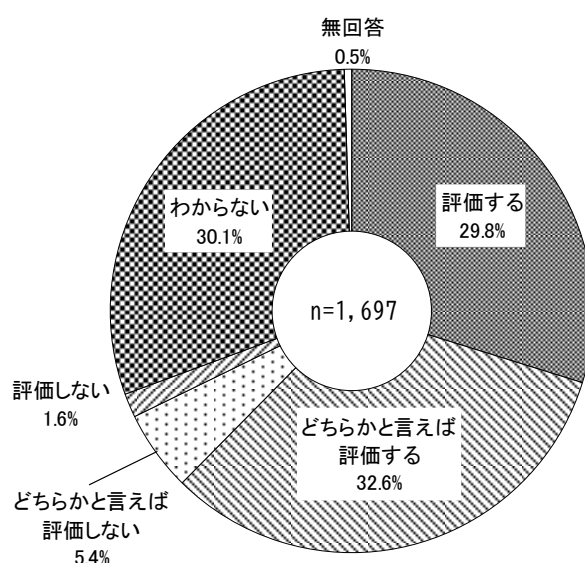
(7) 市内経済維持のための事業者支援に対する評価

『評価する』は6割超

【問13】市の対策③「市内経済維持のための事業者支援」に対するあなたの評価について、最もあてはまるものはどれですか。(〇は1つ)

市の「市内経済維持のための事業者支援」に対する評価について聞いたところ、「どちらかと言えば評価する」が32.6%で最も高く、次いで「わからない」(30.1%)、「評価する」(29.8%)、「どちらかと言えば評価しない」(5.4%)、「評価しない」(1.6%)の順となっている。

また、「評価する」と「どちらかと言えば評価する」を合わせた『評価する』の割合は、62.4%と6割を超えている。



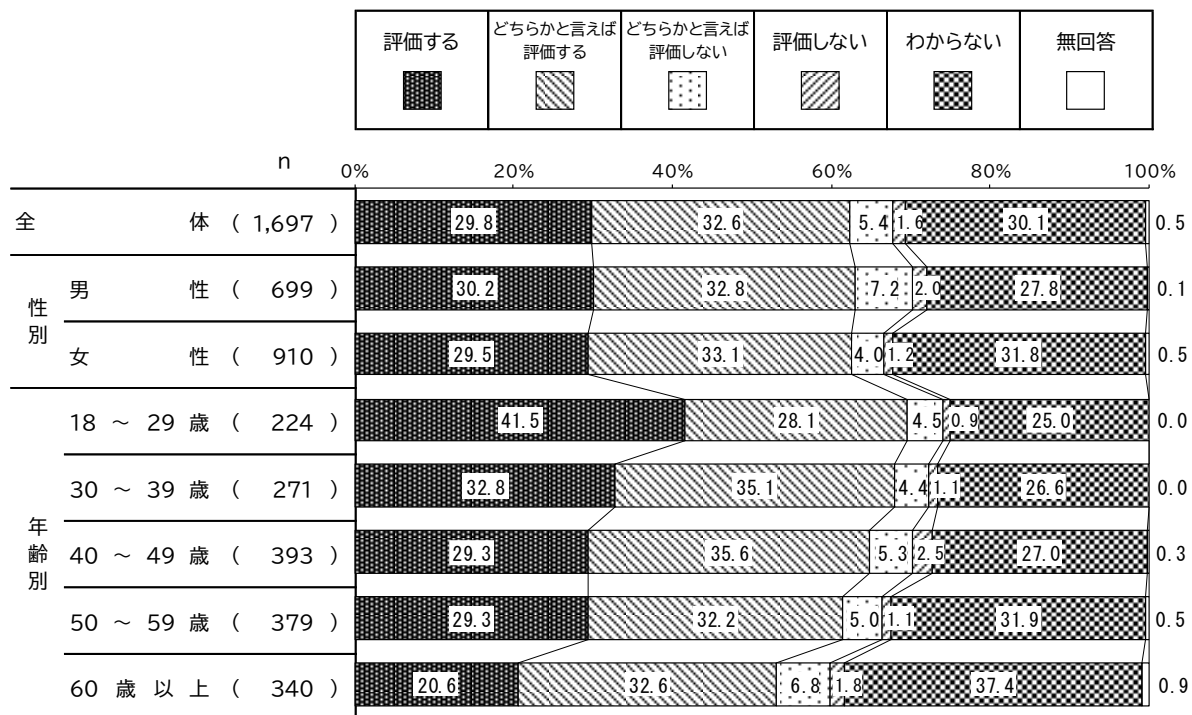
図Ⅲ－46 市内経済維持のための事業者支援に対する評価

【性別／年齢別】

性別で比較すると、「どちらかと言えば評価しない」の割合は、男性（7.2%）が女性（4.0%）より 3.2 ポイント高くなっている。

年齢別にみると、「評価する」の割合は、18～29 歳（41.5%）が最も高く、最も低い 60 歳以上（20.6%）と 20.9 ポイントの差がある。

また、「評価する」と「どちらかと言えば評価する」を合わせた『評価する』の割合は、年齢が下がるに従い高くなり、最も高い 18～29 歳（69.6%）と最も低い 60 歳以上（53.2%）の差は 16.4 ポイントになる。



図Ⅲ－４７ 市内経済維持のための事業者支援に対する評価（性別／年齢別）

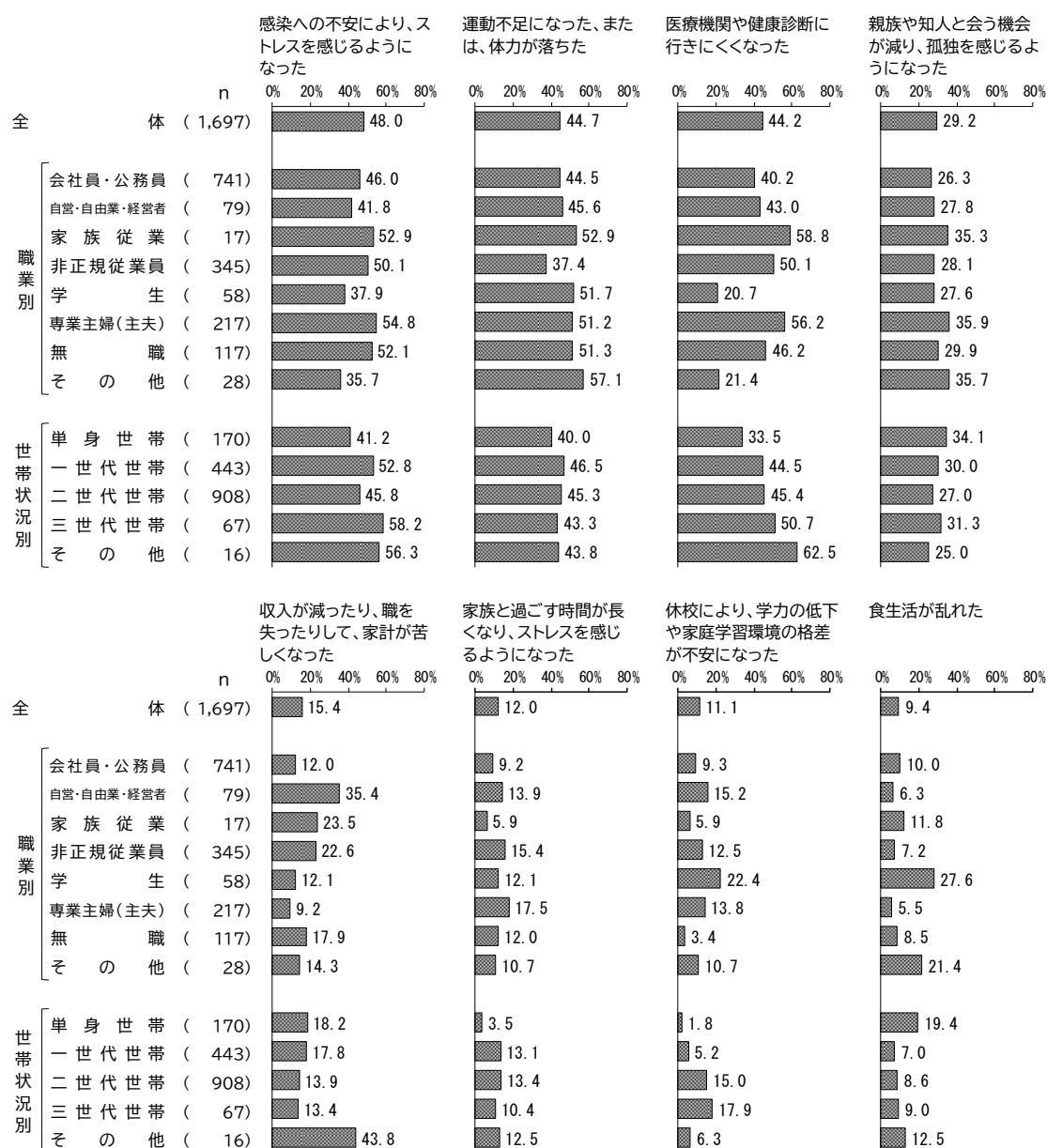
(8) 「新型コロナウイルス感染症の影響」概観

職業や世帯状況によって、生活や心身への影響に差異あり

コロナ禍以前と比べて、生活や心身にどのような変化があったかについては、全体、性別、年齢別に比較しているが、ここでは、職業別と世帯状況別に比較した結果を挙げる。

職業別にみると、「医療機関や健康診断に行きにくくなった」は、家族従業（58.8%）、専業主婦（主夫）（56.2%）、非正規従業員（50.1%）で高く、5割を超えている。「収入が減ったり、職を失ったりして、家計が苦しくなった」は、自営・自由業・経営者と家族従業、非正規従業員で35.4%、23.5%、22.6%、「食生活が乱れた」は学生で27.6%と他と比べて高くなっている。

世帯状況別にみると、「休校により、学力の低下や家庭学習環境の格差が不安になった」では、二世帯世帯と三世帯世帯で各々15.0%、17.9%と他と比べて高くなっている。また、「親族や知人と会う機会が減り、孤独を感じるようになった」、「食生活が乱れた」は、単身世帯で34.1%、19.4%と他と比べて高くなっている。



図Ⅲ－48 生活や心身の変化（職業別／世帯状況別）（上位8項目）

4. 「本市の災害対策」について

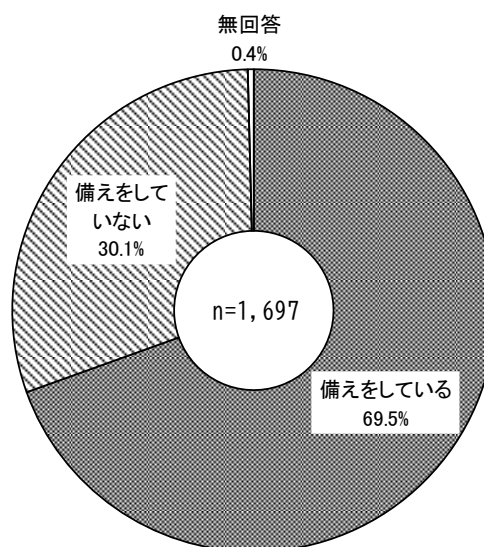
(1) 災害に備えた対策について

(1-1) 日頃からの備え

日頃から災害に備えている人は7割

【問14】日頃から災害への備えをしていますか。(〇は1つ)

日頃から災害への備えをしているか聞いたところ、「備えをしている」が69.5%、「備えをしていない」が30.1%となっている。

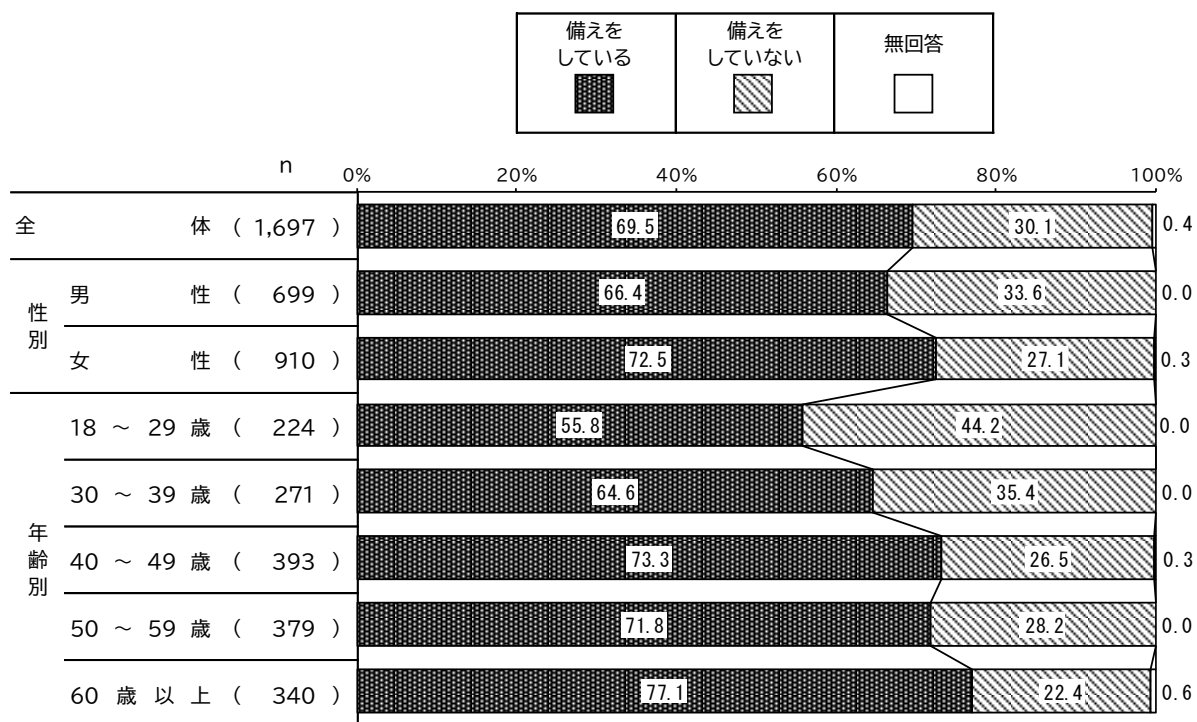


図Ⅲ－49 日頃からの備え

【性別／年齢別】

性別で比較すると、「備えをしている」は女性（72.5％）が男性（66.4％）より 6.1 ポイント高くなっている。

年齢別にみると、年齢が上がるに従い「備えをしている」の割合が高くなる傾向が見られ、60 歳以上（77.1％）が最も高く、最も低い 18～29 歳（55.8％）とは 21.3 ポイントの差がある。



図Ⅲ－５０ 日頃からの備え（性別／年齢別）

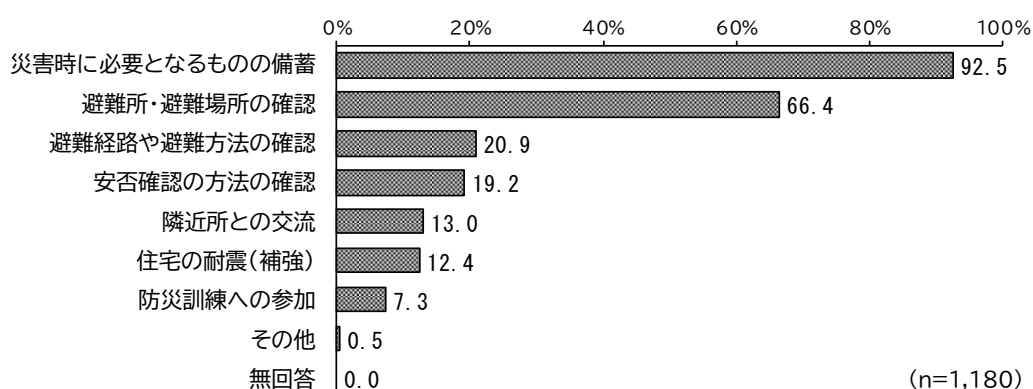
(1-2) 災害に備えた対策の内容

災害に備えた対策は、「災害時に必要となるものの備蓄」が9割超、「避難所・避難場所の確認」が6割超

(問14で「1. 備えをしている」とお答えの方)

【問14-1】どのような備えをしていますか。(〇はいくつでも)

日頃から災害への「備えをしている」と答えた人(1,180人)が行っている備えは、「災害時に必要となるものの備蓄」の割合が92.5%と最も高く9割を超え、次いで「避難所・避難場所の確認」(66.4%)が6割を超え、「避難経路や避難方法の確認」(20.9%)、「安否確認の方法の確認」(19.2%)がおおむね2割となっている。



図Ⅲ－５１ 災害に備えた対策の内容

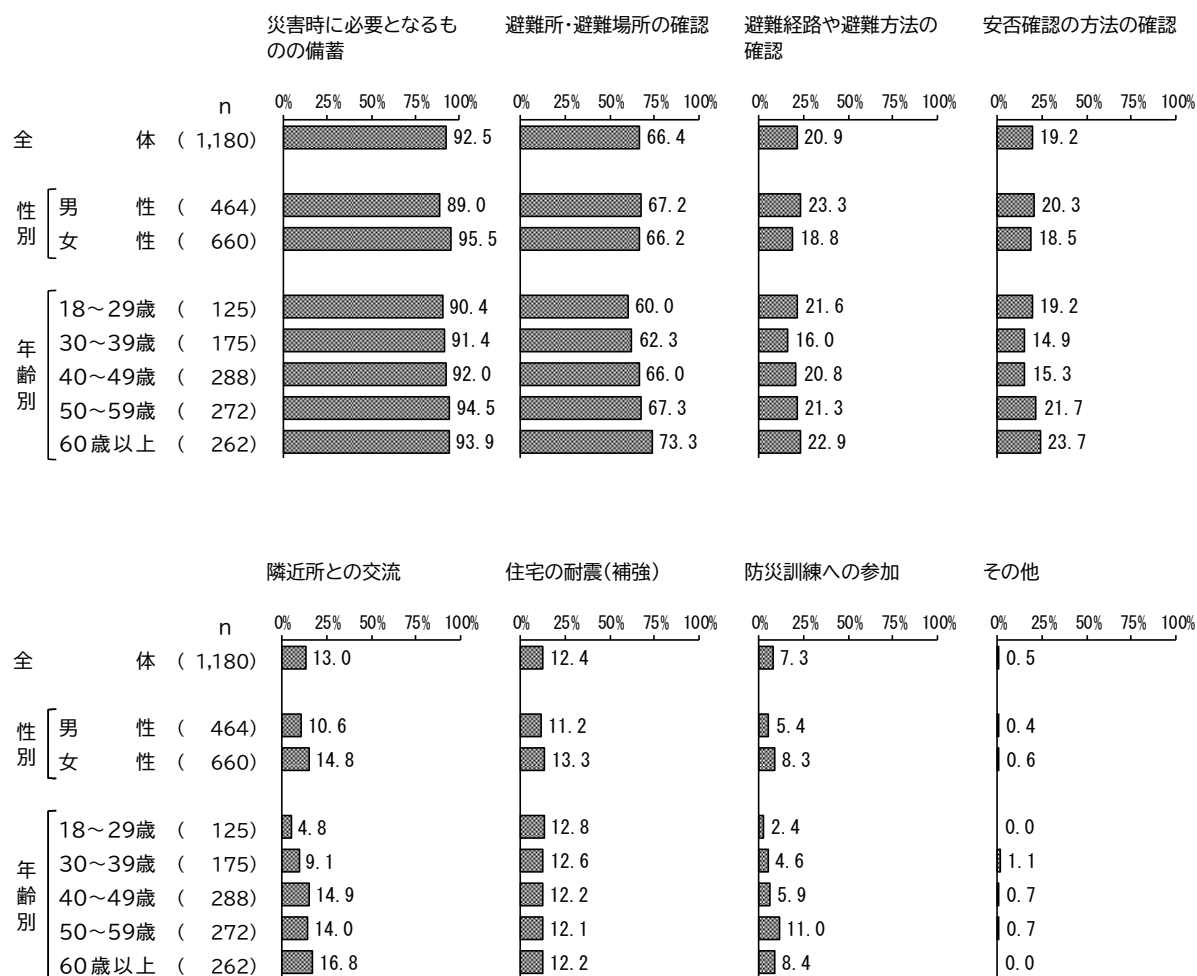
表Ⅲ－１１ 「その他」の内訳

「その他」の内容	件数
自家発電の設置、防災グッズの購入	2
避難所運営協議会への参加	1
学校、幼稚園の対応と確認	1
住宅の震災時等を含む保険への加入	1
職場での避難訓練	1
合 計	6

【性別／年齢別】

性別で比較すると、「災害時に必要となるものの備蓄」では、女性（95.5%）が男性（89.0%）より 6.5 ポイント高く、「避難経路や避難方法の確認」では、男性（23.3%）が女性（18.8%）より 4.5 ポイント高くなっている。

年齢別にみると、「災害時に必要となるものの備蓄」では、全ての年齢で9割を超えている。また、「避難所・避難場所の確認」では、年齢が上がるに従い割合が高くなっており、60 歳以上では 73.3%と 7 割を超えている。一方、「防災訓練への参加」といった共助の備えは、全ての年代で低くなっている。



図Ⅲ－５２ 災害に備えた対策の内容（性別／年齢別）

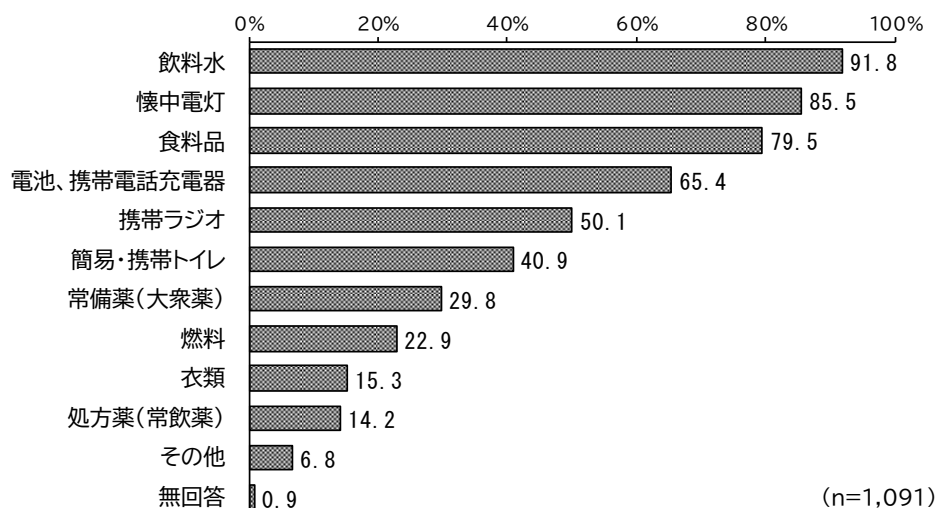
(1-3) 備蓄している品目

「飲料水」、「懐中電灯」、「食料品」を備蓄している人が多く、「飲料水」は9割超

(問14-1で「5. 災害時に必要となるものの備蓄」とお答えの方)

【問14-2】どのような品を備蓄していますか。(〇はいくつでも)

災害に備えた対策の内容で、「災害時に必要となるものの備蓄」と答えた人(1,091人)が備蓄している品目の割合は、「飲料水」が91.8%と最も高く、次いで「懐中電灯」(85.5%)、「食料品」(79.5%)、「電池、携帯電話充電器」(65.4%)、「携帯ラジオ」(50.1%)までが5割を超えている。



図Ⅲ-53 備蓄している品目

表Ⅲ-12 「その他」の内訳

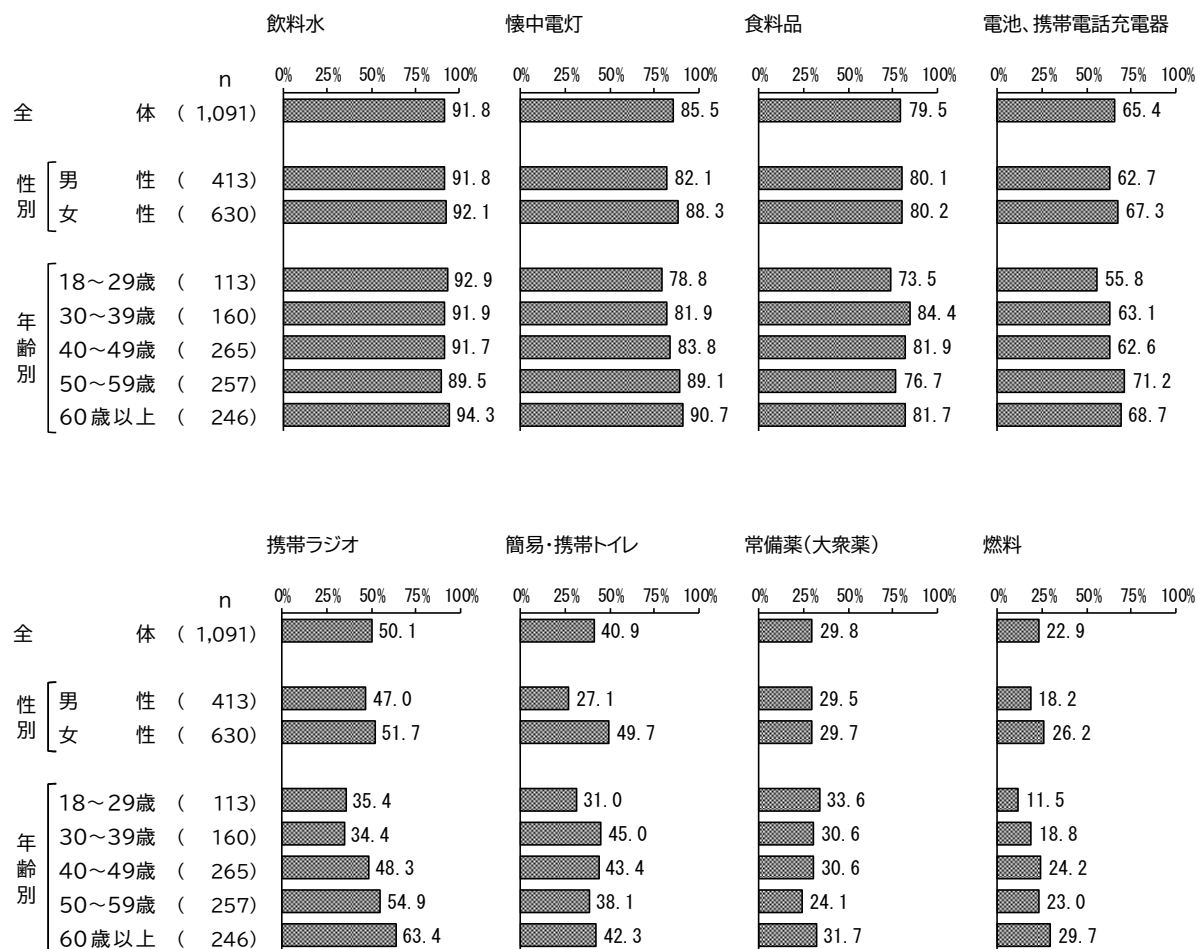
「その他」の内容	件数
マスク	14
バーナー、カセットコンロ	11
ラップフィルム、アルミホイル、キッチンペーパー	10
トイレットペーパー、ティッシュ、ウェットティッシュ	9
生理用品、オムツ	9
ヘルメット、軍手、手袋	9
食器、使い捨て食器	7
消毒液、除菌スプレー、除菌ティッシュ	7
スリッパ、靴	7
タオル	6
テント、寝袋	6
ブルーシート、レジャーシート、アルミシート	6
ゴミ袋、ビニール袋、紙袋	6
防寒具、雨具	6
ペット用品、ペットフード	5
発電機、ポータブル電源	4
キャンプ用品	3
歯ブラシ	3
ミルク、子ども用の食品・菓子	3
石鹸、水のいらないシャンプー	3
その他	18
(記載なし)	3
合 計	155

【性別／年齢別】（上位 8 項目）

性別で比較すると、「簡易・携帯トイレ」で大きな差が見られ、女性（49.7%）が男性（27.1%）より 22.6 ポイント高くなっている。

年齢別にみると、「飲料水」は全ての年齢でおおむね 9 割となっている。また、「懐中電灯」、「電池、携帯電話充電器」、「携帯ラジオ」、「燃料」では、年齢が上がるに従い割合も高くなる傾向が見られる。

「携帯ラジオ」では、割合が最も高い 60 歳以上（63.4%）と最も低い 30～39 歳（34.4%）の差が 29.0 ポイントとなっている。



図Ⅲ－５４ 備蓄している品目（性別／年齢別）（上位 8 項目）

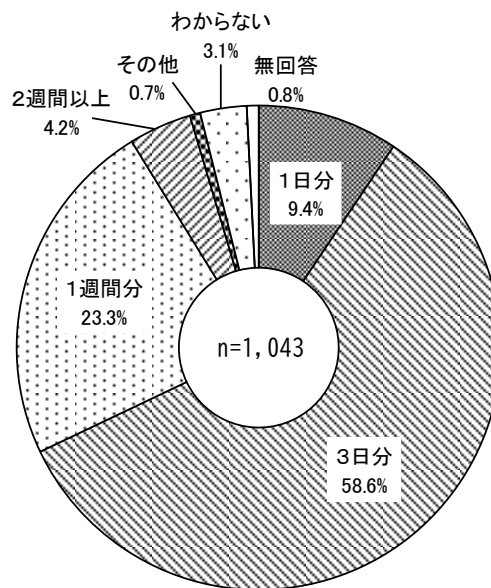
(1-4) 飲料水や食料品を何日分備蓄しているか

6 割弱の人が3日分を備蓄、1週間以内が9割超

(問14-2で「1. 飲料水」または「2. 食料品」とお答えの方)

【問14-3】飲料水や食料品を何日分備蓄していますか。(〇は1つ)

備蓄している品目で「飲料水」または「食料品」と答えた人(1,043人)が備蓄している量は、「3日分」が58.6%で最も高く、次いで「1週間分」(23.3%)、「1日分」(9.4%)と続き、ここまでで全体の91.3%を占め9割を超えている。



図Ⅲ-55 飲料水や食料品を何日分備蓄しているか

表Ⅲ-13 「その他」の内訳

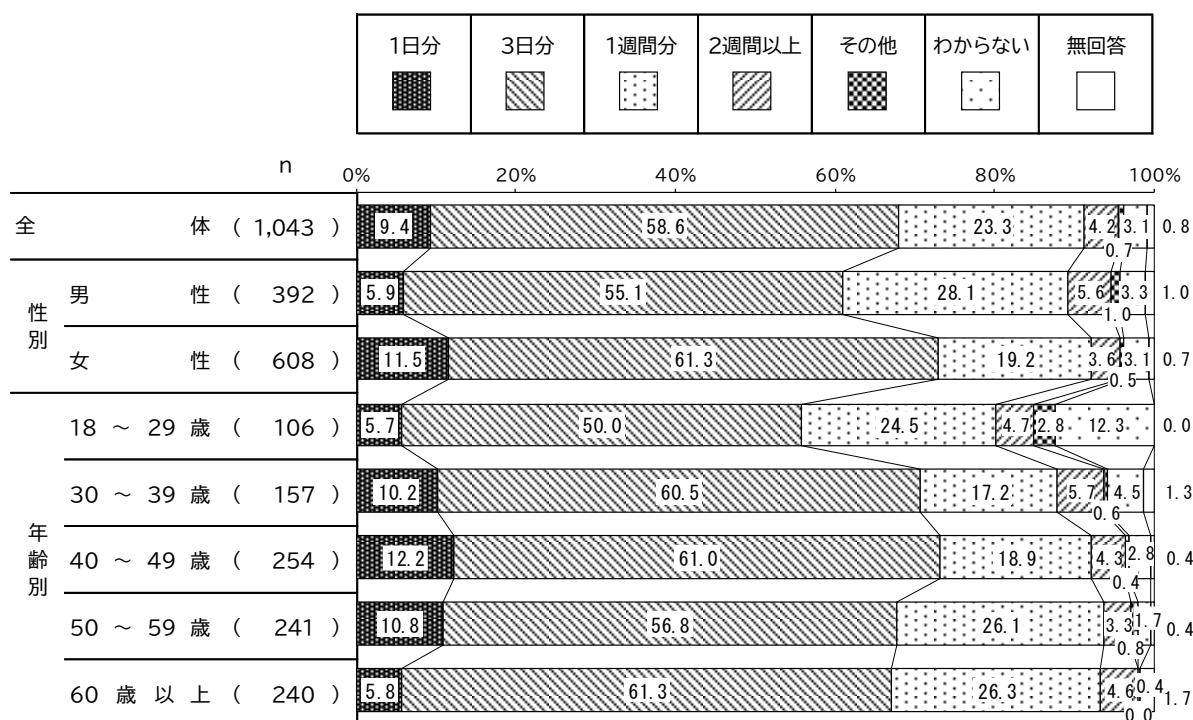
「その他」の内容	件数
2日分	3
マンション全体で備蓄している	2
2ℓペットボトル×30本	1
1食分	1
合 計	7

【性別／年齢別】

性別で比較すると、「1日分」、「3日分」では女性（11.5%、61.3%）が男性（5.9%、55.1%）より各々5.6、6.2 ポイント高く、「1週間分」、「2週間以上」では男性（28.1%、5.6%）が女性（19.2%、3.6%）より各々8.9、2.0 ポイント高くなっている。

1週間以内では、女性（92.0%）が男性（89.1%）より 2.9 ポイント高くなっている。

年齢別にみると、「3日分」、「1週間分」では 60 歳以上が各々61.3%、26.3%で最も高くなっている。



図Ⅲ－５６ 飲料水や食料品を何日分備蓄しているか（性別／年齢別）

(1-5) 備えをしていない理由

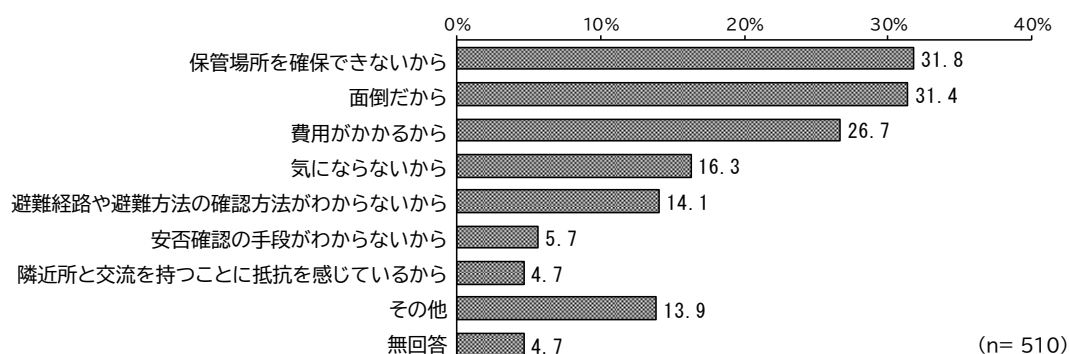
備えをしていない理由は「保管場所を確保できないから」と「面倒だから」が3割超

(問14で「2. 備えをしていない」とお答えの方)

【問14-4】備えをしていない理由を教えてください。(〇はいくつでも)

日頃から災害への「備えをしていない」と答えた人(510人)の備えをしていない理由は、「保管場所を確保できないから」が31.8%で最も高く、次いで「面倒だから」(31.4%)が3割を超え、「費用がかかるから」(26.7%)が3割近くになっている。

「その他」については、「備えようと思っはいるができていない」(21件)などが挙がっている。



図Ⅲ-57 備えをしていない理由

表Ⅲ-14 「その他」の内訳

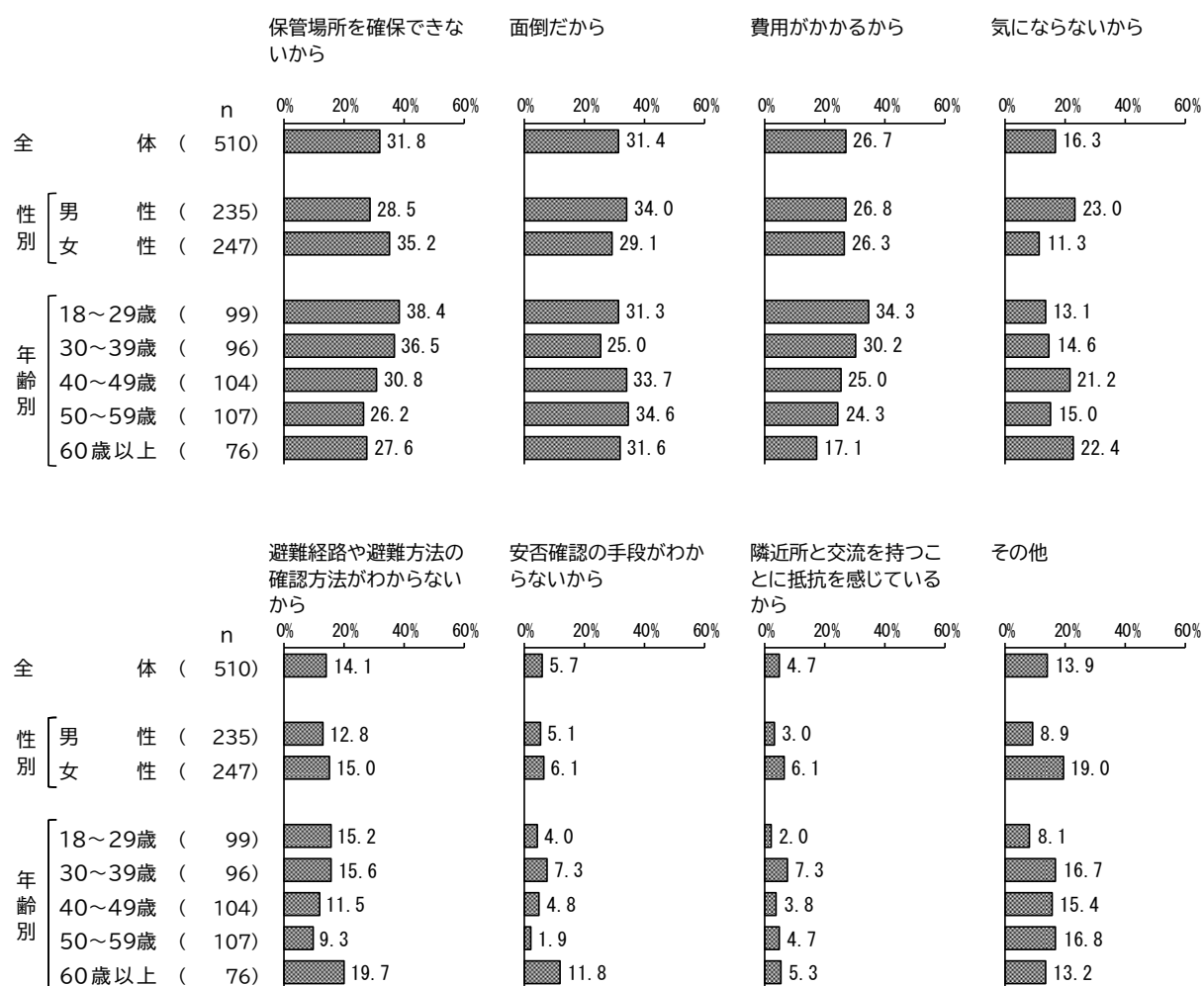
「その他」の内容	件数
備えようと思っはいるができていない	21
多少はしているが完全ではない	9
家族任せにしているから、マンションの組合任せになっているから	5
災害時に家にいるとは限らないから、外出が多いから	4
時間がないから、忙しいから	2
何をどこまで備えればいいのかわからないから	2
避難所が近いから	2
我が家のことだけで手いっぱいだから、備える余裕がないから	2
引越してきたばかりだから	2
その他	11
(記載なし)	12
合 計	72

【性別／年齢別】

性別で比較すると、「面倒だから」、「気にならないから」では男性（34.0%、23.0%）が女性（29.1%、11.3%）より各々4.9、11.7ポイント高くなっている。

一方、「保管場所を確保できないから」では女性（35.2%）が男性（28.5%）より 6.7 ポイント高くなっている。

年齢別にみると、全体のなかで割合の高い「保管場所を確保できないから」、「費用がかかるから」の2項目については、年齢が下がるに従い割合が高くなる傾向が見られ、最も高いのは18～29歳で38.4%、34.3%となっている。「保管場所を確保できないから」で最も低いのは50～59歳で26.2%、12.2ポイントの差がある。「費用がかかるから」で最も低いのは60歳以上で17.1%、17.2ポイントの差がある。「面倒だから」では、30～39歳を除く全ての年齢で3割を超えている。



図Ⅲ－５８ 備えをしていない理由（性別／年齢別）

(1-6) 備蓄していない理由

備蓄していない理由は、「賞味期限等の管理が難しいから」が4割近く

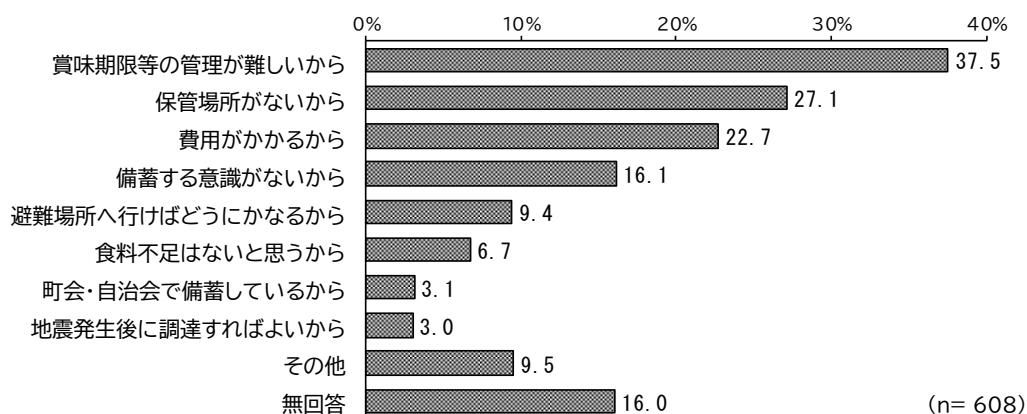
(問14で「2. 備えをしていない」とお答えの方)

(問14-1で「5. 災害時に必要となるものの備蓄」を選ばなかった方)

【問14-5】備蓄していない理由を教えてください。(〇はいくつでも)

日頃から災害への備えをしていない、または災害時に必要となるものの備蓄をしていない人(608人)が備蓄していない理由は、「賞味期限等の管理が難しいから」が37.5%で最も高く、次いで「保管場所がないから」(27.1%)、「費用がかかるから」(22.7%)までが2割を超え、「備蓄する意識がないから」(16.1%)が続いている。

「その他」では、「買い置きしているものがあるから」(13件)や「備蓄しなくてはいけないと思っている」(11件)などが挙がっている。



図Ⅲ－５９ 備蓄していない理由

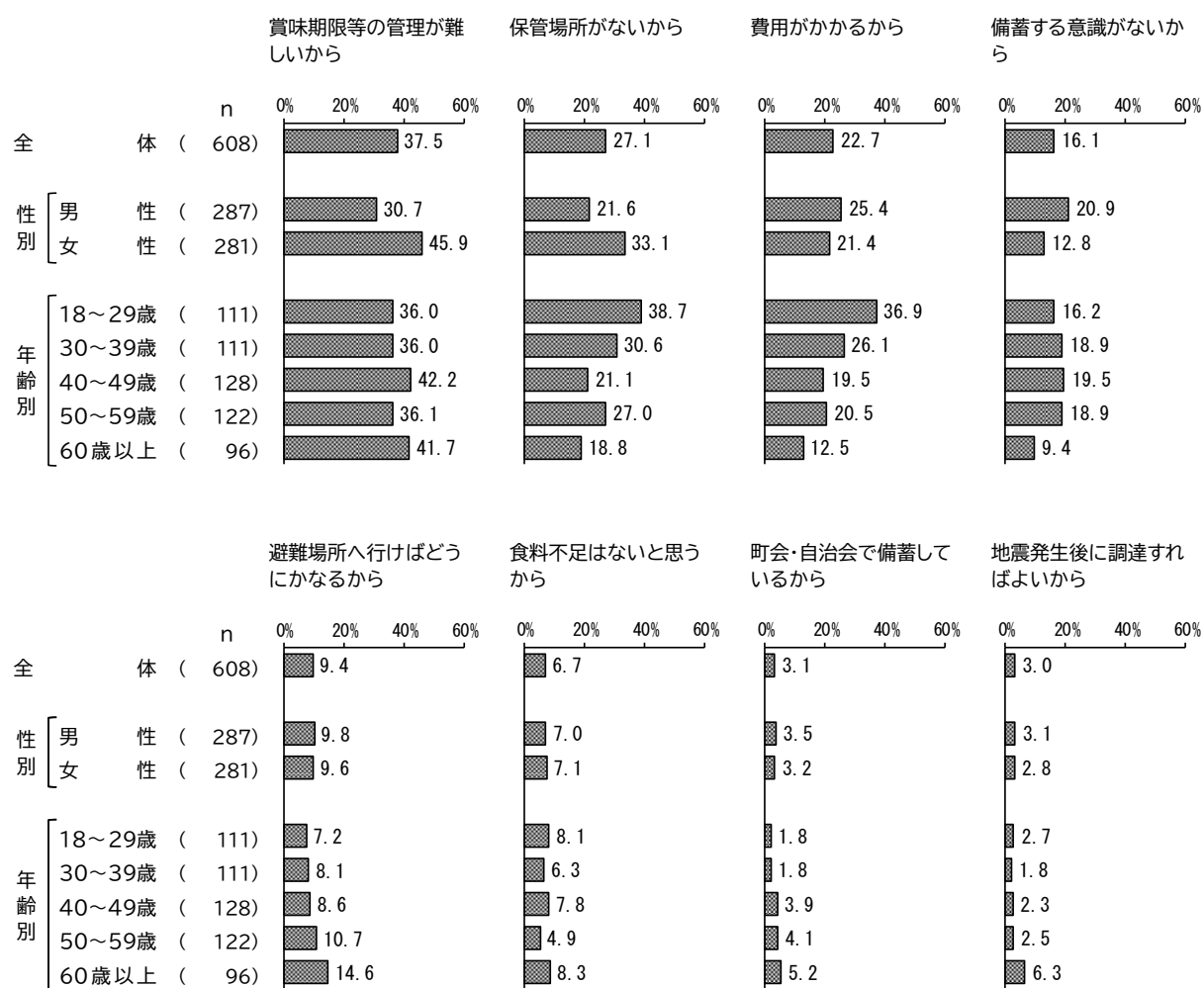
表Ⅲ－１５ 「その他」の内訳

「その他」の内容	件数
買い置きしているものがあるから	13
備蓄しなくてはいけないと思っている	11
自宅にすることが少ないから	4
何をしたらよいかわからないから	2
準備する時間、きっかけがないから	2
マンション全体で対応しているから	2
引越してきたばかりだから	2
その他	13
(記載なし)	9
合 計	58

【性別／年齢別】

性別で比較すると、「賞味期限等の管理が難しいから」、「保管場所がないから」では女性（45.9%、33.1%）が男性（30.7%、21.6%）より各々15.2、11.5 ポイント高くなっている。一方、「費用がかかるから」、「備蓄する意識がないから」では男性（25.4%、20.9%）が女性（21.4%、12.8%）より各々4.0、8.1 ポイント高くなっている。

年齢別にみると、「賞味期限等の管理が難しいから」は、40～49 歳（42.2%）と 60 歳以上（41.7%）で4割を超えている。「保管場所がないから」、「費用がかかるから」では、18～29 歳（38.7%、36.9%）が最も高く、「避難場所へ行けばどうにかなるから」では60 歳以上（14.6%）の割合が最も高くなっている。



図Ⅲ－60 備蓄していない理由（性別／年齢別）

(2) 地震に対する建物の備えについて

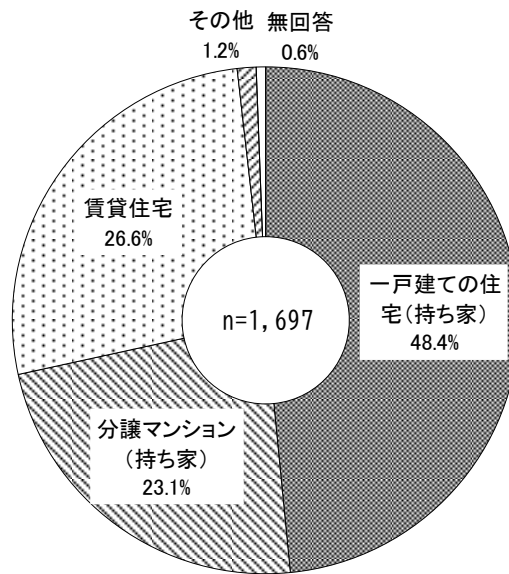
(2-1) お住いの建物

一戸建ての住宅の持ち家率は5割弱

【問15】お住いの建物について教えてください。(〇は1つ)

お住いの建物について聞いたところ、「一戸建ての住宅（持ち家）」が48.4%で最も高く、次いで「賃貸住宅」（26.6%）、「分譲マンション（持ち家）」（23.1%）の順となっている。

また、「一戸建ての住宅（持ち家）」と「分譲マンション（持ち家）」を合わせた『持ち家』の割合は、71.5%と7割を超えている。



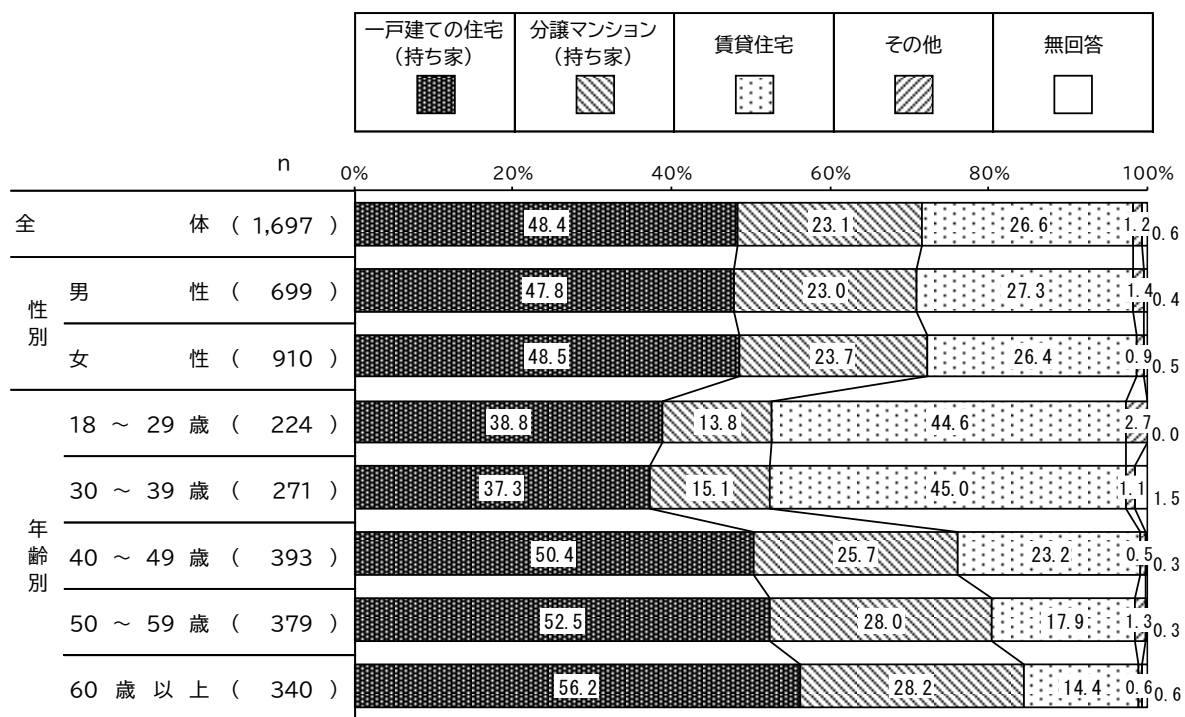
図Ⅲ－61 お住いの建物

【性別／年齢別】

性別で比較すると、各項目の割合に、とりわけ大きな差は見られない。

年齢別にみると、「一戸建ての住宅（持ち家）」、「分譲マンション（持ち家）」の割合は、年齢が上がるに従い高くなる傾向が見られ、最も高い 60 歳以上では各々 56.2%、28.2%となっている。

また、「賃貸住宅」の割合は、年齢が下がるに従い高くなる傾向が見られ、最も高い 30～39 歳では 45.0%、次に高い 18～29 歳では 44.6%と、どちらも 4 割を超えている。



図Ⅲ－62 お住いの建物（性別／年齢別）

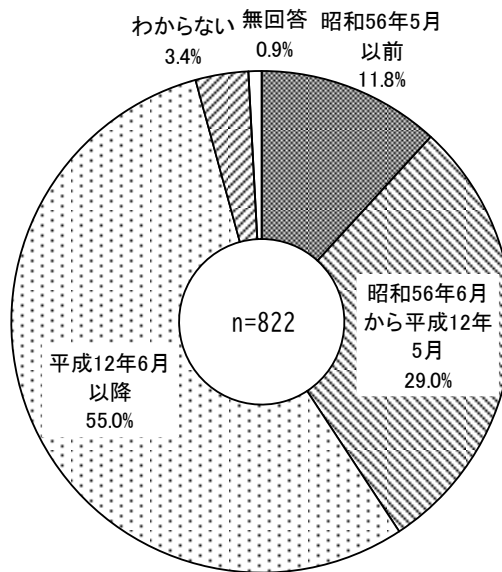
(2-2) 一戸建ての住宅（持ち家）の建築時期

平成12年6月以降に建築された住宅が5割超

(問15で、「1. 一戸建ての住宅（持ち家）」とお答えの方)

【問15-1】お住いの建物の建築時期を教えてください。(〇は1つ)

お住いの建物について一戸建ての住宅（持ち家）」と答えた人（822人）の建物の建築時期を聞いたところ、「平成12年6月以降」が55.0%で最も高く、次いで、「昭和56年6月から平成12年5月」（29.0%）、「昭和56年5月以前」（11.8%）の順となっている。



図Ⅲ-63 一戸建ての住宅（持ち家）の建築時期

※建築基準法が改正され、昭和56年6月に建物の耐震基準が強化されました。

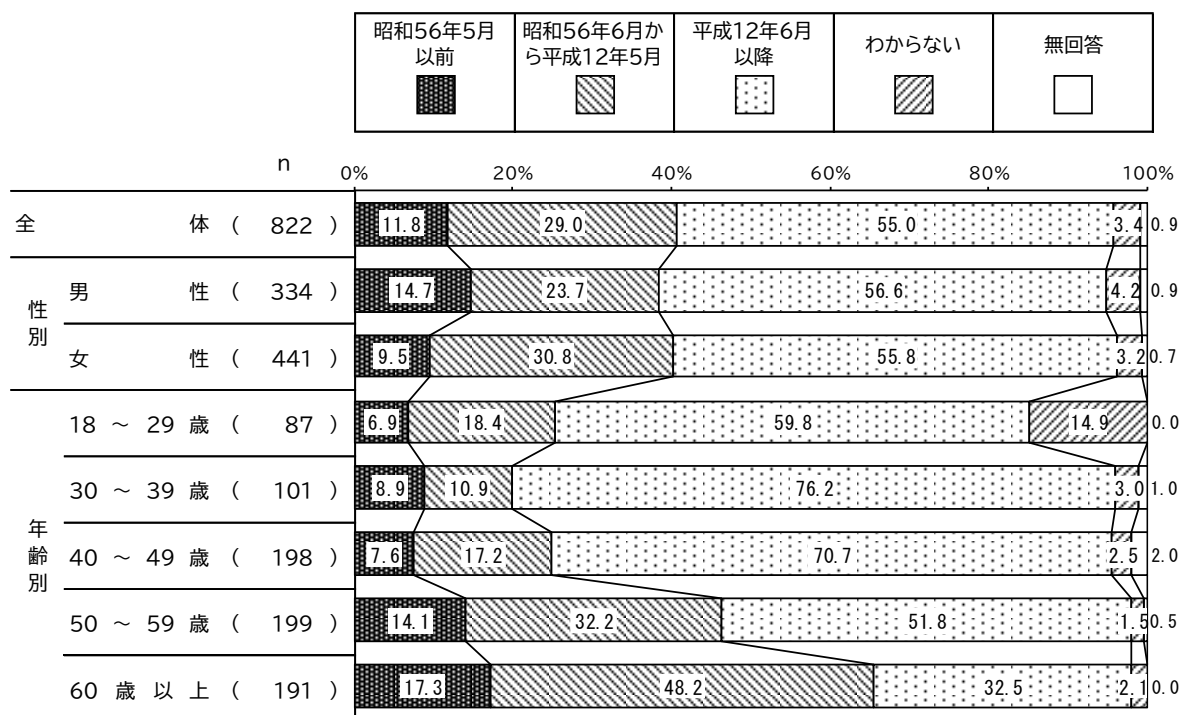
※平成12年6月に木造住宅の耐震基準の明確化が図られました。

【性別／年齢別】

性別で比較すると、「昭和56年5月以前」では男性（14.7%）が女性（9.5%）より5.2ポイント高く、「昭和56年6月から平成12年5月」では女性（30.8%）が男性（23.7%）より7.1ポイント高くなっている。

年齢別にみると、「昭和56年5月以前」と「昭和56年6月から平成12年5月」の割合は、年齢が上がるに従い高くなる傾向が見られ、60歳以上では各々17.3%、48.2%となっている。

「平成12年6月以降」は、年齢が下がるに従い高くなる傾向が見られ、最も高い30～39歳では76.2%と7割を超えており、最も低い60歳以上の32.5%と比べて43.7ポイントの差がある。



図Ⅲ－64 一戸建ての住宅（持ち家）の建築時期（性別／年齢別）

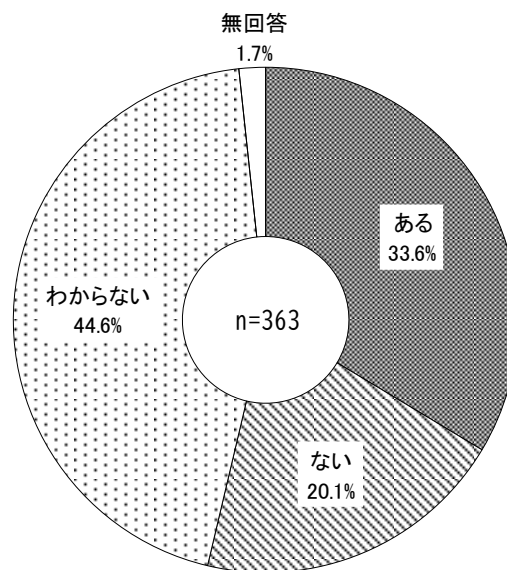
(2-3) 建物の地震に対する耐震性

耐震性が「ある」は3割超

(問15-1で、「1. 昭和56年5月以前」「2. 昭和56年6月から平成12年5月」「4. わからない」とお答えの方)

【問15-2】お住いの建物についてお聞きします。地震に対する耐震性がありますか。
(〇は1つ)

お住いの一戸建ての住宅(持ち家)の建築時期が「平成12年5月以前」または「わからない」と答えた人(363人)に耐震性の有無を聞いたところ、「わからない」が44.6%で最も高く、次いで「ある」(33.6%)、「ない」(20.1%)の順となっている。

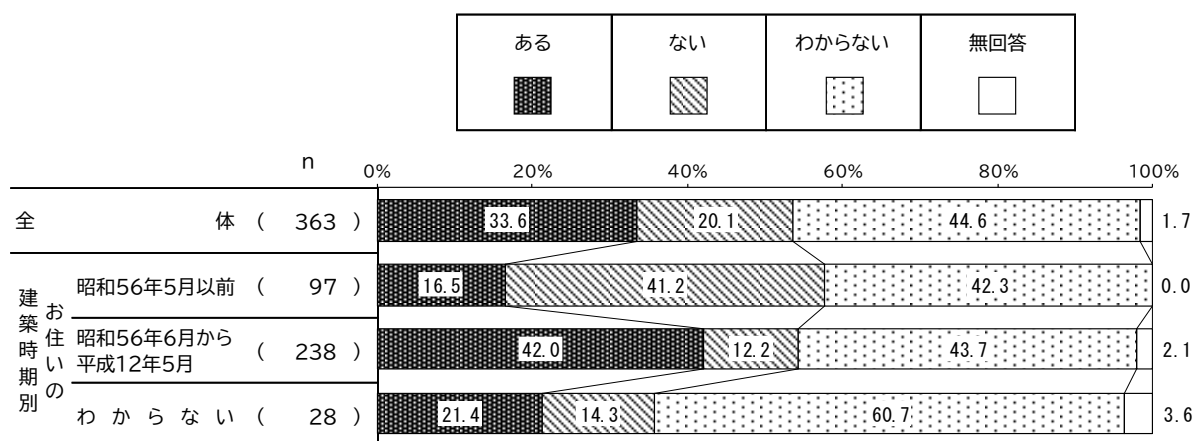


図Ⅲ-65 建物の地震に対する耐震性

【お住いの建築時期別】

お住いの建築時期別で比較すると、「ある」は、「昭和56年6月から平成12年5月」と回答した層で42.0%と高くなっており、一方、「昭和56年5月以前」と回答した層では16.5%と低く、建築時期の違いで25.5ポイントの差が見られる。

反対に、「ない」は、「昭和56年6月から平成12年5月」と回答した層で12.2%と低くなっている一方、「昭和56年5月以前」と回答した層では41.2%と高くなっており、建築時期が早い方ほど耐震性があると回答する割合は低くなっている。



図Ⅲ－６６ 建物の地震に対する耐震性（お住いの建築時期別）

(2-4) 耐震性が不足している場合にとる対策

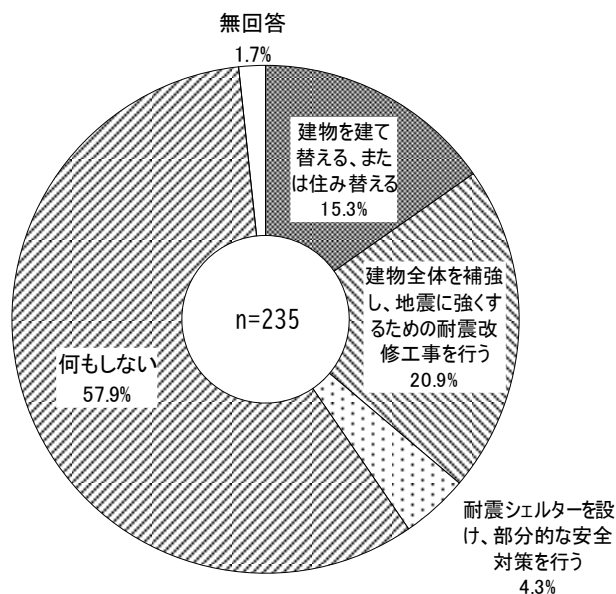
『対策をとる』は4割超。一方、「何もしない」は6割近く

(問15-2で、「2. ない」または「3. わからない」とお答えの方)

【問16】お住いの建物が、地震に対する耐震性が不足している場合、どのような対策をとりますか。(〇は1つ)

建物の地震に対する耐震性があるか否かで「ない」または「わからない」と答えた人(235人)に、地震に対する耐震性が不足している場合、どのような対策をとるか聞いたところ、「何もしない」が57.9%と最も高くなっている。次いで、「建物全体を補強し、地震に強くするための耐震改修工事を行う」(20.9%)、「建物を建て替える、または住み替える」(15.3%)、「耐震シェルターを設け、部分的な安全対策を行う」(4.3%)の順になっている。

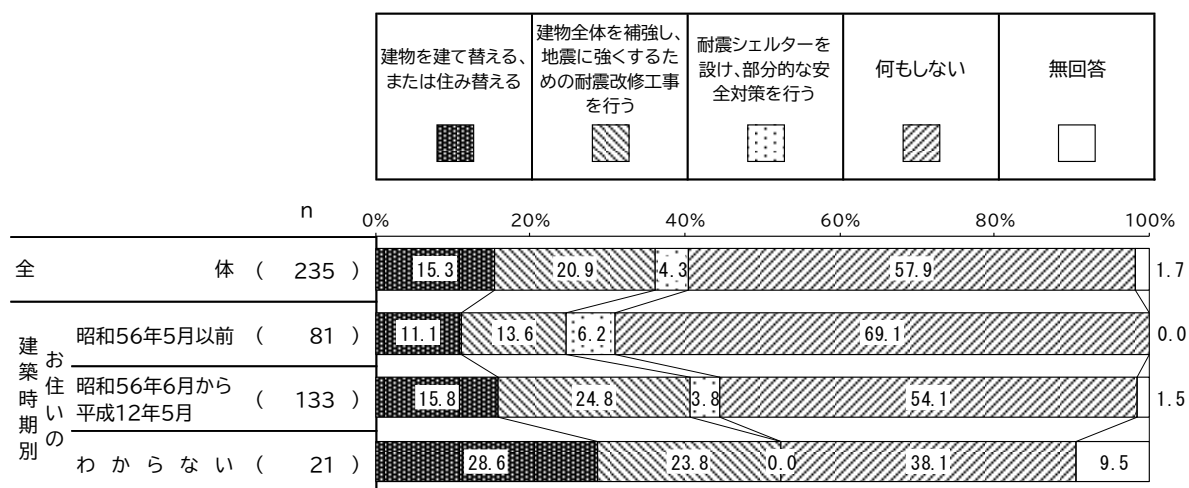
「建物全体を補強し、地震に強くするための耐震改修工事を行う」、「建物を建て替える、または住み替える」及び「耐震シェルターを設け、部分的な安全対策を行う」を合わせた『対策をとる』割合は40.5%と4割を超えている。



図Ⅲ-67 耐震性が不足している場合にとる対策

【お住いの建築時期別】

お住いの建築時期別で比較すると、「建物全体を補強し、地震に強くするための耐震改修工事を行う」と「建物を建て替える、または住み替える」は、「昭和56年6月から平成12年5月」と回答した層で24.8%、15.8%となっており、「昭和56年5月以前」と回答した層では13.6%、11.1%となっている。一方、「何もしない」は、「昭和56年6月から平成12年5月」と回答した層で54.1%となっており、「昭和56年5月以前」と回答した層では69.1%となっている。建築時期が早い方が対策をとらない割合が高いことがわかる。



図Ⅲ－６８ 耐震性が不足している場合にとる対策（お住いの建築時期別）

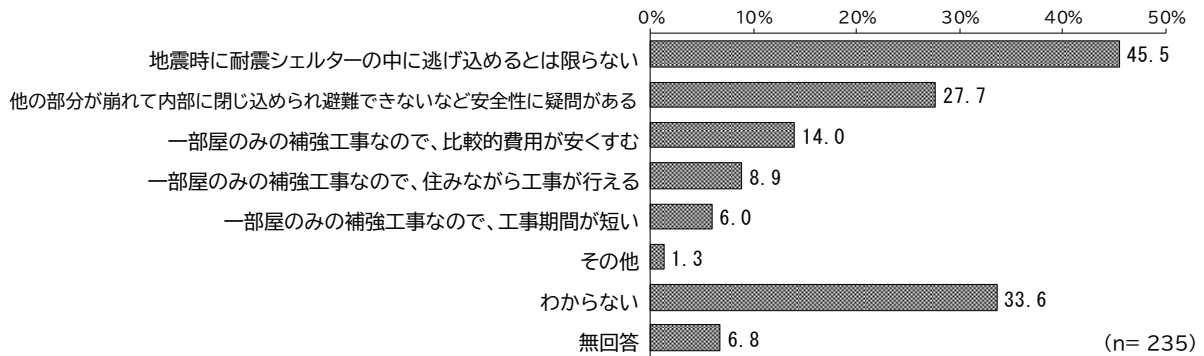
(2-5) 耐震シェルターの印象

「地震時に耐震シェルターの中に逃げ込めるとは限らない」が4割超

【問16-1】耐震シェルターについてどう思いますか。(〇はいくつでも)

耐震シェルターについて聞いたところ、「地震時に耐震シェルターの中に逃げ込めるとは限らない」が45.5%で最も高く、次いで「他の部分が崩れて内部に閉じ込められ避難できないなど安全性に疑問がある」が27.7%となっている。

なお、「わからない」とする人も33.6%と3割を超えている。



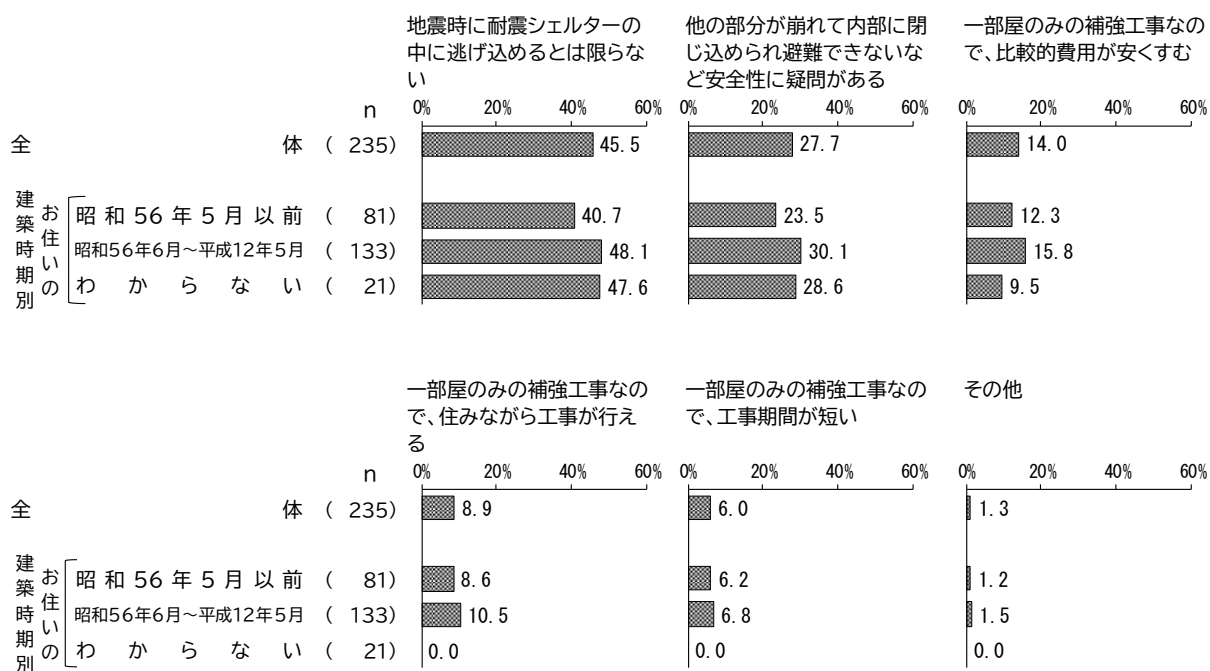
図Ⅲ－69 耐震シェルターの印象

表Ⅲ－16 「その他」の内訳

「その他」の内容	件数
息苦しくなりそうで怖い	1
外に逃げる。シェルターは必要ない	1
震度が大きいときは火災の心配と閉じ込めの心配が大きい	1
合 計	3

【お住いの建築時期別】

お住いの建築時期別にみると、「地震時に耐震シェルターの中に逃げ込めるとは限らない」、「他の部分が崩れて内部に閉じ込められ避難できないなど安全性に疑問がある」、「一居室のみの補強工事なので、比較的費用が安くすむ」のいずれも「昭和56年6月から平成12年5月」と回答した層で各々48.1%、30.1%、15.8%と他の属性に比べて高くなっている。



図Ⅲ－７０ 耐震シェルターの印象（お住いの建築時期別）

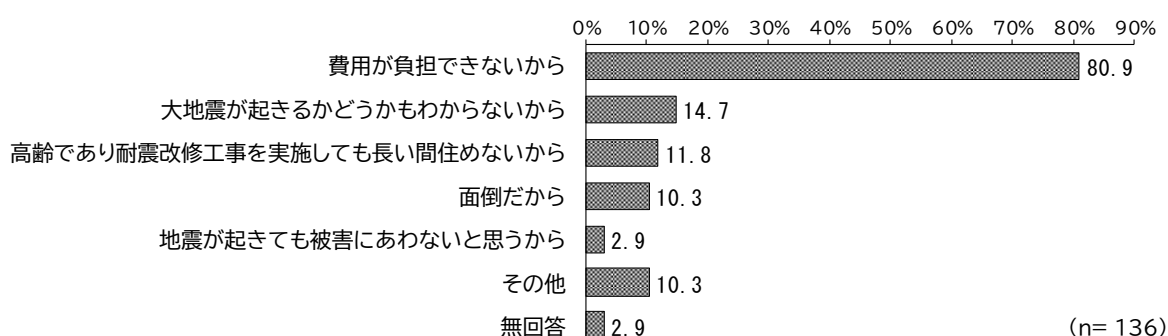
(2-6) 耐震性が不足している場合でも対策しない理由

「費用が負担できないから」が8割超

(問16で、「4. 何もしない」とお答えの方)

【問16-2】何もしない理由を教えてください。(〇はいくつでも)

お住いの建物が地震に対する耐震性が不足している場合、どのような対策をとるかの設問で「何もしない」と答えた人(136人)に対して、何もしない理由を聞いたところ、「費用が負担できないから」が80.9%と最も高くなっており、8割を超えている。以下、「大地震が起きるかどうか分からないから」(14.7%)、「高齢であり耐震改修工事を実施しても長い間住めないから」(11.8%)、「面倒だから」(10.3%)までが1割を超えている。



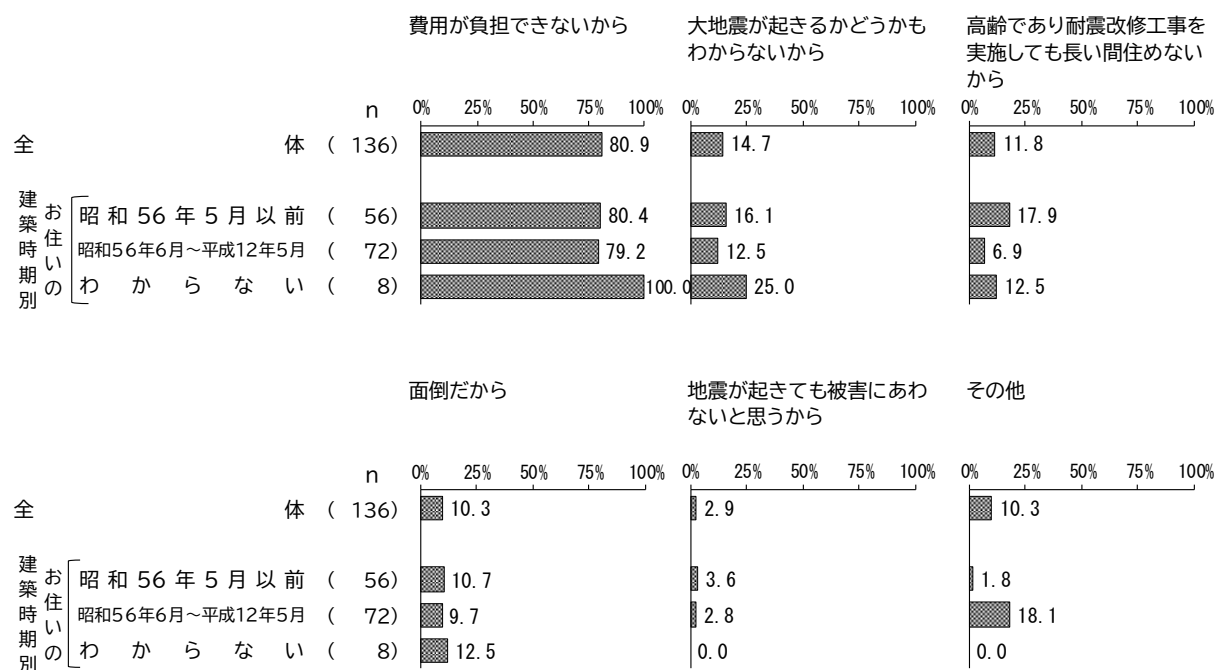
図Ⅲ-71 耐震性が不足している場合でも対策しない理由

表Ⅲ-17 「その他」の内訳

「その他」の内容	件数
地盤がしっかりしているから	1
具体案が、今はわからないから	1
あきらめるから	1
耐震性がないと確認していないから	1
長く住む予定にしていないから	1
地震で壊れたらどうするか考えたいから	1
費用の面等で同対策を取れるのかまったくわからないので	1
今考え中	1
ローンが残っているから	1
自宅で命の危険を感じる確率は低いから	1
外にいる時間の方が長いのでわりに合わない	1
自動車で過ごすのと一緒にだから	1
2×4で地震に強いと言われて建てたから	1
合 計	13

【お住いの建築時期別】

お住いの建築時期別で比較すると、「高齢であり耐震改修工事を実施しても長い間住めないから」は、「昭和56年5月以前」と回答した層（17.9%）が、「昭和56年6月から平成12年5月」と回答した層（6.9%）より、11.0ポイント高くなっている。なお、上述以外の項目では大きな差は見られない。



図Ⅲ－７２ 耐震性が不足している場合でも対策しない理由（お住いの建築時期別）

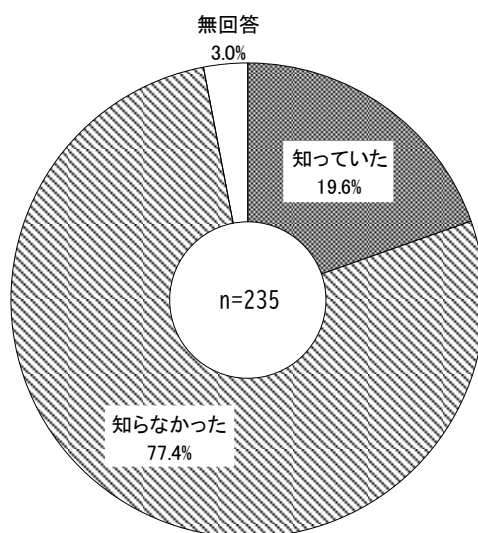
(2-7) 耐震診断と耐震改修工事を対象とした助成制度の認知度

「知っていた」は2割。一方、「知らなかった」は8割近く

(問15-2で、「2. ない」または「3. わからない」とお答えの方)

【問17】市は、建物の地震に対する耐震性を確認するための耐震診断と補強をするための耐震改修工事にかかる費用の一部を助成していますが、この制度を知っていましたか。
(○は1つ)

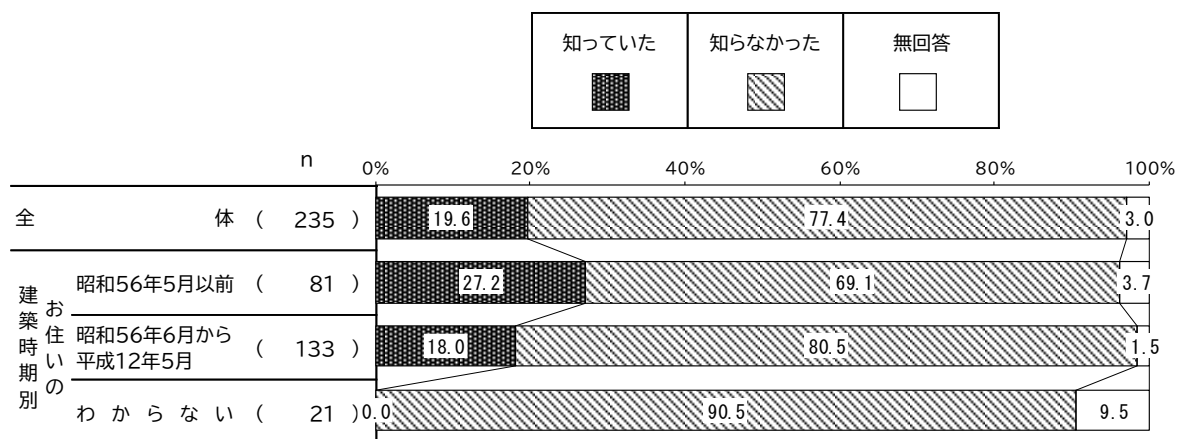
建物の地震に対する耐震性があるか否かで「ない」または「わからない」と答えた人(235人)に、市が建物の地震に対する耐震性を確認するための耐震診断と補強をするための耐震改修工事にかかる費用の一部を助成していることについて知っているかを聞いたところ、「知っていた」が19.6%で2割、「知らなかった」が77.4%と8割近くとなっている。



図Ⅲ-73 耐震診断と耐震改修工事を対象とした助成制度の認知度

【お住いの建築時期別】

お住いの建築時期別で比較すると、「知っていた」は、「昭和56年5月以前」と回答した層では27.2%と3割近く、「昭和56年6月から平成12年5月」と回答した層は18.0%と、9.2ポイントの差が見られる。なお、建築時期が「わからない」と回答した層では、認知していた方はいなかった。



図Ⅲ－７４ 耐震診断と耐震改修工事を対象とした助成制度の認知度（お住いの建築時期別）

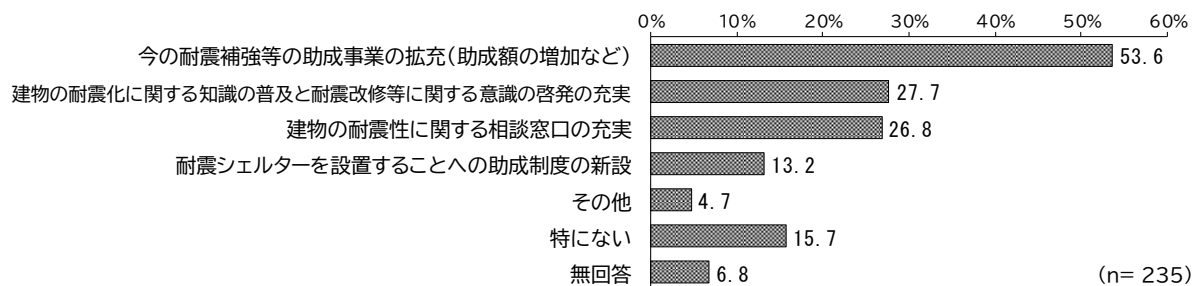
(2-8) 耐震性を高める上で市に要望すること

「今の耐震補強等の助成事業の拡充（助成額の増加など）」が5割超

(問15-2で、「2. ない」または「3. わからない」とお答えの方)

【問18】地震に対する建物の耐震性を高める上で、市に要望することはありますか。
(〇は2つまで)

建物の地震に対する耐震性があるか否かで「ない」または「わからない」と答えた人（235人）に対して、地震に対する建物の耐震性を高める上で市に要望することを聞いたところ、「今の耐震補強等の助成事業の拡充（助成額の増加など）」が53.6%と5割を超えており、次いで「建物の耐震化に関する知識の普及と耐震改修等に関する意識の啓発の充実」（27.7%）、「建物の耐震性に関する相談窓口の充実」（26.8%）までが2割を超えている。なお、「特にない」は15.7%となっている。



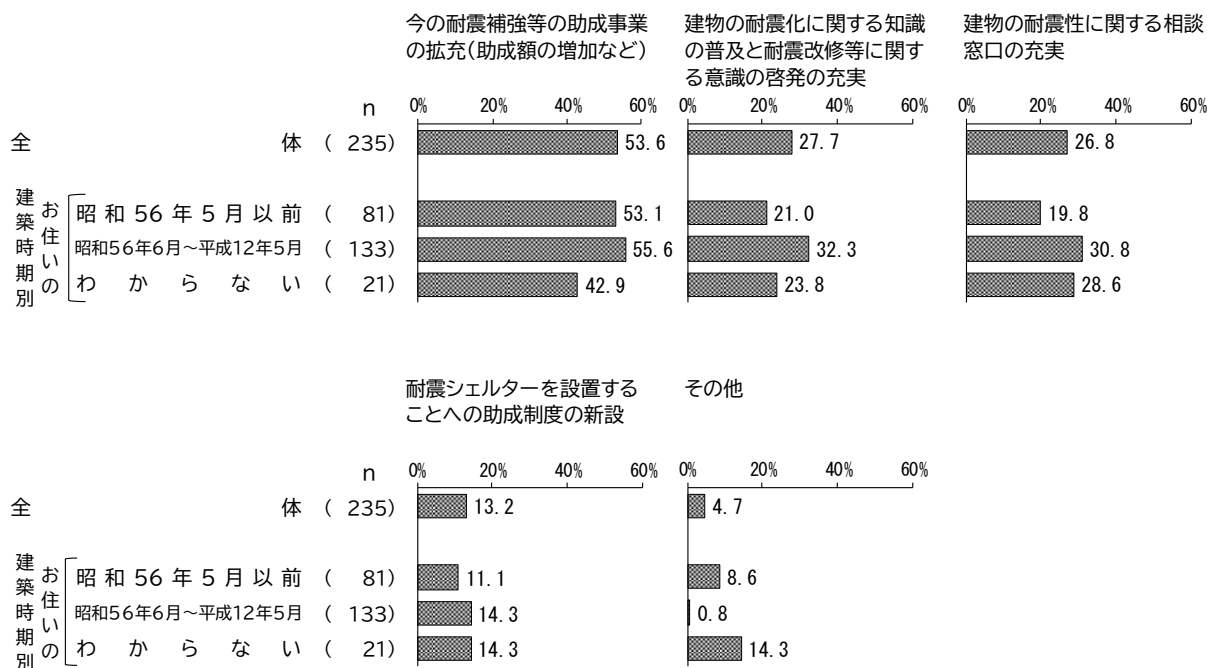
図Ⅲ－75 耐震性を高める上で市に要望すること

表Ⅲ－18 「その他」の内訳

「その他」の内容	件数
信頼できる業者を紹介してほしい	4
費用の一律化	1
市内の業者にしてほしい	1
市に助成金制度を運用する余裕があるのか不安	1
避難所の拡充	1
広報活動	1
(記載なし)	3
合 計	12

【お住いの建築時期別】

お住いの建築時期別で比較すると、「今の耐震補強等の助成事業の拡充(助成額の増加など)」、「建物の耐震化に関する知識の普及と耐震改修等に関する意識の啓発の充実」、「建物の耐震性に関する相談窓口の充実」は、「昭和56年6月から平成12年5月」と回答した層が、各々55.6%、32.3%、30.8%と他の層よりも高くなっている。



図Ⅲ－76 耐震性を高める上で市に要望すること（お住いの建築時期別）

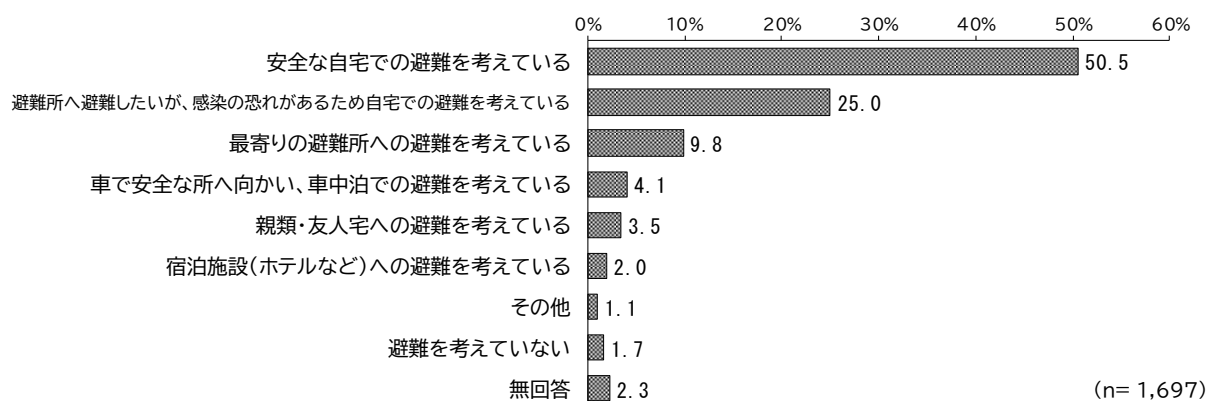
(3) 災害時における避難について

(3-1) コロナ禍における災害時の避難

「安全な自宅での避難を考えている」が5割超

【問19】新型コロナウイルス感染症が全国的に蔓延している今、災害時の避難についてあなたの考えに最も近いものはどれですか。(〇は1つ)

新型コロナウイルス感染症が全国的に蔓延している今、災害時の避難についての考えを聞いたところ、「安全な自宅での避難を考えている」が50.5%で最も高く、次いで「避難所へ避難したいが、感染の恐れがあるため自宅での避難を考えている」が25.0%、「最寄りの避難所への避難を考えている」が9.8%と続いている。コロナ禍では、「安全な自宅での避難を考えている」と「避難所へ避難したいが、感染の恐れがあるため自宅での避難を考えている」を合わせた『自宅での避難を考えている』が全体の7割を超えている。



図Ⅲ－７７ コロナ禍における災害時の避難

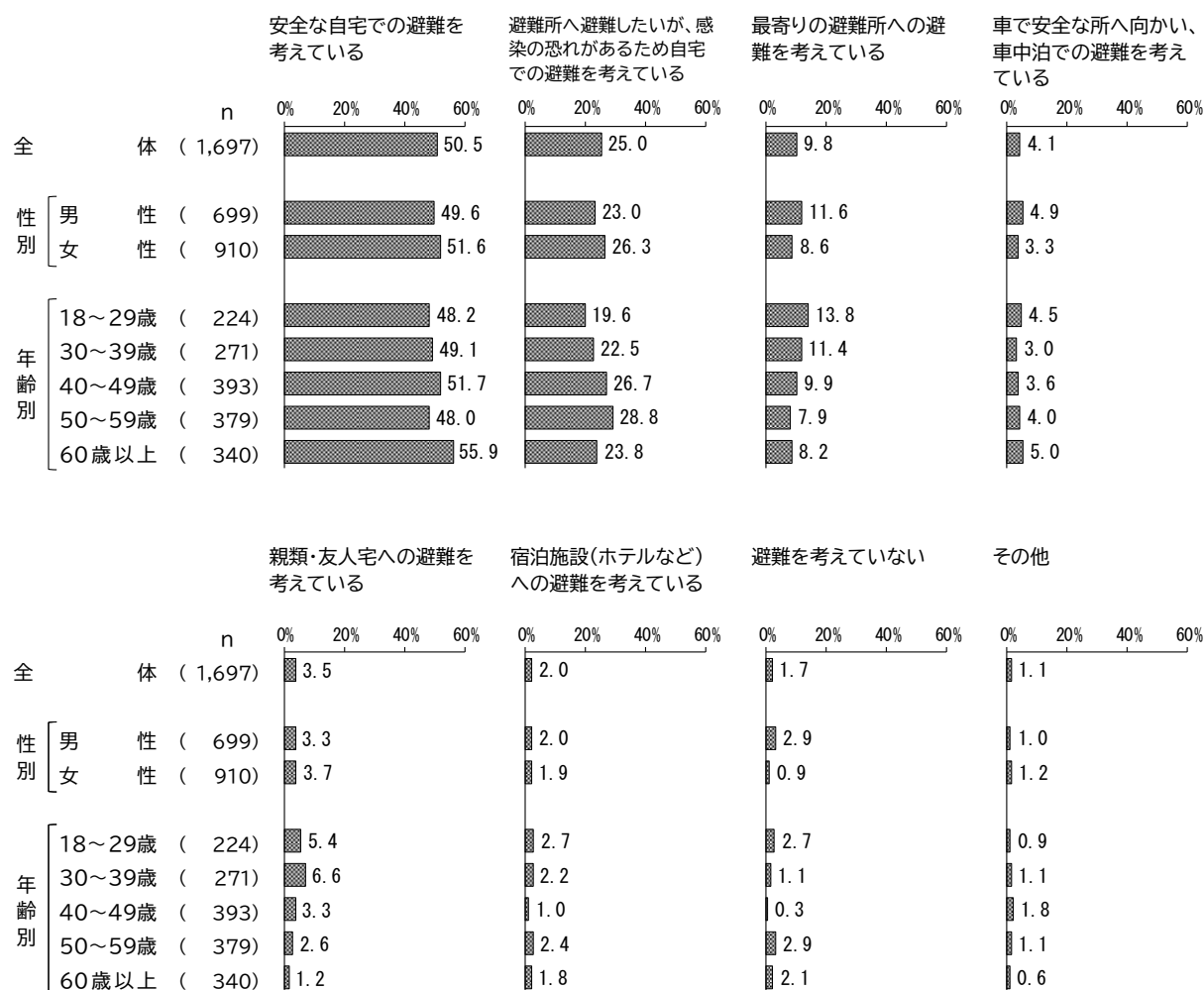
表Ⅲ－１９ 「その他」の内訳

「その他」の内容	件数
災害の種類やその時の状況によって判断する	7
ペットがいるのでわからない	4
その他	6
合 計	17

【性別／年齢別】

性別で比較すると、「避難所へ避難したいが、感染の恐れがあるため自宅での避難を考えている」では女性（26.3%）が男性（23.0%）より 3.3 ポイント高くなっている。一方、「最寄りの避難所への避難を考えている」では男性（11.6%）が女性（8.6%）より 3.0 ポイント高くなっている。

年齢別にみると、「安全な自宅での避難を考えている」は、60 歳以上で 55.9%と他の年齢層と比べて高くなっている。「避難所へ避難したいが、感染の恐れがあるため自宅での避難を考えている」は、50～59 歳で 28.8%と他と比べて高く、「最寄りの避難所への避難を考えている」は年齢が下がるに従い割合が高くなる傾向が見られ、18～29 歳では 13.8%となっている。



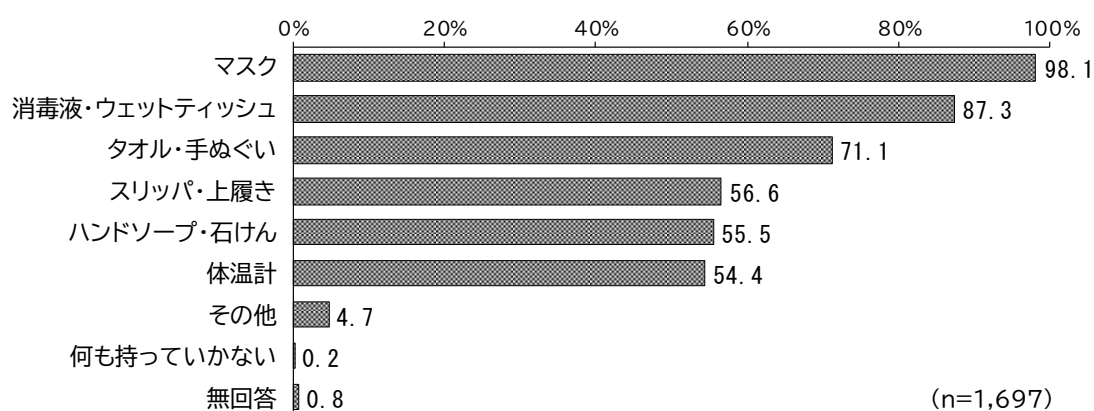
図Ⅲ－７８ コロナ禍における災害時の避難（性別／年齢別）

(3-2) 避難時に新型コロナウイルス感染症防止のために持参するもの

「マスク」はほぼ全員、「消毒液・ウェットティッシュ」は9割近く

【問20】避難所に避難することになったと仮定した場合、新型コロナウイルス感染症防止のためにどのようなものを持っていますか。(〇はいくつでも)

避難所に避難することになったと仮定した場合、新型コロナウイルス感染症防止のためにどのようなものを持っていくかを聞いたところ、「マスク」が98.1%で最も高く、次いで「消毒液・ウェットティッシュ」(87.3%)、「タオル・手ぬぐい」(71.1%)までが7割を超え、「スリッパ・上履き」(56.6%)、「ハンドソープ・石けん」(55.5%)、「体温計」(54.4%)のいずれも5割を超えている。なお、「何も持っていない」は0.2%と低くなっている。



図Ⅲ－７９ 避難時に新型コロナウイルス感染症防止のために持参するもの

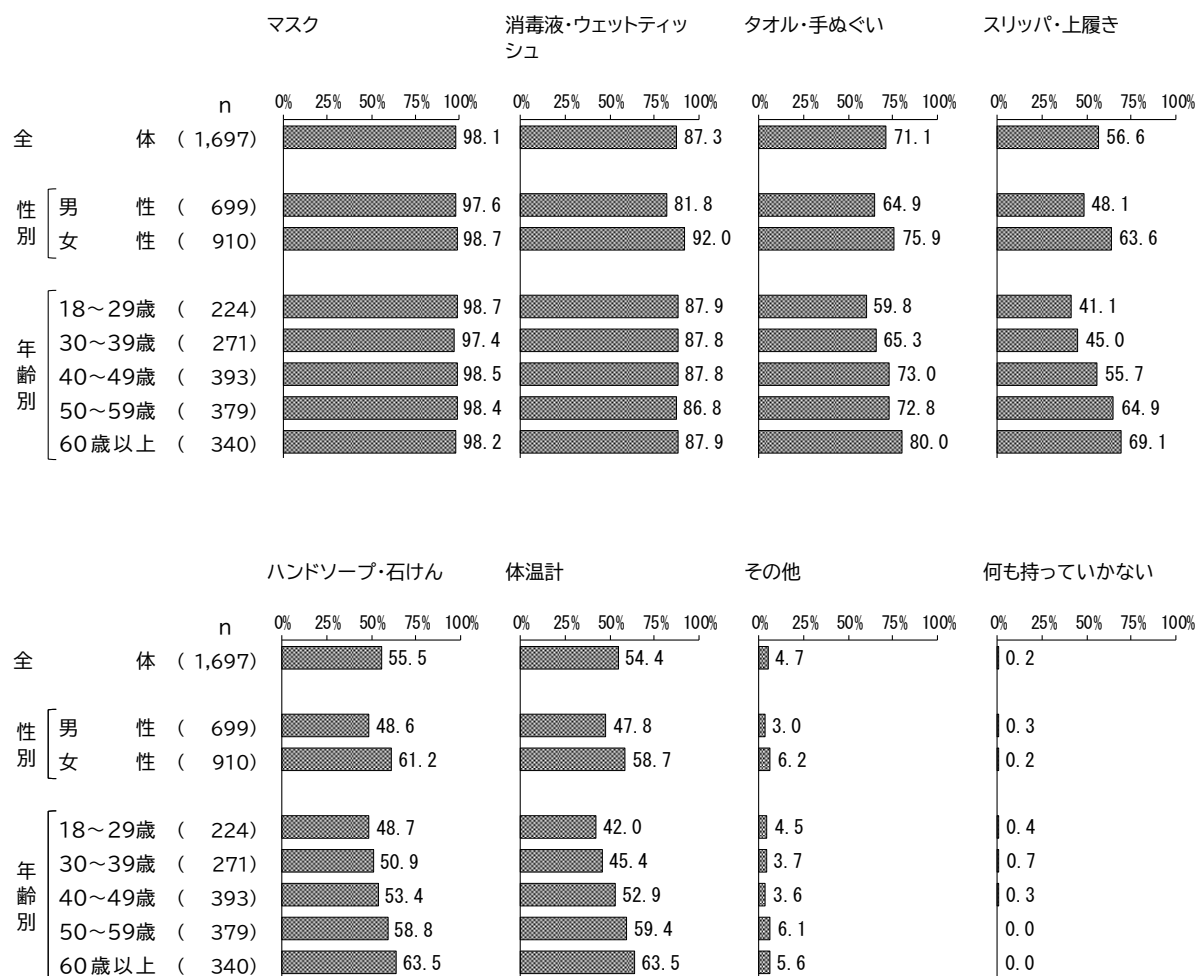
表Ⅲ－２０ 「その他」の内訳

「その他」の内容	件数
薬・処方薬・うがい薬	16
ビニール袋・ゴミ袋	11
ビニール手袋・ゴム手袋	10
水・飲料水	8
テント・キャンプ道具・寝袋	7
スマートフォン・スマホ充電器	7
服・下着・着替え	6
クッション・毛布・ブランケット	4
歯ブラシ・マウスウォッシュ	3
ラジオ	3
必要なものすべて	3
アイマスク	2
メガネ	2
フェイスシールド	2
その他	12
(記載なし)	4
合 計	100

【性別／年齢別】

性別で比較すると、「何も持っていない」を除く全ての項目で、女性の方が男性より高くなっており、なかでも「スリッパ・上履き」では、女性が 63.6%、男性が 48.1%となっており、15.5 ポイントの差がある。

年齢別にみると、「タオル・手ぬぐい」、「スリッパ・上履き」、「ハンドソープ・石けん」、「体温計」では、年齢が上がるに従い割合が高くなる傾向が見られ、最も高い 60 歳以上と最も低い 18～29 歳では、14.8～28.0 ポイントの差がある。



図Ⅲ－８０ 避難時に新型コロナウイルス感染症防止のために持参するもの（性別／年齢別）

(4) 災害に関する情報の取得方法について

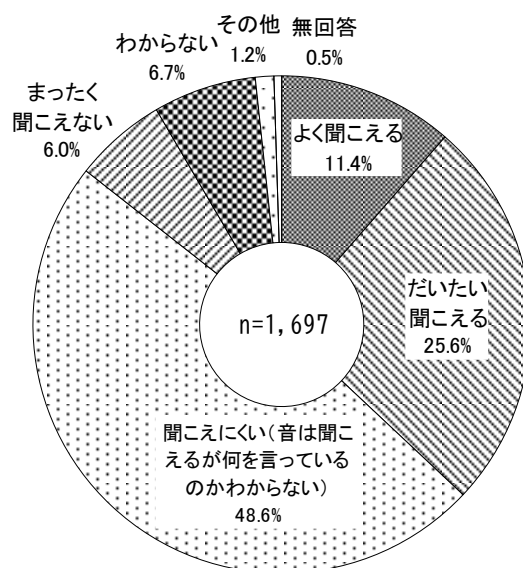
(4-1) 平常時の防災行政無線の聞こえ方

「聞こえにくい（音は聞こえるが何を言っているかわからない）」と「まったく聞こえない」を合わせた『聞こえていない』人は5割超

【問21】防災行政無線では、地震や津波など緊急情報の他に、「迷子・行方不明者情報」や「振り込め詐欺注意喚起」等を、音量を調整して放送しています。平常時の防災行政無線の聞こえ方について、お答えください。(○は1つ)

平常時の防災行政無線の聞こえ方について聞いたところ、「聞こえにくい（音は聞こえるが何を言っているかわからない）」が48.6%で最も高く、次いで「だいたい聞こえる」が25.6%、「よく聞こえる」が11.4%、「まったく聞こえない」が6.0%となっている。

「よく聞こえる」と「だいたい聞こえる」を合わせた『聞こえている』人は37.0%と4割近くとなっており、「聞こえにくい（音は聞こえるが何を言っているかわからない）」と「まったく聞こえない」を合わせた『聞こえていない』人は54.6%と5割を超えており、『聞こえていない』人の割合が高くなっている。



図Ⅲ－81 平常時の防災行政無線の聞こえ方

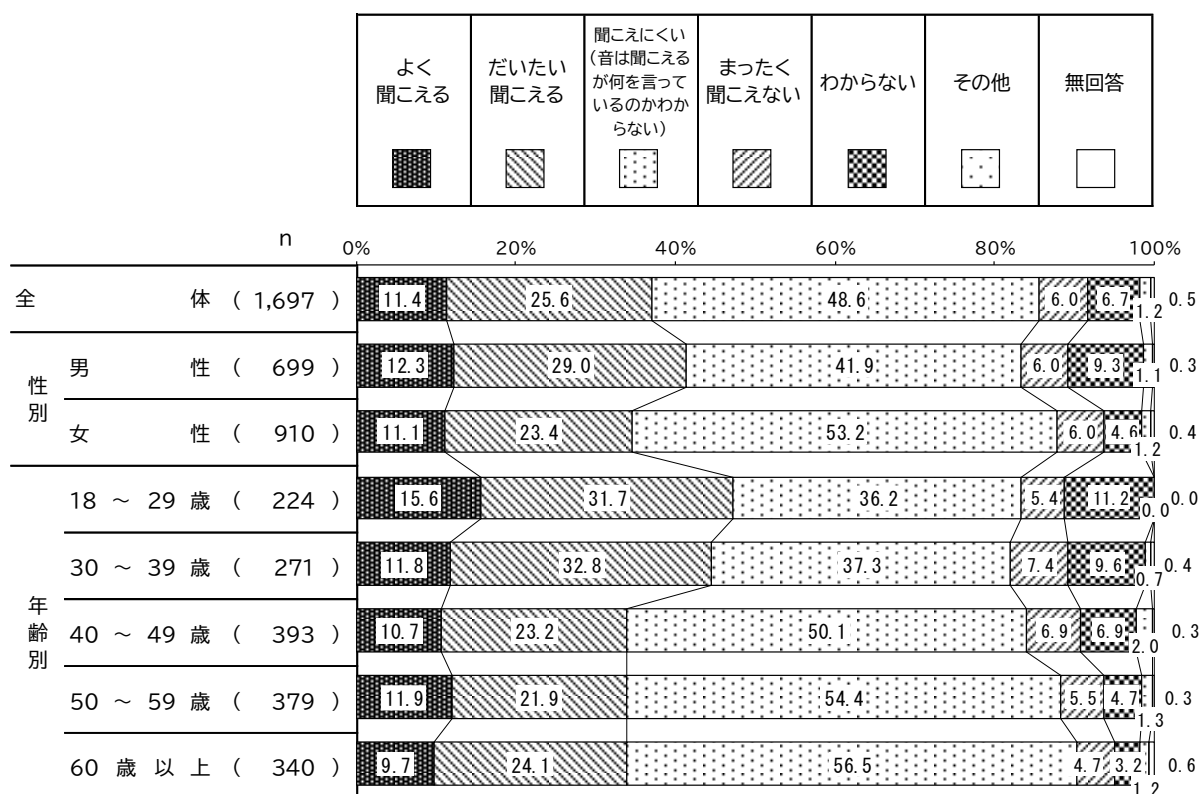
表Ⅲ－21 「その他」の内訳

「その他」の内容	件数
聞こえるときと聞こえないときがある	4
外では聞こえるが家では聞こえない	3
窓が開いていると聞こえ、窓が開いていないと聞こえない	3
風向きによる	2
日中は不在	2
その他	4
(記載なし)	2
合 計	20

【性別／年齢別】

性別で比較すると、「聞こえにくい（音は聞こえるが何を言っているのかわからない）」は、女性（53.2%）が男性（41.9%）より 11.3 ポイント高くなっている。一方、「だいたい聞こえる」は、男性（29.0%）が女性（23.4%）より 5.6 ポイント高くなっている。

年齢別にみると、「だいたい聞こえる」は、18～29 歳（31.7%）、30～39 歳（32.8%）と年齢の低い層で割合が高く、反対に、「聞こえにくい（音は聞こえるが何を言っているのかわからない）」は、年齢が上がるに従い割合が高くなり、最も高い 60 歳以上では 56.5%、最も低い 18～29 歳では 36.2%と、20.3 ポイントの差がある。



図Ⅲ－８２ 平常時の防災行政無線の聞こえ方（性別／年齢別）

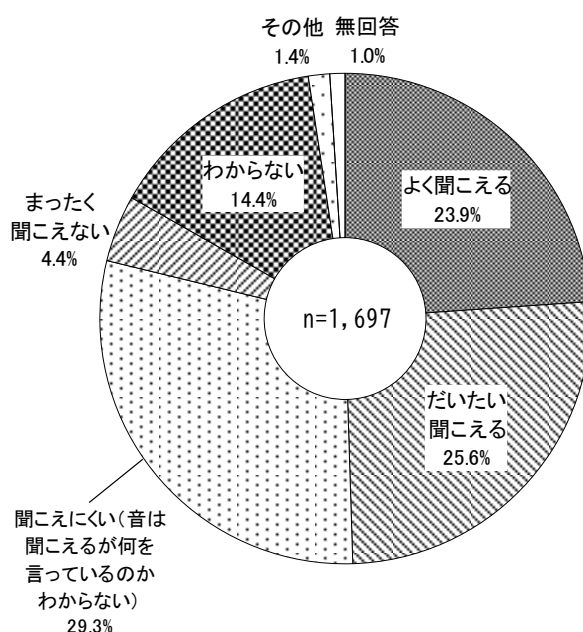
(4-2) 災害時の防災行政無線の聞こえ方

「よく聞こえる」と「だいたい聞こえる」を合わせた『聞こえている』は5割

【問22】緊急地震速報や土砂災害警戒情報が発表された際には、Jアラート（全国瞬時警報システム）を通じて、防災行政無線を最大音量で放送しています。災害時の防災行政無線の聞こえ方について、お答えください。（〇は1つ）

災害時の防災行政無線の聞こえ方について聞いたところ、「聞こえにくい（音は聞こえるが何を言っているのかわからない）」が29.3%で最も高く、次いで「だいたい聞こえる」が25.6%、「よく聞こえる」が23.9%、「まったく聞こえない」が4.4%となっている。

「よく聞こえる」と「だいたい聞こえる」を合わせた『聞こえている』人は49.5%と5割、「聞こえにくい（音は聞こえるが何を言っているのかわからない）」と「まったく聞こえない」を合わせた『聞こえていない』人は33.7%と3割を超えており、災害時の防災行政無線では『聞こえている』人の割合の方が高くなっている。



図Ⅲ－８３ 災害時の防災行政無線の聞こえ方

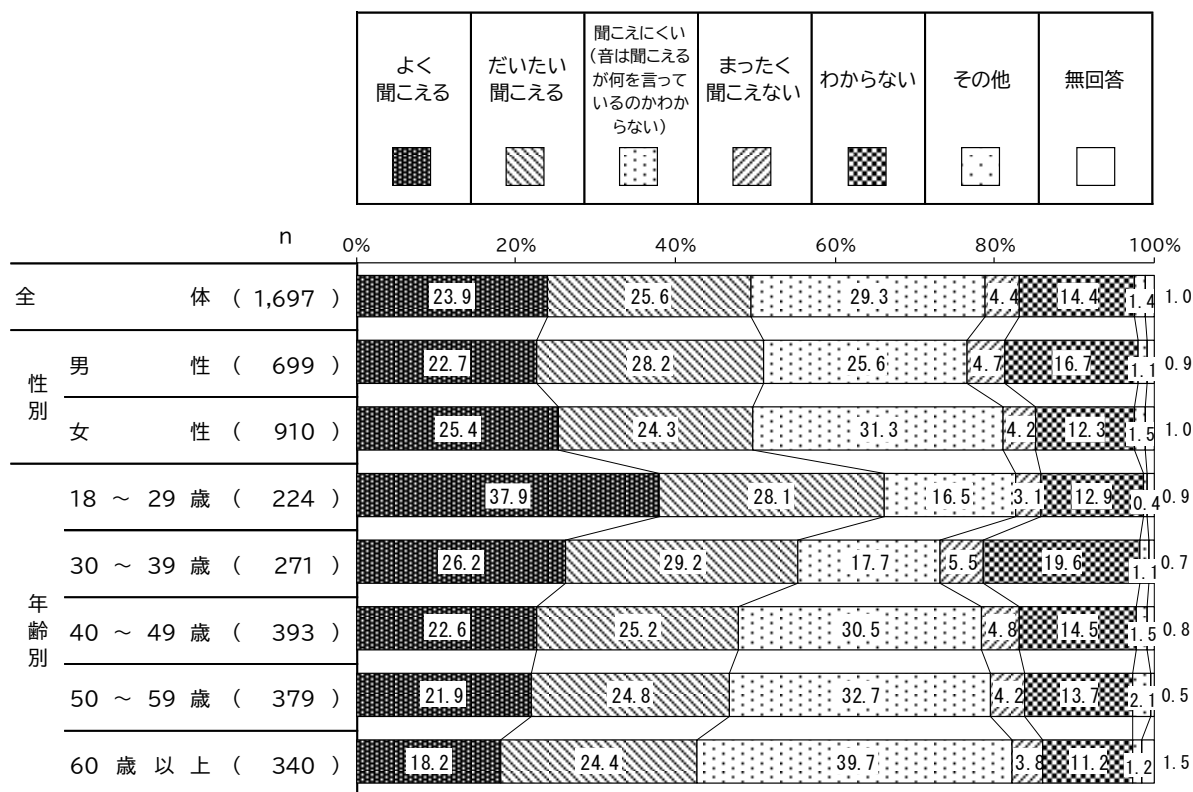
表Ⅲ－２２ 「その他」の内訳

「その他」の内容	件数
聞いたことがない	8
聞こえるときと聞こえないときがある	2
外では聞こえるが家では聞こえない	2
窓が開いていると聞こえ、窓が開いていないと聞こえない	2
その他	7
（記載なし）	3
合 計	24

【性別／年齢別】

性別で比較すると、「聞こえにくい（音は聞こえるが何を言っているのかわからない）」は、女性（31.3%）が男性（25.6%）より 5.7 ポイント高くなっている。一方、「だいたい聞こえる」は、男性（28.2%）が女性（24.3%）より 3.9 ポイント高くなっている。

年齢別にみると、「よく聞こえる」は、年齢が下がるに従い割合が高くなり、18～29 歳で 37.9% と 4 割近い。一方、「聞こえにくい（音は聞こえるが何を言っているのかわからない）」は、年齢が上がるに従い割合が高くなり、最も高い 60 歳以上では 39.7% と 4 割となっている。



図Ⅲ－８４ 災害時の防災行政無線の聞こえ方（性別／年齢別）

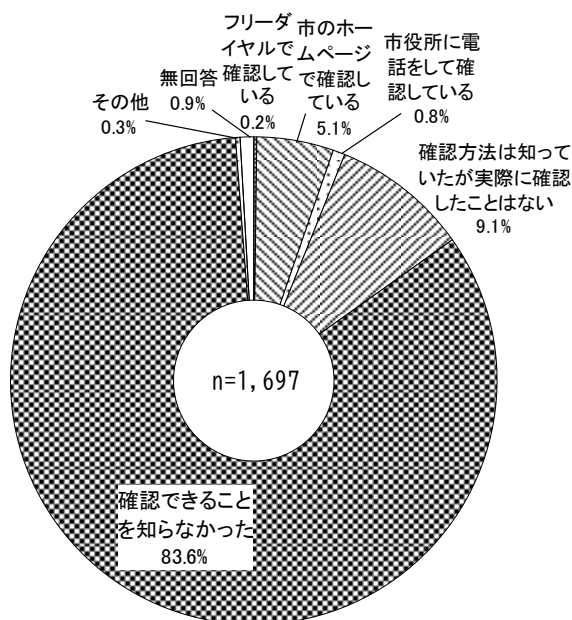
(4-3) 防災行政無線の放送内容の確認方法

「確認できることを知らなかった」が8割超

【問23】防災行政無線の放送内容は、24時間対応のフリーダイヤル【0120-2784-61】^{フ リー ダ イ ヤ ル}や、市のホームページ（平日の午前9時から午後5時に更新）で、確認することができます。防災行政無線の放送内容の確認方法について、次の中から最もあてはまるものを1つだけ選んでください。（〇は1つ）

防災行政無線の放送内容の確認方法について聞いたところ、「確認できることを知らなかった」が83.6%と8割を超えており、次いで「確認方法は知っていたが実際に確認したことはない」(9.1%)、「市のホームページで確認している」(5.1%)、「市役所に電話をして確認している」(0.8%)、「フリーダイヤルで確認している」(0.2%)の順になっている。

なお、「市のホームページで確認している」、「市役所に電話をして確認している」、「フリーダイヤルで確認している」を合わせた『確認している』人の割合は6.1%となっている。



図Ⅲ－８５ 防災行政無線の放送内容の確認方法

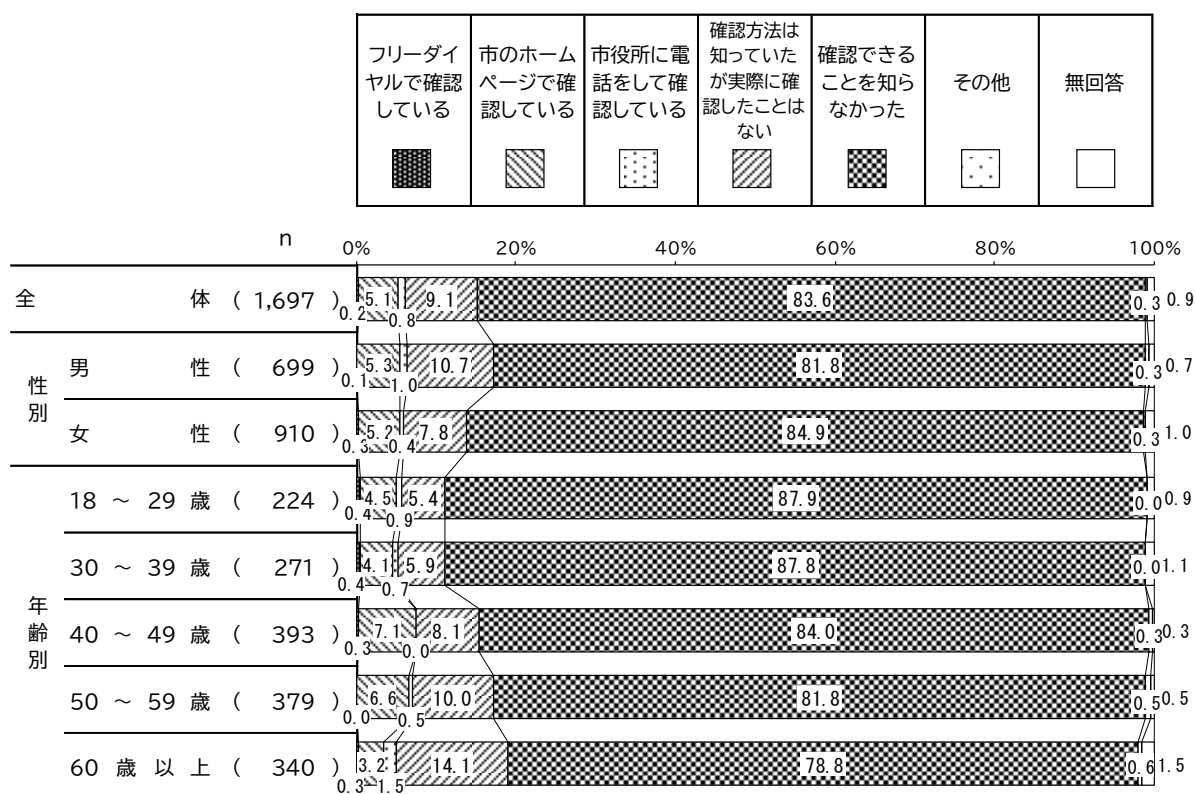
表Ⅲ－２３ 「その他」の内訳

「その他」の内容	件数
市のtwitter	1
電話に出ない	1
無線があることすら知らなかった	1
市のホームページを見たが最新情報を得られなかった	1
福祉公社に確認	1
合 計	5

【性別／年齢別】

性別で比較すると、「確認できることを知らなかった」は、女性（84.9%）が男性（81.8%）より 3.1 ポイント高くなっている。

年齢別にみると、「確認方法は知っていたが実際に確認したことはない」は、年齢が上がるに従い割合が高くなっており、最も高い 60 歳以上（14.1%）と最も低い 18～29 歳（5.4%）では 8.7 ポイントの差がある。一方、「確認できることを知らなかった」は、年齢が上がるに従い割合が低くなっており、最も低い 60 歳以上（78.8%）と最も高い 18～29 歳（87.9%）では 9.1 ポイントの差がある。



図Ⅲ－８６ 防災行政無線の放送内容の確認方法（性別／年齢別）

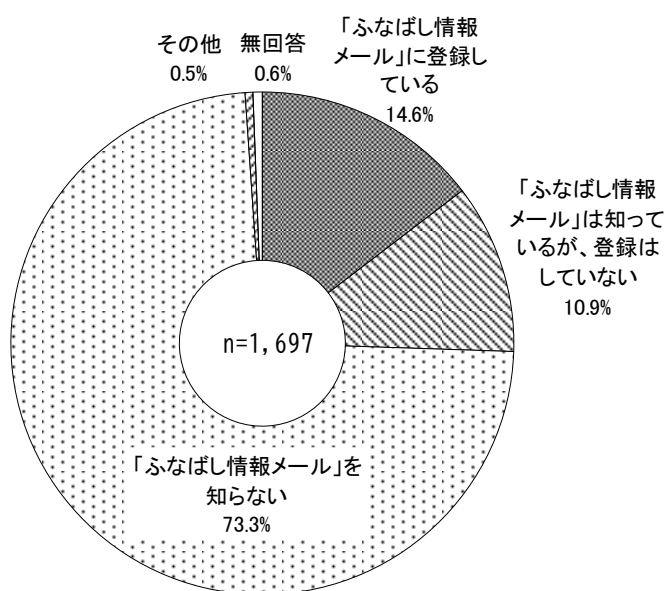
(4-4) 「ふなばし情報メール」の利用状況

『ふなばし情報メール』を知らない」が7割超

【問24】気象警報や避難所開設情報などを、「ふなばし情報メール」で配信しています。「ふなばし情報メール」の利用状況について、次の中から1つだけ選んでください。(○は1つ)

「ふなばし情報メール」の利用状況について聞いたところ、『ふなばし情報メール』を知らない」が73.3%と7割を超えており、次いで『ふなばし情報メール』に登録している」(14.6%)、「ふなばし情報メール」は知っているが、登録はしていない」(10.9%)の順になっている。

なお、『ふなばし情報メール』を知らない」と『ふなばし情報メール』は知っているが、登録はしていない」を合わせた『登録していない』人の割合は84.2%と8割を超えている。



図Ⅲ－８７ 「ふなばし情報メール」の利用状況

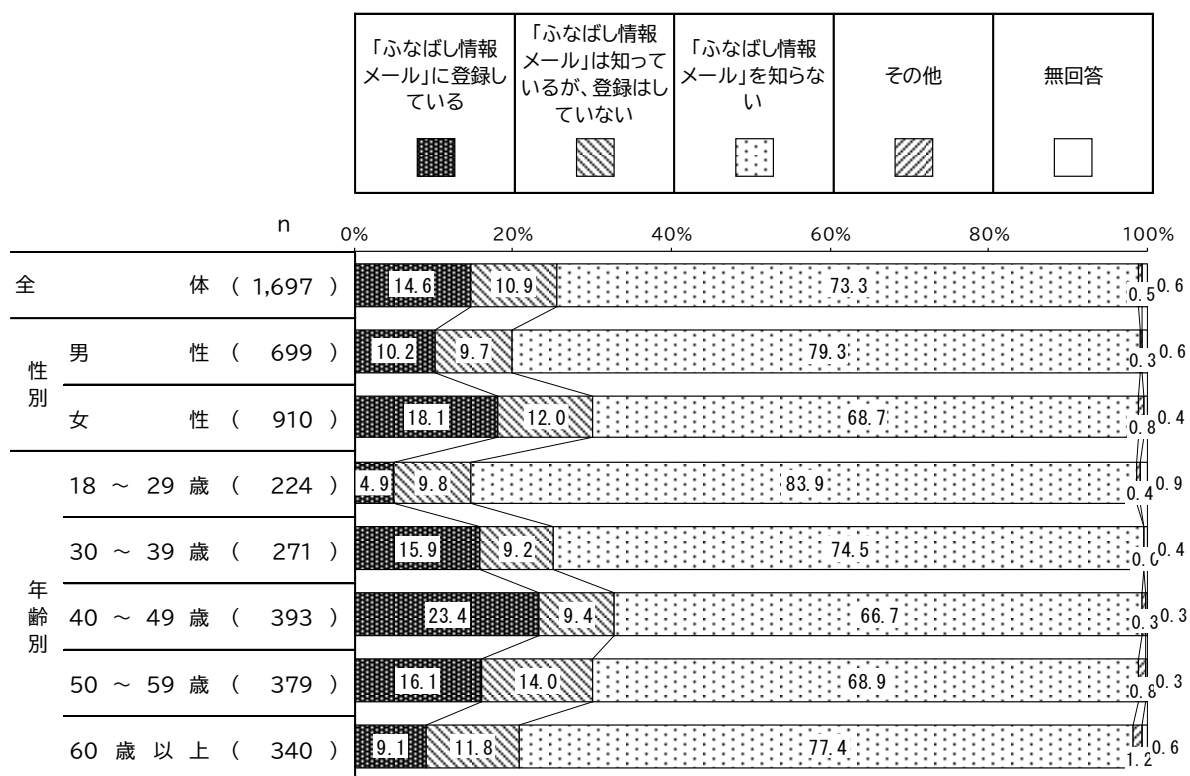
表Ⅲ－２４ 「その他」の内訳

「その他」の内容	件数
登録しているがIDを忘れた、迷惑メール設定のフィルタで届かない	2
家族が登録している	2
メールの機器を持っていない	2
過去に登録していた	1
これから登録したい	1
(記載なし)	1
合 計	9

【性別／年齢別】

性別で比較すると、「『ふなばし情報メール』に登録している」は、女性(18.1%)が男性(10.2%)より 7.9 ポイント高くなっている。一方、「『ふなばし情報メール』を知らない」は、男性(79.3%)が女性(68.7%)より 10.6 ポイント高くなっている。

年齢別にみると、「『ふなばし情報メール』に登録している」は、40～49 歳で 23.4%と、他の年齢と比べて高くなっているが、18～29 歳では 4.9%となっている。



図Ⅲ－８８ 「ふなばし情報メール」の利用状況（性別／年齢別）

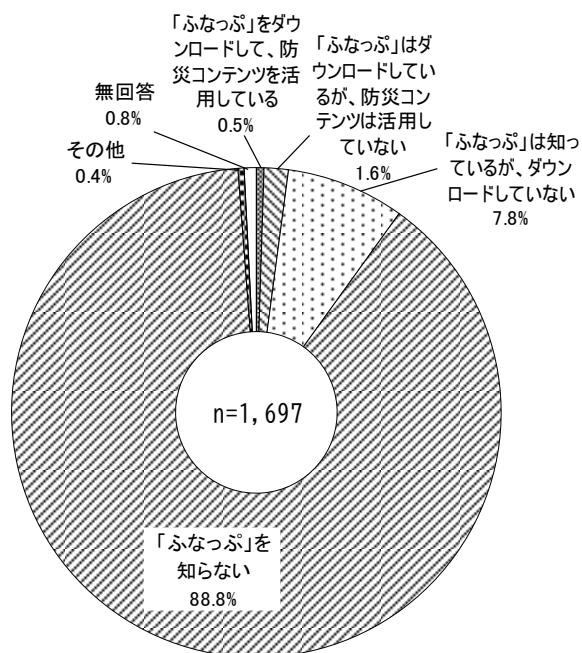
(4-5) 「ふなっぷ」の利用状況

『ふなっぷ』を知らない」が9割弱

【問25】船橋市公式アプリ「ふなっぷ」では、避難所検索マップやハザードマップなど、防災情報を配信しています。「ふなっぷ」の利用状況について、次の中から1つだけ選んでください。(〇は1つ)

船橋市公式アプリ「ふなっぷ」の利用状況について聞いたところ、『ふなっぷ』を知らない(88.8%)が9割弱と高く、『ふなっぷ』は知っているが、ダウンロードしていないが7.8%となっている。『ふなっぷ』はダウンロードしているが、防災コンテンツは活用していない(1.6%)と『ふなっぷ』をダウンロードして、防災コンテンツを活用している(0.5%)を合わせた『ダウンロードしている』人の割合は2.1%となっている。

なお、『ふなっぷ』を知らないと『ふなっぷ』は知っているが、ダウンロードしていないを合わせた『ダウンロードしていない』人の割合は96.6%となっている。



図Ⅲ－８９ 「ふなっぷ」の利用状況

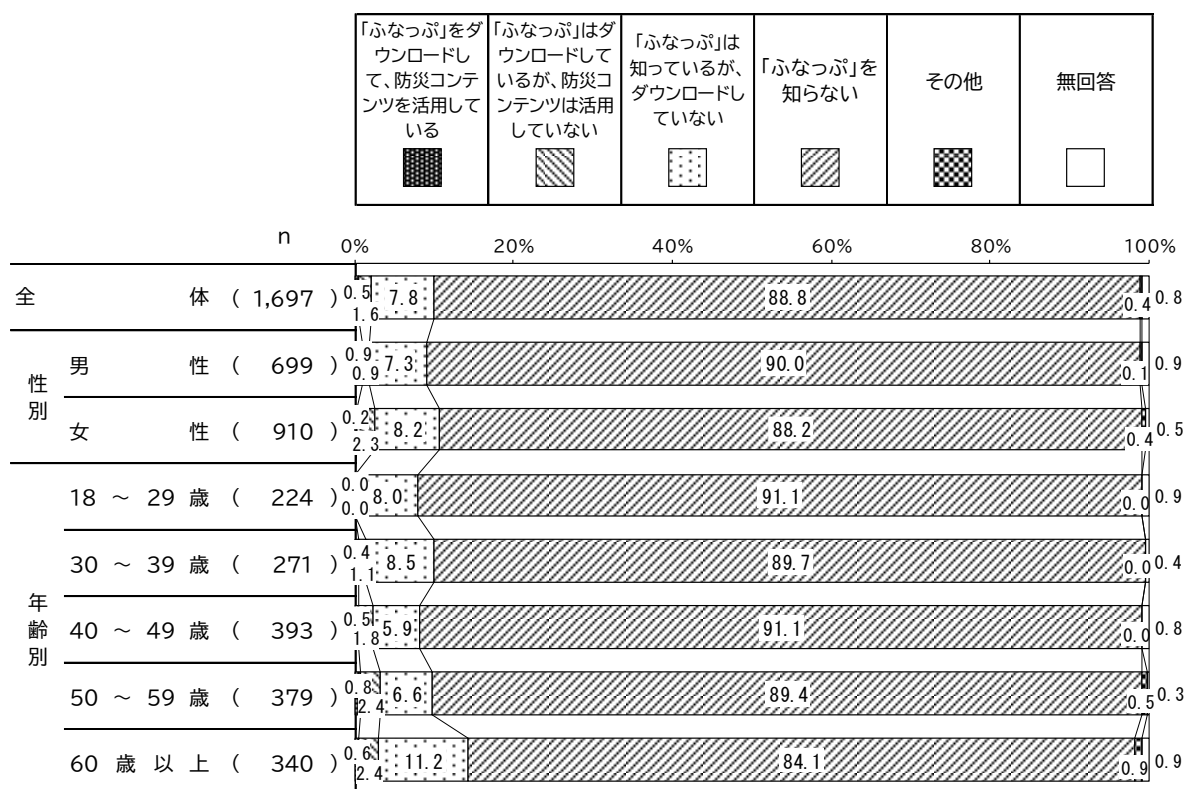
表Ⅲ－２５ 「その他」の内訳

「その他」の内容	件数
ハザードマップは紙で保管・壁に貼っている	3
したいけどできない	2
登録をしてIDを失ってアクセスできないので使用していない	1
合 計	6

【性別／年齢別】

性別で比較しても、とりわけ大きな差は見られない。

年齢別にみると、『ふなっぶ』を知らない」は、最も低い 60 歳以上（84.1%）と最も高い 18～29 歳、40～49 歳（ともに 91.1%）では 7.0 ポイントの差がある。一方、『ふなっぶ』は知っているが、ダウンロードしていない」は、最も高い 60 歳以上（11.2%）と最も低い 40～49 歳（5.9%）では 5.3 ポイントの差が見られる。



図Ⅲ－９０ 「ふなっぶ」の利用状況（性別／年齢別）

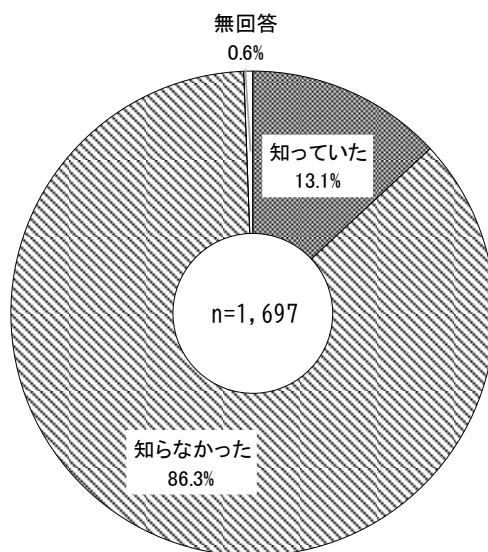
(5) 災害時における新たな医療体制について

(5-1) 災害時の医療体制の認知

災害時の医療体制が変わったことを「知らなかった」が8割超

【問26】今年4月に災害時の医療体制が変わったことを知っていましたか。(〇は1つ)

今年4月に災害時の医療体制が変わったことを知っていたか否かについて聞いたところ、「知っていた」は13.1%、「知らなかった」は86.3%となっており、ほとんどの方が知らなかった。

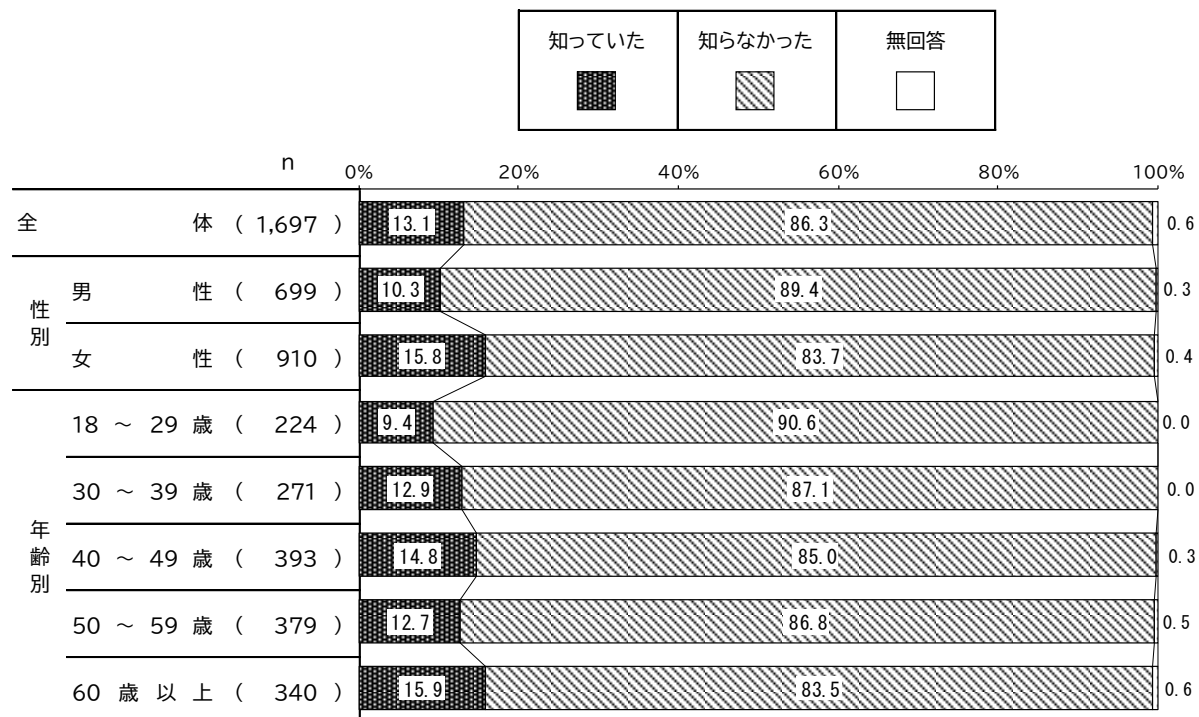


図Ⅲ－9 1 災害時の医療体制の認知

【性別／年齢別】

性別で比較すると、「知っていた」は、女性（15.8％）が男性（10.3％）より 5.5 ポイント高くなっている。

年齢別にみると、「知っていた」は、最も高い 60 歳以上（15.9％）と最も低い 18～29 歳（9.4％）では 6.5 ポイントの差がある。



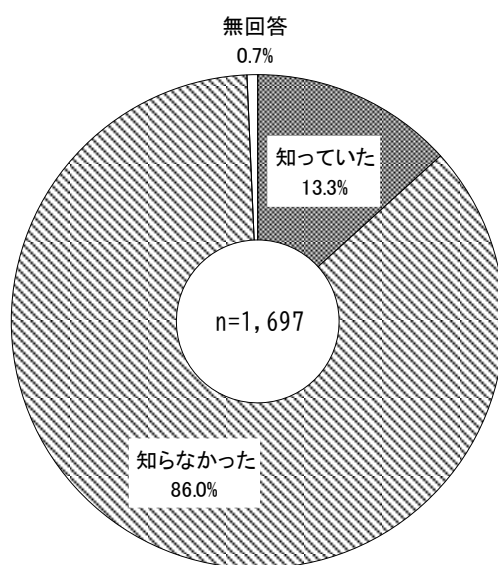
図Ⅲ－9 2 災害時の医療体制の認知（性別／年齢別）

(5-2) 病院前救護所に行くことの認知

病院前救護所に行くことを「知っている」人は1割超

【問27】震度6弱以上の地震発生時、骨折や深い切り傷など自力での手当てが難しいケガを負ってしまった場合、避難所ではなく、病院前救護所に行っていただくことになりますが、そのことを知っていましたか。(〇は1つ)

震度6弱以上の地震発生時、骨折や深い切り傷など自力での手当てが難しいケガを負ってしまった場合、避難所ではなく、病院前救護所に行くことについて聞いたところ、「知っていた」は13.3%、「知らなかった」は86.0%となっており、ほとんどの方が知らなかった。

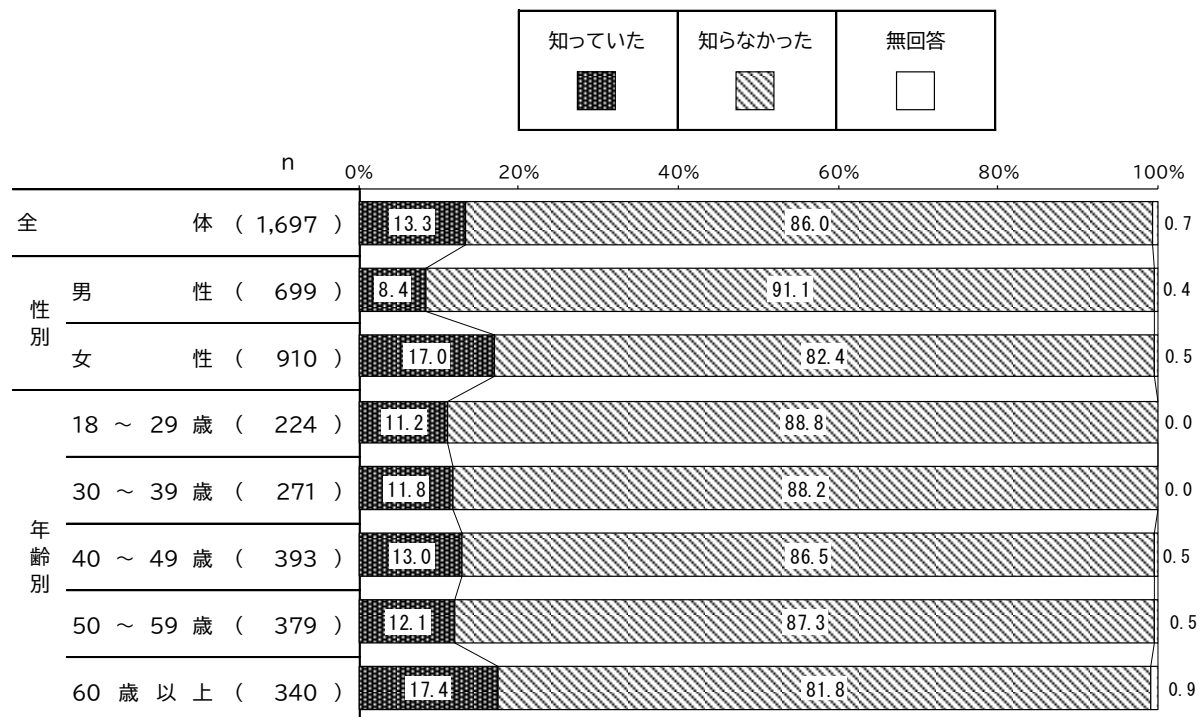


図Ⅲ－93 病院前救護所に行くことの認知

【性別／年齢別】

性別で比較すると、「知っていた」は、女性（17.0%）が男性（8.4%）より 8.6 ポイント高くなっている。

年齢別にみると、「知っていた」は、最も高い 60 歳以上（17.4%）と最も低い 18～29 歳（11.2%）では 6.2 ポイントの差が見られる。



図Ⅲ－９４ 病院前救護所に行くことの認知（性別／年齢別）

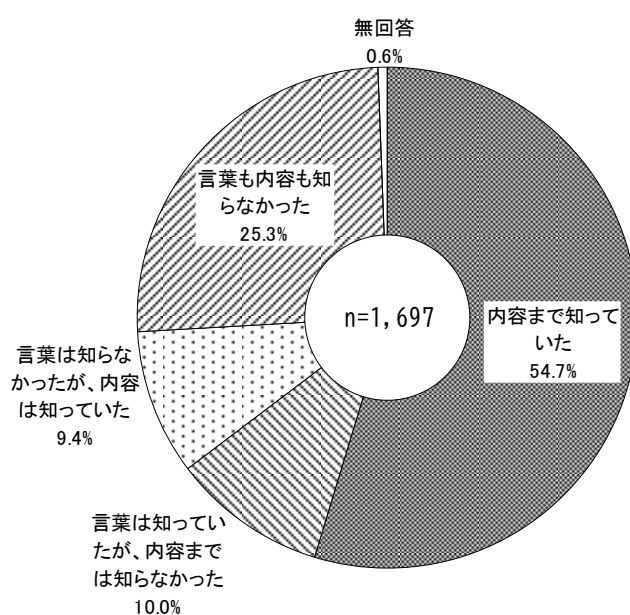
(5-3) トリアージの認知

トリアージについて『内容は知っていた』人は6割超

【問28】トリアージとは、傷病者の重症度を判別し、治療の優先順位を決める行為ですが、そのことを知っていましたか。(〇は1つ)

トリアージについて聞いたところ、「内容まで知っていた」が54.7%と5割を超えており、次いで、「言葉も内容も知らなかった」(25.3%)、「言葉は知っていたが、内容までは知らなかった」(10.0%)、「言葉は知らなかったが、内容は知っていた」(9.4%)の順になっている。

なお、「内容まで知っていた」と「言葉は知らなかったが、内容は知っていた」を合わせた『内容は知っていた』人の割合は64.1%と6割を超えている。

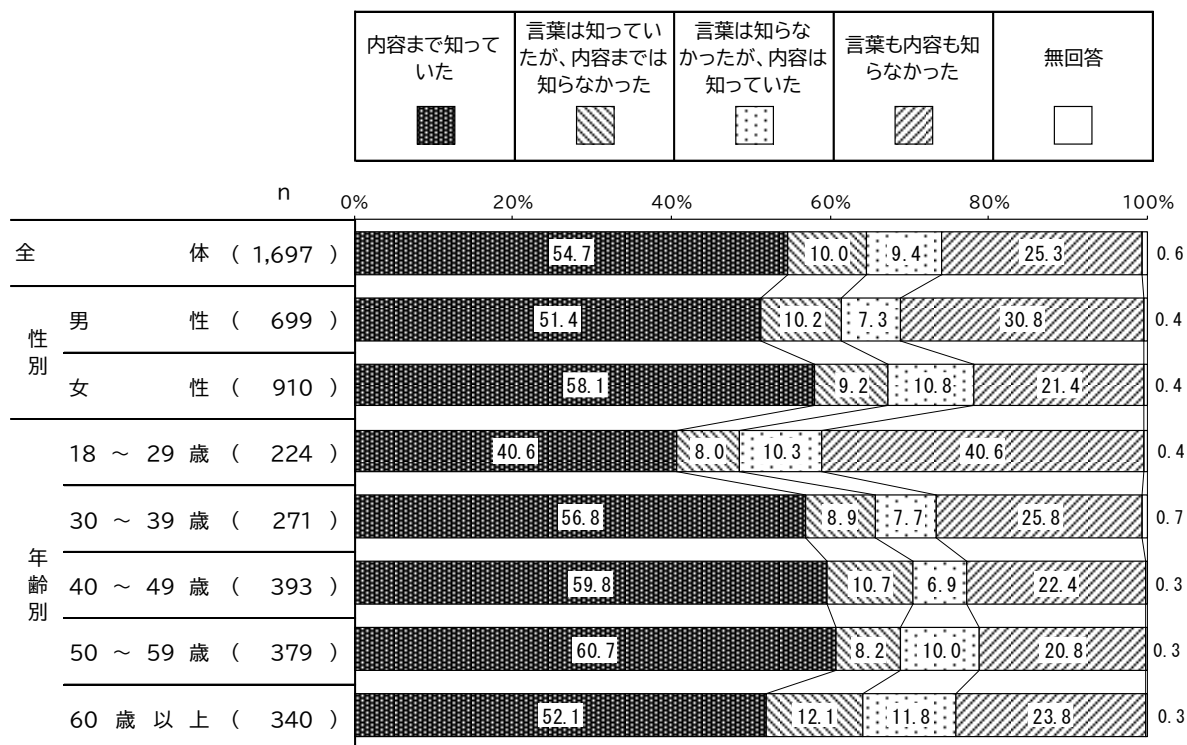


図Ⅲ－95 トリアージの認知

【性別／年齢別】

性別で比較すると、「内容まで知っていた」は、女性（58.1％）が男性（51.4％）より 6.7 ポイント高くなっている。一方、「言葉も内容も知らなかった」では、男性（30.8％）が女性（21.4％）より 9.4 ポイント高くなっている。

年齢別にみると、「内容まで知っていた」は、18～29 歳を除く全ての年齢で 5 割を超えており、50～59 歳では 60.7％と最も高くなっている。他方で、「言葉も内容も知らなかった」は 18～29 歳で 40.6％と 4 割を超えている。



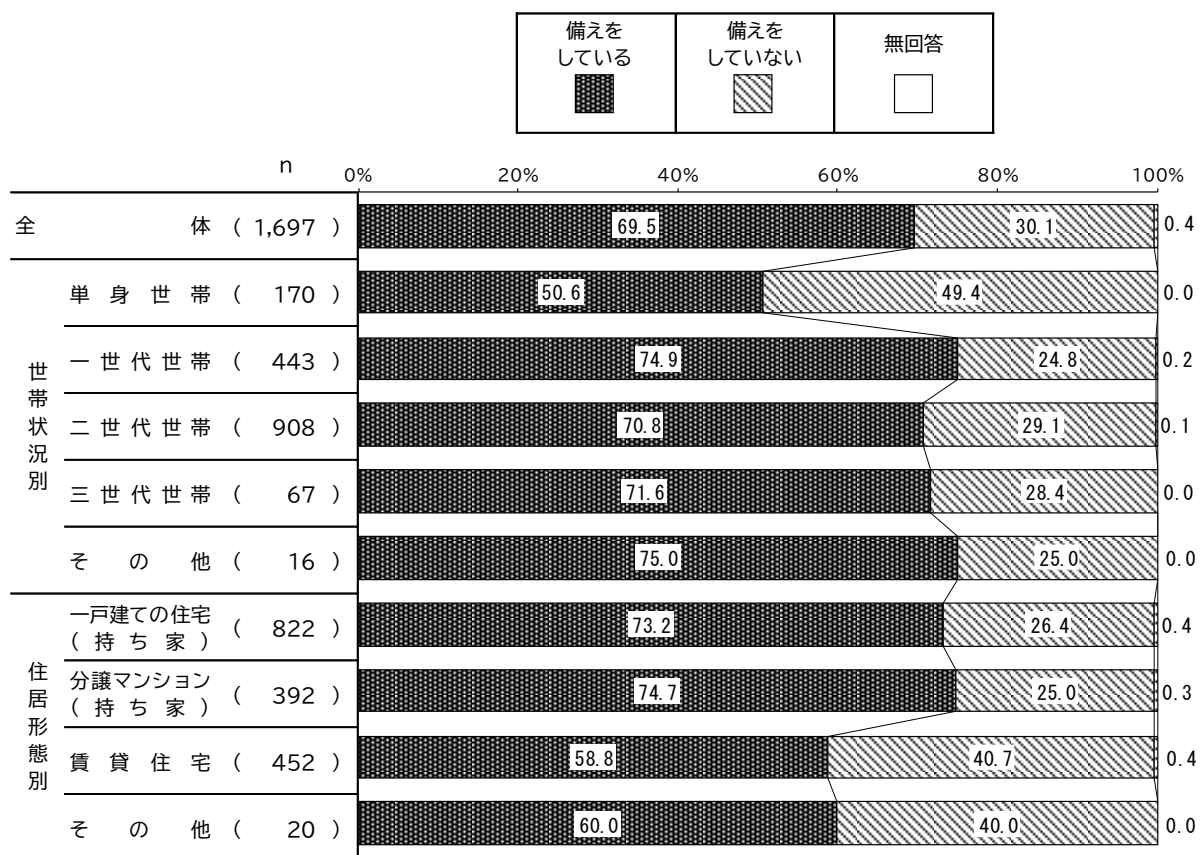
図Ⅲ－９６ トリアージの認知（性別／年齢別）

(6) 「本市の災害対策」概観

単身世帯、賃貸住宅居住者では「備えをしている」人が6割を下回っている

日頃から災害への「備えをしている」人を先述した性別／年齢別以外で確認するため、世帯状況別による割合をみると、単身世帯は50.6%と最も低くなっている。一方、一世代世帯及び複数世帯層では、7割を超えている。

同様に、住居形態別による割合をみると、賃貸住宅居住者は58.8%と低くなっており、一戸建ての住宅（持ち家）（73.2%）や分譲マンション（持ち家）（74.7%）といった持ち家層と比べて、各々14.4、15.9ポイント低くなっている。



図Ⅲ－９７ 日頃からの備え（世帯状況別／住居形態別）

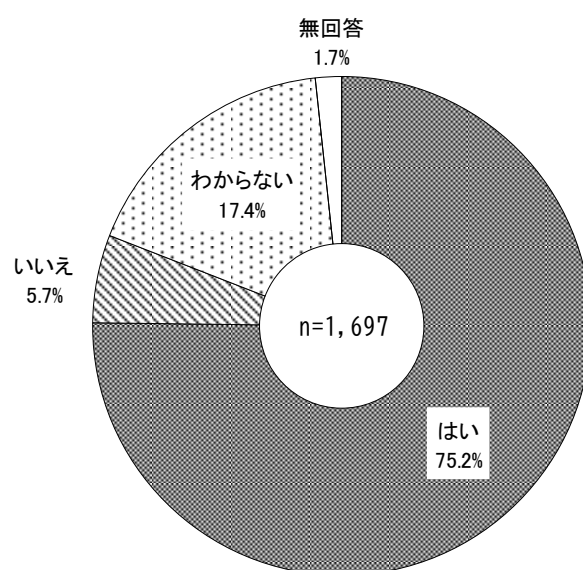
5. 「障害のある人への意識」について

(1) 「車椅子の方がスーパーで商品に手が届かない場合の声かけ」有無

車椅子の方がスーパーで商品に手が届かない場合に声かけする人は7割超

【問29】スーパーで車椅子の方が、商品に手が届かなくて困っています。あなたは、声をかけますか。(〇は1つ)

スーパーで車椅子の方が、商品に手が届かなくて困っているときに声かけするか否かについて聞いたところ、「はい」(75.2%)と答えた人は7割を超えており、「いいえ」は5.7%となっている。

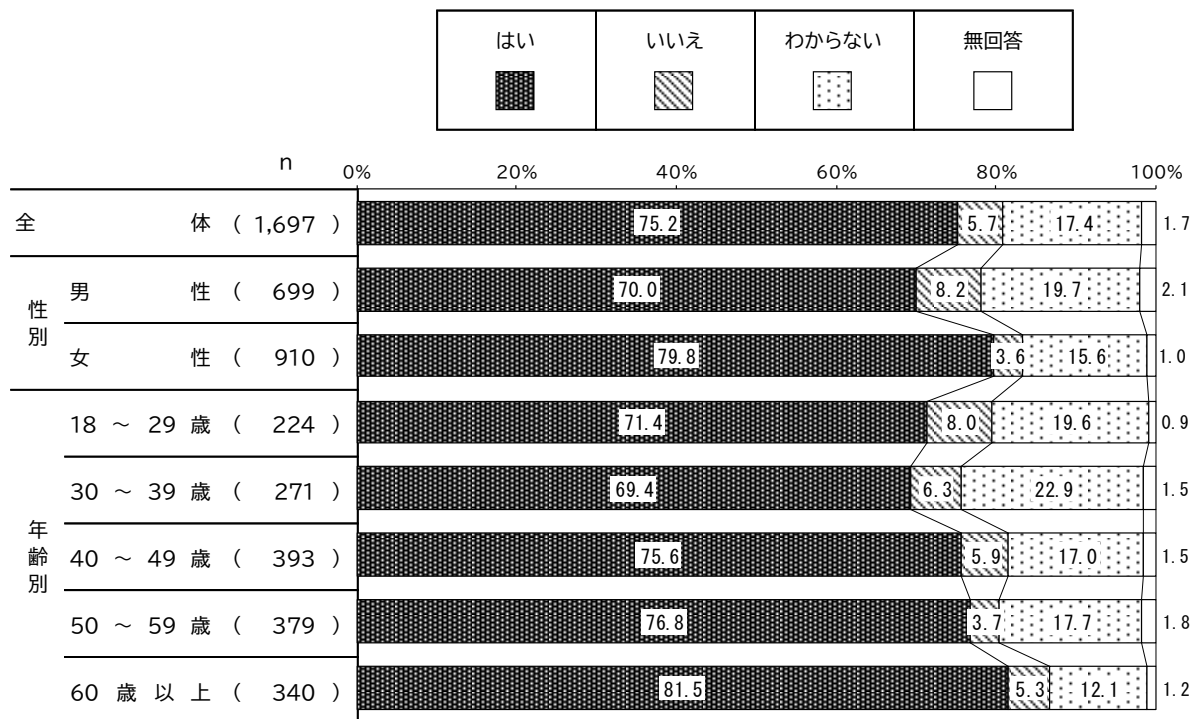


図Ⅲ－98 「車椅子の方がスーパーで商品に手が届かない場合の声かけ」有無

【性別／年齢別】

性別で比較すると、「はい」と答えた人は、女性（79.8%）が男性（70.0%）より 9.8 ポイント高くなっている。

年齢別にみると、年齢が上がるに従い「はい」の割合が高くなる傾向が見られ、最も低い 30～39 歳（69.4%）と最も高い 60 歳以上（81.5%）には 12.1 ポイントの差がある。



図Ⅲ－９９ 「車椅子の方がスーパーで商品に手が届かない場合の声かけ」有無（性別／年齢別）

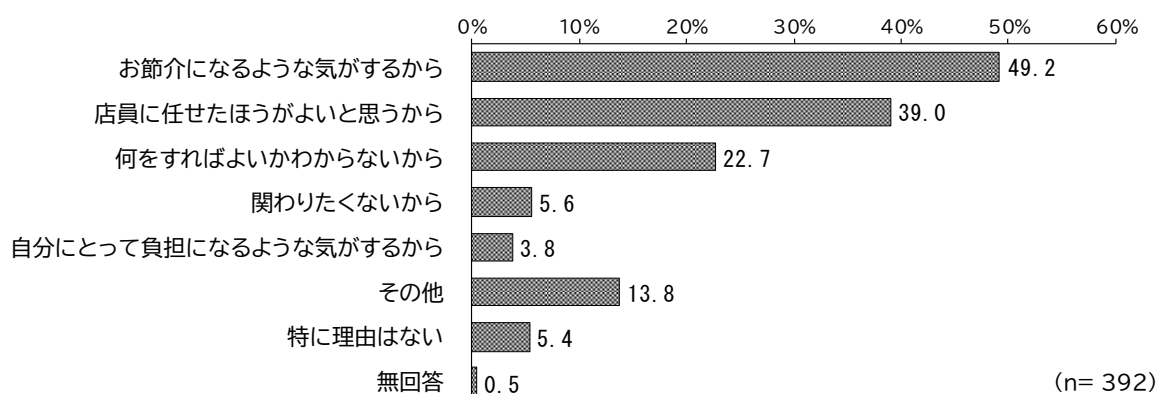
(1-1) 車椅子の方がスーパーで商品に手が届かない場合に声かけしない理由

声かけしない理由は「お節介になるような気がするから」が5割弱

(問29で、「2. いいえ」または「3. わからない」とお答えの方)

【問29-1】問29で「いいえ」または「わからない」を選択した理由として、あてはまるものはどれですか。(〇はいくつでも)

スーパーで車椅子の方が、商品に手が届かなくて困っているときに声かけするか否かで「いいえ」または「わからない」と回答した方(392人)に、その理由を聞いたところ、「お節介になるような気がするから」が49.2%で最も高く、次いで、「店員に任せたほうがよいと思うから」(39.0%)、「何をすればよいかわからないから」(22.7%)までが2割を超えている。



図Ⅲ-100 車椅子の方がスーパーで商品に手が届かない場合に声かけしない理由

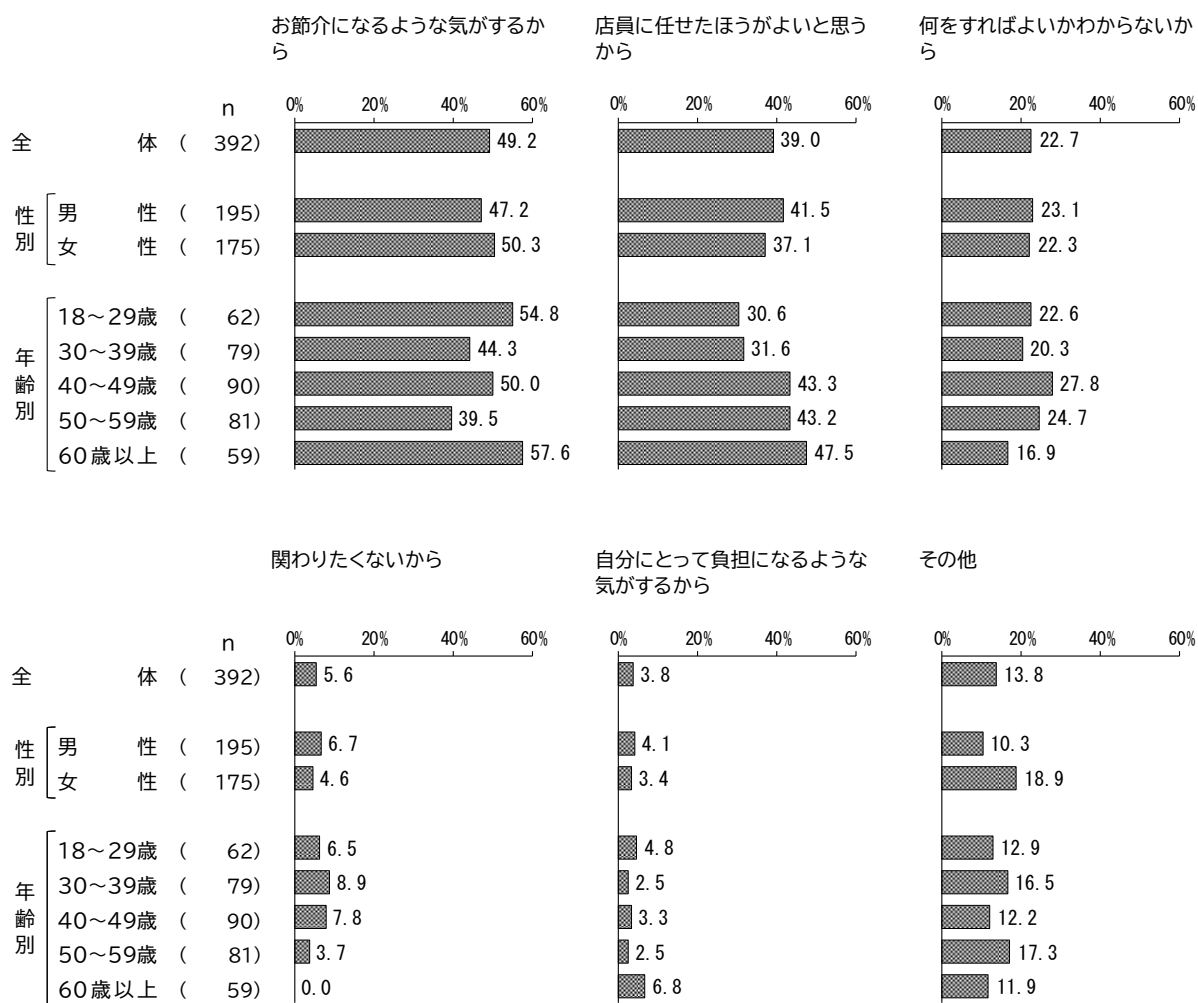
表Ⅲ-26 「その他」の内訳

「その他」の内容	件数
コロナ禍なので	15
そのときの状況や人による	12
頼まれたりあからさまに困っていたら手伝う	5
お節介をすると怒られたり罵倒されたり拒否されるから	4
本当に困っているかわからないから	4
知らない人に声をかけられない・人見知りだから	4
その他	8
(記載なし)	2
合 計	54

【性別／年齢別】

性別で比較すると、「お節介になるような気がするから」は、女性（50.3%）が男性（47.2%）より 3.1 ポイント高くなっている。一方、「店員に任せたほうがよいと思うから」は、男性（41.5%）が女性（37.1%）より 4.4 ポイント高くなっている。

年齢別にみると、「店員に任せたほうがよいと思うから」は、年齢が上がるに従い割合が高くなる傾向が見られ、最も低い 18～29 歳（30.6%）と最も高い 60 歳以上（47.5%）には 16.9 ポイントの差がある。



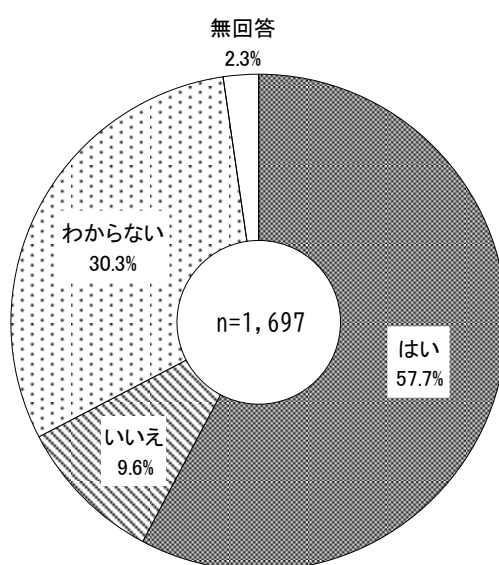
図Ⅲ－１０１ 車椅子の方がスーパーで商品に手が届かない場合に声かけしない理由（性別／年齢別）

(2) 「視覚障害者が線路側を歩いている場合の声かけ」有無

視覚障害者が黄色い線（視覚障害者誘導用ブロック）より線路側を歩いている場合に声かけする人は6割近く

【問30】ホームドアがない駅のホームで白い杖を持っている視覚障害者が黄色い線（視覚障害者誘導用ブロック）より線路側を歩いています。あなたは、声をかけますか。（○は1つ）

ホームドアがない駅のホームで白い杖を持っている視覚障害者が黄色い線（視覚障害者誘導用ブロック）より線路側を歩いているときに、声かけするか否かについて聞いたところ、「はい」が57.7%、「いいえ」が9.6%、「わからない」が30.3%となっている。



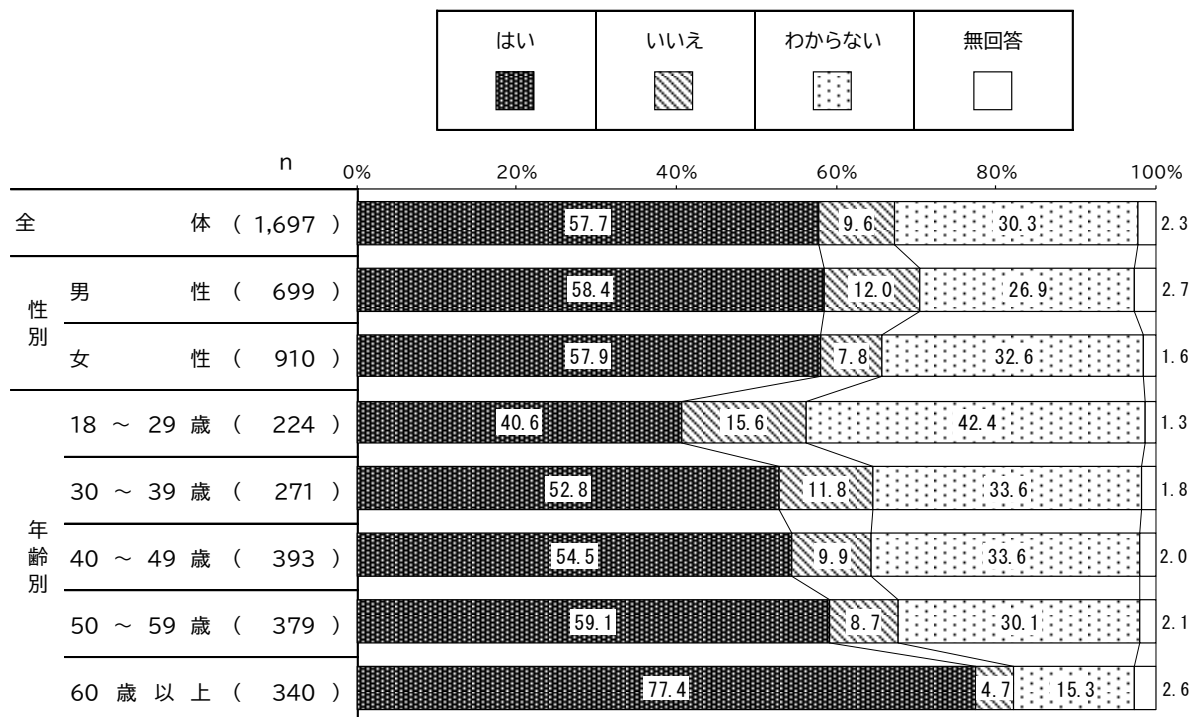
図Ⅲ－１０２ 「視覚障害者が線路側を歩いている場合の声かけ」有無

【性別／年齢別】

性別で比較すると、「いいえ」は、男性（12.0％）が女性（7.8％）より 4.2 ポイント高くなっている。

年齢別にみると、年齢が上がるに従い「はい」の割合が高くなっている。

割合が最も低い 18～29 歳（40.6％）と最も高い 60 歳以上（77.4％）には 36.8 ポイントの差がある。



図Ⅲ－１０３ 「視覚障害者が線路側を歩いている場合の声かけ」有無（性別／年齢別）

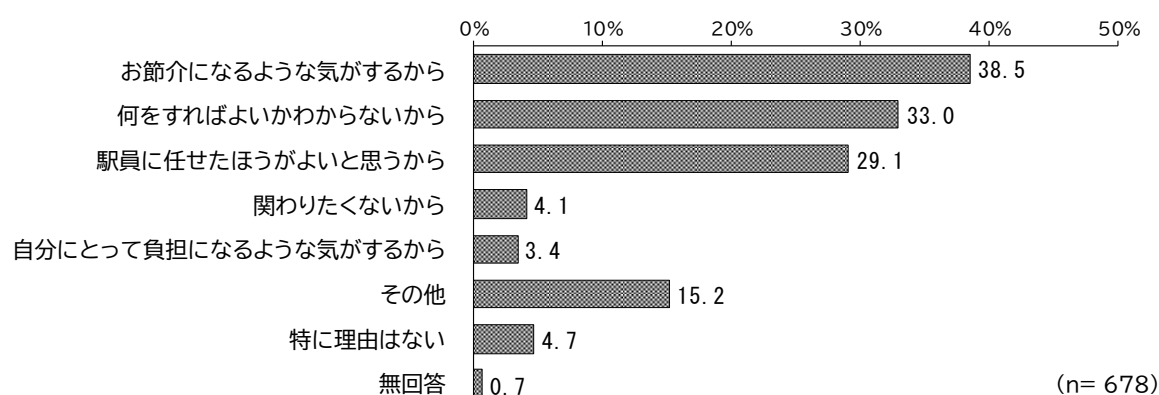
(2-1) 視覚障害者が線路側を歩いている場合に声かけしない理由

声かけしない理由は「お節介になるような気がするから」が4割弱

(問30で、「2. いいえ」または「3. わからない」とお答えの方)

【問30-1】問30で「いいえ」または「わからない」を選択した理由として、あてはまるものはどれですか。(〇はいくつでも)

ホームドアがない駅のホームで白い杖を持っている視覚障害者が黄色い線（視覚障害者誘導用ブロック）より線路側を歩いているときに声かけするか否かで「いいえ」または「わからない」と回答した方(678人)に、その理由を聞いたところ、「お節介になるような気がするから」が38.5%で最も高く、次いで、「何をすればよいかわからないから」(33.0%)、「駅員に任せたほうがよいと思うから」(29.1%)までが2割を超えている。



図Ⅲ－１０４ 視覚障害者が線路側を歩いている場合に声かけしない理由

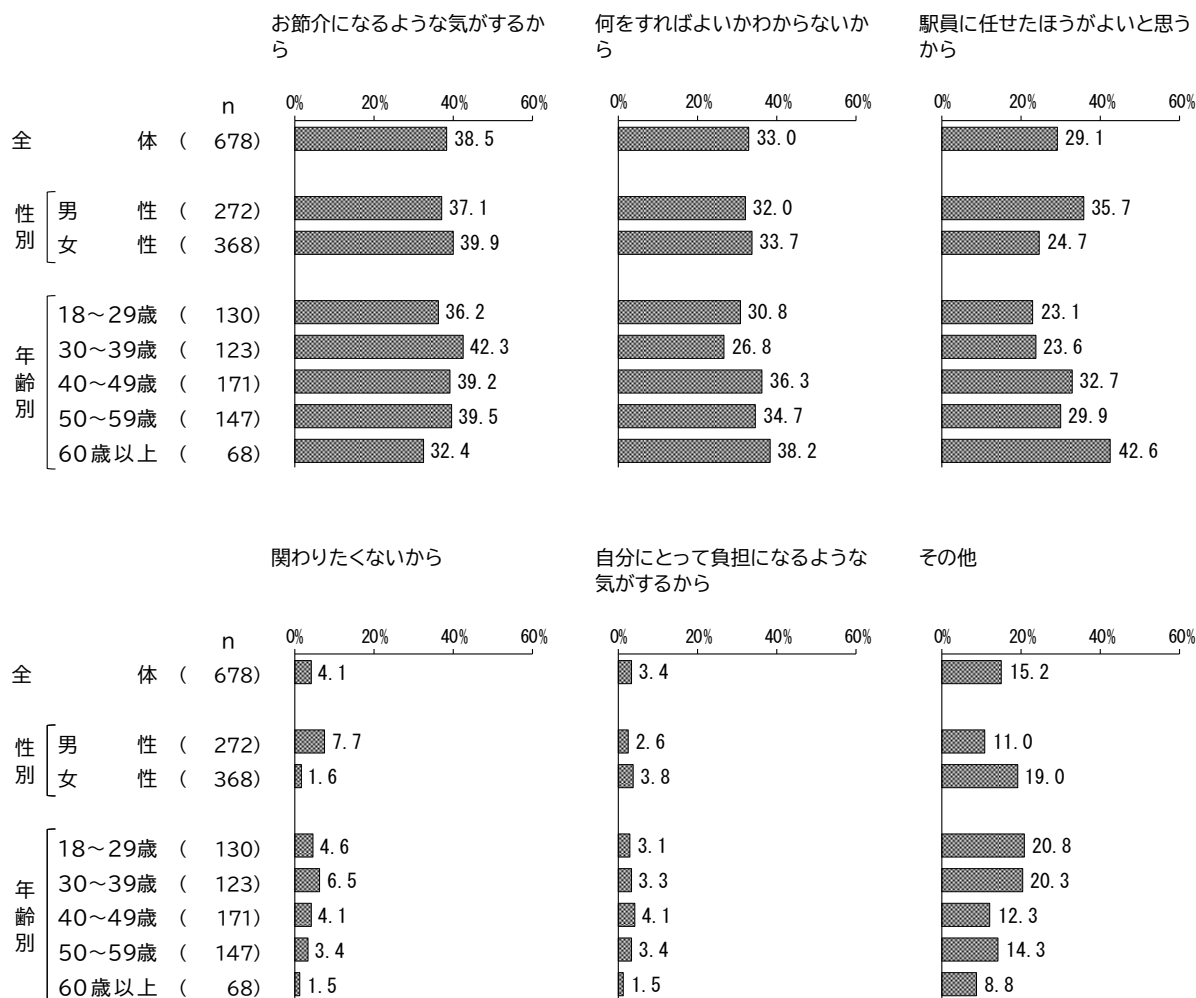
表Ⅲ－２７ 「その他」の内訳

「その他」の内容	件数
そのときの状況や人により危ないと思ったら声をかける	27
声をかけることで驚かせてしまったり、かえって危険になるかもしれないから	25
気づけない、気づかない、認識がないから	12
怒られたり怒鳴られたり拒否されるから	6
視覚障害の方への声のかけ方がわからない	5
コロナ禍なので	4
知らない人に声をかけられない、人見知りだから	4
本人にとってはそれが自分のやり方かも知れないから	4
声はかけないが、危険がないよう見守る	2
自分がどう行動できるかわからない	2
その他	9
(記載なし)	2
合 計	102

【性別／年齢別】

性別で比較すると、「駅員に任せたほうがよいと思うから」では、男性(35.7%)が女性(24.7%)より 11.0 ポイント高くなっている。

年齢別にみると、「駅員に任せたほうがよいと思うから」では、年齢が上がるに従い割合が高くなる傾向が見られ、割合が最も低い 18～29 歳(23.1%)と最も高い 60 歳以上(42.6%)には 19.5 ポイントの差がある。



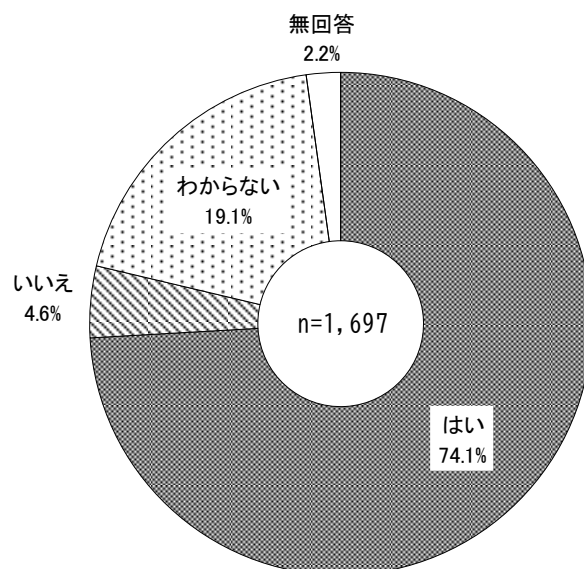
図Ⅲ－１０５ 視覚障害者が線路側を歩いている場合に声かけしない理由（性別／年齢別）

(3) 「聴覚に障害があると思われる方に対する津波警報発表時の声かけや身振り」有無

聴覚に障害があると思われる方に津波警報発表時、身振りなどで伝える人は7割超

【問31】津波警報の発表を知らせる防災行政無線が流れているのに、聴覚に障害があるのか、放送が聞こえていない様子で海のほうに歩いていく方がいます。あなたは、身振りなどで避難が必要であることを伝えますか。(〇は1つ)

津波警報の発表を知らせる防災行政無線が流れているときに、聴覚に障害があるのか放送が聞こえていない様子で海のほうに歩いていく方がいた場合、身振りなどで避難が必要であることを伝えるか否かについて聞いたところ、「はい」が74.1%、「いいえ」が4.6%、「わからない」が19.1%となっている。



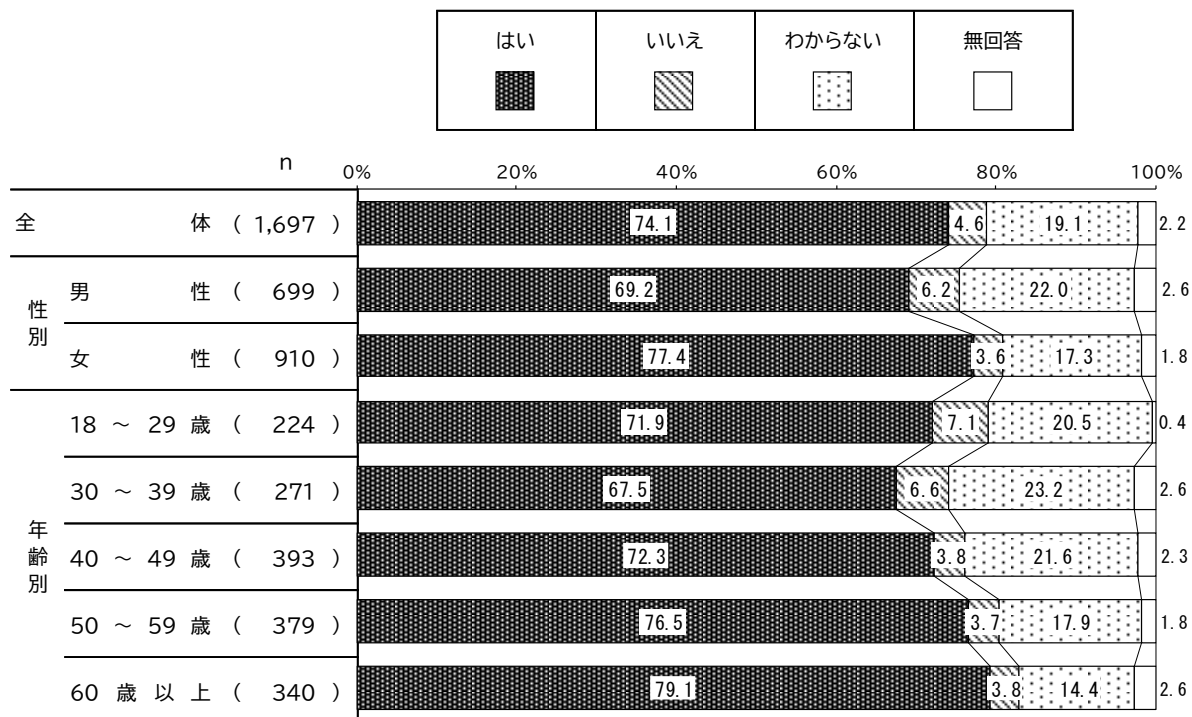
図Ⅲ－１０６ 「聴覚に障害があると思われる方に対する津波警報発表時の声かけや身振り」有無

【性別／年齢別】

性別で比較すると、「はい」は、女性（77.4%）が男性（69.2%）より 8.2 ポイント高くなっている。

年齢別にみると、年齢が上がるに従い「はい」の割合が高くなる傾向が見られる。

「はい」の割合が最も低い 30～39 歳（67.5%）と最も高い 60 歳以上（79.1%）には 11.6 ポイントの差がある。



図Ⅲ－１０７ 「聴覚に障害があると思われる方に対する津波警報発表時の声かけや身振り」の有無（性別／年齢別）

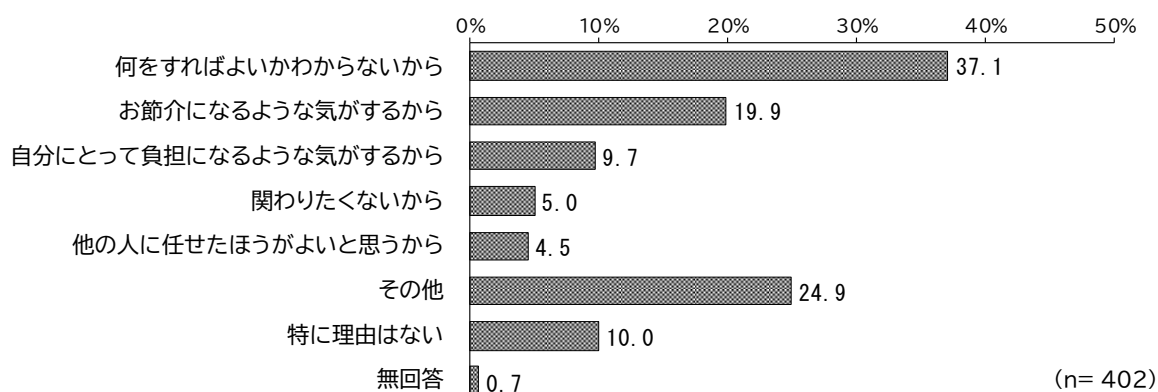
(3-1) 聴覚に障害があると思われる方に対する津波警報発表時に声かけや身振りをしない理由

声かけしない理由は「何をすればよいかわからないから」が4割近く

(問31で、「2. いいえ」または「3. わからない」とお答えの方)

【問31-1】問31で「いいえ」または「わからない」を選択した理由として、あてはまるものはどれですか。(〇はいくつでも)

津波警報の発表を知らせる防災行政無線が流れているときに、聴覚に障害があるのか、放送が聞こえていない様子で海のほうに歩いていく方がいた場合、身振りなどで避難が必要であることを伝えるか否かで「いいえ」または「わからない」と回答した方(402人)に、その理由を聞いたところ、「何をすればよいかわからないから」が37.1%で最も高く、次いで、「お節介になるような気がするから」(19.9%)、「自分にとって負担になるような気がするから」(9.7%)と続いている。



図Ⅲ-108 聴覚に障害があると思われる方に対する津波警報発表時に声かけや身振りをしない理由

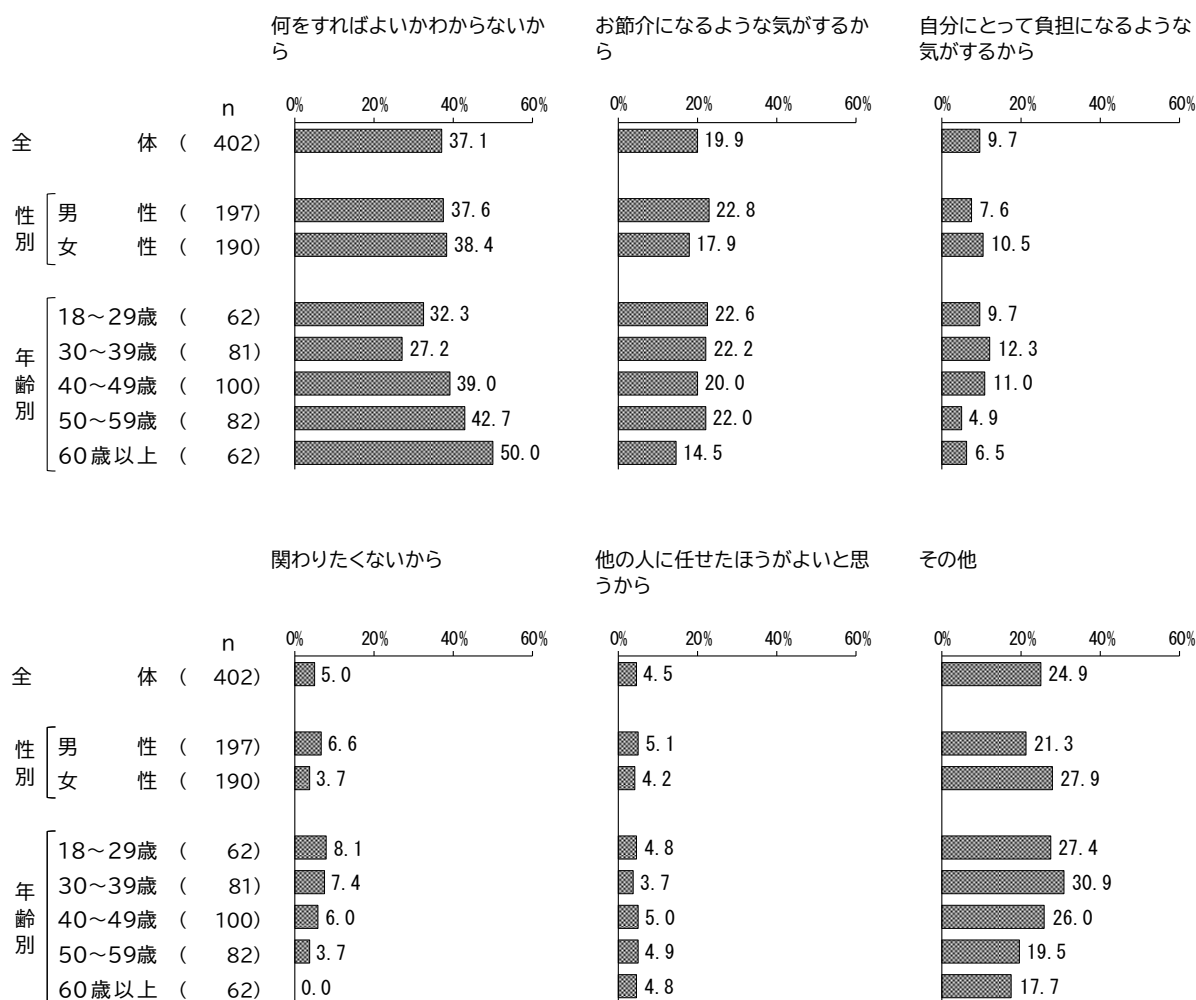
表Ⅲ-28 「その他」の内訳

「その他」の内容	件数
自分や家族のことだけで精一杯になりそうだから	26
聴覚に障害があるかどうかかわからないから	20
聴覚障害者が目的や意思があって歩いているかもしれないから	14
そのときの状況や人で判断する	7
自分に余裕がある、聴覚障害者とわかれば声かけする	7
手話ができない、伝わるかどうかかわからないから	4
海の近くに住んでいないから	3
気づく余裕があるかわからないから	2
その他	13
(記載なし)	6
合 計	102

【性別／年齢別】

性別で比較すると、「お節介になるような気がするから」では、男性（22.8％）が女性（17.9％）より 4.9 ポイント高くなっている。

年齢別にみると、「何をすればよいかわからないから」は 18～29 歳（32.3％）を除き年齢が上がるに従い割合が高くなる傾向が見られる。一方、「関わりたくないから」は年齢が下がるに従い割合が高くなっている。



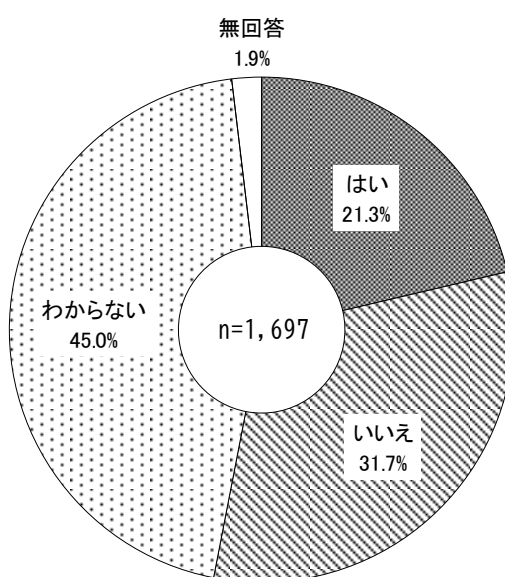
図Ⅲ－１０９ 聴覚に障害があると思われる方に対する津波警報発表時に声かけや身振りをしない理由（性別／年齢別）

(4) 「知的障害があると思われる方がバス乗り場で声を発して困っている場合の声かけ」有無

声かけする人は2割超、「声かけしない」または「わからない」と回答した人は8割近く

【問32】知的障害があるのか、ヘルプマークをつけた方が、駅前のバス乗り場で自分が乗るバスがわからず大声や奇声を発して困っています。あなたは、声をかけますか。(○は1つ)

知的障害があると思われる方が、駅前のバス乗り場で自分が乗るバスがわからず大声や奇声を発して困っているときに声かけするか否かについて聞いたところ、「はい」が21.3%、「いいえ」が31.7%、「わからない」が45.0%となっており、声かけする人は2割を超えている。

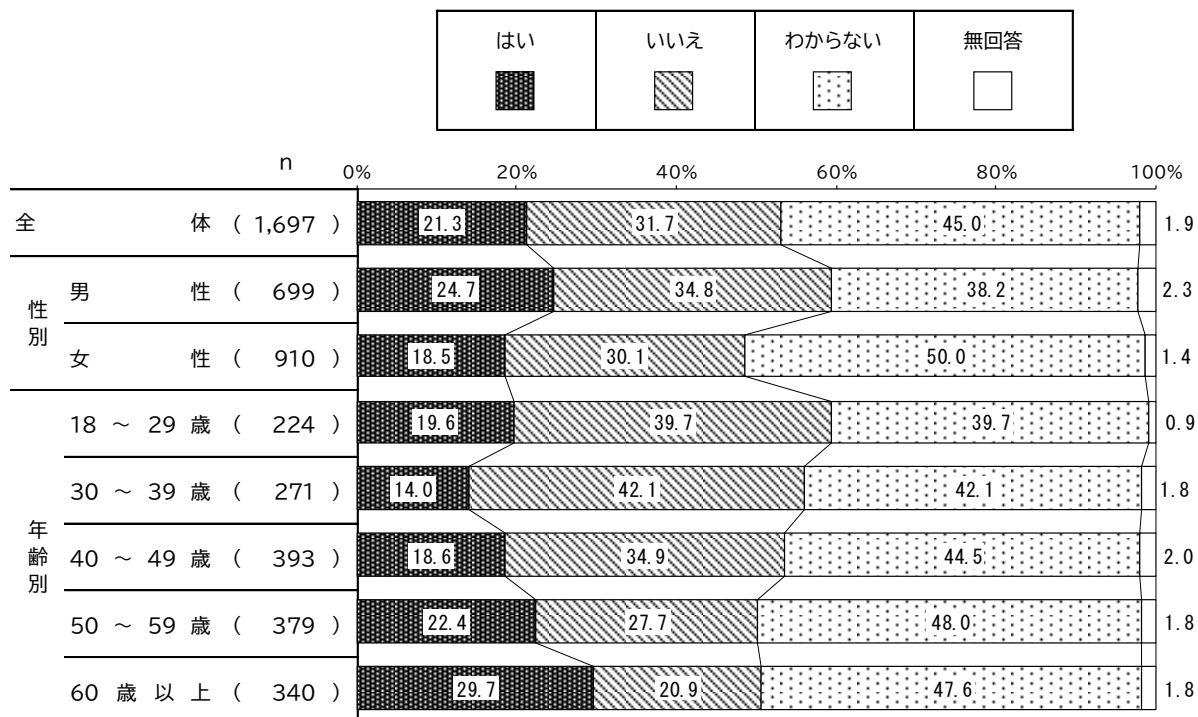


図Ⅲ－１１０ 「知的障害があると思われる方がバス乗り場で声を発して困っている場合の声かけ」有無

【性別／年齢別】

性別で比較すると、「はい」は、男性（24.7%）が女性（18.5%）より 6.2 ポイント高くなっている。

年齢別にみると、18～29 歳を除き、年齢が上がるに従い「はい」の割合が高くなる傾向が見られ、割合が最も低い 30～39 歳（14.0%）と最も高い 60 歳以上（29.7%）には 15.7 ポイントの差がある。



図Ⅲ－１１１ 「知的障害があると思われる方がバス乗り場で声を発して困っている場合の声かけ」有無（性別／年齢別）

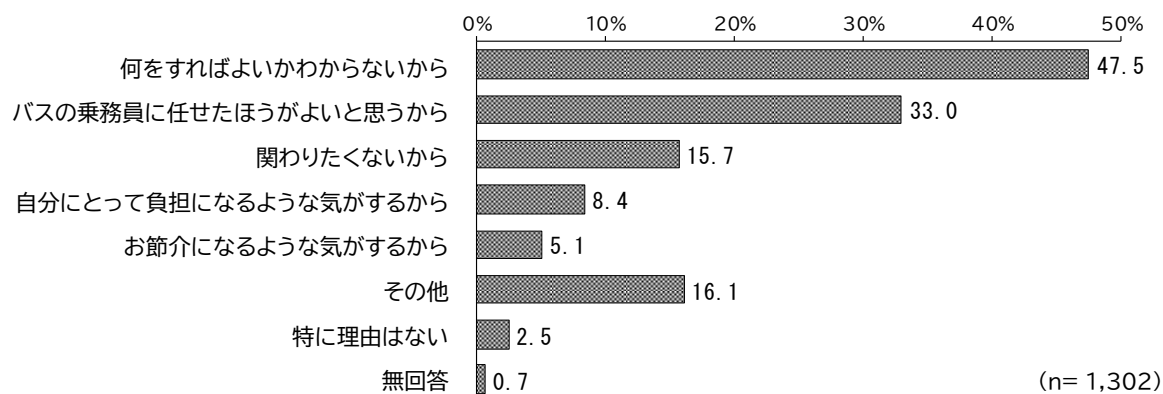
(4-1) 知的障害があると思われる方がバス乗り場で声を発して困っている場合に声かけしない理由

声かけしない理由は「何をすればよいかわからないから」が5割近く

(問32で、「2. いいえ」または「3. わからない」とお答えの方)

【問32-1】問32で「いいえ」または「わからない」を選択した理由として、あてはまるものはどれですか。(〇はいくつでも)

知的障害があると思われる方が、駅前のバス乗り場で自分が乗るバスがわからず大声や奇声を発して困っているときに声かけするか否かで「いいえ」または「わからない」と回答した方(1,302人)に、その理由を聞いたところ、「何をすればよいかわからないから」が47.5%で最も高く、次いで、「バスの乗務員に任せたほうがよいと思うから」(33.0%)、「関わりたくないから」(15.7%)と続いている。



図Ⅲ－１１２ 知的障害があると思われる方がバス乗り場で声を発して困っている場合に声かけしない理由

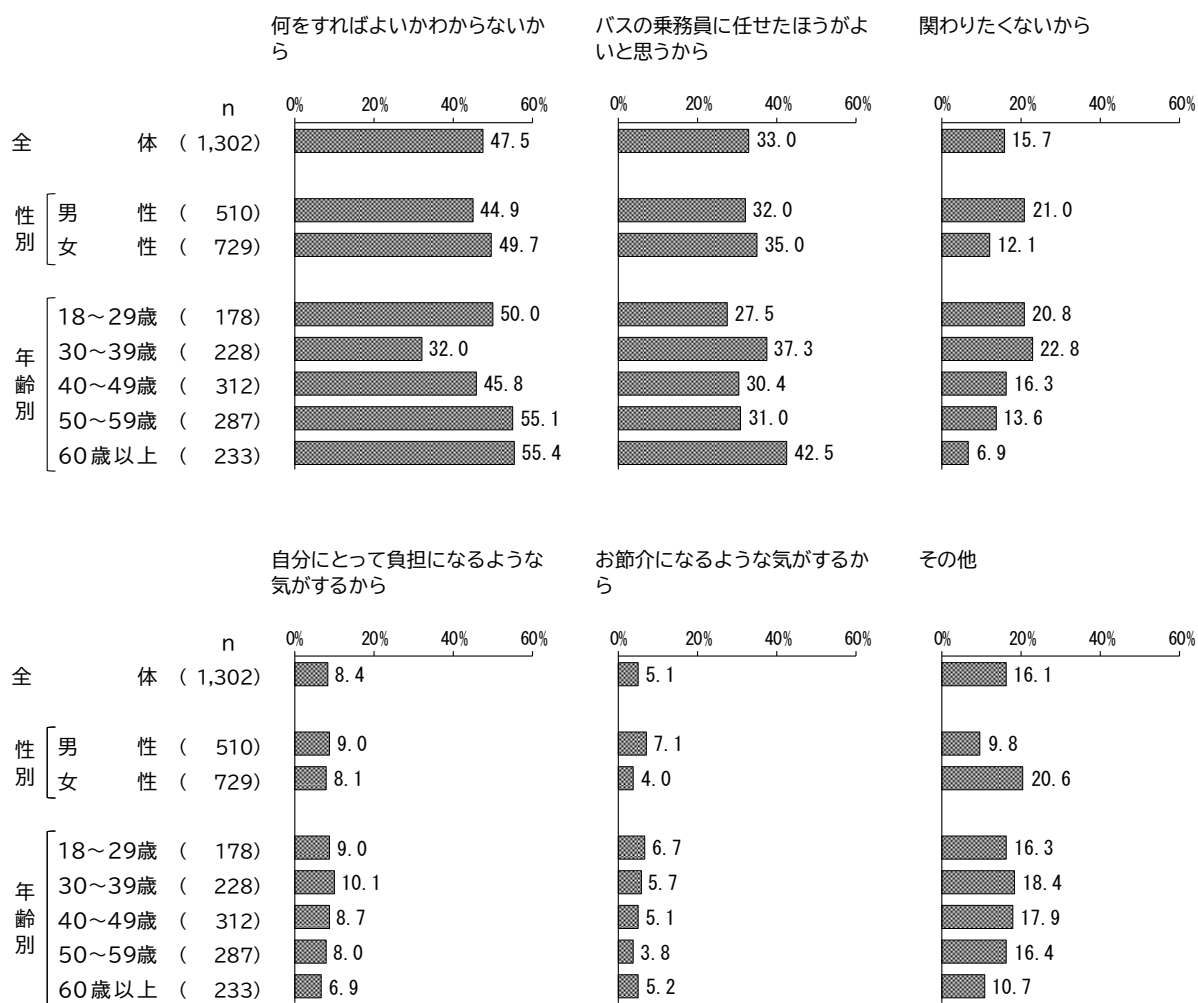
表Ⅲ－２９ 「その他」の内訳

「その他」の内容	件数
怖いから	56
以前叩かれた、殴られた、暴れだしそう、危害を加えられそうだから	29
そのときの状況や人で判断する	24
何に困っているかわからない、気づかないと思うから	24
どう声かけ・接すればよいかわからない、自信がないから	20
ヘルプマークを知らないから	15
他の人に助けを求めるほうがよいと思うから	14
余計に不安、パニックになってしまうかもしれないから	11
バス事情について自分もわからない、知識がないから	7
相手に言葉や話が伝わるかどうかかわからないから	6
大声や奇声を発しているとためらってしまう	5
子どもがいるので対応しきれない	4
その他	4
(記載なし)	1
合 計	220

【性別／年齢別】

性別で比較すると、「関わりたくないから」では、男性（21.0%）が女性（12.1%）より 8.9 ポイント高くなっている。一方、「何をすればよいかわからないから」は、女性（49.7%）が男性（44.9%）より 4.8 ポイント高くなっている。

年齢別にみると、「関わりたくないから」は 18～29 歳（20.8%）を除き、年齢が下がるに従い割合が高くなる傾向が見られる。「バスの乗務員に任せたほうがよいと思うから」は、60 歳以上で 42.5%と 4 割を超えている。



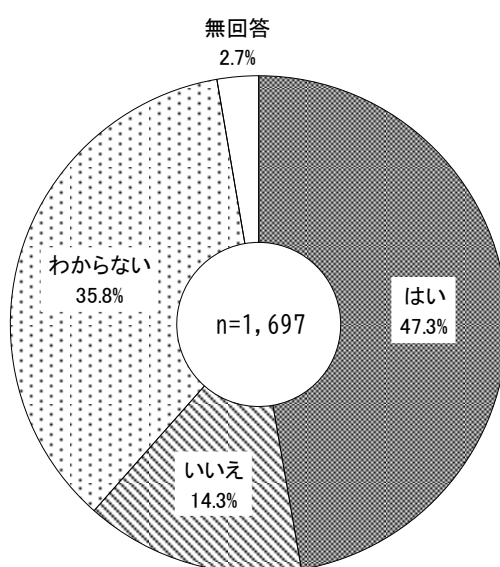
図Ⅲ－１１３ 知的障害があると思われる方がバス乗り場で声を発して困っている場合に声かけしない理由（性別／年齢別）

(5) 「精神（発達）障害があると思われる方がコミュニケーションが上手いかず困っている場合の声かけ」有無

コミュニケーションが上手いかず困っているときに、声かけする人は5割近く

【問33】あなたの職場内または学校内で、精神障害（もしくは発達障害）があるのか、コミュニケーションが上手いかずに困っている方がいます。あなたは、声をかけますか。
（○は1つ）

職場内または学校内で精神障害（もしくは発達障害）があると思われる方が、コミュニケーションが上手いかずに困っているときに声かけするか否かについて聞いたところ、「はい」が47.3%、「いいえ」が14.3%、「わからない」が35.8%となっており、声かけする人は5割近くとなっている。

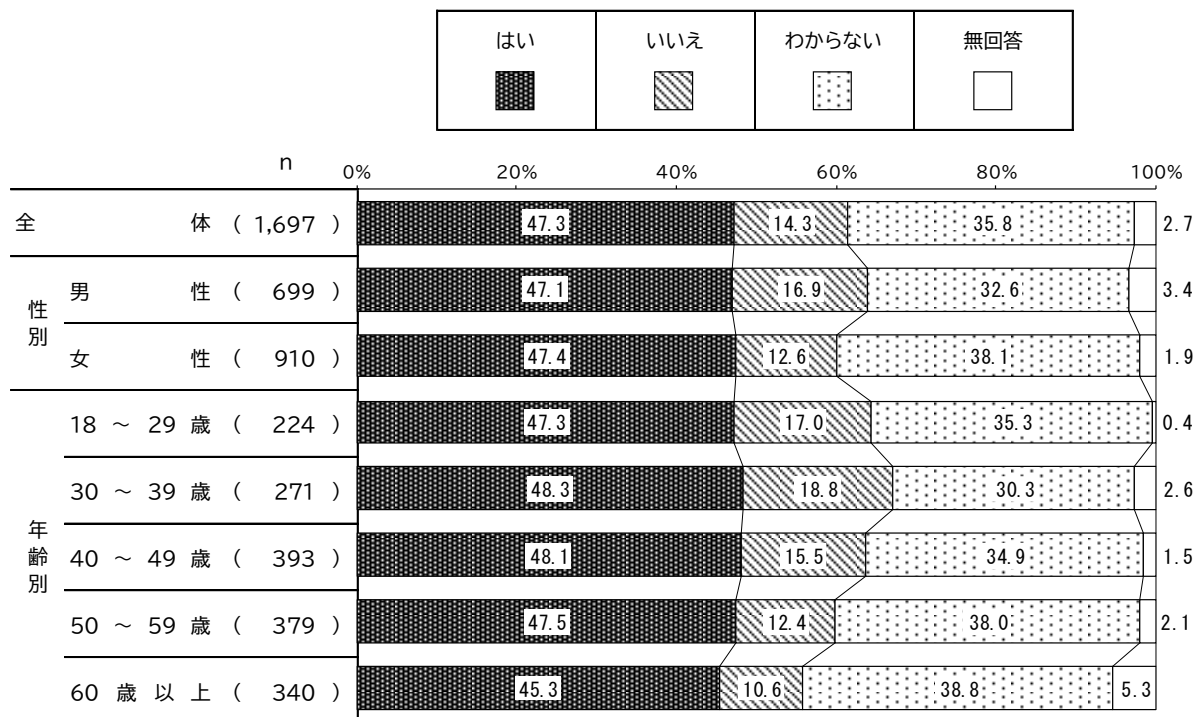


図Ⅲ－１１４ 「精神（発達）障害があると思われる方がコミュニケーションが上手いかず困っている場合の声かけ」有無

【性別／年齢別】

性別で比較すると、「いいえ」は、男性（16.9%）が女性（12.6%）より 4.3 ポイント高くなっている。

年齢別にみると、18～29 歳を除き、年齢が下がるに従い「いいえ」の割合が高くなる傾向があり、割合が最も高い 30～39 歳（18.8%）と最も低い 60 歳以上（10.6%）には 8.2 ポイントの差が見られる。



図Ⅲ－１１５ 「精神（発達）障害があると思われる方がコミュニケーションが上手いかず困っている場合の声かけ」有無（性別／年齢別）

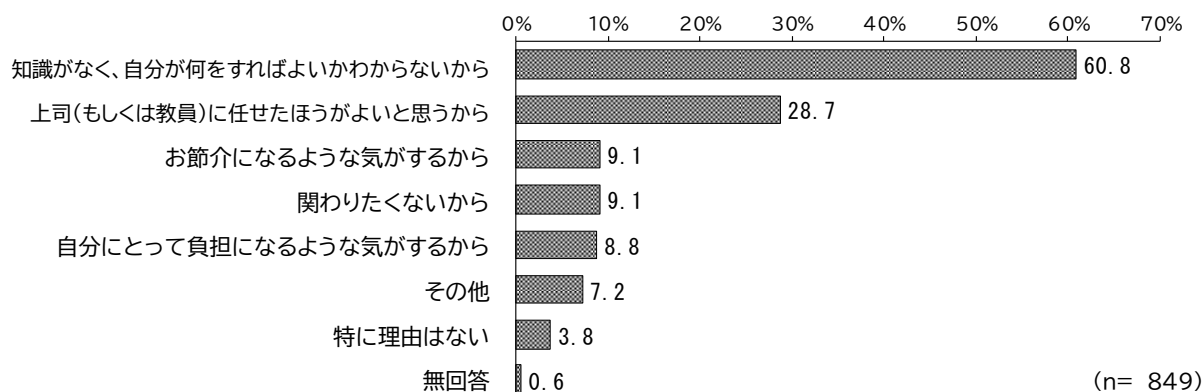
（５－１）精神（発達）障害があると思われる方がコミュニケーションが上手いか ず困っている場合に声かけしない理由

「知識がなく、自分が何をすればよいかわからないから」が６割超

（問３３で、「２. いいえ」または「３. わからない」とお答えの方）

【問３３－１】問３３で「いいえ」または「わからない」を選択した理由として、あてはまるものはどれですか。（〇はいくつでも）

職場内または学校内で精神障害（もしくは発達障害）があると思われる方が、コミュニケーションが上手いかずに困っているときに声かけするか否かで「いいえ」または「わからない」と回答した方（849人）に、その理由を聞いたところ、「知識がなく、自分が何をすればよいかわからないから」が60.8%で最も高く、次いで、「上司（もしくは教員）に任せたほうがよいと思うから」（28.7%）、「お節介になるような気がするから」と「関わりたくないから」（ともに9.1%）と続いている。



図Ⅲ－１１６ 精神（発達）障害があると思われる方がコミュニケーションが上手いかず困っている場合に声かけしない理由

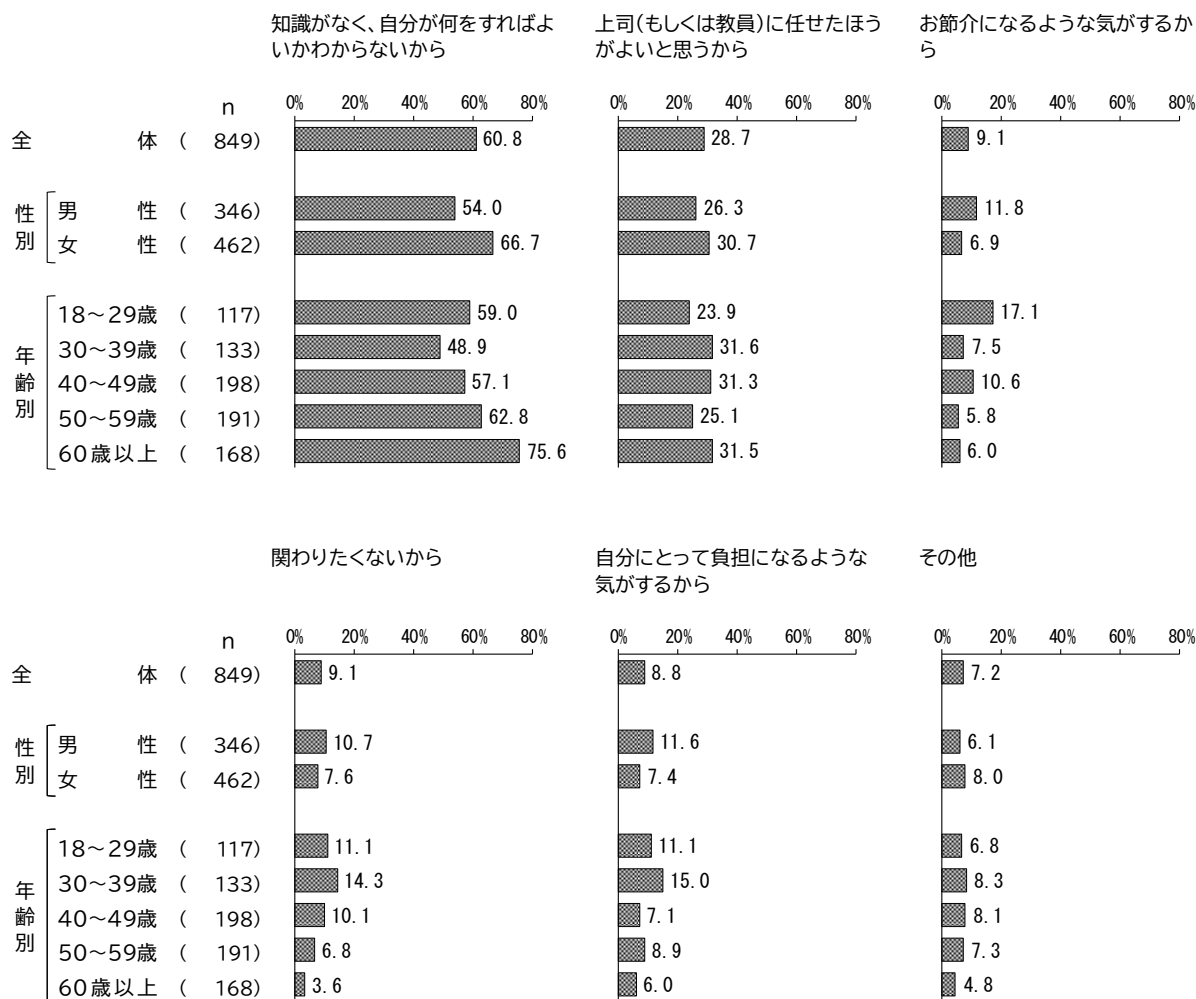
表Ⅲ－３０ 「その他」の内訳

「その他」の内容	件数
そのときの状況や人で判断する	21
自分が適任かどうか、正しく対応できるかどうかかわからないから	13
周りにいない、働いていないのでわからない	9
怖いから	5
接し方がわからないから	3
自分も被害を被るかもしれないから	2
精神（発達）障害があるのかかわからないから	2
上長や周囲に相談する、つなぐ	2
その他	4
（記載なし）	2
合 計	63

【性別／年齢別】

性別で比較すると、「知識がなく、自分が何をすればよいかわからないから」では、女性(66.7%)が男性(54.0%)より12.7ポイント高くなっている。一方、「お節介になるような気がするから」は、男性(11.8%)が女性(6.9%)より4.9ポイント高くなっている。

年齢別にみると、「知識がなく、自分が何をすればよいかわからないから」は18～29歳(59.0%)を除き、年齢が上がるに従い割合が高くなる傾向が見られ、60歳以上で75.6%と7割を超えている。



図Ⅲ－１１７ 精神（発達）障害があると思われる方がコミュニケーションが上手いかず困っている場合に声かけしない理由（性別／年齢別）

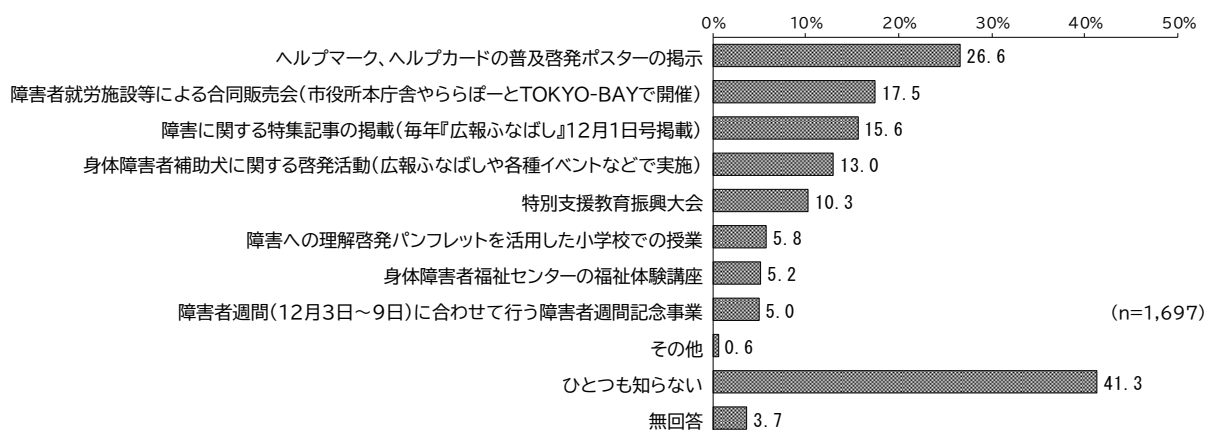
(6) 障害者施策で認知しているもの

「ヘルプマーク、ヘルプカードの普及啓発ポスターの掲示」は3割近くとなっているが、「ひとつも知らない」は4割超

【問34】障害者施策に関するもので知っているもの（「見たことがある」「聞いたことがある」でも可）はどれですか。（〇はいくつでも）

障害者施策に関するもので知っているものについて聞いたところ、「ヘルプマーク、ヘルプカードの普及啓発ポスターの掲示」が26.6%と最も高く、次いで、「障害者就労施設等による合同販売会（市役所本庁舎やららぽーとTOKYO-BAYで開催）」（17.5%）、「障害に関する特集記事の掲載（毎年『広報ふなばし』12月1日号掲載）」（15.6%）、「身体障害者補助犬に関する啓発活動（広報ふなばしや各種イベントなどで実施）」（13.0%）、「特別支援教育振興大会」（10.3%）と続いている。

なお、「ひとつも知らない」は41.3%と4割を超えている。



図Ⅲ－１１８ 障害者施策で認知しているもの

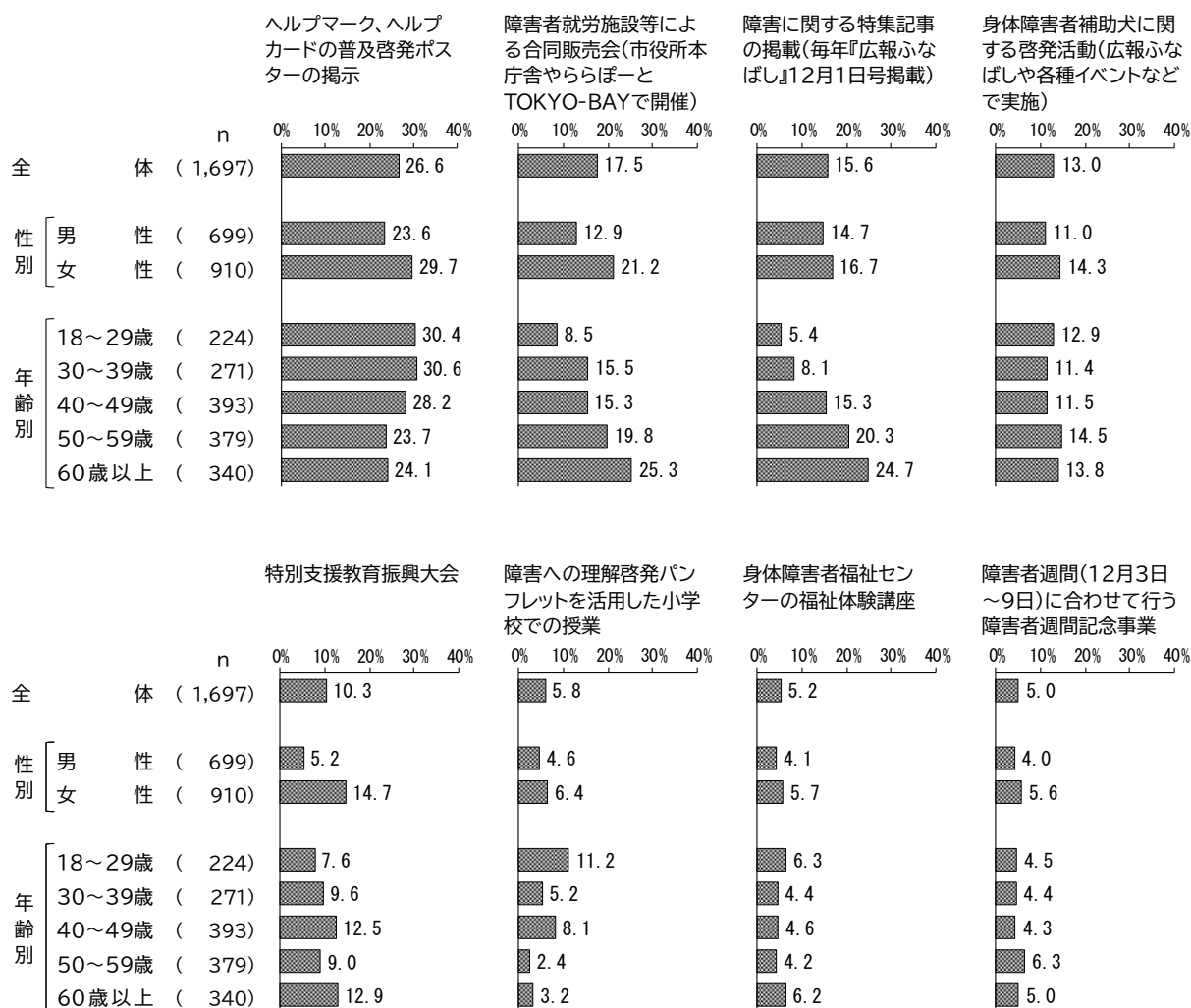
表Ⅲ－３１ 「その他」の内訳

「その他」の内容	件数
職場への受け入れや交流がある	4
障害児教育の経験・研修したことがある	3
学校でカレンダー販売をしている	1
ツイッターで見た	1
(記載なし)	1
合 計	10

【性別／年齢別】

性別で比較すると、全ての項目で女性が男性を上回っているが、「ヘルプマーク、ヘルプカードの普及啓発ポスターの掲示」、「障害者就労施設等による合同販売会（市役所本庁舎やららぼーと TOKYO-BAY で開催）」、「特別支援教育振興大会」では、女性（29.7%、21.2%、14.7%）が男性（23.6%、12.9%、5.2%）より各々6.1、8.3、9.5 ポイント高くなっている。

年齢別にみると、「障害者就労施設等による合同販売会（市役所本庁舎やららぼーと TOKYO-BAY で開催）」と「障害に関する特集記事の掲載（毎年『広報ふなばし』12月1日号掲載）」では、年齢が上がるに従い割合が高くなる傾向が見られる。一方、「ヘルプマーク、ヘルプカードの普及啓発ポスターの掲示」は年齢が下がるに従い割合が高くなる傾向が見られる。



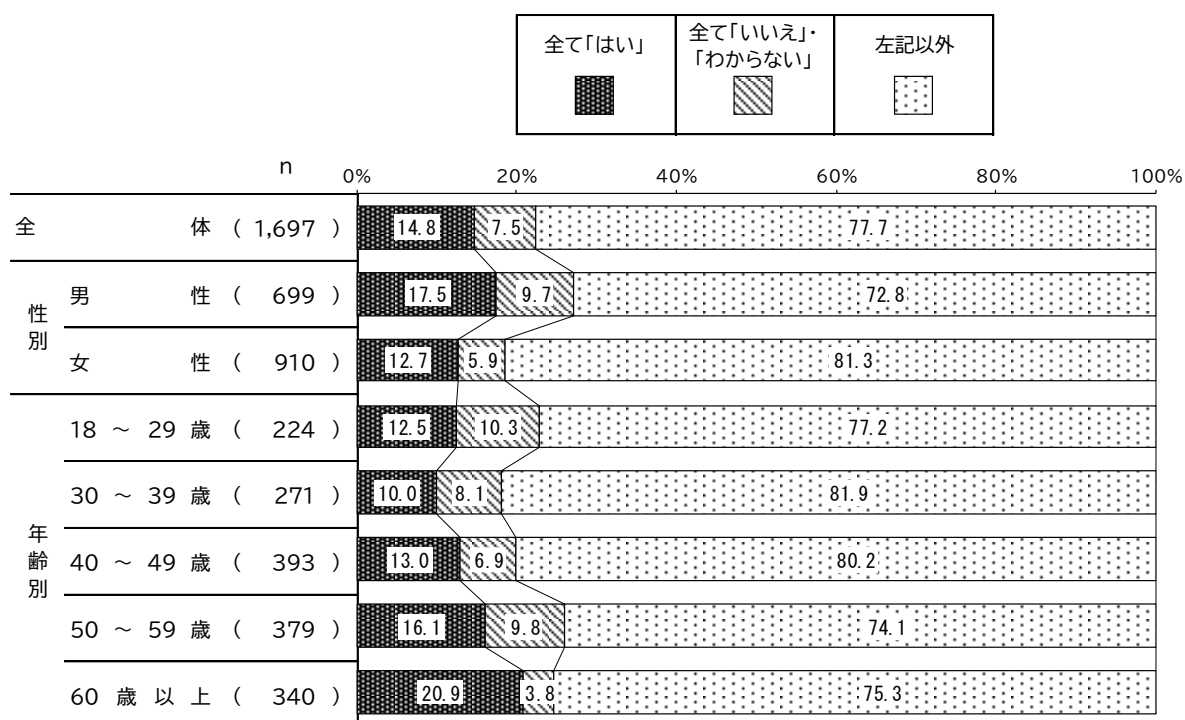
図Ⅲ－１１９ 障害者施策で認知しているもの（性別／年齢別）

(7) 「障害のある人への意識」概観

年齢が上がるに従い、全て声かけする「はい」の割合が高くなる傾向がある

障害のある人への5つの事例での声かけについての回答状況を性別で比較すると、全ての項目で「はい」と回答した割合は男性（17.5%）が女性（12.7%）より、4.8ポイント高い。

年齢別では、全ての項目で「はい」と回答した割合は18～29歳を除き、年齢が上がるに従い割合が高くなる傾向が見られ、最も低い30～39歳（10.0%）と最も高い60歳以上（20.9%）には10.9ポイントの差が見られる。



図Ⅲ－１２０ 障害のある人への声かけ（性別／年齢別）

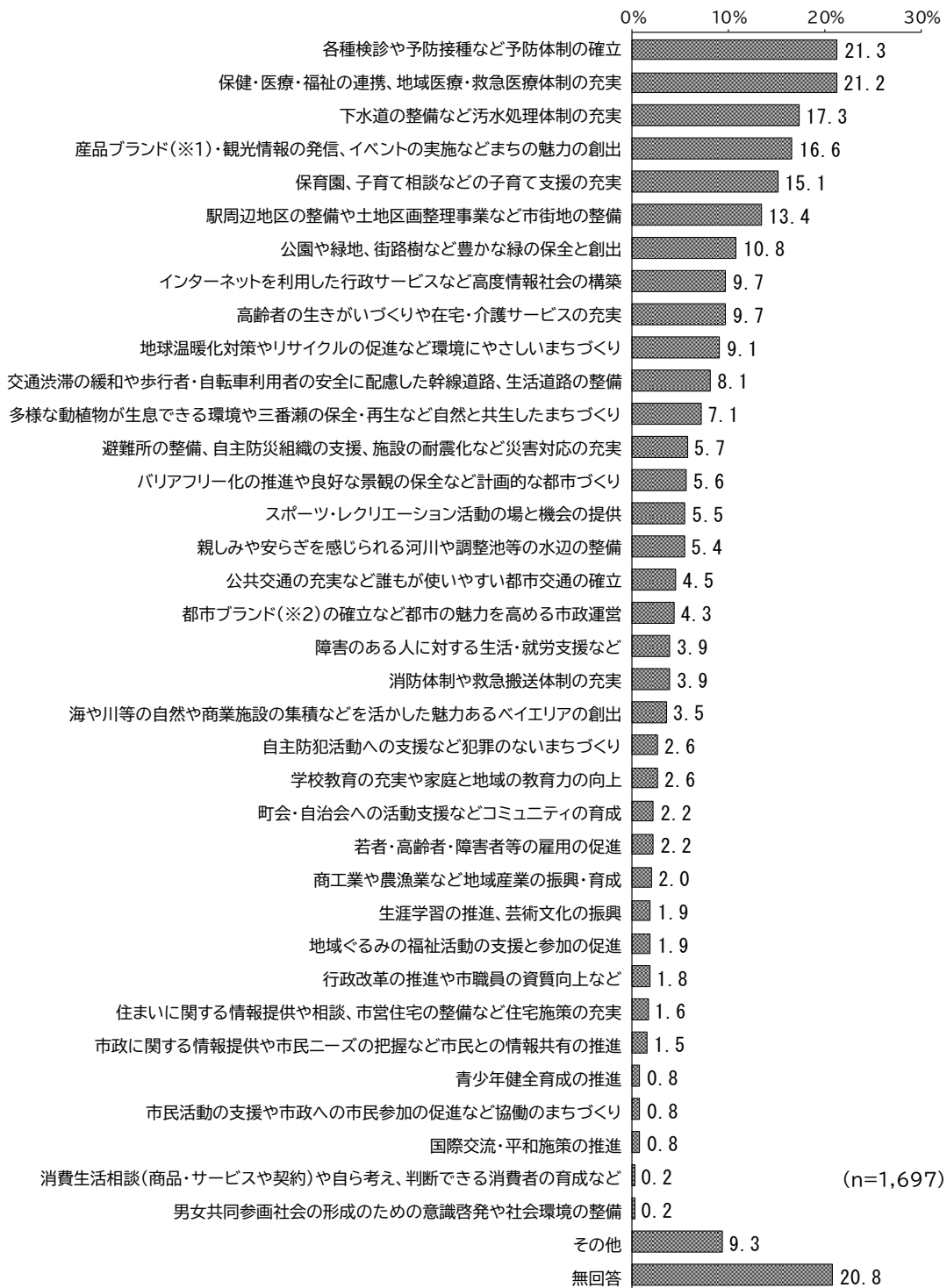
6. 「市の施策」について

(1) ここ数年でよくなったもの

よくなったものは、「各種検診や予防接種など予防体制の確立」が最も高く2割超

【問35】次ページの「表 市の施策（37項目）」について、どのように感じていますか。

① ここ数年でよくなったもの（5つまで選んで番号を記入してください）



(※1)産品ブランドとは、農水畜産品をはじめとした「船橋発」の産品のことです。

(※2)都市ブランドとは、市民や市外の人々が共通に抱く「〇〇市らしさ」、良好なイメージのことです。

図Ⅲ－１２１ ここ数年でよくなったもの

37 項目の市の施策について、「ここ数年でよくなったもの」は何か聞いたところ、「各種検診や予防接種など予防体制の確立」が 21.3%で最も高く、次いで「保健・医療・福祉の連携、地域医療・救急医療体制の充実」(21.2%)、「下水道の整備など污水处理体制の充実」(17.3%)、「産品ブランド・観光情報の発信、イベントの実施などまちの魅力の創出」(16.6%)、「保育園、子育て相談などの子育て支援の充実」(15.1%)、「駅周辺地区の整備や土地区画整理事業など市街地の整備」(13.4%) の順で上位 6 項目が挙がっている。

表Ⅲ－３２ 「その他」の内訳

「その他」の内容	件数
駅前の飲食店の客引きの取り締まり	2
広報紙の内容や写真がよくなった	2
コロナ情報を詳しく記載、情報発信していること	2
コロナ対策、コロナ時の学校の対応（インターネット活用など）	2
子どもの医療費の支援	1
ゴミ収集車の音が静かになった	1
小学校、中学校にエアコンが導入された	1
離婚後の養育費請求等一人親世帯への支援の取組	1
図書館（中央図書館利用）の利用（対応）がしやすくなった	1
公民館がリニューアルした	1
木戸川遊歩道、大穴近隣公園がよくなった	1
駐輪場が増えた	1
自宅前の道路にライトが増え、夜歩くときに安心できるようになった	1
船橋駅のシャポー、西船橋駅などきれいになって利用しやすくなった	1
フェイス内の市役所の方々がとても親切で安心感が増した	1
バスが増えたのは嬉しかった	1
スーパーが増えて買い物が便利になった	1
よくなったものは特にない・実感できない	45
わからない	85
（記載なし）	10
合 計	161

【性別／年齢別】（上位 8 項目）

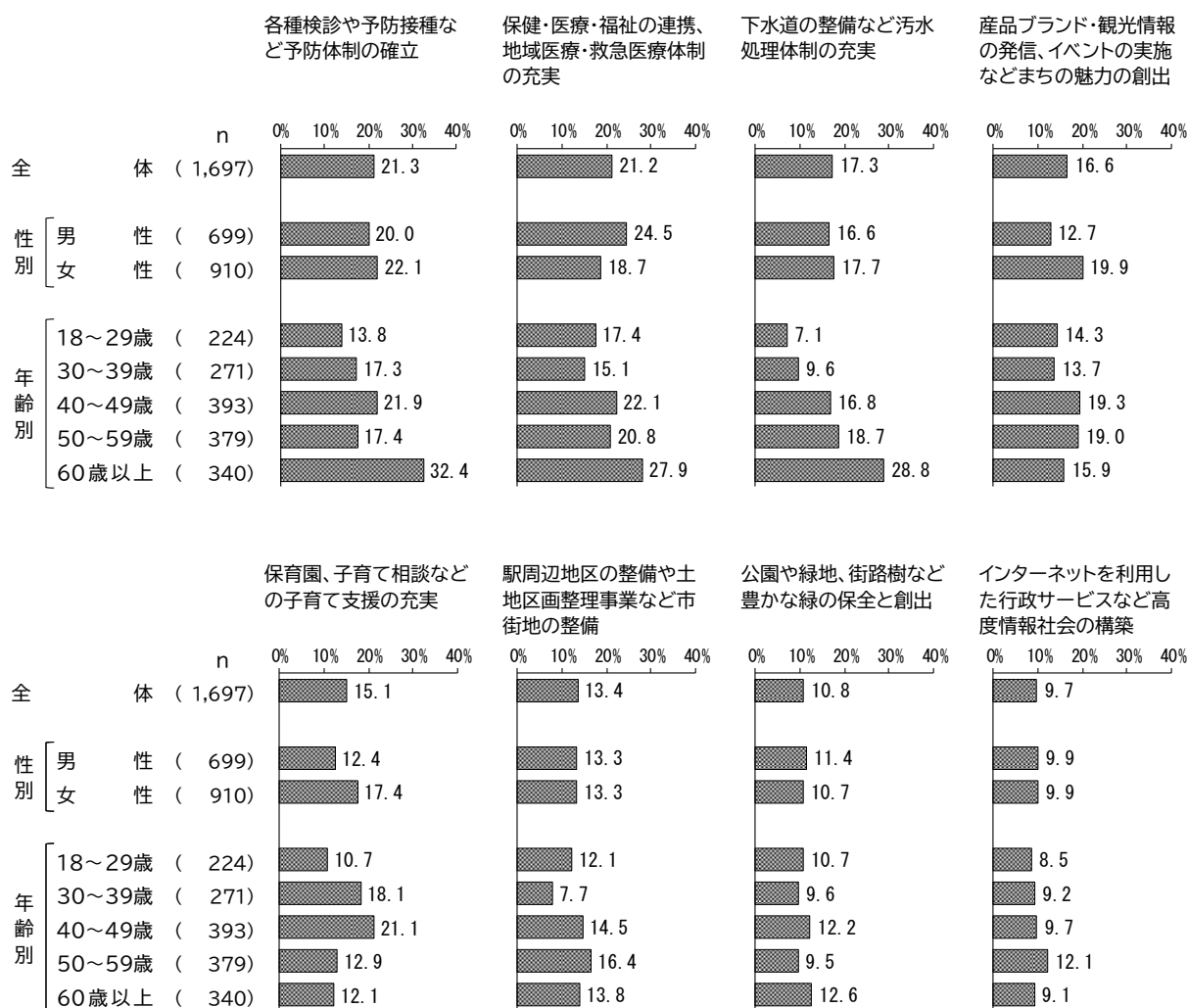
性別で比較すると、「産品ブランド・観光情報の発信、イベントの実施などまちの魅力の創出」、「保育園、子育て相談などの子育て支援の充実」では、女性（19.9%、17.4%）の方が男性（12.7%、12.4%）の割合より各々7.2、5.0ポイント高くなっている。

「保健・医療・福祉の連携、地域医療・救急医療体制の充実」では、男性（24.5%）が女性（18.7%）より 5.8ポイント高くなっている。

年齢別にみると、「各種検診や予防接種など予防体制の確立」は、最も高い 60 歳以上（32.4%）と最も低い 18～29 歳（13.8%）の差が 18.6ポイントとなっている。

「下水道の整備など污水处理体制の充実」では、年齢が上がるに従い割合が高くなっており、最も高い 60 歳以上（28.8%）と最も低い 18～29 歳（7.1%）との差は 21.7ポイントとなっている。

「保育園、子育て相談などの子育て支援の充実」では、40～49 歳（21.1%）、30～39 歳（18.1%）の割合が他の年齢に比べ高くなっている。



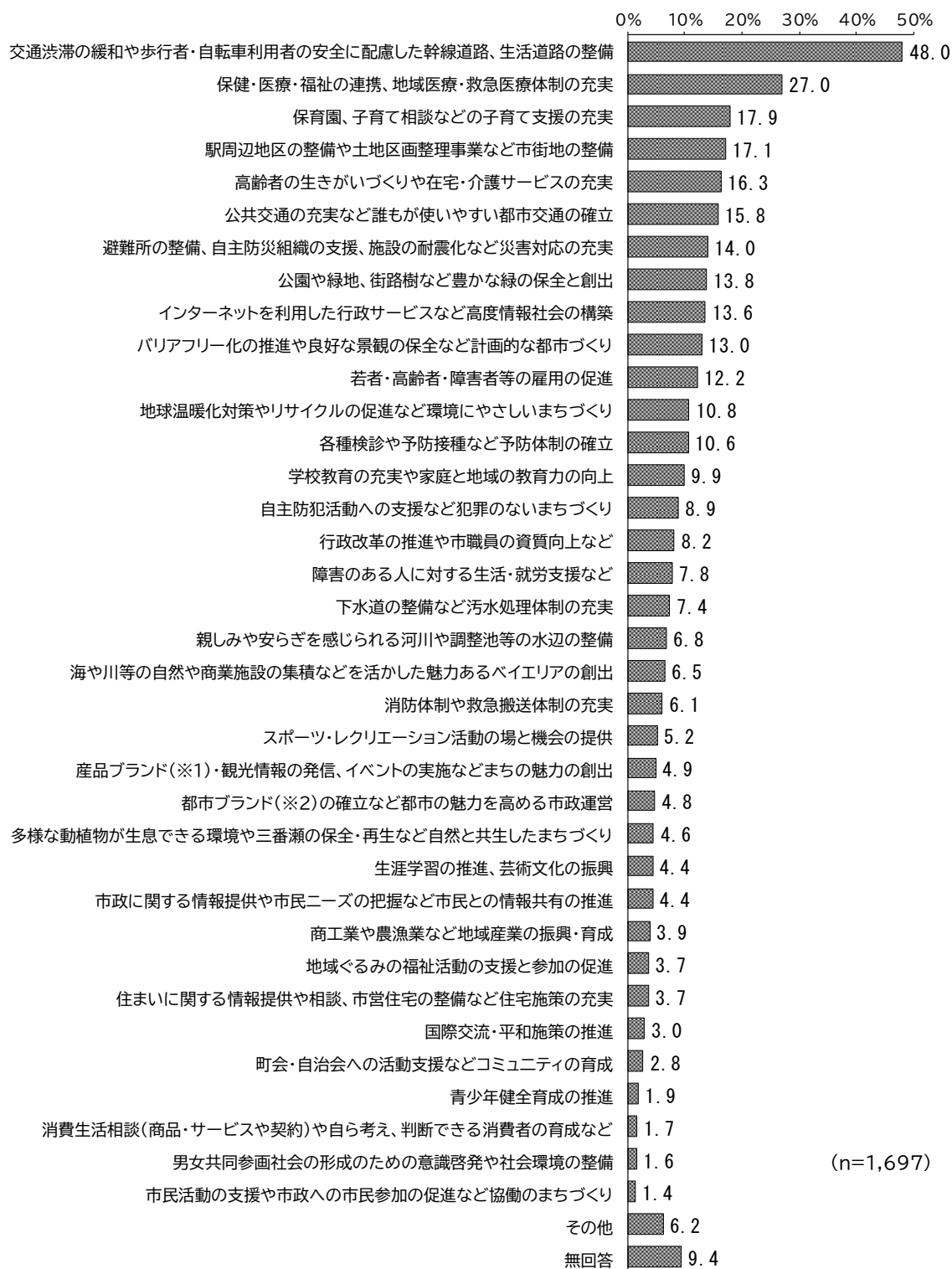
図Ⅲ－１２２ ここ数年でよくなったもの（性別／年齢別）（上位 8 項目）

(2) 力を入れるべきもの

力を入れるべきものは、「交通渋滞の緩和や歩行者・自転車利用者の安全に配慮した幹線道路、生活道路の整備」が5割弱

【問35】次ページの「表 市の施策（37項目）」について、どのように感じていますか。

② 力を入れるべきもの（5つまで選んで番号を記入してください）



(※1)産品ブランドとは、農水畜産品をはじめとした「船橋発」の産品のことです。

(※2)都市ブランドとは、市民や市外の人々が共通に抱く「〇〇市らしさ」、良好なイメージのことです。

図Ⅲ－123 力を入れるべきもの

37 項目の市の施策について、「力を入れるべきもの」は何か聞いたところ、「交通渋滞の緩和や歩行者・自転車利用者の安全に配慮した幹線道路、生活道路の整備」が 48.0%で最も高く 5 割弱となっている。次いで「保健・医療・福祉の連携、地域医療・救急医療体制の充実」(27.0%)、「保育園、子育て相談などの子育て支援の充実」(17.9%)、「駅周辺地区の整備や土地区画整理事業など市街地の整備」(17.1%)、「高齢者の生きがいづくりや在宅・介護サービスの充実」(16.3%)、「公共交通の充実など誰もが使いやすい都市交通の確立」(15.8%)の順で上位 6 項目が挙がっている。

表Ⅲ－３３ 「その他」の内訳

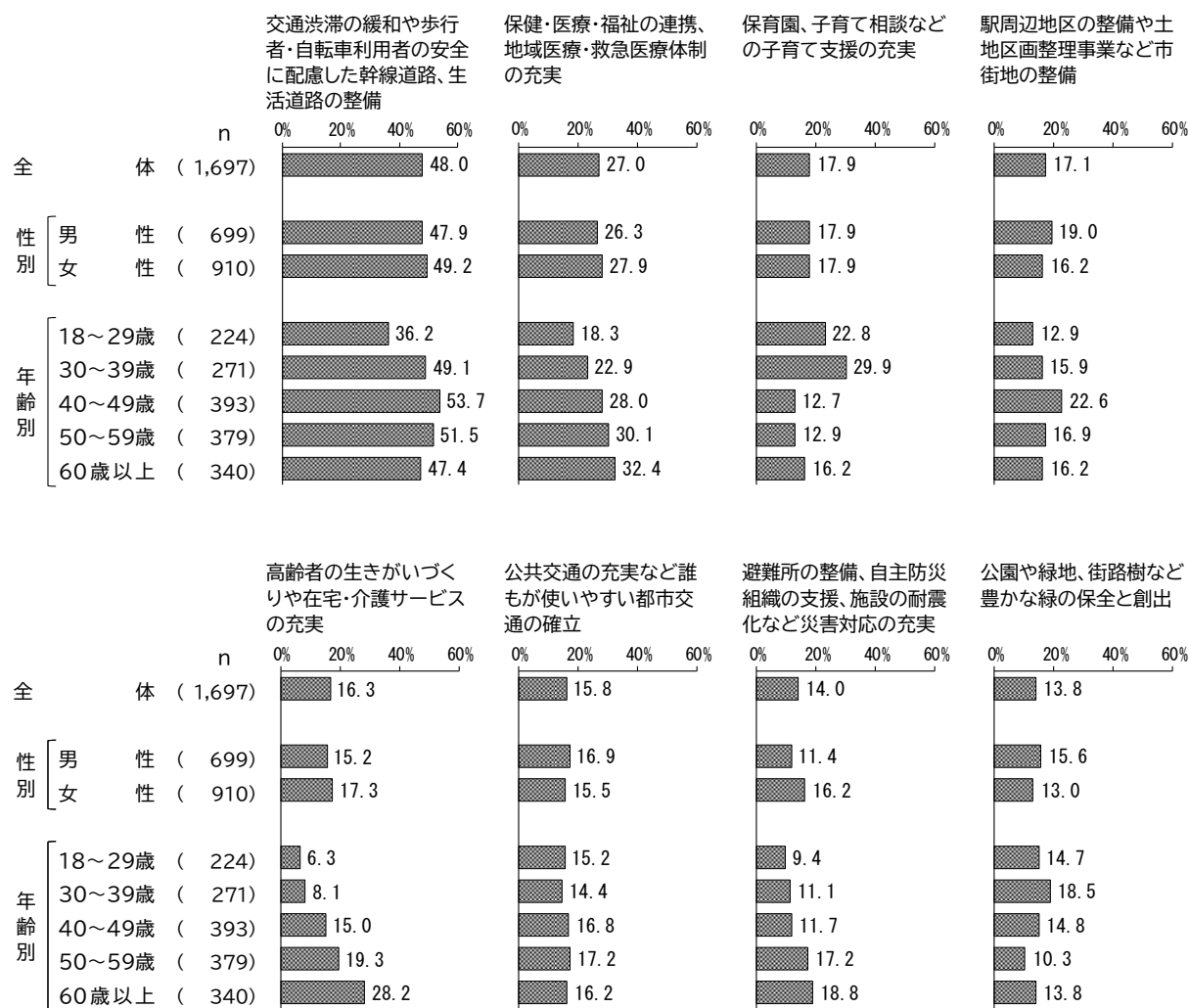
「その他」の内容	件数
都市計画・まちづくりに関すること	27
支援・助成（子ども、学生）に関すること	6
公園、里山に関すること	6
ごみ（回収数など）に関すること	5
学校（教育内容、施設、給食など）に関すること	5
広報（連絡先、ホームページなど）に関すること	5
上下水道、雨水に関すること	5
支援・助成（コロナ）に関すること	4
自転車（駐輪場、マナー、取締りなど）に関すること	3
行政サービス（窓口）に関すること	3
公共交通機関（鉄道運賃、コミュニティバスなど）に関すること	3
災害対策に関すること	3
公衆衛生（猫や鳥の糞、虫など）に関すること	2
税・財政に関すること	2
治安維持（街灯、防犯カメラ設置など）に関すること	2
病院・医療体制に関すること	2
その他	14
特にない	4
わからない	19
（記載なし）	5
合 計	125

【性別／年齢別】（上位 8 項目）

性別で比較すると、「避難所の整備、自主防災組織の支援、施設の耐震化など災害対応の充実」では、女性（16.2%）の方が男性（11.4%）の割合より 4.8 ポイント高くなっている。

年齢別にみると、「保健・医療・福祉の連携、地域医療・救急医療体制の充実」、「高齢者の生きがいがづくりや在宅・介護サービスの充実」の割合が、年齢が上がるに従い割合が高くなっており、最も高い 60 歳以上（32.4%、28.2%）と最も低い 18～29 歳（18.3%、6.3%）の差は、各々 14.1、21.9 ポイントとなっている。

「保育園、子育て相談などの子育て支援の充実」では、30～39 歳（29.9%）、18～29 歳（22.8%）の割合が他の年齢に比べ高い。



図Ⅲ－１２４ 力を入れるべきもの（性別／年齢別）（上位 8 項目）

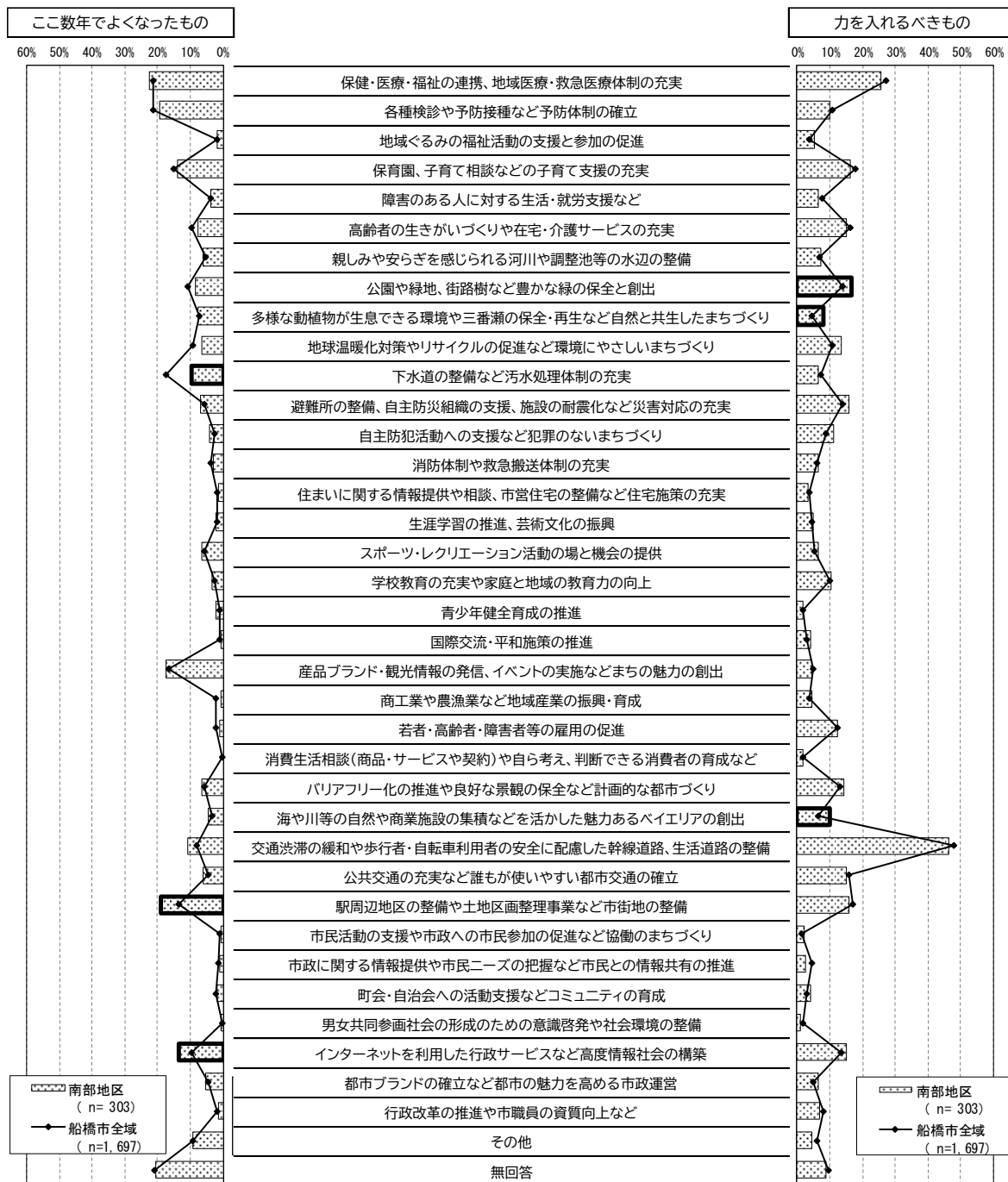
(3) 「市の施策」地区別分析

船橋市全域と比較し、3%以上の開きがあり、差が大きい上位3つまでの施策を記載・分析する。

【南部地区】

船橋市全域と比べ、「ここ数年でよかったもの」では、「駅周辺地区の整備や土地区画整理事業など市街地の整備」、「インターネットを利用した行政サービスなど高度情報社会の構築」が高く、「下水道の整備など污水处理体制の充実」が低くなっている。

船橋市全域と比べ、「力を入れるべきもの」では、「海や川等の自然や商業施設の集積などを活かした魅力あるベイエリアの創出」、「多様な動植物が生息できる環境や三番瀬の保全・再生など自然と共生したまちづくり」、「公園や緑地、街路樹など豊かな緑の保全と創出」が高くなっているが、特に低くなっている施策はない。



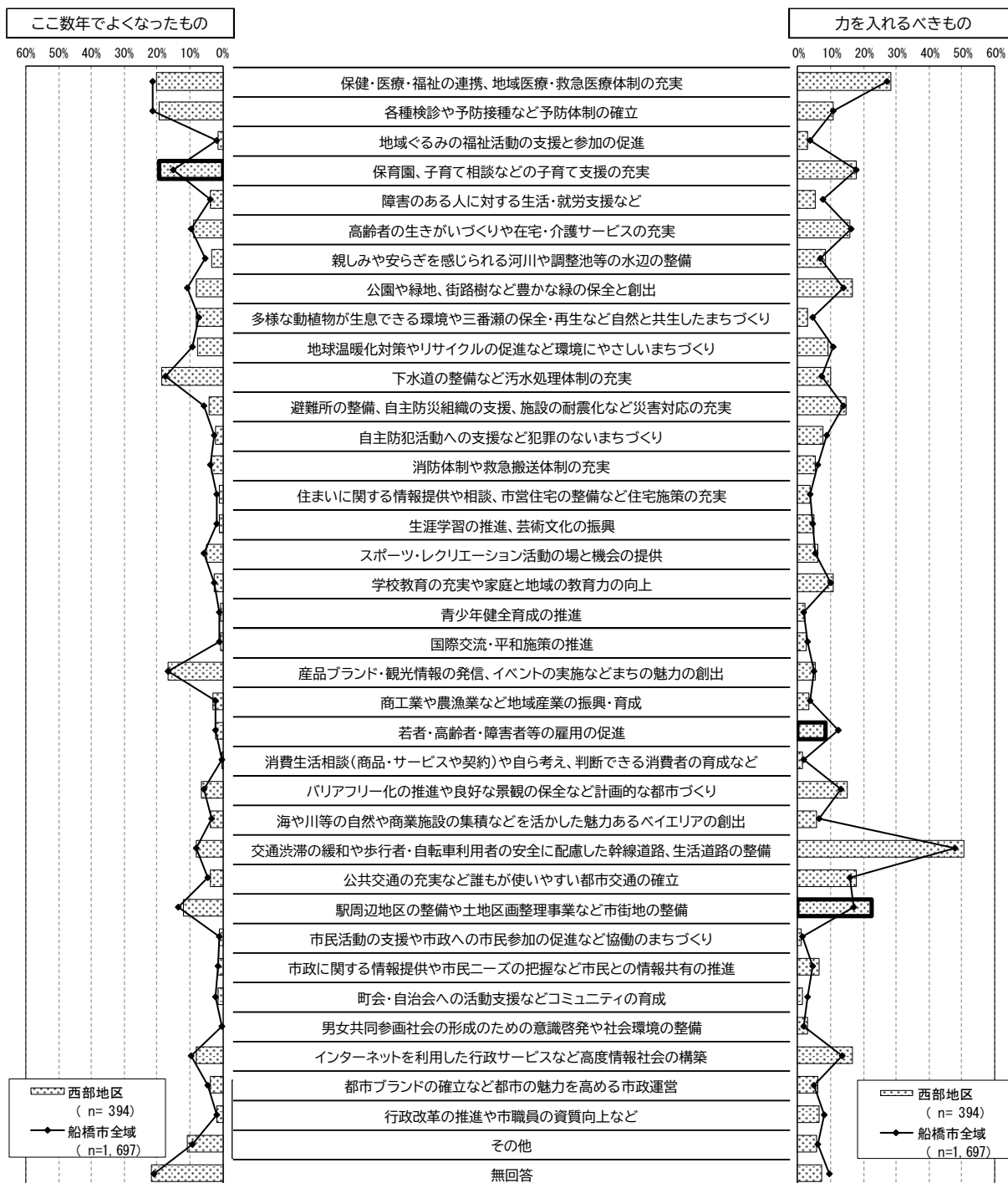
※太い線の棒グラフは、船橋市全域との差が3.0%以上

図Ⅲ－125 「市の施策」地区別分析（南部地区）

【西部地区】

船橋市全域と比べ、「ここ数年でよかったもの」では、「保育園、子育て相談などの子育て支援の充実」が高くなっているが、特に低くなっている施策はない。

船橋市全域と比べ、「力を入れるべきもの」では、「駅周辺地区の整備や土地区画整理事業など市街地の整備」が高く、「若者・高齢者・障害者等の雇用の促進」が低くなっている。



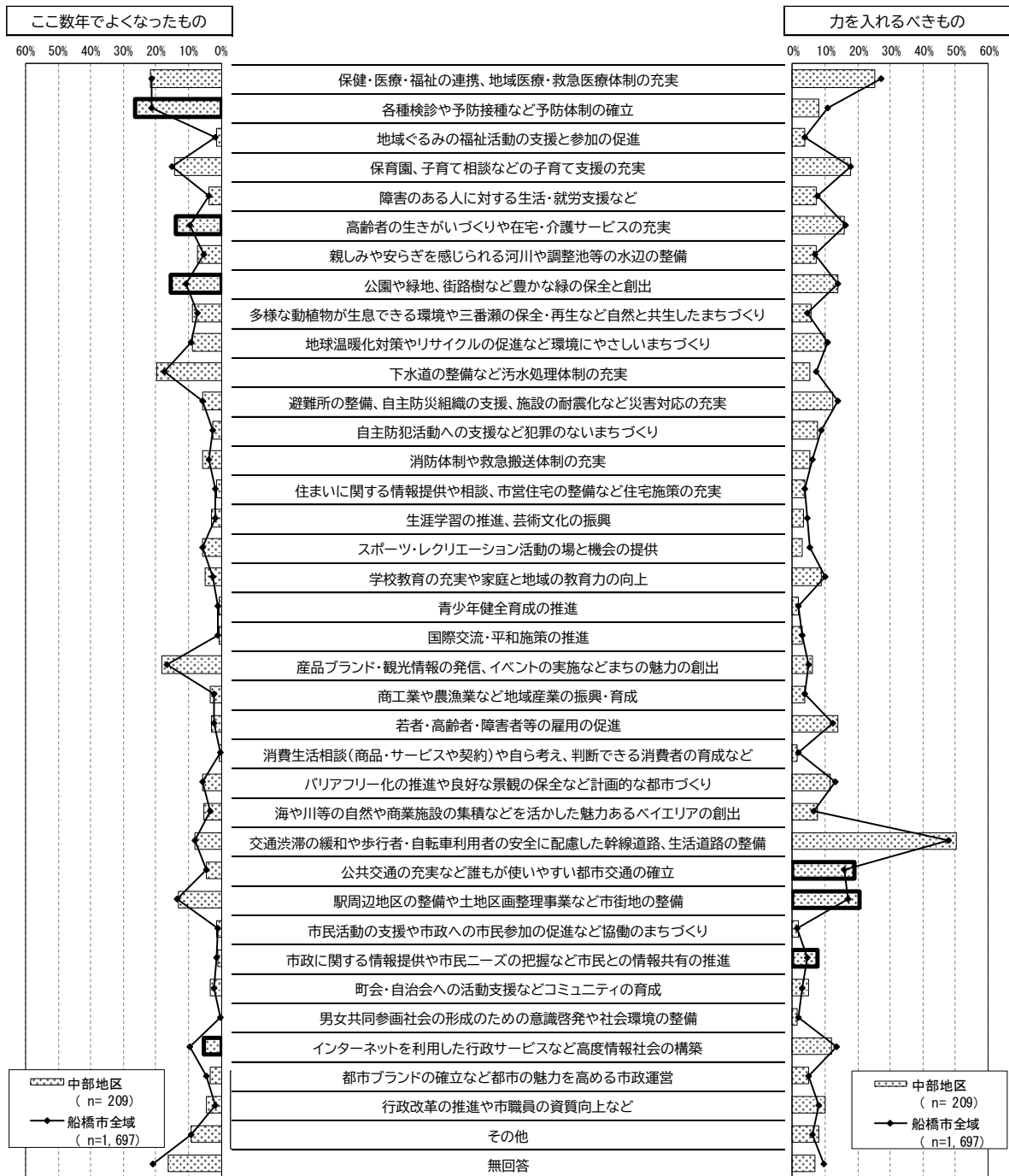
※太い線の棒グラフは、船橋市全域との差が3.0%以上

図Ⅲ－１２６ 「市の施策」地区別分析（西部地区）

【中部地区】

船橋市全域と比べ、「ここ数年でよかったもの」では、「各種検診や予防接種など予防体制の確立」、「公園や緑地、街路樹など豊かな緑の保全と創出」、「高齢者の生きがいがづくりや在宅・介護サービスの充実」が高く、「インターネットを利用した行政サービスなど高度情報社会の構築」が低くなっている。

船橋市全域と比べ、「力を入れるべきもの」では、「駅周辺地区の整備や土地区画整理事業など市街地の整備」、「公共交通の充実など誰もが使いやすい都市交通の確立」、「市政に関する情報提供や市民ニーズの把握など市民との情報共有の推進」が高くなっているが、特に低くなっている施策はない。



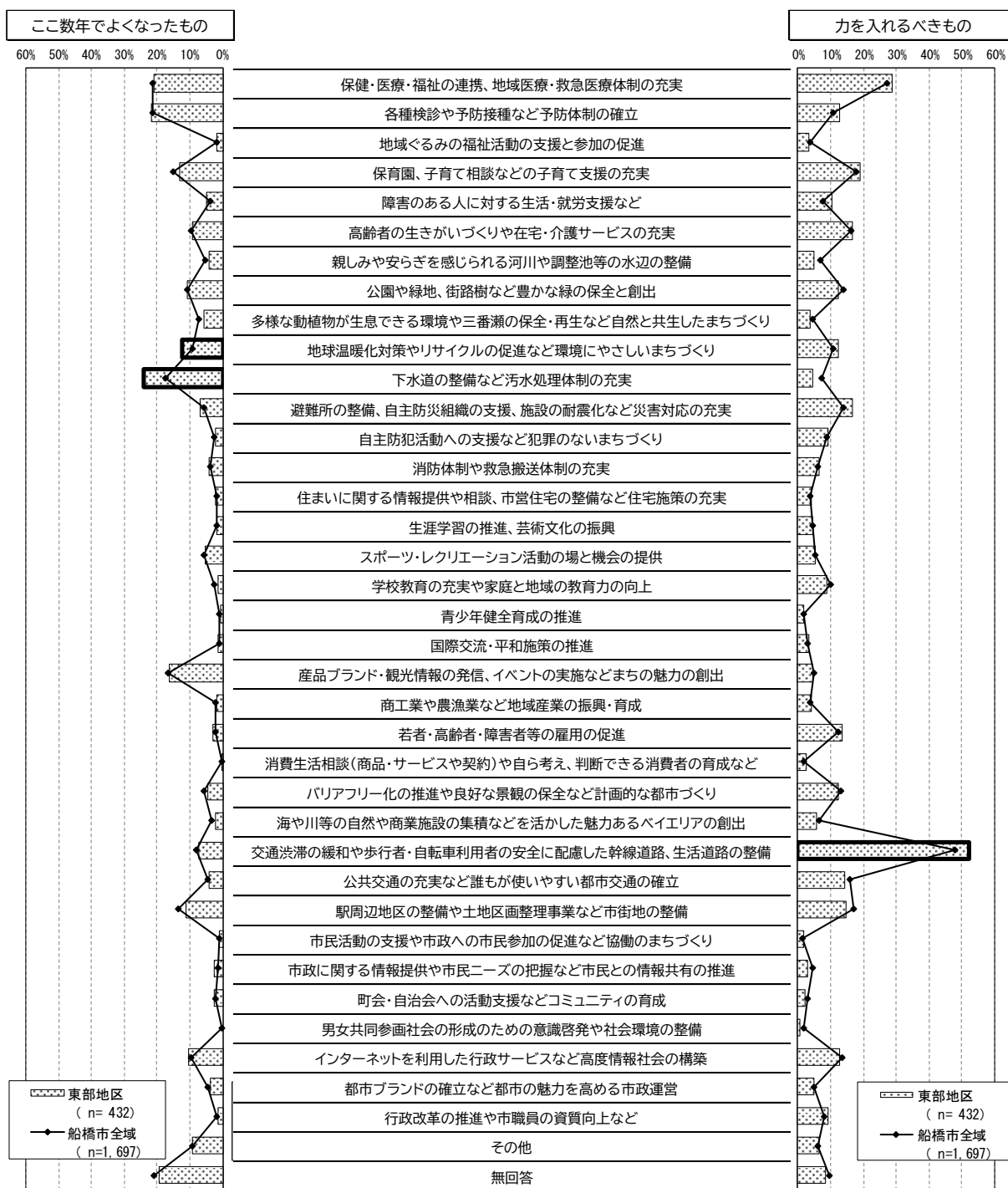
※太い線の棒グラフは、船橋市全域との差が3.0%以上

図Ⅲ－１２７ 「市の施策」地区別分析（中部地区）

【東部地区】

船橋市全域と比べ、「ここ数年でよかったもの」では、「下水道の整備など污水处理体制の充実」、「地球温暖化対策やリサイクルの促進など環境にやさしいまちづくり」が高くなっているが、特に低くなっている施策はない。

船橋市全域と比べ、「力を入れるべきもの」では、「交通渋滞の緩和や歩行者・自転車利用者の安全に配慮した幹線道路、生活道路の整備」が高くなっているが、特に低くなっている施策はない。



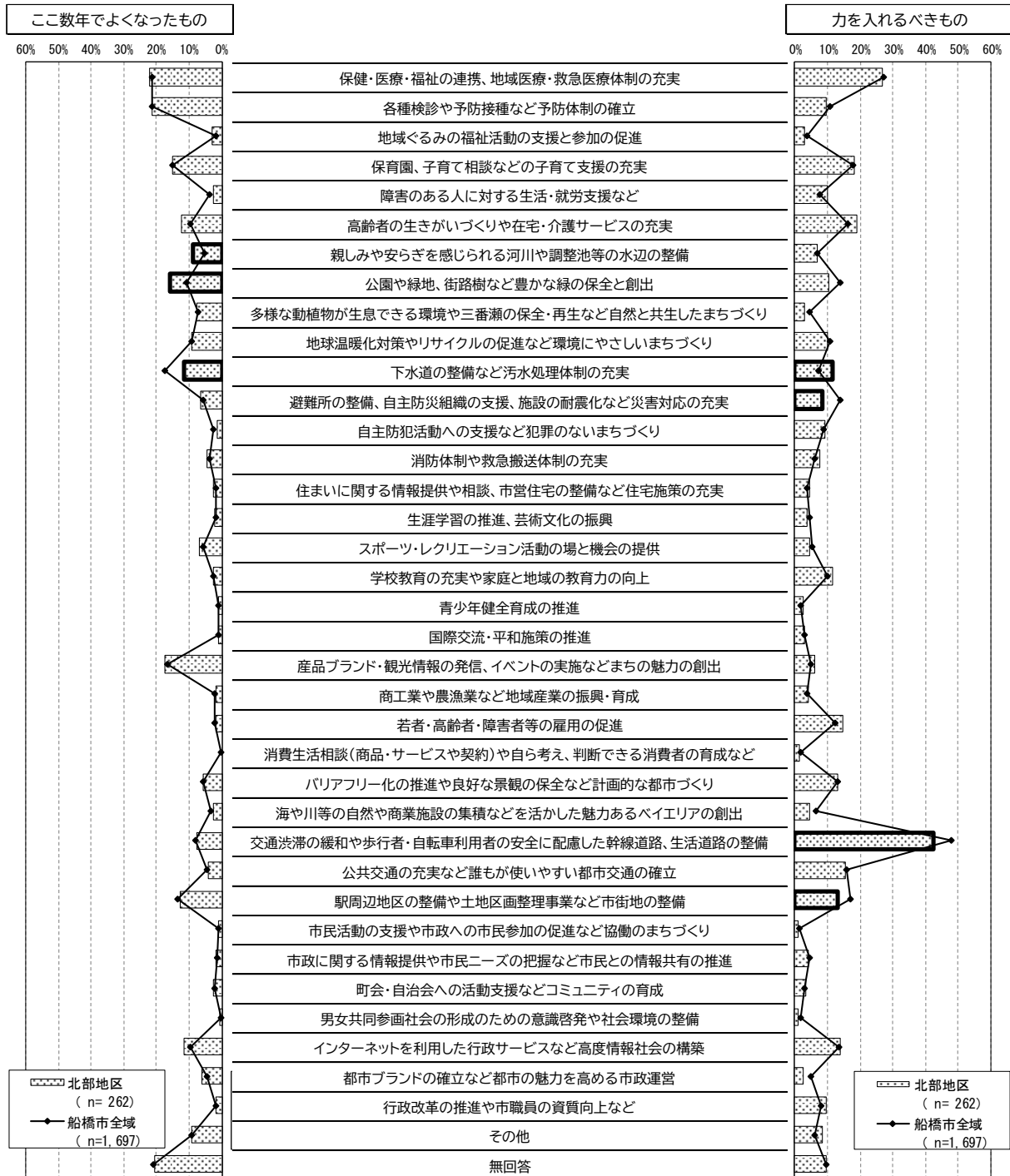
※太い線の棒グラフは、船橋市全域との差が3.0%以上

図Ⅲ－１２８ 「市の施策」地区別分析（東部地区）

【北部地区】

船橋市全域と比べ、「ここ数年でよかったもの」では、「公園や緑地、街路樹など豊かな緑の保全と創出」、「親しみや安らぎを感じられる河川や調整池等の水辺の整備」が高く、「下水道の整備など汚水処理体制の充実」が低くなっている。

船橋市全域と比べ、「力を入れるべきもの」では、「下水道の整備など汚水処理体制の充実」が高く、「交通渋滞の緩和や歩行者・自転車利用者の安全に配慮した幹線道路、生活道路の整備」、「避難所の整備、自主防災組織の支援、施設の耐震化など災害対応の充実」、「駅周辺地区の整備や土地区画整理事業など市街地の整備」などが低くなっている。



図Ⅲ－１２９ 「市の施策」地区別分析（北部地区）

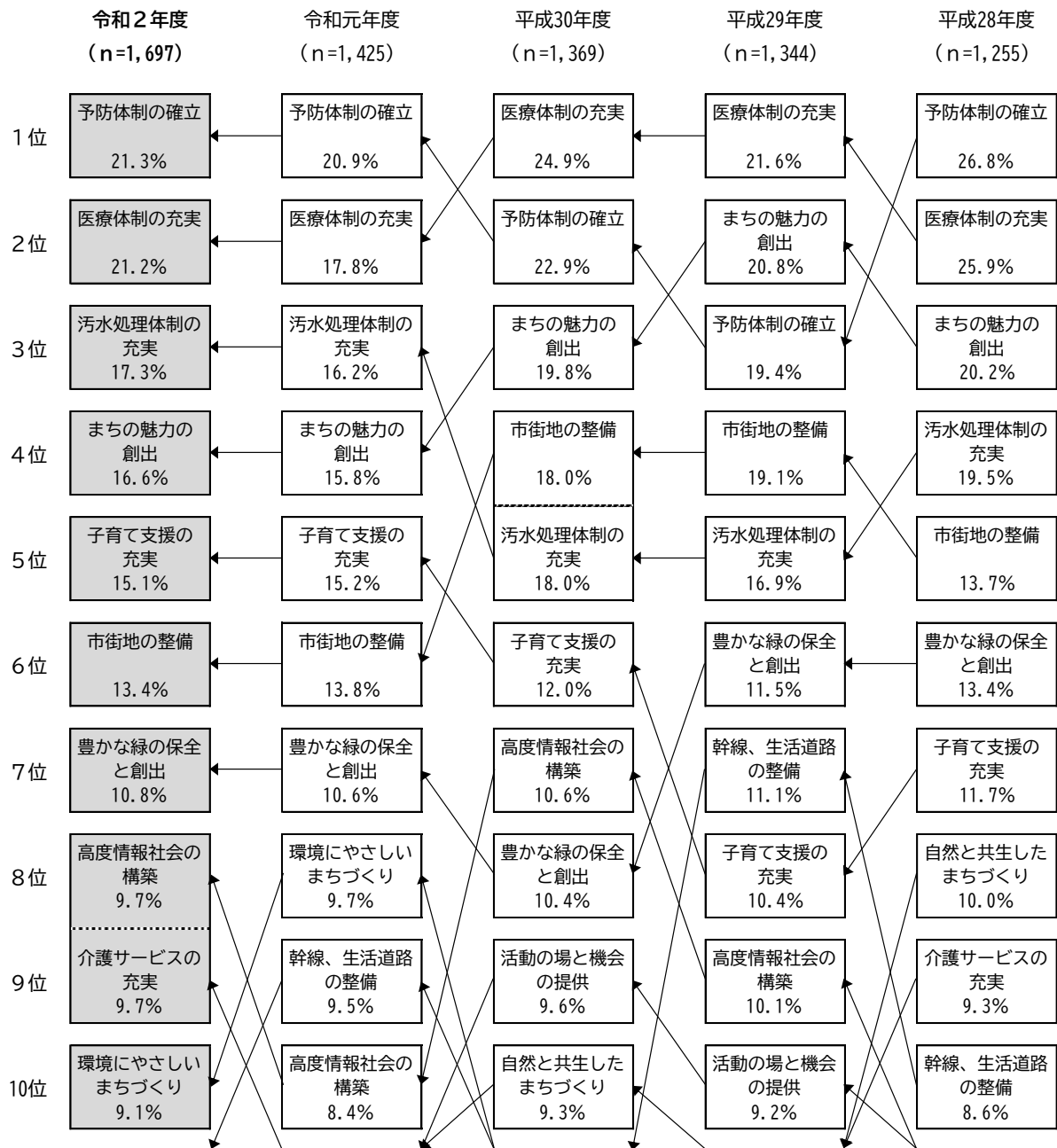
(4) 「市の施策」概観

ここ数年でよくなったものとして、「予防体制の確立」が1位、「医療体制の充実」が2位となり、「医療、健康」に対する施策を評価する声が大い。1位から7位までは令和元年度と変わらない

市の施策において「ここ数年でよくなったもの」の上位10項目を時系列で比較すると、令和元年度と順位の入れ替わりもなく継続して「【予防体制の確立】各種検診や予防接種など予防体制の確立」が1位、「【医療体制の充実】保健・医療・福祉の連携、地域医療・救急医療体制の充実」が2位となっており、「医療、健康」に対する評価が続いている。

3～7位までも令和元年度から順位の入れ替わりはなく、3位に「【污水处理体制の充実】下水道の整備など污水处理体制の充実」、4位に「【まちの魅力の創出】産品ブランド・観光情報の発信、イベントの実施などまちの魅力の創出」、5位には「【子育て支援の充実】保育園、子育て相談などの子育て支援の充実」が引き続き挙がっている。

令和元年度の11位以下から上位10項目に入ってきた施策としては、9位の「【介護サービスの充実】高齢者の生きがいづくりや在宅・介護サービスの充実」があり、一方、令和2年度に11位以下に順位を下げた施策には「【幹線、生活道路の整備】交通渋滞の緩和や歩行者・自転車利用者の安全に配慮した幹線道路、生活道路の整備」がある。



※令和2年度の8位「高度情報社会の構築」と9位「介護サービスの充実」の“%”は同じだが、回答者数は8位「高度情報社会の構築」が165人、9位「介護サービスの充実」が164人と、1人の差があるため順位に差がある

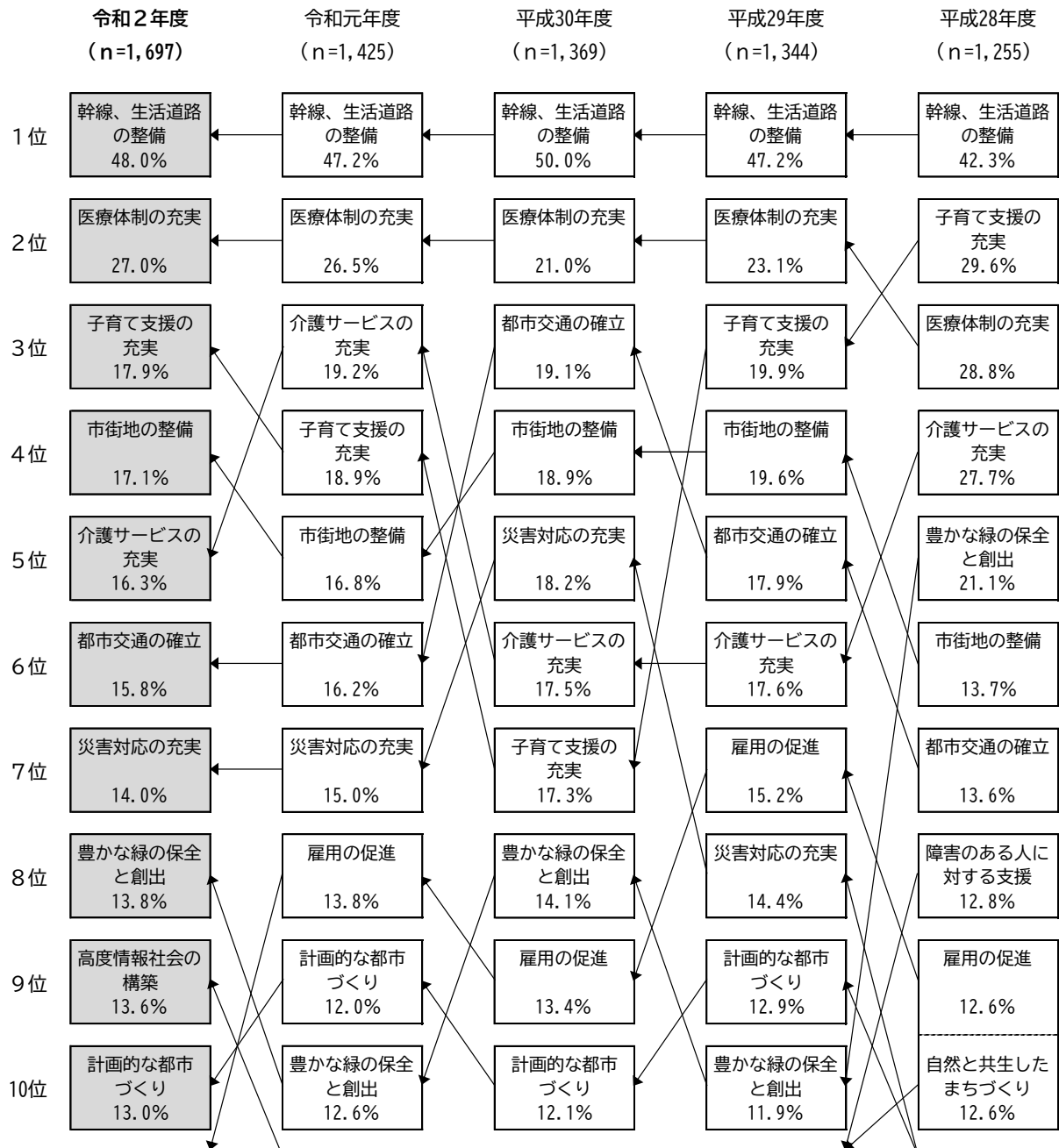
図Ⅲ－130 ここ数年でよくなったもの（時系列比較）（上位10項目）

力を入れるべきものとして、「幹線、生活道路の整備」が9年連続で1位、「医療体制の充実」が4年連続で2位、3位には順位を上げた「子育て支援の充実」が挙げられている

市の施策において「力を入れるべきもの」の上位10項目を時系列で比較すると、「【幹線、生活道路の整備】交通渋滞の緩和や歩行者・自転車利用者の安全に配慮した幹線道路、生活道路の整備」が平成24年度から9年連続で1位、「【医療体制の充実】保健・医療・福祉の連携、地域医療・救急医療体制の充実」が平成29年度から4年連続で2位となっている。

3位には令和元年度の4位から順位を上げた「【子育て支援の充実】保育園、子育て相談などの子育て支援の充実」が入り、4位には令和元年度の5位から順位を上げた「【市街地の整備】駅周辺地区の整備や土地区画整理事業など市街地の整備」が入っている。5位には「【介護サービスの充実】高齢者の生きがいづくりや在宅・介護サービスの充実」が入っているが、令和元年度の3位から順位を下げている。

令和元年度の11位以下から上位10項目に入ってきた施策としては、9位の「【高度情報社会の構築】インターネットを利用した行政サービスなど高度情報社会の構築」があり、一方、令和2年度に11位以下に順位を下げた施策には「【雇用の促進】若者・高齢者・障害者等の雇用の促進」がある。



図Ⅲ－１３１ 力を入れるべきもの（時系列比較）（上位10項目）

7. 自由意見

(1) 自由意見のまとめ

自由意見については、628 人から回答があり、回答内容を下表のとおり分類したところ、1,253 件の意見が寄せられた。

1 人の回答者が複数の意見を記入している場合は、各々の項目で 1 件、明確に良い意見と悪い意見が併記されている場合には、同じ項目で 2 件としている。

回答内容を分類し集計した結果は以下のとおりである。

表Ⅲ－３４ 自由意見のまとめ

項 目	件数	構成比 (%)
道路・渋滞・歩道	220	17.6
税金・財政・政策等	77	6.1
治安・災害	71	5.7
広報・ホームページ・SNS	70	5.6
市役所・フェイス・議会	67	5.3
自然・環境	60	4.8
交通機関	60	4.8
自動車・自転車	58	4.6
教育・文化・スポーツ	48	3.8
まちづくり・都市計画	47	3.8
病院・医療	45	3.6
コロナ対策	42	3.4
商工業・農業・イベント	41	3.3
アンケート関連	40	3.2
保育・子育て	39	3.1
公園	33	2.6
ごみ・リサイクル	32	2.6
学区・学校	26	2.1
雨水・上下水道	24	1.9
介護・福祉	22	1.8
高齢者対策	17	1.4
ペット・動物・虫	16	1.3
たばこ	14	1.1
雇用・就労支援	13	1.0
地域社会・自治会	7	0.6
国際社会	7	0.6
空き家	6	0.5
その他	51	4.1
合 計	1,253	100.0

(2) 自由意見の抜粋

自由意見の回答内容を分類した項目ごとに、主な意見を抜粋して示す。

【道路・渋滞・歩道】

- ・ 渋滞で時刻表通りに動かないからか、バスの本数もかなり減って病院に行きたいお年寄りも困っている。タクシーも電話してもなかなか来てくれない。お年寄りが免許返納しても住みやすくなるように道路事情をなんとかしてほしい。(女性・40～49 歳)
- ・ 車を利用するときは幹線道路の渋滞、歩くときは歩道の未整備が気になる。セットバックで道路拡張が可能になっても電柱が邪魔になっていたり、全国いろんな道を走ってきましたが、運転しにくい道路のランキングでは船橋市はトップレベルです。(男性・50～59 歳)
- ・ とにかく道が狭い。住宅地が入り組んでいて車で移動が大変である。国道 357 号や 14 号への道が渋滞している。歩道が狭く、道路も狭く、自転車で移動も子連れでは危ない。段差が多い。(女性・30～39 歳)
- ・ 道路は何度も修復しているにもかかわらず、道路面の凸凹が多すぎる。下水道管の入った道だと思うが、陥没しないよう、アスファルトを含めた道路整備をしてほしい。(男性・60 歳以上)
- ・ 歩道が狭いところが多くベビーカーを押して歩くのが大変なところがとても不便です。障害のある方などもあの道幅ではとても危ないと思います。(女性・30～39 歳)
- ・ 横断歩道で歩行者がいるのに停止しない車が多い。通学の子供たちも多いので信号機を設置してほしい。昨年、子供と車の接触事故も起きている。(男性・30～39 歳)
- ・ 歩道が狭く自転車も歩道を通るため、自転車が来ると歩行者が道路へ出なければならず安心して歩けない。歩道は本来、歩行者優先のはず。自転車専用レーンを設けるなど何らかの対策をとってほしい。(男性・50～59 歳)
- ・ 歩道が狭い所に草が生え、伸びきり、歩道の半分が草に覆われとても歩きにくい。できれば定期的に見回りをしてほしい。(女性・60 歳以上)
- ・ 船橋市に住み始めてから交通事故に 3 回あいました。その他当て逃げも数回。乱暴な運転手も多いですが、危険な道路も多く、小さい子供がいるので心配です。(女性・30～39 歳)
- ・ 道がガタガタしたり、細すぎて 1 人歩くのも車やトラックがたくさん通るため、とても危ない所が多く、車道もとても混んでいる。(女性・18～29 歳)
- ・ 船橋市に引越してきて、良かったと思うことがほとんどですが、唯一、道路が混みやすいのが残念だと思います。例えば、通常はバスで 5 分の道も、道が混んでいる時は 30 分ほどかかることがあります。道が広くなって道路が綺麗になったら、もっと自慢のできる街になるのと思っています。(女性・18～29 歳)
- ・ 道路の渋滞がすごいと半年ほど住んで感じました。車の渋滞に加えて、その隙間を自転車や原付がすり抜けていくので、それを避けるために余計に車が進むスピードが遅れます。自転車や原付が通るための道路スペースの拡大をお願いします。これにより交通事故を減らせるのではないかと思います。(男性・30～39 歳)

【税金・財政・政策等】

- ・ 市での支払いをカードで出来る様願いたい。行政改革の項目内容を一覧にして市役所に貼って下さい。駅、掲示板にも。(男性・60 歳以上)
- ・ 年金の学生納付特例制度の申請を出したはずなのに、支払われていないという通知が来て、電話で問い合わせをすることになり二度手間だった。インターネットで申請できるようになると、こういった手間が省けるので助かる。(女性・18～29 歳)

- ・ 「市の施策」内に LGBT や外国人受け入れ施策などが一言も入っていない事に少し驚きました。(女性・18～29 歳)
- ・ 年金生活者に対する税金の軽減をお願いします。(男性・60 歳以上)
- ・ 政令都市化することがあるのでしょうか。ちょっと期待しています。(女性・40～49 歳)
- ・ 内閣が推進するデジタル IT 化に、船橋市としても歩調を合わせて高度化してほしいと思います。(男性・60 歳以上)
- ・ 行政手続き等、オンライン化をもっと進めてほしい。(女性・18～29 歳)
- ・ 市の財政には、まだ無駄が多いので税金のムダ使いを減らし必要なところのみお金を使っ
てほしいと思います。(男性・60 歳以上)
- ・ 仕事もリモートワーク環境が整ってきたのと同様に、行政手続きももっとスマートに行えるよ
うに市民が生活を便利におくることが出来るようにビジョンをもって市政を行っていくよ
うにお願いしたい。(男性・50～59 歳)
- ・ マイナンバーカードの活用も含め、パスポート申請を当市でも出来るようにと更新の度思い
ます。(男性・60 歳以上)

【治安・災害】

- ・ 船橋駅前のキャッチなどの声かけ防止をしていただくようになって少し落ちつきましたが、
まだキャッチがいなくなる事はなく仕事が終わる船橋駅につくと、「治安が悪い」と感じ
る事が多いです。(女性・30～39 歳)
- ・ 夜の船橋駅前に客引きが多くて目障りです。厳しく取り締まって下さい。(男性・30～39 歳)
- ・ 防犯カメラをたくさん設置してほしい。街の安全安心、小さな子や女性、老人にも明るいま
ちづくりを期待します。(女性・60 歳以上)
- ・ 私の家には 18 歳になる老犬がおります。最近、地震や台風等、想定外の事が起こりうる、
そのような時の避難所に犬を連れていけるのがとても不安です。犬も避難出来る所がいっ
たい船橋市にあるのかどうか、そこまで私達が行けるのかどうか。(女性・60 歳以上)
- ・ 防災無線が流れてもまったく聞きとれません。台風、大雨など災害の時に、命にかかわる放
送があっても聞こえなくては困ります。(女性・60 歳以上)
- ・ 最近住居付近で夜間不審な輩がたむろしている事が多く治安の低下を感じる。巡回等行って
頂けないだろうか。(女性・50～59 歳)
- ・ 子供が安心して暮らせるまちづくりを目指して行ってほしい。最近自宅付近で空き巣被害や
殺傷事件が多くあった。高齢者家族も近くに多いため、10 年後、20 年後の地域がどうなっ
ているのか不安がある。(男性・18～29 歳)
- ・ 災害教育を増やしてほしい。避難訓練以外にも考えて行動できるような子を育てられるよう
なイベントなど。(女性・18～29 歳)

【広報・ホームページ・SNS】

- ・ 船橋市のホームページが分かりづらい（リンク先が分かりづらい、内容がいまいち分からな
い）。見てもどうしたらいいか分からない事がある（実際どう行動するのか等）。(女性・30
～39 歳)
- ・ 船えもん（公式キャラクター）の活動をもっと活動的にしてほしい。(女性・60 歳以上)
- ・ 地域新聞のように新聞をとっていない家庭にも広報ふなばしが届けばよいな、と思います。
(女性・50～59 歳)
- ・ 千葉市長のように Twitter を活用して情報を発信してほしいです。ブログや Facebook は古

いです。(女性・30～39 歳)

- ・ ホームページ等で出来るだけ情報公開していただきたい。民主主義の基本は自己責任ですがそれは情報が開示され、自ら判断できる状況でのことです。(男性・50～59 歳)
- ・ 市役所のホームページや広報ふなばしは見やすくてわかりやすいと思う。(男性・50～59 歳)
- ・ 市の広報の情報に気が付きにくい。広く連絡してほしい。(女性・50～59 歳)
- ・ 新聞をやめてから広報ふなばしが届かなくなり、公民館等へ取りに行かなくてはならなくなりました。全世帯に広報ふなばしが届くようにして頂けたら、情報が皆に知られる様になると思います。(女性・50～59 歳)
- ・ 広報ふなばし(紙)をドラックストアなどにも置いてもらえると手にとりやすい。(女性・50～59 歳)
- ・ ふなばし情報メールがとても便利です。最近では大雨警報など7時の段階で警報が出ていたら、学校が休校になることになってしまったので、確認するために利用しています。コロナの時も、学校より早く情報が来たりするので、助かりました。これからも細かい情報提供をお願いします。(女性・30～39 歳)
- ・ 東京にも近く住みやすい場所なのに、若い人にアピールできてないような気がします。若い子育て世帯がたくさん居住してこそ、安定した生活基盤が整うのではないのでしょうか。(女性・40～49 歳)
- ・ 船橋市の良さをもっと他の自治体(都道府県)や地域へアピールして行くべき。(男性・40～49 歳)
- ・ 情報はインターネットより紙媒体から得る方が多いので広報紙などの充実をお願い致します。(男性・60 歳以上)

【市役所・フェイス・議会】

- ・ 市役所関係の手続きで、結果がでるまでが遅すぎる。駅前のフェイスビル(市役所の出張所)のできる手続きが少ない。(女性・18～29 歳)
- ・ フェイスのように夜 20 時くらいまで開けてくれる支所を増やしてほしい。(女性・50～59 歳)
- ・ 市役所、出張所を利用していますが、印鑑証明・住民票が機械でとれなくなって不便です。人員は多くなったみたいですが、用紙に記入したりと手間が多くなっています。(女性・50～59 歳)
- ・ 仕事の関係で、土日しか行政機関を利用出来ないの、せめて土曜日は利用出来るようにして頂きたい。又は時間を延長して頂かないと間に合わないのが悩みです。(女性・40～49 歳)
- ・ 市役所に行くと職員が忙しそうで、いろいろ頼むのが申し訳ない感じがします。職員が少ないのでは。(男性・60 歳以上)
- ・ 市役所が駅近くにあるといいです。フェイスで用がたせない場合もあるので、例えば、西武デパート跡地のところに市役所があれば便利だと思います。(女性・40～49 歳)
- ・ 市の職員の個の意識で市政も変わってくると思います。親身に話を聞いて下さる方もいますが、出張所の大きな椅子にドカッと座っている方や公務員に甘えている方も実際にいらっしゃいます。市民の声を迅速に、かつ、その方の立場に立って考え、行動に移せる船橋市であってほしいです。(女性・50～59 歳)
- ・ 市議会議員の年収が高すぎる。人数也多すぎる。(女性・60 歳以上)
- ・ 市役所に行きましたが、総合窓口、各課の対応、素晴らしかったです。気持ちよく行政サービスを受けられた。(男性・30～39 歳)

- ・ 船橋市議会が身近に感じられない。(男性・60 歳以上)

【自然・環境】

- ・ 海老川の水質が昔から良くなってない。下水道工事が実施された現在でも汚れているので、クリーンな川になってほしい。(女性・60 歳以上)
- ・ 人口密度が高く、とてもごみごみしているように感じる。(女性・30～39 歳)
- ・ 住めば都。静かな環境の中、平和な時間を過ごし、幸せな時を長くこれからも続けられたら良い。(女性・60 歳以上)
- ・ 海や川沿いなどゴミや草が多いので、清掃してほしい。(男性・40～49 歳)
- ・ 海を活かして、きれいな街に。(男性・50～59 歳)
- ・ 船橋は自然もあり、アンデルセン公園のようなスポットもあり、アニメや映画などの舞台にもなっていたり、ふなっしーがいたり、PR できるコンテンツはたくさんあると思うので、自然に親しみながら聖地巡礼もできるオシャレな街になってほしいです。(女性・18～29 歳)
- ・ 都心からも近く、自然も豊富でレクリエーション施設も充実していて住み良い街だなと思う。(男性・30～39 歳)
- ・ 居住地区での街路樹への手入れが定期的に行われており、気持ちが良い。(男性・50～59 歳)
- ・ 大きな公園や自然が近所になく、近くの川も汚いため、小さな子供を連れて散歩に行ける場所がないのが残念です。(女性・30～39 歳)
- ・ 周辺は悪臭がひどく、窓も開けられない。洗濯物を干すのも考えてしまいます。(女性・18～29 歳)
- ・ 交通や買い物が便利な一方、豊かな自然が残っていることも市の魅力だと考えます。(男性・30～39 歳)
- ・ 夏場、息をするのも辛いくらい臭い日があります。ゴミの臭いなのか海の臭いのかはわかりませんが、吐き気をもよおすときもありますので環境改善していただけると助かります。(女性・18～29 歳)

【交通機関】

- ・ バス乗り場がわかりづらい。北口乗り場なのか南口乗り場なのか、どこにあるのか、どこにいくのか、どれに乗るのか、遅れているのか、初めて乗る人にもわかると思う。(女性・30～39 歳)
- ・ シルバー人材を活用した"乗り合い買い物ミニタクシー"のような活動も期待したいです。(女性・50～59 歳)
- ・ 北総鉄道の運賃の高さ、縦に電車が無いことによる市南部へのアクセスの悪さが重なり、新たな居住者が実際増えていないどころか、私の同級生含めて若者は皆、外に出ていく人が多いです。(男性・18～29 歳)
- ・ 大型バスではなく、コミュニティバスをもっと増やすなど、住民が利用しやすくすべき。(女性・50～59 歳)
- ・ 飯山満駅周辺～船橋市立医療センター間の公共交通機関（バス等）がほしい。(男性・50～59 歳)
- ・ 最寄りの駅までのバスが 30 分に 1 本なので少し不便に感じることもある。(女性・18～29 歳)

- ・ JR 西船橋駅のエスカレーターの数が少なく、混雑時、非常にストレスを感じる。(女性・18～29 歳)
- ・ 東葉高速線の料金がなくて利用しづらいので、値下げしてほしい。(男性・30～39 歳)

【自動車・自転車】

- ・ 歩行者優先のはずが車優先の道がほとんどです。都内で育ったので、違いに戸惑いました。自転車や車を運転する人のマナーも悪いと思います。(女性・50～59 歳)
- ・ 信号のない横断歩道での車の停止を啓発してほしい。(女性・40～49 歳)
- ・ 自転車の通行について、右側通行や歩道をスピード出し、歩行者と同じ考えで通行をしている。16 歳以上は免許証発行して下さい。(男性・60 歳以上)
- ・ 船橋駅前通りの自転車置き場がなくなり不便です。もう一度置き場をつくって下さい。(男性・30～39 歳)
- ・ 道路、歩道が狭く自転車が走りづらいです。自転車が走り易ければ車も少し減るような気がします。川沿いにサイクリングロードを作るなどして自転車を市としてもっと推奨し、健康増進も兼ねて広報してはどうでしょうか。自転車で道路を走るのは時として命がけになります。(男性・60 歳以上)
- ・ 北習志野駅前のアーケード側の駐輪は、自転車が街路樹と街路樹の間にきれいに並んでいけば、それ程邪魔ではないので、高低差のない平置きの有料駐輪にしてはどうでしょう。(女性・50～59 歳)
- ・ 夏見のバス通り、道が狭すぎて、歩行者、自転車が通りにくく非常に危ない。特に自転車専用道路の整備を早急にお願いしたい。(男性・30～39 歳)
- ・ 車のナンバープレートの絵柄があまり好みではなかったので、数年後に一新してほしいです。(女性・40～49 歳)
- ・ 自転車で西船橋駅近辺をよく通りますが、自転車専用道に車が止まっている事が多く、せっかく整備されているのに、まともに使えない。(女性・40～49 歳)
- ・ 船橋駅の地下駐輪場（フェイス地下）の開場時間を終電過ぎごろまで延ばしてほしい。無人でも構わないので、自転車を取り出せるようにしてほしいです。(女性・18～29 歳)
- ・ 自転車は道路を走るという世の中ですが、やはり道路を走るのは怖いです。歩道も狭いです。(女性・30～39 歳)
- ・ 津田沼駅から自転車で 7 分くらいの所に住んでいますが、自転車置場を探すのが大変です。特に平日の通勤ラッシュを過ぎた時間だと止めるところがありません。年に 1 回の定期駐輪場も当選が難しいです。(女性・50～59 歳)

【教育・文化・スポーツ】

- ・ 現在北習志野近隣公園のテニスコートを利用させてもらっているが、使用料の値上げがここ数年間で最終的に 990 円高くなることに不満がある。値上げのスピードが早すぎる。(男性・60 歳以上)
- ・ 移動図書館の充実をしてほしい。図書館の持込みパソコン利用席をもっと増やしてほしい。(男性・40～49 歳)
- ・ 船橋市と習志野市の境に住んでいるのですが、図書館が近くにないので不便です。(女性・40～49 歳)
- ・ 市内に学習のため図書館を増やしてほしい。(女性・18～29 歳)
- ・ 三山地区「スポーツ広場」について、隣接住民の理解がいまいちなのか、制限が多すぎ。全

ての子供・学生達が自由に活動できる場になっていないようだ。(男性・40～49 歳)

- ・ 学校体育館開放利用について、20 年近く利用し、ありがたく使わせてもらっています。生涯学習、健康の面で地域に定住したいと考える一つの大事な項目です。(男性・40～49 歳)
- ・ 船橋には文化ホールはありますが、音楽専用のホールがありません。近年の改装で少し音響が良くなったとはいえ、近隣の習志野市、市川市、千葉市、松戸市のホールに比べ、どうしても聴き劣りがします。ぜひ、音楽専用ホールを船橋市の施設として造っていただきたい。(男性・60 歳以上)
- ・ 世界的な交響楽団の演奏を聴くために他市・他県まで足を運んでいます、せめて NHK 交響楽団を呼べる音楽ホールをレガシーにして船橋に造ってほしい。(男性・60 歳以上)
- ・ スポーツ施設の充実を図ってほしい。(女性・60 歳以上)
- ・ 子供達の体力向上やスポーツで活躍するために、子供達がおもいきり遊べる公園、おもいきりスポーツで活動できるグラウンドが失われているのが残念です。(女性・30～39 歳)
- ・ 千葉ジェッツふなばしを応援するようになり、子供がバスケットをやりたがるが、バスケットゴールのある公園が余りない。スポーツ公園(三山)で友人とバスケットをしてもゴールの代わりにポールにボールを当てれば大人にどなられる。バスケットを習えるクラブもないし、小学生は公園で楽しむことも難しい。(女性・30～39 歳)

【まちづくり・都市計画】

- ・ 船橋漁港に飲食店を設け、整備し、サンフランシスコのフィッシャーマンズ・ワーフのような漁港にしてほしいです。(男性・30～39 歳)
- ・ 船橋駅前再開発。西武デパート跡地について早く進めてほしい。駅前は暗く、活気もなく、駅前は寂しい。(女性・40～49 歳)
- ・ 西武デパート跡地に図書館、体育館などをつくって、スポーツ・レクリエーションの充実に期待しています。(女性・40～49 歳)
- ・ 船橋駅前はキレイに整備されていて、以前よりも駅周りが明るい印象になった気がしました。駅の印象が変わると町の雰囲気も違って見えるのだなと感じました。(女性・30～39 歳)
- ・ 大手チェーン店ではなく、船橋ならではの魅力あふれる店が増えるまちづくりをしてほしい。(女性・40～49 歳)
- ・ 船橋駅周辺をもっとお洒落に開発し、文化施設をもっと整備する。ららぽーと近くの海岸等をもっとお洒落に整備し、若者が集まりやすいまちづくりをお願いします。(女性・60 歳以上)
- ・ 船橋市は海の観光資源が少ない気がする。神奈川県江ノ島ではヨットハーバーですら一つの観光スポットになっている。例えば、ららぽーと近辺のベイエリアの開発など、千葉での観光スポットの開発を行えば、より発展するのではと思う次第です。(男性・30～39 歳)
- ・ 都市計画はあるが、その計画に対する達成度には言及していない。計画、目標があるならば毎年達成度を明記すべき。単発的に公園を整備した、道路拡張したでは意味がない。(男性・60 歳以上)
- ・ 開発要望は、駅南側の雑居ビルの統合化(景観が悪い、治安向上)。(男性・50～59 歳)

【病院・医療】

- ・ 高齢者が多いので、大きい病院などが多く、住みやすいと思います。(女性・40～49 歳)
- ・ 不妊治療の助成金について、夫婦の所得の条件に関わらず、申請すれば助成金がもらえるようにしてほしいです。(女性・30～39 歳)
- ・ 医療センターなどの整備充実を期待しております。(男性・50～59 歳)

- ・ 医療センターの充実。がんに関しては、まだ安心して任せられるとは思えないです。これだけがん患者が多い中、急ぐべきだと思う。緩和ケアチームが始動したばかり。腫瘍内科医も1人、腫瘍精神科医も必要です。(女性・60歳以上)
- ・ 子宮頸がん、乳がん検診を2年に1回でなく1年に1回受診出来るようにしてほしい。(女性・60歳以上)
- ・ 子供の医療費を無料にしてほしい。以前、東京都に住んでいて無料だったので、300円が少し負担に感じてしまう。(女性・30～39歳)
- ・ 医療の連携、充実の部分で、小児神経、精神科がどこもいっぱい、何か月待ちだったり、受け付けてくれず、たらい回しです。(女性・50～59歳)
- ・ 健康診断補助(40歳以下の若者向け)。(女性・40～49歳)
- ・ 大規模災害、コロナ等、大病院がもう1病院あればと思います。(女性・50～59歳)
- ・ 体調が悪い時に救急車を手配したら、救急隊の方々はとても優しく、親切な方々に感動したのですが、受け入れ先がなかなか決まらずに救急車の中で苦しみました。救急病院が少ないと思います。コロナ前にこの状態だったので、今、急に体調が悪くなったら困ると思います。(女性・50～59歳)
- ・ 船橋市に住んで14年になりますが、計画的に開発されたと感じる事や事項が一つもありません。船橋市には大学病院がない(そこそこ大きな病院も交通が大変不便)。(女性・60歳以上)
- ・ 不妊治療の給付金にかなり助けられています。(女性・30～39歳)

【コロナ対策】

- ・ 現在のコロナ禍で、どのようにして困っている方を支援していくのか。バランスは難しいと思いますが、感染者を減らしつつ経済効果をあげていく方法を考えていかなければいけません。ぜひ実際の取り組みが、市民に見える形になればと思います。(女性・50～59歳)
- ・ コロナ対策実施店をわかりやすく表示してほしい。店に入らないとわからない。(女性・50～59歳)
- ・ 街でマスクをしていない密な状況でいる人が多い。出勤時間も人が多すぎる。こんな時くらいリモートでできる仕事は、できるだけリモートにしていきたい。会社だけではそういった事をしてはくれないので、市などから指示をしてほしい。(女性・30～39歳)
- ・ コロナの影響を軽減するための船橋市独自の給付金を検討してほしい。(男性・30～39歳)
- ・ 新型コロナウイルスの問題が出てようになって、今まで以上に「船橋に住んでいて良かった」と思います。毎日の新規感染者の情報を細かく発表して下さること、ホテルでの療養やドライブスルーでの検査等、早い段階から導入され周知に努めて下さったことに感謝しています。(女性・30～39歳)
- ・ コロナの情報開示が不十分だったので、もっとタイムリーに対応してほしい。(男性・40～49歳)
- ・ 新型コロナウイルスの公表について、また、検査などについては個人情報保護など、現行法令等の制限の中ではよくやっていると思います。しかし、どここの地区で感染者が出たなどのアプリ情報から街全体、若しくは当該地域で不安が拡大し、疑心暗鬼という状況になっている。何とか地域不安を解消できる施策を講じてほしい。(男性・40～49歳)
- ・ コロナによって収入が減ったり、収入に変化がなくても、子供の休校だったり、支出が増えている家庭が多いです。船橋市に言う事でなく国の問題かもしれませんが、コロナ給付金を再度お願いしたいです。(女性・40～49歳)
- ・ 船橋市のコロナ感染率が高い。しっかりとした対応をとって頂き、市民に対する発信に力を傾倒してもらいたい。(男性・50～59歳)

- ・ 新型コロナ対策チームを作って、接待を伴う飲食店や一般の飲食店の定期巡回を行ってください。入り口にアルコールスプレーの設置、仕切り版等の設置や3密対策を行っている場合、入り口に適合のシールを貼る等消費者がわかりやすい対策をして、クラスター対策の未然防止を図ってください。(男性・60歳以上)
- ・ 新型コロナウイルスによる、生活困窮学生への給付型支援金などの制度があるとありがたいと思う。(男性・18～29歳)
- ・ コロナ対策で市のホームページでは、感染者数の発表に関するものばかりで対策は個人レベルの3密対策と換気のみ。市としての検査体制、医療体制(軽症者の収容場所など)に対する具体的な施策が全く見えない。対策をしているとはとても言えない。(男性・60歳以上)
- ・ 地域医療が崩壊しないためにも、コロナ対策モデルを作る必要があると思います。最前線で働く医療スタッフや患者受け入れの病院等、経営にも踏み込んだ金銭面での支援をぜひお願いします。船橋モデルとして全国に発信してください。(男性・30～39歳)
- ・ 今回のコロナ禍において船橋市が同じ県内の市民の生活形態の近い千葉、松戸、柏市等と協力し、県に休業補償や医療体制確保を働きかけていた事を評価します。今後も災害、コロナのような事態が起きた際、周りの自治体と協力して住民にとって安心できる状態を担保して行ってほしいと切に願います。(女性・40～49歳)

【商工業・農業・イベント】

- ・ 将来のことも見据えて、農業を守っていくことも大切だと思います。(女性・50～59歳)
- ・ 今年はコロナ禍内オリンピックの影響でふなばし市民まつりがありませんでしたが、来年以降また楽しいおまつりに参加できるのを楽しみにしています。(女性・30～39歳)
- ・ ららぽーと以外にも、映画館を含む商業施設を増やしてほしい。(女性・18～29歳)
- ・ 私の住んでいる地域では、高齢の方が多いのですが、徒歩圏内に商店がほとんどなくなってしまったので、移動スーパーはとても良い案だと思います。(女性・30～39歳)
- ・ 近くにスーパーなどの商業施設がなく、駅まで行かなければ日常の買い物ができないなど、不便さがすごく感じられる。(女性・50～59歳)
- ・ 船橋には生産者や消費者がたくさんいるのに道の駅がないのが不思議です。他の市はどこも道の駅があるのになぜ船橋にはないのでしょうか。もったいないと思います。(女性・18～29歳)
- ・ 今年は中止でしたが、ホテル観賞良かったです。(男性・60歳以上)

【アンケート関連】

- ・ 本調査が一意見、単なる調査だけで終わることなく、よりよい、住みやすい、誰もが住みたくくなるようなまちづくりに生かされることを願います。(男性・30～39歳)
- ・ 本アンケートの結果の集計の詳細内容の開示をお願いしたい。また、本アンケートをもとに市がどのように対応、対策し、どのような成果が得られたか、情報を開示していただきたい。(男性・30～39歳)
- ・ このアンケートに答えるにあたり、どのくらいの時間で回答できるのか、はじめに書いてほしい。長すぎます。このレベルのアンケートを無償でするのはいかなものかと思います。(男性・40～49歳)
- ・ このアンケートの回答をマークシートにしたら集計が楽なのでは？と思った。(女性・60歳以上)
- ・ 市が市民に対して、このような意見を聞く機会を設けているとは知りませんでした。大変良い取り組みだと思います。今後の市政に期待します。(女性・40～49歳)

- ・ 調査項目が多過ぎます。もう少し工夫して下さい。(男性・40～49 歳)
- ・ 障害のある人間に、本人以外に書かせないアンケートは負担です。(女性・60 歳以上)
- ・ 国勢調査と同じく、ネットで回答できるようにしてほしい。(男性・18～29 歳)

【保育・子育て】

- ・ 現在育休中で来年の春から仕事復帰のため保育園を探しているが、船橋市は待機児童が多く、入園できるか大変不安である。見学に行ったある保育園では、児童の受け入れのキャパはあるが、保育士が不足しているためやむをえず受け入れを減らしていると言っていた。待機児童問題解消のために、取り組みを進めて頂きたい。(女性・18～29 歳)
- ・ 保育園を作るだけで子供の育ちを考えていない。園庭もない場所の代わりに公園という事だが、決して子供の成長を考えていない。園の考え方ですが、せめて船橋だけは子供の未来を考えての政策をしてほしい。ほとんど体をうごかさずに育ってきた子供の心と体の育ちが順調でないデータも出てきはじめている。(女性・60 歳以上)
- ・ 現在もご尽力いただいていることかと思いますが、特に福利厚生、高校くらいまでの子育て支援に力をいれていただきたい。(男性・40～49 歳)
- ・ 現在の居住地区（小室駅）周辺は住宅街であり、今も宅地の整備をしています。にもかかわらず、保育園・スーパー等ができる気配は全くありません。何か理由が有るのでしょうか？自分の息子も保育園に入れず、船橋市以外の保育園に通っており、大変不便です。(男性・40～49 歳)
- ・ 双子の息子を保育園に入れるのに、申し込んだ園が全てダメでした。結局、2 次募集で入れましたが、人数的に受け入れ 0 人の所に我が家は多く申し込んでいた事が後からわかり「だったら始めから申し込ませるなよ」と保育認定課に行きました。上の姉が通っている保育園と一緒に、育児も楽でしたが、それは園からも「不可能に近い」と言われ、あきらめていましたが、入れる園がないは、絶望しかありません。(女性・30～39 歳)
- ・ 子育てについて、不安があるので松戸や流山が魅力的に感じる。(待機児童や緑の多い環境など)。(女性・18～29 歳)
- ・ コロナ禍の中で保育園に預けられなくなった時は、4 月から仕事に復帰したばかりで、在宅もできない仕事で本当に大変でした。同じ悩みの方も多かったと思います。今後また同じような状況になった時に、業種等で線引きするのではなく、預かってほしい人は保育園に普通に通えるようになることを望んでいます。(女性・30～39 歳)
- ・ 子育て世代にとって魅力的なところがない。待機児童が多い。手厚い子育て支援がない。(女性・30～39 歳)
- ・ 放課後ルームを早急に増やしたりと、要望を聞き入れて頂けた事に感謝しています。ふなっこ教室も、欲を言えば、18 時までだと良いです。(女性・40～49 歳)
- ・ 2 歳以下の子供も保育料無償化の対象にしてほしい。(女性・30～39 歳)
- ・ 今年の 3 月に出産しましたが、育児支援のイベントや施設開放がすべて中止になり、コロナ予防に対する支援も何もなかったため、とても不安な産後でした。少し時期をずらして「赤ちゃん訪問」の方が来てくださいましたが、「訪問した」という既成事実のために来ている感じで、育児を支援していただけた実感はありませんでした。リモートでも電話でも良いので、専門家の方に育児の疑問や不安を相談できる機会がほしかったです。妊娠中や子供の検診は実費で受診しなければならない場面が複数あったのが不満でした。健康な妊娠であれば、全ての検診に補助券を出していただくことはできないのでしょうか。(女性・30～39 歳)
- ・ 保育園の数は増えて待機児童は減ったのかもしれないが、結局入りたい保育園には入れず、兄弟で別々の保育園になったり、仕事をする上でとても負担になっている。朝は特に送るのが大変なので、町田市で行っている送迎保育ステーション事業を船橋市でも是非取り入れてほしい。そうすれば保育園の場所を気にせずに申請できるので、駅前の保育園に人気が集

することなどが減ると思います。(女性・30～39 歳)

- ・子育て支援施設がもう少しあるとうれしいなと思います。支援センターや児童館が少ないですが、公民館でいろいろなサークルがあるのはとても良いと思います。(女性・30～39 歳)

【公園】

- ・公園に簡単な運動器具がなく、老若男女の憩いの場になっていない。(例えば、韓国では大概の公園には軽い運動器具があり、散歩時の憩いの場にもなり地域のコミュニケーションが出来る) 治安の面でも有利である。(男性・60 歳以上)
- ・地域の立地性や元々の環境に潜在能力が高い中で、アンデルセン公園など整備面が進み、能力(ポテンシャル)を活かしつつあり、市民として誇りに思います。(男性・50～59 歳)
- ・子供がバスケットボール部に入っています。学校では部活動の時間も短く、家に帰ってきて道路では練習できず、公園でもできず思うように練習することができません。昔はもう少しバスケットができる公園があったと思います。ボールをつく音などに苦情があるのかもしれませんが、あまりにも練習できる場所が少なく残念です。(男性・30～39 歳)
- ・アンデルセン公園内で、個人でのテント営業を禁止にしてもらいたい。(女性・18～29 歳)
- ・公園に日かげがなさすぎる。日かげがあれば多少暑くても外で遊べるので小さい子供も外遊びを我慢する日も減ると思う。小学生も外に行きたくてストレスがたまるので、公園に屋根でもできるといいなと思う。(女性・30～39 歳)
- ・地域により公園の所在に偏りがある。(男性・40～49 歳)
- ・公園に樹木があることはよいのだが、隣接している敷地にはみだしたり、また、落葉が舞っている(風などで仕方がないこともあるが、定期的な枝の伐採を希望します)。(女性・60 歳以上)
- ・公園や広場などで花火が許可されてほしいです。また、気軽に BBQ できる場所がほしいです。海老川周辺に墓地ばかりでなく、公園や広場、BBQ 場を作ってほしいです。今夏、運動公園のプールが中止になったのは非常に残念です。予約や入場制限などをして、開催してほしいです。学校のプールも中止になり、子供がプールに行けませんでした。(女性・40～49 歳)
- ・公園や緑道が多く、魅力的な町だと感じました。花火が出来る場所・施設を創出していただきたいです。(女性・18～29 歳)
- ・数年前に三山 6 丁目の三山東小学校と三山中学校の近くに広めの公園ができました。幼い子から大きい子、大人まで公園の少ない船橋としては珍しく、みんなの憩いの場所になっています。しかしせつかくの憩いの公園なのに、水飲み場が全くありません。衛生面(コロナもあり)からも、熱中症対策の上からも、水を出す場所を作らなかった船橋市の公園対策に怒りを覚えます。今からでも急いで水道を整備して下さい。小さい子をもった母親達みんなが「どうして水が飲める、手が洗える場ないの？」と怒っています。(女性・60 歳以上)

【ごみ・リサイクル】

- ・船橋駅周辺の飲食店の営業後のゴミ、ポイ捨てで街が汚いと感じる。(女性・30～39 歳)
- ・道路脇の除草を徹底することとゴミ拾いの推進。(男性・60 歳以上)
- ・可燃ゴミの収集日が週 3 回から週 2 回になってから、ゴミ収集場所があふれていることが多い。不衛生で見栄えも悪いので検討してほしい。(男性・30～39 歳)
- ・ゴミの回収方法が素敵。(女性・18～29 歳)
- ・ゴミ収集日を週 3 回に戻してほしい。特に夏場は不衛生です。(女性・40～49 歳)
- ・ゴミの分別が楽で助かる。(男性・50～59 歳)

- ・ マンション・アパートが増え、ゴミ分別のルールやマナーを守らない方が多いです。カラスなどの生き物も加わって、ゴミを荒らすこともあり、ゴミの散乱も気になります。これらを解決できるゴミ箱や、そのための商品などを紹介してもらいたいです。(女性・50～59歳)
- ・ 市の不燃ゴミ袋は大きいサイズも作ってほしい。ヘルメットをすてるのに粗大ゴミ扱いだったので、そのくらいは捨てられるサイズがあってもいいと思う。可燃ゴミ袋が安いのはいい。小型家電リサイクルボックスも良いと思う。(女性・40～49歳)
- ・ 現在ゴミの回収の件で大変困っております。私どもは共働き世帯ですが自宅が19:30回収の地域にあります。平日の夜、仕事を終わらせ、その時刻までに帰宅するのはなかなか難しく、ゴミを捨てられない日が続きます。当日の朝から出しておく事もルール上できません。その様な家庭がある事も考慮して頂き、例えばローテーションなどで遅い時刻の回収の日もあるよう設定するなどして頂けると大変ありがたいです。(男性・50～59歳)
- ・ ゴミ。サラダ油、醤油などの容器はペットボトルと一緒に入れていいのか迷います。できるだけ捨てるのを減らしていますが悩みます。(女性・60歳以上)
- ・ ゴミの収集についてですが、回数が減ってしまったためゴミがたまって困っています。週2にした理由はわかりませんが、収集の回数を減らしてもゴミ自体が減るとは思いません。根本的な解決策を考えてほしい。(男性・50～59歳)
- ・ 身近なことでは当市はごみ出し基準が緩やかです。東京23区並にもう少し基準を細分化していいと思います。(男性・60歳以上)

【学区・学校】

- ・ 学校でのいじめ問題に真剣に取り組んでほしい。(男性・18～29歳)
- ・ 学区の見直しをお願いします。高根町は選択制を希望します。多くの方が学区外に通学している。(女性・40～49歳)
- ・ 塚田小が学区なんですけど、ものすごく遠く、法典小の方が近いです。1丁目と2丁目では1丁目は選択不可で2丁目は選択学区。意味がわかりません。遠いからこそ選択したかったです。学区を決める際にきちんと歩いて決めているのでしょうか。子供の足で歩いて30分以上かかっています。(女性・40～49歳)
- ・ コロナの有無ではなく、多様な学び方を認めるという点で、学校授業のオンライン化を推進してほしい。(男性・40～49歳)
- ・ 小栗原小学校の設備老朽化がひどい。改善して下さい。トイレも薄暗いです。(男性・40～49歳)
- ・ 学校はもう洋式トイレにしたらどうでしょうか？変化があることに期待しています。(女性・40～49歳)
- ・ 市立小中学校にもっと人員を増やしてほしい。(女性・60歳以上)
- ・ 学校側がPTAに依存しすぎているので、イベントの運営は、父兄の希望者と外部業者でまかなう。例えば広報など不要に思える活動は廃止すべき。女性の社会進出や共働きの増加などの社会の変化に対応できていない組織なので見直しをお願いします。(男性・30～39歳)
- ・ 小学校の「留守電設置」は大変良い取り組みだと思います。先生方の不必要な負担はどんどん削減し、本来の"教師としての仕事"に注力できる環境を作ってほしいです。(女性・40～49歳)
- ・ 小中学校の給食の品質・体制は満足です。(男性・50～59歳)
- ・ 学校1クラスあたりの人数が多い。1クラス20人くらいに。教員を増やし密にならないようにしてほしい。(男性・40～49歳)

【雨水・上下水道】

- ・ 駅前の道路を冠水しないようにお願いしたい。先日の雷雨で膝下までなったため。(男性・50～59 歳)
- ・ 公民館裏の道、同地域の側溝の水のつまりの改善。同地域の側溝のふたの整備。(女性・50～59 歳)
- ・ 下水道の整備に取り組んでほしい。(女性・50～59 歳)
- ・ 我が家は、床上浸水ギリギリで水が止まりますが、300m 先のお宅は、ゲリラでなくてもトイレまで水が上がって、基礎など腐っている様で、今年中古の家に引越して行きました。配管設備の悪い船橋です。どうぞ予算増をお願い致します。(女性・60 歳以上)
- ・ 光熱費が高く感じる。特に上下水道。(女性・30～39 歳)
- ・ 水道料金をクレジットカードで支払えなくなって困っております。(男性・50～59 歳)
- ・ 雨水について、近年の集中豪雨などの影響で道路の冠水や水害のニュースを以前より多く見聞きします。近隣でも道路が冠水したのを見かけた事がありますが、船橋市の雨水管の口径とかは大丈夫なののでしょうか。(男性・50～59 歳)

【介護・福祉】

- ・ 軽度知的障害の子供に対する高校など選択肢が少なく、船橋市内には通える学校（高校）がないように思います。そのような子供達が増えている中、子供が大きくなるにつれて余計子供の将来を不安に感じます。軽度の子供達の専門学校や職業訓練が出来る場所等を増やしてほしいと強く希望しております。(女性・40～49 歳)
- ・ 私は身体障害者手帳を持っているが携帯が不便である。なので、カード化を早く進めてほしい。(男性・18～29 歳)
- ・ 介護の必要な時に、どのようなシステムなのか、受けられるサービス、相談できる窓口など初めて介護する人に対して、説明会があればどんなに助けられたかと思います。知識のない人、相談できる人がいない人がスムーズに介護できるようにして頂けたらと思います。自身で介護してみて、だれも相談できる人がなく、市役所の窓口で聞いても何も助けられる情報を得る事ができませんでした。(女性・60 歳以上)
- ・ 船橋市民だけでなく、日本人は障害者に対して理解が低いと思います。(女性・30～39 歳)
- ・ 息子が知的障害児で、いくつかの手当てをいただいておりますが、毎年毎回の書類が多く、手間がかかります。もう少し簡素化していただけると負担が減るので助かります。(男性・40～49 歳)
- ・ 息子は障害を生まれながら持っています。36 年も紙オムツを使用していますが、給付されないのは問題です。是非とも改善して下さい。(男性・60 歳以上)
- ・ 子供が 2 人いて、2 人とも児童発達支援を受けています。手厚い福祉に民間の支援施設もとても充実していて、船橋市には何かを始めたいと思ったら、すぐに行動が出来る体制は揃っていると思います。(女性・30～39 歳)
- ・ 障害者に対して、理解や認識がされていないと思うことがあるので、みんなに理解・認識がされていくような政策があるといいなと思います。自分の子供に軽度ですが発達障害があります。当事者になってみないとわからないことがたくさんありました。つらい思いもたくさんしています。そのような人たちが少しでも生きやすい世の中になることを願います。(女性・40～49 歳)
- ・ 介護サービスの年齢幅、フレキシブルな対応。(男性・60 歳以上)

【高齢者対策】

- ・ 高齢者の介護で家族が負担にならないように介護サービスの充実をして頂きたい。特に特別養護老人ホーム等入りやすい状況にして頂きたい。(女性・60歳以上)
- ・ 船橋市は高齢者率が高いと思うので、いろいろな事に関する説明をやさしくしてほしいと思います。(女性・60歳以上)
- ・ 千葉市では高齢者がいる自宅にゴミ袋が無料で届いていました。高齢者のいる家ではオムツなどのゴミが1日にたくさん出るため、千葉市独自でその様な施策を行っているとの事でした。私はこの様な施策は、忙しい中でゴミ袋を買いに行く手間や、高齢者の足の不自由な方の手間も省けるし、とてもすばらしいものだと感じました。船橋市でもこの様な支援があれば、とても良いなと思います。(女性・30～39歳)
- ・ 高齢者介護施設に入居されている方々が、もっと楽しく毎日を過ごせる支援が必要だと思います。コロナ禍で難しい問題ですが、何かないでしょうか。(男性・30～39歳)
- ・ スウェーデンは寝たきり老人が少ないと聞きます。そういった介護先進国のアイデアやシステムを市政として積極的に取り入れてほしい。(女性・18～29歳)
- ・ 今後更なる高齢化に向けた居住環境(家賃)の改善及びサービス向上、医療費の軽減、交通費の軽減、援助サービスの拡充。(男性・50～59歳)
- ・ 高齢者の介護の充実と、生きがいを重視して健康な高齢者を増やしてほしい。医療費の減少を目指してほしい。個人病院に高齢者が多い。少子高齢化で介護する人数も減少するだろうから。(女性・40～49歳)
- ・ 65歳になり、年金、介護保険、インフルエンザ予防接種の封筒が届き、安心しました。出費は大変で、痛みを伴います。知ってくれているという安心感が得られました。駅や商店街までのコミュニティバスがあると便利だと思います。(女性・60歳以上)
- ・ 現在のアパートにひとりで暮らしています。身寄りもいませんので、将来のことが大変不安です。現在60歳で、何とか生活できていますが、将来ひとりで暮らしていけるかたいへん不安なので、ひとり暮らしの高齢者に対して船橋市で安心して生活していけるような仕組みを是非お願いします。(男性・60歳以上)

【ペット・動物・虫】

- ・ 近頃、ペットを飼う人が増えたのか、路上に糞が放置されたままになっているのをよく見ます。不衛生だと思うので、何か対策があればと思っています。(女性・18～29歳)
- ・ 犬猫の殺処分をゼロにするため、地域猫のような活動の支援や里親の譲渡会をショッピングモールなどで開催するなどしてほしいです。(男性・30～39歳)
- ・ 近所で野良猫を餌付けしている家が数軒あり、半年毎に子猫が増え、庭を荒らしたり、どこでもかまわず糞をしたりで、大変困っています。町内会で注意したり、市への相談(猫よけの機械の貸し出しや、訪問の件等教えて頂きました)をしたり、それなりに動いてはいますが、全くと言って良い程効果がありません。市の広報紙等でも「野良猫の餌付けは迷惑行為である」旨を、高らかにうたって頂きたく存じます。(女性・40～49歳)
- ・ 南船橋駅前の土地はいつまであのままにするのでしょうか？秋や夏、春に虫が大量発生しています。(女性・40～49歳)
- ・ 犬(ペット)の飼い方について、散歩中にリードを長くしている、通行人に吠える、電車にゲージ無しで乗せている等、モラルの悪い飼い主が目立ってきている。市としても飼い主のモラルの向上に努めてほしい。(女性・50～59歳)
- ・ 私の家族は野良猫の保護や去勢手術へのボランティアをしています。野良のみでなく飼い猫の去勢手術の資金支援をしてほしいと考えます。結局飼いきれず捨て猫が増えてしまうからです。毎年貰い手を探すのが大変な状況です。(女性・30～39歳)

【たばこ】

- ・ 路上喫煙、歩きたばこが酷い。学校に行く子供、保育園のすぐ近くなど構わずたばこを吸っている人が多く、道には吸いながら、たばこの空き箱もたくさん落ちています。至急なんとかしてください。本当に迷惑ですし危ないです。船橋競馬場駅から国道 14 号線を渡った競馬場までの脇道が特に酷いです。(男性・30～39 歳)
- ・ 歩きたばこをする方が多いため、条例の整備をして頂きたいです。(女性・30～39 歳)
- ・ 西船橋駅北口路上たばこ排除（マナー悪すぎ）。(男性・50～59 歳)
- ・ 駅周辺 500m 以内を禁煙。歩きたばこの取締り。(男性・18～29 歳)

【雇用・就労支援】

- ・ 公務員の採用枠を広げ、多くの市民に就労の機会を増やし、安心して暮らせる環境をつくってほしい。(男性・40～49 歳)
- ・ 保育学生で就職活動中です。資格は取得済みです。保育士になる予定ですが東京都での就職を考えています。なぜなら、船橋市における保育士、幼稚園教諭の最低賃金が低いからです。(女性・18～29 歳)
- ・ 若者や失業者に対する雇用の充実・案内を拡充してほしいです。また、職業訓練の種類や質を上げてより適切な就職支援を行ってほしいと思います。(男性・30～39 歳)

【地域社会・自治会】

- ・ 自治会の存在意義について悩んでいます。災害時における新しい取組を紹介してもらえると助かります。船橋市と各自治会の関係性が良好であれば、自治会費をムダだと感じることは減るかと思います。(男性・40～49 歳)
- ・ コロナウイルス感染症が蔓延している御時世ではありますが、祭りやイベント、社会人の集い、クラブへの参加、社会奉仕活動への参加等、1 人 1 人がバラバラで孤独感有りではなく、もっと声を掛け合い「1 人じゃないんだ」「君の回りには善意のある人達で溢れているんだ」と言う連帯感を醸し出すようなご近所作りを考えております。(男性・60 歳以上)
- ・ 私は自治会長を 2 年やり、地区理事を 3 年半やっています。行政は自治会に頼りすぎているのでは？と思います。近年入会拒否や退会する人が増えています。なぜなら入会しなくても生活に不便を感じないから。自治会費を何に使っているかわからないから払いたくない。役員をやりたくないから入会しない、理由は様々ですが、入会しなくてもゴミを捨てられ、防犯灯は点いている。そのゴミステーションの管理(ネットなど購入)防犯灯代は自治会持ち。行革により、来年度から自治会への補助が減り、維持管理は大変になります。行革は賛成ですが、自治会へ入会するよう退会しないよう、市からもっと働きかけてください。(女性・50～59 歳)

【国際社会】

- ・ 留学生には日本語より先にマナーやルールをしっかりと教えるよう、各日本語学校へ指導してください。(男性・40～49 歳)
- ・ 外国人（スリランカやネパール人が多い）への配慮と交流の促進、近所にいっぱいいます。(男性・40～49 歳)

【空き家】

- ・ 空き家を何とかしてほしい。野良猫や蜂の巣ができています。(女性・18～29 歳)
- ・ 廃墟が異常に多い。行田団地周辺は廃墟になって既に数年放置されたままの商店街が多い。
(女性・60 歳以上)

IV. 調査票

あなたの声をお聞かせください

「船橋市市民意識調査」へのご協力をお願い

皆さまには、日頃より市政にご協力いただきありがとうございます。

この調査は、市内にお住まいの皆さまが、市政に対しどのようなご意見、ご要望を持ち、日頃どのように暮らしていच्छるかを伺い、今後のまちづくりの貴重な資料として活用させていただくことを目的に、毎年、実施しております。

調査の実施にあたりましては、市内にお住まいの満18歳以上の方から無作為に3,000名を選ばせていただきました。

お忙しいところ誠に恐縮ではございますが、調査の趣旨をご理解いただき、率直なご意見をお聞かせくださいますよう、ご協力のほどお願い申し上げます。

なお、この調査結果につきましては、「広報ふなばし」や船橋市ホームページ等を通じて公表する予定です。

令和2年9月

船橋市長 松戸 徹

この調査は無記名であり、個人が特定されることはありません。また、結果はすべて統計的に処理いたしますので、ご回答いただいた皆さまにご迷惑をおかけすることは一切ございません。調査結果は、この調査の目的以外に使用することはありません。

1. ご回答は、宛名にあるご本人様にお願いいたします。
2. ご記入は、黒や青のボールペンまたは濃い鉛筆でお願いいたします。
3. 質問により、ご回答いただく内容・方法が異なりますので、別紙の「■ご回答にあたって■」をよくお読みください。
4. 最後まで回答できなかった場合、途中まででも結構ですのでご返送ください。
5. ご記入いただきました調査票は、同封の返信用封筒（切手は不要です）に入れて、

10月12日（月）まで にご投函ください。

6. ご不明な点など、調査に関するお問い合わせは下記までお願いいたします。

＜お問い合わせ先＞ 〒273-8501 船橋市湊町 2-10-25
船橋市 市長公室 市民の声を聞く課
電話：047-436-2784

1 「住みごころ」についてお聞きします

【問1】「船橋市」に愛着を持っていますか。(〇は1つ)

- | | | |
|------------|-------------|----------|
| 1. 愛着がある | 3. あまり愛着がない | 5. わからない |
| 2. やや愛着がある | 4. 愛着がない | |

【問2】今後も「船橋市」に住み続けたいと思いますか。(〇は1つ)

- | | | |
|----------------|--------------|----------|
| 1. 住み続けたい | 3. できれば移転したい | 5. わからない |
| 2. しばらくは住み続けたい | 4. 移転したい | |

【問3】「船橋市」を住みよいまちと感じていますか。(〇は1つ)

- | | | |
|-------------|--------------|----------|
| 1. 住みよい | 3. あまり住みよくない | 5. わからない |
| 2. まあまあ住みよい | 4. 住みにくい | |

→ 問3-2へ

→ 問4へ

→ (問3で「1. 住みよい」または「2. まあまあ住みよい」とお答えの方)

【問3-1】住みよいと感じるのはどのようなことですか。(〇は2つまで)

- | | |
|---------------------------------|-------------------------|
| 1. 鉄道など交通機関が多く、通勤・通学に便利だから | 6. 公園などの憩いの場所が多いから |
| 2. 商店などが近くにあり、日常の買い物に便利だから | 7. 福祉の施設・制度が充実しているから |
| 3. 道路、下水道などの都市基盤が整備されているから | 8. 保健や医療の施設・体制が充実しているから |
| 4. 公民館、図書館などの社会教育・文化施設が充実しているから | 9. 親しみのある自然が残っているから |
| 5. スポーツ・レクリエーション施設が充実しているから | 10. 防災・防犯体制が充実しているから |
| | 11. 静かさなどの周辺環境がよいから |
| | 12. 近隣とのつきあいがうまくいっているから |
| | 13. その他 () |

→ 問4へ

(問3で「3. あまり住みよくない」または「4. 住みにくい」とお答えの方)

【問3-2】住みよくないと感じるのはどのようなことですか。(〇は2つまで)

- | | |
|--------------------------------|------------------------------|
| 1. 通勤・通学に不便だから | 6. 公園などの憩いの場所が少ないから |
| 2. 商店などが近くななく、日常の買い物に不便だから | 7. 福祉の施設・制度が十分でないから |
| 3. 道路、下水道などの都市基盤の整備が十分でないから | 8. 保健や医療の施設・体制が十分でないから |
| 4. 公民館、図書館などの社会教育・文化施設が十分でないから | 9. 自然が少ないから |
| 5. スポーツ・レクリエーション施設が十分でないから | 10. 防災・防犯体制が十分でないから |
| | 11. 騒音、大気汚染などがあり、周辺環境がよくないから |
| | 12. 近隣とのつきあいがうまくいっていないから |
| | 13. その他 () |

2 「広報活動」についてお聞きます

（全員の方）

【問4】 普段、情報を入手するためによく利用する情報媒体は何ですか。（〇はいくつでも）

1. 新聞
2. パソコン
3. 携帯機器（スマートフォン、タブレット等）
4. テレビ（ケーブルテレビを除く）
5. ケーブルテレビ（J:COM）
6. ラジオ
7. その他（.....）

【問5】 市の事業やイベント情報などをどこから入手していますか。（〇はいくつでも）

1. 広報ふなばし（紙）
2. 広報ふなばし（スマートフォン用アプリ「マチイロ」）
3. 船橋市ホームページ
4. データ放送（チバテレビ ※dボタン）
5. ふなばしCITY NEWS（ケーブルテレビ／地上デジタル 11ch）
6. 携帯サイト「モバふな」（フィーチャーフォン向けホームページ）
7. 船橋市公式ツイッター
8. 船橋市公式フェイスブック
9. 船橋市公式アプリ（「ふなっぶ」など）
10. 家族や友人、知人との会話から
11. 地域の情報誌
12. 船橋市ホームページ以外のインターネット
13. 新聞、新聞折り込み
14. テレビ
15. デジタルサイネージ（船橋駅前歩道橋デジタルサイネージ、本庁舎内モニター）
16. 町会・自治会の掲示板
17. その他（.....）

【問6】 広報紙やホームページで知りたい情報は何か。（〇は3つまで）

- | | |
|---------------------|-------------------------|
| 1. 公共施設の利用案内 | 10. 消費生活や食生活など |
| 2. 催し物やイベント、サークル活動 | 11. 国民健康保険や国民年金の加入手続きなど |
| 3. 医療（予防接種、休日診療など） | 12. 市議会の活動内容 |
| 4. 都市計画や再開発のまちづくり | 13. ボランティア活動 |
| 5. 福祉（給付、貸付、サービスなど） | 14. 規制や公共サービスの有料化など |
| 6. 散策コースやレジャー | 15. 市勢や統計調査などの基礎データ |
| 7. 地域の気象、防災 | 16. その他（.....） |
| 8. まちの話題 | 17. 特になし・わからない |
| 9. 教育、文化 | |

3 「新型コロナウイルス感染症の影響」についてお聞きします

新型コロナウイルス感染症は、医療体制のひっ迫のほか、市民生活や地域経済など多方面に渡って甚大な影響を及ぼしています。このような状況の中、あなたが実践している行動、生活や働き方の変化、「新しい生活様式」に対応するために必要な市の取り組みなどについて伺います。

また市では、新型コロナウイルス感染症対策のため、①感染症拡大防止のための医療提供体制の整備・充実、②安全・安心な生活を守るための支援、③市内経済維持のための事業者支援の3つの柱を中心に対策を講じています。これらの取り組みについて、ご自身の評価をお答えください。

【問7】日常生活の中で、どのような感染防止対策をしていますか。（〇はいくつでも）

1. 外出する時は、マスクを着用している
2. こまめに手洗いや消毒をしている
3. 毎日、検温や健康チェックをしている
4. 人が密集する場所を避けている（密集回避）
5. 室内で過ごすときは、一定の時間ごとに換気をしている（密閉回避）
6. 人と話すときは、真正面を避ける、または、一定の距離をとるようにしている（密接回避）
7. 必要なとき以外、家から出ないようにしている
8. バスや電車の利用を控えたり、利用するときは混雑する時間帯を避けたりしている
9. 会食や飲み会を控えている
10. 買い物の際は、少人数で行く、または、事前に買うものを決めるようにしている
11. 厚生労働省の新型コロナウイルス接触確認アプリ（COCOA）に登録している
12. その他（.....）

【問8】コロナ禍以前と比べて、生活や心身にどのような変化がありましたか。（〇はいくつでも）

1. 感染への不安により、ストレスを感じるようになった
2. 家族と過ごす時間が長くなり、ストレスを感じるようになった
3. 親族や知人と会う機会が減り、孤独を感じるようになった
4. 収入が減ったり、職を失ったりして、家計が苦しくなった
5. 休校により、学力の低下や家庭学習環境の格差が不安になった
6. 医療機関や健康診断に行きにくくなった
7. 介護や障害福祉、保育などの福祉サービスの利用を控え、家族の負担が増えた
8. 食生活が乱れた
9. 運動不足になった、または、体力が落ちた
10. その他（.....）
11. 特に変化はない

【問9】コロナ禍以前から変化し、現在も実践している働き方は何ですか。(〇はいくつでも)

1. テレワーク中心(50%以上)になった(必要に応じて出勤を併用)
2. 出勤が中心(50%以上)であるがテレワークを部分的に導入した
3. 勤務日数を週4日や週3日などに調整している
4. 時差出勤やフレックスタイムによる勤務を実施している
5. 顧客との間、または従業員同士の間に「間仕切りを設ける」「一定の距離をとる」などの対策をとっている
6. 会議や打合わせはオンラインで行うようになった
7. その他(.....)
8. 特に変化はない
9. 現在、働いていない

【問10】新しい生活様式に対応するために、今後市が特に進めていくべき取り組みは何であると考えますか。(〇は3つまで)

1. キャッシュレス決済の普及促進
2. 行政手続きのオンライン化、電子処理化(マイナンバーカードの活用含む)
3. 避難所の3密対策やアプリを活用した被害・避難情報の収集・提供など新たな災害対応
4. 学校教育におけるデジタル教材やオンライン学習の導入
5. オンライン診療・オンライン服薬の環境整備
6. オンラインやSNSを活用した見守りや相談、地域活動の情報提供など、地域の新しいつながりの創出
7. テレワークなどを活用した、時間や場所にとらわれない柔軟な働き方の推進
8. 交通ビッグデータ(※)の分析による道路の渋滞予測や公共交通の混雑予測、電車・バス・タクシーのネットワーク連携、自動運転技術の導入など、新たな地域交通体系の整備
9. 文化芸術・スポーツ・伝統行事などのリモートライブやプロモーション動画の配信など新しい取り組みの推進
10. その他(.....)

(※) 交通ビッグデータ

車両や携帯電話などのGPSから得られる車や人の動きを大量に蓄積したもの

→ (問10で「1. キャッシュレス決済の普及促進」を選んだ方)

【問10-1】現在、使用している(使用を検討しているものも含む)キャッシュレス決済はありますか。(〇はいくつでも)

1. クレジットカード
2. 交通系電子マネー(Suica、PASMO等)
3. 交通系以外の電子マネー(WAON、nanaco、楽天Edy等)
4. バーコード・QRコード決済(PayPay、LINE Pay等)
5. デビットカード(※)
6. その他スマホ決済(Apple Pay、Google Pay等)
7. その他(.....)

(※) デビットカード

代金が即時に預金口座から引き落としされる、金融機関が発行する決済用カード

（全員の方）

【問１１】市の対策①「感染症拡大防止のための医療提供体制の整備・充実」に対するあなたの評価について、最もあてはまるものはどれですか。（○は１つ）

市では、帰国者・接触者外来の実施や患者受け入れ病床の確保を実施している医療機関への支援のほか、コールセンター開設による相談体制の整備、ドライブスルー方式を含む市独自のＰＣＲ検査の実施、軽症・無症状者のためのホテルの確保など、医療提供体制の整備・充実を図っています。

- | | | |
|-----------------|------------------|----------|
| 1. 評価する | 3. どちらかと言えば評価しない | 5. わからない |
| 2. どちらかと言えば評価する | 4. 評価しない | |

【問１２】市の対策②「安全・安心な生活を守るための支援」に対するあなたの評価について、最もあてはまるものはどれですか。（○は１つ）

市では、住居を失う恐れが生じている方に対して住居確保給付金の支給や、学校休校中の家庭学習を支援するタブレットの貸し出し、妊産婦へのＰＣＲ検査の実施、ひとり親世帯や就学援助制度を利用している世帯に臨時給付金を支給するなど、市民の安全・安心な生活を守るための支援を実施しています。

- | | | |
|-----------------|------------------|----------|
| 1. 評価する | 3. どちらかと言えば評価しない | 5. わからない |
| 2. どちらかと言えば評価する | 4. 評価しない | |

【問１３】市の対策③「市内経済維持のための事業者支援」に対するあなたの評価について、最もあてはまるものはどれですか。（○は１つ）

市では、市内中小事業者の事業継続支援のために、借入れに対する利子・信用保証料の補助や賃料の助成に加え、国の持続化給付金の要件を満たさない事業者に対し助成金を交付しています。また、新しい生活様式への対応のため、事業者のテレワーク導入支援やタクシーを活用した飲食店宅配支援を実施しています。

- | | | |
|-----------------|------------------|----------|
| 1. 評価する | 3. どちらかと言えば評価しない | 5. わからない |
| 2. どちらかと言えば評価する | 4. 評価しない | |

4 「本市の災害対策」についてお聞きます

東日本大震災から9年が経過しましたが、以降も日本各地で地震や大雨等による大規模な災害が発生しています。

去年は、9月に台風第15号、10月に台風第19号が、立て続けに本市に接近し、大きな被害をもたらしました。

今年は新型コロナウイルス感染症が日本全国で蔓延し、避難所でのさらなる感染症防止対策が求められているところです。

このたび、市民の皆さまの防災に対する日頃からの備えや、災害時の情報発信のあり方等について調査を行い、今後の防災対策に役立ててまいります。

[1. 災害に備えた対策について]

【問1-4】日頃から災害への備えをしていますか。(〇は1つ)

1. 備えをしている

2. 備えをしていない

→ 問1-4-4へ

→ (問1-4で「1. 備えをしている」とお答えの方)

【問1-4-1】どのような備えをしていますか。(〇はいくつでも)

1. 避難所・避難場所の確認

5. 災害時に必要となるものの備蓄

→ 問1-4-2へ

2. 避難経路や避難方法の確認

6. 隣近所との交流

3. 安否確認の方法の確認

7. 防災訓練への参加

4. 住宅の耐震(補強)

8. その他()

※ 「5. 災害時に必要となるものの備蓄」を選ばなかった方は、問1-4-5へ。

(問1-4-1で「5. 災害時に必要となるものの備蓄」とお答えの方)

【問1-4-2】どのような品を備蓄していますか。(〇はいくつでも)

1. 飲料水

7. 常備薬(大衆薬)

2. 食料品

8. 処方薬(常飲薬)

3. 懐中電灯

9. 簡易・携帯トイレ

4. 電池、携帯電話充電器

10. 衣類

5. 携帯ラジオ

11. その他()

6. 燃料

※ 「1. 飲料水」「2. 食料品」を選ばなかった方は、問1-5へ。

→ (問1-4-2で「1. 飲料水」または「2. 食料品」とお答えの方)

【問1-4-3】飲料水や食料品を何日分備蓄していますか。(〇は1つ)

1. 1日分

4. 2週間以上

2. 3日分

5. その他()

3. 1週間分

6. わからない

※ 備蓄日数は、1日3食×人数を目安に算出してください。

→ 問1-5へ

（問14で「2. 備えをしていない」とお答えの方）

【問14-4】 備えをしていない理由を教えてください。（〇はいくつでも）

- | | |
|---------------------------|------------------|
| 1. 避難経路や避難方法の確認方法がわからないから | 5. 保管場所を確保できないから |
| 2. 安否確認の手段がわからないから | 6. 面倒だから |
| 3. 費用がかかるから | 7. 気にならないから |
| 4. 隣近所と交流を持つことに抵抗を感じているから | 8. その他（ ） |

※ 問14-5もお答えください。

（問14で「2. 備えをしていない」とお答えの方）

（問14-1で「5. 災害時に必要となるものの備蓄」を選ばなかった方）

【問14-5】 備蓄していない理由を教えてください。（〇はいくつでも）

- | | |
|---------------------|--------------------|
| 1. 避難場所へ行けばどうにかなるから | 6. 町会・自治会で備蓄しているから |
| 2. 地震発生後に調達すればよいから | 7. 備蓄する意識がないから |
| 3. 費用がかかるから | 8. 保管場所がないから |
| 4. 賞味期限等の管理が難しいから | 9. その他（ ） |
| 5. 食料不足はないと思うから | |

〔2. 地震に対する建物の備えについて〕

（全員の方）

【問15】 お住いの建物について教えてください。（〇は1つ）

- | | | |
|------------------------|-----------|--------|
| 1. 一戸建ての住宅（持ち家） | 3. 賃貸住宅 | → 問19へ |
| 2. 分譲マンション（持ち家） → 問19へ | 4. その他（ ） | |

→ （問15で、「1. 一戸建ての住宅（持ち家）」とお答えの方）

【問15-1】 お住いの建物の建築時期を教えてください。（〇は1つ）

- | | |
|---------------------|--------|
| 1. 昭和56年5月以前 | → 問19へ |
| 2. 昭和56年6月から平成12年5月 | |
| 3. 平成12年6月以降 | |
| 4. わからない | |

→ （問15-1で、「1. 2. 4.」とお答えの方）

【問15-2】 お住いの建物についてお聞きします。地震に対する耐震性がありますか。
（〇は1つ）

- | | |
|----------|--------|
| 1. ある | → 問19へ |
| 2. ない | → 問16へ |
| 3. わからない | |

（問15-2で、「2. ない」または「3. わからない」とお答えの方）

【問16】お住いの建物が、地震に対する耐震性が不足している場合、どのような対策をとりますか。（〇は1つ）

1. 建物を建て替える、または住み替える
2. 建物全体を補強し、地震に強くするための耐震改修工事を行う
3. 耐震シェルター（※）を設け、部分的な安全対策を行う
4. 何もしない

（※）耐震シェルター

耐震シェルターとは、住宅の1階部分の一部屋を木材や鉄骨等で補強した空間のことをいい、地震により建物が倒壊しても耐震シェルターの中に居る人の安全を一定程度確保するものです。一部屋のみを補強するため、建物全体の耐震改修工事を行うよりも費用は安いですが、補強した空間以外は地震時に倒壊などの恐れがあることから、必ずしも安全が確保されるものではありません。

【問16-1】耐震シェルターについてどう思いますか。（〇はいくつでも）

1. 他の部分が崩れて内部に閉じ込められ避難できないなど安全性に疑問がある
2. 地震時に耐震シェルターの中に逃げ込めるとは限らない
3. 一部屋のみの補強工事なので、比較的費用が安くすむ
4. 一部屋のみの補強工事なので、住みながら工事が行える
5. 一部屋のみの補強工事なので、工事期間が短い
6. その他（.....）
7. わからない

（問16で、「4. 何もしない」とお答えの方）

【問16-2】何もしない理由を教えてください。（〇はいくつでも）

1. 費用が負担できないから
2. 面倒だから
3. 高齢であり耐震改修工事を実施しても長い間住めないから
4. 大地震が起きるかどうか分からないから
5. 地震が起きてても被害にあわないと思うから
6. その他（.....）

（問15-2で、「2. ない」または「3. わからない」とお答えの方）

【問17】市は、建物の地震に対する耐震性を確認するための耐震診断と補強をするための耐震改修工事にかかる費用の一部を助成していますが、この制度を知っていましたか。
（〇は1つ）

1. 知っていた
2. 知らなかった

（問15-2で、「2. ない」または「3. わからない」とお答えの方）

【問18】地震に対する建物の耐震性を高める上で、市に要望することはありますか。
（〇は2つまで）

1. 建物の耐震化に関する知識の普及と耐震改修等に関する意識の啓発の充実
2. 建物の耐震性に関する相談窓口の充実
3. 今の耐震補強等の助成事業の拡充（助成額の増加など）
4. 耐震シェルターを設置することへの助成制度の新設
5. その他（.....）
6. 特にない

【3. 災害時における避難について】

（全員の方）

【問19】新型コロナウイルス感染症が全国的に蔓延している今、災害時の避難についてあなたの考えに最も近いものはどれですか。（〇は1つ）

- | | |
|-----------------------------|--------------------------------------|
| 1. 安全な自宅での避難を考えている | 6. 避難所へ避難したいが、感染の恐れがあるため自宅での避難を考えている |
| 2. 最寄りの避難所への避難を考えている | 7. その他（.....） |
| 3. 親類・友人宅への避難を考えている | 8. 避難を考えていない |
| 4. 宿泊施設（ホテルなど）への避難を考えている | |
| 5. 車で安全な所へ向かい、車中泊での避難を考えている | |

【問20】避難所に避難することになったと仮定した場合、新型コロナウイルス感染症防止のためにどのようなものを持っていけますか。（〇はいくつでも）

- | | |
|------------------|---------------|
| 1. マスク | 5. スリッパ・上履き |
| 2. 体温計 | 6. ハンドソープ・石けん |
| 3. 消毒液・ウェットティッシュ | 7. その他（.....） |
| 4. タオル・手ぬぐい | 8. 何も持っていない |

【4. 災害に関する情報の取得方法について】

【問21】防災行政無線では、地震や津波など緊急情報の他に、「迷子・行方不明者情報」や「振り込め詐欺注意喚起」等を、音量を調整して放送しています。平常時の防災行政無線の聞こえ方について、お答えください。（〇は1つ）

- | | |
|----------------------------------|---------------|
| 1. よく聞こえる | 4. まったく聞こえない |
| 2. だいたい聞こえる | 5. わからない |
| 3. 聞こえにくい（音は聞こえるが何を言っているのかわからない） | 6. その他（.....） |

【問22】緊急地震速報や土砂災害警戒情報が発表された際には、Jアラート（全国瞬時警報システム）を通じて、防災行政無線を最大音量で放送しています。災害時の防災行政無線の聞こえ方について、お答えください。（〇は1つ）

- | | |
|----------------------------------|---------------|
| 1. よく聞こえる | 4. まったく聞こえない |
| 2. だいたい聞こえる | 5. わからない |
| 3. 聞こえにくい（音は聞こえるが何を言っているのかわからない） | 6. その他（.....） |

【問23】防災行政無線の放送内容は、24時間対応のフリーダイヤル【0120-^{フナバシ}2784-^{ムセン}61】や、市のホームページ（平日の午前9時から午後5時に更新）で、確認することができます。防災行政無線の放送内容の確認方法について、次の中から最もあてはまるものを1つだけ選んでください。（〇は1つ）

- | | |
|--------------------|----------------------------|
| 1. フリーダイヤルで確認している | 4. 確認方法は知っていたが実際に確認したことはない |
| 2. 市のホームページで確認している | 5. 確認できることを知らなかった |
| 3. 市役所に電話をして確認している | 6. その他（.....） |

【問24】気象警報や避難所開設情報などを、「ふなばし情報メール」で配信しています。「ふなばし情報メール」の利用状況について、次の中から1つだけ選んでください。（〇は1つ）

- | | |
|--------------------------------|---------------------|
| 1. 「ふなばし情報メール」に登録している | 3. 「ふなばし情報メール」を知らない |
| 2. 「ふなばし情報メール」は知っているが、登録はしていない | 4. その他（.....） |

【問25】船橋市公式アプリ「ふなっぶ」では、避難所検索マップやハザードマップなど、防災情報を配信しています。「ふなっぶ」の利用状況について、次の中から1つだけ選んでください。（〇は1つ）

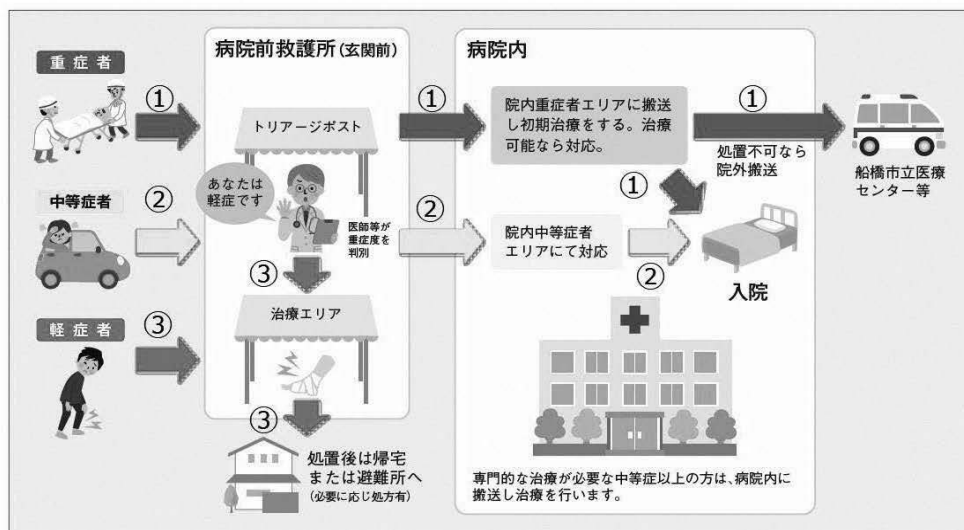
- | |
|---------------------------------------|
| 1. 「ふなっぶ」をダウンロードして、防災コンテンツを活用している |
| 2. 「ふなっぶ」はダウンロードしているが、防災コンテンツは活用していない |
| 3. 「ふなっぶ」は知っているが、ダウンロードしていない |
| 4. 「ふなっぶ」を知らない |
| 5. その他（.....） |

【5. 災害時における新たな医療体制について】

過去の大規模災害の事例では、軽症者が病院に殺到したことにより、病院の診療機能が低下し、重症者等へ適切な治療が行えないことがありました。

そこで令和2年4月から、震度6弱以上の地震が発生した場合、市内の診療所を閉鎖し、病院前救護所を救急病院前に設置して、重軽症者を振り分けて（トリアージ）、それぞれ必要な治療を行う体制へ変更しました。

【新たな医療体制のイメージ図】



【問26】今年4月に災害時の医療体制が変わったことを知っていましたか。(〇は1つ)

1. 知っていた 2. 知らなかった

【問27】震度6弱以上の地震発生時、骨折や深い切り傷など自力での手当てが難しいケガを負ってしまった場合、避難所ではなく、病院前救護所に行っていただくこととなりますが、そのことを知っていましたか。(〇は1つ)

1. 知っていた 2. 知らなかった

【問28】トリアージとは、傷病者の重症度を判別し、治療の優先順位を決める行為ですが、そのことを知っていましたか。(〇は1つ)

1. 内容まで知っていた
2. 言葉は知っていたが、内容までは知らなかった
3. 言葉は知らなかったが、内容は知っていた
4. 言葉も内容も知らなかった

5 「障害のある人への意識」についてお聞きします

以下の設問は、障害のある人が困っている場面に出会った時にどのような対応するかを回答してもらい、障害のある人に対する市民の意識を調べるものです。

それぞれの設問は、障害者団体の意見も参考に、障害のある人が困っていると考えられる場面を設定しています。もし、あなたがそれぞれの場面に出会ったら、どのような対応をするかをご回答ください。なお、「いいえ」「わからない」を選んだ場合は、その理由を選択肢から選んでください。

【問29】スーパーで車椅子の方が、商品に手が届かなくて困っています。あなたは、声をかけますか。(〇は1つ)

- | | |
|----------|--------|
| 1. はい | → 問30へ |
| 2. いいえ | |
| 3. わからない | |

→ (問29で、「2. いいえ」または「3. わからない」とお答えの方)

【問29-1】問29で「いいえ」または「わからない」を選択した理由として、あてはまるものはどれですか。(〇はいくつでも)

- | | |
|-------------------------|---------------------|
| 1. 何をすればよいかわからないから | 4. 店員に任せたほうがよいと思うから |
| 2. 自分にとって負担になるような気がするから | 5. 関わりたくないから |
| 3. お節介になるような気がするから | 6. その他 (.....) |
| | 7. 特に理由はない |

【問30】ホームドアがない駅のホームで白い杖を持っている視覚障害者が黄色い線（視覚障害者誘導用ブロック）より線路側を歩いています。あなたは、声をかけますか。(〇は1つ)

- | | |
|----------|--------|
| 1. はい | → 問31へ |
| 2. いいえ | |
| 3. わからない | |

→ (問30で、「2. いいえ」または「3. わからない」とお答えの方)

【問30-1】問30で「いいえ」または「わからない」を選択した理由として、あてはまるものはどれですか。(〇はいくつでも)

- | | |
|-------------------------|---------------------|
| 1. 何をすればよいかわからないから | 4. 駅員に任せたほうがよいと思うから |
| 2. 自分にとって負担になるような気がするから | 5. 関わりたくないから |
| 3. お節介になるような気がするから | 6. その他 (.....) |
| | 7. 特に理由はない |

【問31】津波警報の発表を知らせる防災行政無線が流れているのに、聴覚に障害があるのか、放送が聞こえていない様子で海のほうに歩いていく方がいます。あなたは、身振りなどで避難が必要であることを伝えますか。(〇は1つ)

- | | |
|----------|--------|
| 1. はい | → 問32へ |
| 2. いいえ | |
| 3. わからない | |

→ (問31で、「2. いいえ」または「3. わからない」とお答えの方)

【問31-1】問31で「いいえ」または「わからない」を選択した理由として、あてはまるものはどれですか。(〇はいくつでも)

- | | |
|-------------------------|----------------------|
| 1. 何をすればよいかわからないから | 4. 他の人に任せたほうがよいと思うから |
| 2. 自分にとって負担になるような気がするから | 5. 関わりたくないから |
| 3. お節介になるような気がするから | 6. その他 () |
| | 7. 特に理由はない |

【問32】知的障害があるのか、ヘルプマーク(※)をつけた方が、駅前のバス乗り場で自分が乗るバスがわからず大声や奇声を発して困っています。あなたは、声をかけますか。(〇は1つ)

- | | |
|----------|--------|
| 1. はい | → 問33へ |
| 2. いいえ | |
| 3. わからない | |

→ (問32で、「2. いいえ」または「3. わからない」とお答えの方)

【問32-1】問32で「いいえ」または「わからない」を選択した理由として、あてはまるものはどれですか。(〇はいくつでも)

- | | |
|-------------------------|-------------------------|
| 1. 何をすればよいかわからないから | 4. バスの乗務員に任せたほうがよいと思うから |
| 2. 自分にとって負担になるような気がするから | 5. 関わりたくないから |
| 3. お節介になるような気がするから | 6. その他 () |
| | 7. 特に理由はない |

(※) ヘルプマーク

ヘルプマークとは、外見からはわからなくても援助や配慮を必要としている方々が、周囲の方に配慮を必要としていることを知らせることで、援助を得やすくなるよう作成されたマークです。

船橋市では、平成30年6月からストラップ型ヘルプマークを配布しています。



【問33】あなたの職場内または学校内で、精神障害（もしくは発達障害）があるのか、コミュニケーションが上手いかずに困っている方がいます。あなたは、声をかけますか。
（○は1つ）

- | | |
|----------|--------|
| 1. はい | → 問34へ |
| 2. いいえ | |
| 3. わからない | |

→（問33で、「2. いいえ」または「3. わからない」とお答えの方）

【問33-1】問33で「2. いいえ」または「3. わからない」を選択した理由として、あてはまるものはどれですか。（○はいくつでも）

- | | |
|-----------------------------|-------------------------|
| 1. 知識がなく、自分が何をすればよいかわからないから | 4. 上司（もしくは教員）に任せたいと思うから |
| 2. 自分にとって負担になるような気がするから | 5. 関わりたくないから |
| 3. お節介りになるような気がするから | 6. その他（.....） |
| 7. 特に理由はない | |

（全員の方）

【問34】障害者施策に関するもので知っているもの（「見たことがある」「聞いたことがある」でも可）はどれですか。（○はいくつでも）

- | |
|---|
| 1. 障害に関する特集記事の掲載（毎年『広報ふなばし』12月1日号掲載） |
| 2. 障害者週間（12月3日～9日）に合わせて行う障害者週間記念事業 |
| 3. 特別支援教育振興大会（※） |
| 4. 身体障害者福祉センターの福祉体験講座 |
| 5. 身体障害者補助犬に関する啓発活動（広報ふなばしや各種イベントなどで実施） |
| 6. 障害への理解啓発パンフレットを活用した小学校での授業 |
| 7. ヘルプマーク、ヘルプカードの普及啓発ポスターの掲示 |
| 8. 障害者就労施設等による合同販売会（市役所本庁舎やららぼーと TOKYO-BAY で開催） |
| 9. その他（.....） |
| 10. ひとつも知らない |

（※）特別支援教育振興大会

特別支援教育振興大会では、次の行事を実施しています。

- ① 合同作品展（市役所本庁舎で児童生徒の作品を展示）
- ② 合同発表会（公民館、市立特別支援学校、小中学校で合奏、劇、ダンスなどを披露）
- ③ 教育講演会（令和元年度の演題は「知ることから始めよう、発達障害の理解と対応」）

6 「市の施策」についてお聞きします

【問35】次ページの「表 市の施策（37項目）」について、どのように感じていますか。

① ここ数年でよかったもの

（5つまで選んで番号を記入してください）

--	--	--	--	--

「37. その他」を回答した場合は、具体的内容をお書きください。

② 力を入れるべきもの

（5つまで選んで番号を記入してください）

--	--	--	--	--

「37. その他」を回答した場合は、具体的内容をお書きください。

表 市の施策（37項目）

番号	施策の内容
1	保健・医療・福祉の連携、地域医療・救急医療体制の充実
2	各種検診や予防接種など予防体制の確立
3	地域ぐるみの福祉活動の支援と参加の促進
4	保育園、子育て相談などの子育て支援の充実
5	障害のある人に対する生活・就労支援など
6	高齢者の生きがいづくりや在宅・介護サービスの充実
7	親しみや安らぎを感じられる河川や調整池等の水辺の整備
8	公園や緑地、街路樹など豊かな緑の保全と創出
9	多様な動植物が生息できる環境や三番瀬の保全・再生など自然と共生したまちづくり
10	地球温暖化対策やリサイクルの促進など環境にやさしいまちづくり
11	下水道の整備など污水处理体制の充実
12	避難所の整備、自主防災組織の支援、施設の耐震化など災害対応の充実
13	自主防犯活動への支援など犯罪のないまちづくり
14	消防体制や救急搬送体制の充実
15	住まいに関する情報提供や相談、市営住宅の整備など住宅施策の充実
16	生涯学習の推進、芸術文化の振興
17	スポーツ・レクリエーション活動の場と機会の提供
18	学校教育の充実や家庭と地域の教育力の向上
19	青少年健全育成の推進
20	国際交流・平和施策の推進
21	産品ブランド(※1)・観光情報の発信、イベントの実施などまちの魅力の創出
22	商工業や農漁業など地域産業の振興・育成
23	若者・高齢者・障害者等の雇用の促進
24	消費生活相談（商品・サービスや契約）や自ら考え、判断できる消費者の育成など
25	バリアフリー化の推進や良好な景観の保全など計画的な都市づくり
26	海や川等の自然や商業施設の集積などを活かした魅力あるペイエリアの創出
27	交通渋滞の緩和や歩行者・自転車利用者の安全に配慮した幹線道路、生活道路の整備
28	公共交通の充実など誰もが使いやすい都市交通の確立
29	駅周辺地区の整備や土地区画整理事業など市街地の整備
30	市民活動の支援や市政への市民参加の促進など協働のまちづくり
31	市政に関する情報提供や市民ニーズの把握など市民との情報共有の推進
32	町会・自治会への活動支援などコミュニティの育成
33	男女共同参画社会の形成のための意識啓発や社会環境の整備
34	インターネットを利用した行政サービスなど高度情報社会の構築
35	都市ブランド(※2)の確立など都市の魅力を高める市政運営
36	行政改革の推進や市職員の資質向上など
37	その他

（※1）産品ブランドとは、農水畜産品をはじめとした「船橋産」の産品のことです。

（※2）都市ブランドとは、市民や市外の人々が共通に抱く「〇〇市らしさ」、良好なイメージのことです。

7 「回答していただいた方」についてお聞きます

【F1】性別を教えてください。(〇は1つ)

1. 男性 2. 女性

【F2】年齢を教えてください。(〇は1つ)

1. 18～29歳 3. 40～49歳 5. 60～69歳
2. 30～39歳 4. 50～59歳 6. 70歳以上

【F3】職業を教えてください。(〇は1つ)

1. 農業・漁業 6. 学生（予備校生を含む）
2. 会社員・公務員 7. 専業主婦（主夫）
3. 自営・自由業・経営者 8. 無職（年金生活を含む）
4. 家族従業（1を除く）※ 9. その他（.....）
5. アルバイト・パート・契約（派遣）社員

※「家族従業」とは、個人事業主の家族で、その事業を手伝っている者

【F4】世帯状況を教えてください。(〇は1つ)

1. 単身世帯（ひとり暮らし） 4. 三世帯世帯（親と子と孫など）
2. 一世帯世帯（夫婦のみ、兄弟姉妹のみ） 5. その他（.....）
3. 二世帯世帯（親子など）

【F5】「船橋市」に何年くらいお住まいですか。(〇は1つ)

1. 5年未満 4. 20年以上
2. 5年以上10年未満 5. 生まれたときから
3. 10年以上20年未満

【F6】現在お住まいの地区を教えてください。

次ページの「表 居住地区一覧」から該当する地区の番号を1つ記入してください。

【F7】現在お住まいのところに住む以前は、どちらにお住まいでしたか。(〇は1つ)

1. 生まれたときから現在のところ 4. 東京都・神奈川県・埼玉県
2. 船橋市内の他の地区 5. 「1～4」以外の道府県
3. 千葉県の他の市町村 6. 日本国外

表 居住地区一覧

番号	地区名	住所
1	宮本	宮本、市場、東船橋、東町、駿河台
2	湊町	本町3丁目、湊町、浜町、若松、日の出、西浦、栄町、潮見町、高瀬町
3	本町	本町1～2丁目・4～7丁目
4	海神	南本町、海神、海神町、海神町東・西・南、南海神
5	葛飾	山野町、印内町、葛飾町、本郷町、古作町、古作、西船、印内、東中山
6	中山	二子町、本中山
7	塚田	旭町、行田町、行田、山手、北本町、前貝塚町
8	法典	丸山、上山町、馬込町、馬込西、藤原
9	夏見	夏見、夏見町、夏見台、米ヶ崎町
10	高根・金杉	高根町、金杉町、金杉、金杉台、緑台
11	高根台	高根台1～6丁目
12	新高根・芝山	芝山、新高根、高根台7丁目
13	前原	前原東、前原西、中野木
14	二宮・飯山満	二宮、飯山満町、滝台町、滝台
15	薬円台	薬円台、薬園台町、七林町
16	三山・田喜野井	三山、田喜野井、習志野
17	習志野台	習志野台、西習志野
18	二和	二和東、二和西
19	三咲	三咲町、三咲、南三咲
20	八木が谷	八木が谷町、咲が丘、みやぎ台、八木が谷、高野台
21	松が丘	松が丘
22	大穴	大穴町、大穴南、大穴北
23	豊富	小室町、小野田町、大神保町、神保町、車方町、鈴身町、豊富町、金堀町、楠が山町、古和釜町
24	坪井	坪井町、坪井東、坪井西

8 「市政に関するご意見・ご要望」についてお聞きます

最後に、船橋市の市政に関するご意見やご要望など、どんなことでも結構ですのでご記入ください。

[illegible]

以上で質問は終了です。ご協力ありがとうございました。

この調査票を同封の返信用封筒に入れ、**10月12日（月）まで**にご投函ください。

都市宣言

スポーツ健康都市宣言（昭和五十八年十月十日）

私たち船橋市民は、地域に根ざしたスポーツ活動を通じて健康で豊かな心とからだを育て、活力ある近代的な都市をめざして、ここにスポーツ健康都市を宣言します。

- 一、市民一人ひとりがスポーツに親しみ、健康な生活を営もう。
- 一、みんなでスポーツを楽しむ機会をつくり、こどもを健やかに育てよう。
- 一、スポーツを通じて、いきいきとした地域の輪を広げよう。
- 一、スポーツを通じて多くの仲間とふれあい、はすむ心を世界に伸ばそう。

平和都市宣言（昭和六十一年十二月十九日）

船橋市は、現在人口五十万人を擁する首都圏有数の中核都市に成長し、第二の飛躍期を迎えている。そして、「活力ある近代的都市」を市政の目標に掲げ、より豊かな福祉社会実現のため懸命な努力を続けているところである。

しかし、郷土船橋の限らない繁栄は、日本の安全と世界の恒久平和なくしては望み得ないものである。

私たち船橋市民は、世界の恒久平和を願い、我が国の国是である非核三原則を遵守し、平和を脅かす核兵器の廃絶を目指して最大の努力を払うことを決意し、ここに「平和都市」を宣言する。

福祉と緑の都市宣言（平成四年九月十四日）

船橋市は、今や人口五十四万人を擁する首都圏屈指の中核都市へと成長し、二十一世紀に向けさらに大きく飛躍しようとしております。

私たち船橋市民は、緑豊かな環境の中で、お年寄りや障害をもつ方々を大切にする優しい心をはぐくみ、次代を担う子供たちが、すくすくと成長できる生きがいと温もりに満ちたまちづくりを目指し、ここに「福祉と緑の都市」を宣言いたします。

令和 2 年度 市民意識調査報告書

令和 3 年 2 月発行

- | | |
|-------|---|
| 【発 行】 | 〒273-8501 船橋市湊町 2 丁目 10 番 25 号
船橋市市長公室 市民の声を聞く課
☎ 047 (436) 2784 (直通)
ホームページ https://www.city.funabashi.lg.jp/
メールアドレス shiminnokoe@city.funabashi.lg.jp |
| 【実 施】 | 〒261-8501 千葉県千葉市美浜区中瀬 1 丁目 3 番地
幕張テクノガーデン CB 棟 3 階 MBP
株式会社 総合企画 千葉事務所
☎ 043 (330) 3600 (代表) |

●この冊子は、地球環境保全推進のため、再生紙を使用しています。

